

日ノ診察ヲ受クルコトヲ許可セラルヘシ
該俘虜ハ醫師ノ必要ト認ムル手當ヲ受ケ且必要ニ應シ收
容所醫務室又ハ病院ニ引取ラルヘシ

第五十九條 裁判所及上級軍事官憲ノ權限ヲ留保シ懲罰ハ
收容所又ハ分遣所ノ所長トシテ懲罰權ヲ有スル將校又ハ
該將校ヲ代理スル責任アル將校ノミニ依リ言渡サルヘシ

三 訴 追

第六十條 俘虜ニ對スル裁判手續ノ開始ニ際シ捕獲國ハ成
ルヘク速ニ且常ニ辯論ノ開始期日前ニ保護國ノ代表者ニ
之ヲ通告スヘシ

右ノ通告ハ左ノ事項ヲ含ムヘシ

(イ) 俘虜ノ戶籍及階級

(ロ) 滞在又ハ留置ノ場所

(ハ) 適用法規ヲ記載スル訴追事項ノ明細書

右ノ通告ニ於テ事件ノ審理ニ當ルヘキ裁判所、辯論開始
期日及辯論ノ行ハルヘキ場所ノ指示ヲ與フルコト能ハサ
ル場合ニ於テハ後日成ルヘク速ニ且何レノ場合ニ於テモ

辯論開始ノ前少クモ三週間前ニ該指示ヲ保護國ノ代表者
ニ與フヘシ

第六十一條 俘虜ハ辯護ノ機會ヲ與ヘラレスシテ處罰セラ
ルルコトナカルヘシ

俘虜ハ其ノ訴ヘラレタル事實ニ對シテ有實ナリト自認ス
ル爲強制セラルルコトナカルヘシ

第六十二條 俘虜ハ其ノ選擇スル有資格ノ辯護人ヲ帶同シ
且必要ニ應シ適當ナル通譯ヲ用フル權利ヲ有スヘシ俘虜
ハ捕獲國ニ依リ辯論ノ開始前適當ナル時機ニ其ノ權利ニ
付通告ヲ受クヘシ

俘虜力選擇セサル場合ニ於テハ保護國ハ該俘虜ニ辯護人
ヲ附スルコトヲ得ヘシ捕獲國ハ保護國ノ請求ニ基キ辯護
ヲ爲ス資格アル者ノ名簿ヲ保護國ニ送付スヘシ

保護國ノ代表者ハ訴訟辯論ニ立會フ權利ヲ有スヘシ
右ノ原則ニ對スル唯一ノ例外ハ國家ノ治安ノ爲訴訟辯論
ノ秘密ヲ要スル場合ナリトス此ノ場合ニハ捕獲國ハ保護
國ニ之ヲ豫告スヘシ

第六十三條 俘虜ニ對スル判決ハ捕獲國軍ニ屬スル者ニ關
スルト同一ノ裁判所ニ於テ且同一ノ手續ニ依リテノミ言

渡サルルコトヲ得ヘシ

第六十四條 一切ノ俘虜ハ自己ニ下サレタル一切ノ判決ニ

對シ捕獲國軍ニ屬スル者ト同様ヲ方法ニ依リ上訴スル權
利ヲ有スヘシ

第六十五條 俘虜ニ對シ言渡サレタル判決ハ直ニ保護國ニ
通知セラルヘシ

第六十六條 俘虜ニ對シ死刑ノ言渡サルルトキハ犯行ノ性
質及情狀ヲ詳細ニ記述スル通知ハ俘虜ノ服役シタル軍ノ
所屬國ニ移送セラルル爲成ルヘク速ニ保護國ノ代表者ニ
送付セラルヘシ

該判決ハ右通知ヨリ少クモ三月ノ期間滿了前ニ執行セラ
レサルヘシ

第六十七條 俘虜ハ判決ニ依ルト否トヲ問ハス本條約第四
十二條ノ規定ノ利益ヲ剝奪セラルルコトヲ得サルヘシ

第四編 拘束ノ終了

第四 捕獲審檢及俘虜取扱等ニ關スル國內法規ノ參考

第一款 直接送還及中立國ニ於ケル收容

第六十八條 交戦者ハ重病者及重傷者タル俘虜力移送セラ

レ得ル状態ニ至リタル後階級及數ニ關係ナク之ヲ其ノ本
國ニ送還スル義務アルヘシ

從テ交戦者ハ協定ヲ以テ成ルヘク速ニ直接送還ノ原因ト
爲ルヘキ負傷又ハ病氣ノ場合及必要ニ應シテ中立國ニ於
テ收容セシムヘキ場合ヲ定ムヘシ該協定ノ締結ニ至ル迄
ハ交戦者ハ本條約ニ參考トシテ附屬セラレタル標準協定
ニ依ルコトヲ得ヘシ

第六十九條 戰爭開始後直ニ交戦者ハ混成醫員會ヲ構成ス
ル爲協定スヘシ同會ハ三名ノ委員ヨリ成リ中二名ハ中立
國ニ屬シ一名ハ捕獲國ノ指名スル者タルヘシ中立國醫師
ノ中一名ヲ以テ委員長トス同會ハ俘虜ニシテ病者又ハ傷
者タル者ヲ診察シ且之ニ對シ有用ナル一切ノ決定ヲ爲ス
ヘシ

同會ノ決定ハ過半數ヲ以テ爲サルヘク且成ルヘク速ニ執
行セラルヘシ

第七十條 收容所ノ醫官ニ依リ指定セラレタル者ノ外次ニ掲クル俘虜ハ直接送還又ハ中立國ニ於ケル收容ノ爲ニ第六十九條ニ規定スル混成醫員會ノ診察ヲ受クヘシ

(イ) 收容所ノ醫官ニ對シ直接ニ右要求ヲ爲ス俘虜

(ロ) 第四十三條ニ規定スル信任者ノ申出ニ依ル俘虜但シ該信任者ハ自己ノ發意ニ依リ又ハ俘虜ノ要求ニ

基キ行動スルモノトス

(ス) 俘虜ニシテ其ノ服役シタル軍ノ所屬國又ハ該國ニ依リ公認セラレタル救恤協會ニ依リ提議セラレタルモノ

第七十一條 俘虜ニシテ勞働災害ノ罹災者ト爲リタル者ハ送還又ハ必要ニ應シ中立國ニ於ケル收容ニ關シ同一ノ規定ノ利益ヲ享有セシメラルヘシ但シ故意ノ傷者ハ此ノ限ニ在ラス

第七十二條 戰爭ノ繼續中及人道上ノ理由ノ爲交戰者ハ健全ナル俘虜ニシテ長期ノ拘束ヲ受ケタル者ノ直接送還又ハ中立國ニ於ケル收容ノ爲協定ヲ締結シ得ヘシ

交戰者ハ合意ノ上委員會ヲ設置スルヲ得ヘシ

第五編 俘虜ノ死亡

第七十六條 俘虜ノ遺言ハ內國軍軍人ト同一ノ條件ヲ以テ受領セラレ且作成セララルヘシ

同様ニ死亡ノ證明ニ關スル書類ニ關シテモ同一ノ規則ニ從フヘシ

交戰者ハ拘束中死亡シタル俘虜カ鄭重ニ埋葬セララル様及墳墓カ有用ナル一切ノ表示ヲ有シ、尊敬セラレ且相應ニ維持セララル様注意スヘシ

第六編 俘虜ニ關スル救恤及情報局

第七十七條 戰爭開始後直ニ各交戰國竝ニ交戰者ヲ收容シタル中立國ハ其ノ領域内ニ在ル俘虜ニ關スル官立情報局ヲ設置スヘシ

各交戰國ハ其ノ軍ニ依リ爲サレタル俘虜ノ一切ノ捕獲ヲ成ルヘク速ニ其ノ情報局ニ通知シ其ノ有スル認識ニ關スル一切ノ情報ニシテ迅速ニ關係家族ニ了知セシムルヲ得ヘキモノヲ右情報局ニ供給シ且家族カ俘虜ニ通信ヲ爲シ

第四 捕獲審檢及俘虜取扱等ニ關スル國內法規ノ參考

第七十三條 俘虜ノ送還又ハ中立國ヘノ移送ノ費用ハ捕獲國ノ國境外ニ於テハ右俘虜カ服役シタル軍ノ所屬國ニ依リ負擔セララルヘシ

第七十四條 送還セラレタル者ハ現役ノ軍務ニ服セシメラルヲ得サルヘシ

第二款 戰爭終了ノ際ニ於ケル解放及送還

第七十五條 交戰者カ休戰條約ヲ締結セントスルトキハ右交戰者ハ原則トシテ俘虜ノ送還ニ關スル規定ヲ設クヘシ此ノ點ニ關スル規定カ右條約ニ挿入セラレ得サリシ場合ト雖モ交戰者ハ成ルヘク速ニ之カ爲連絡ヲトルヘシ一切ノ場合ニ於テ俘虜ノ送還ハ平和克復後成ルヘク速ニ行ハルヘシ

尤モ俘虜ニシテ普通法上ノ重罪又ハ輕罪ノ爲訴追中ノ者ハ右手續ノ終了迄及場合ニ依リ刑期ノ滿了迄留置セララルヲ得ヘシ普通法上ノ重罪又ハ輕罪ノ爲刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ付テモ同様ナルヘシ

離散セル俘虜ヲ搜索シ且其ノ送還ヲ確保スル目的ヲ以テ

得ヘキ公ノ宛名ヲ右情報局ニ通知スヘシ

情報局ハ一方保護國ノ仲介ニ依リ及他方第七十九條ニ規定セララル中央部ノ仲介ニ依リ前記一切ノ情報ヲ關係國ニ速ニ傳達スヘシ

情報局ハ俘虜ニ關スル一切ノ問合ニ答フルノ任務ヲ有シ俘虜ノ留置、移動、宣誓解放、送還、逃走、入院、死亡ニ關スル一切ノ通報竝ニ其ノ他各俘虜ニ關シ銘銘票ヲ作成補修スル爲ニ他ノ必要ナル情報ヲ各主務官憲ヨリ受クヘシ

情報局ハ該票ニ出來得ル範圍内ニ於テ且第五條ノ規定ヲ留保シテ登錄番號、氏名、出生日附及出生地、當人ノ階級及所屬部隊、父ノ名及母ノ氏、災害ノ場合ニ通知スヘキ者ノ宛名、負傷、捕獲ノ、留置ノ、負傷ノ、死亡ノ日附及場所竝ニ他ノ一切ノ重要ナル情報ヲ記載スヘシ

各俘虜ノ認識ヲ容易ナラシムヘキ一切ノ新規ノ情報ヲ含メル週刊名簿ハ關係諸國ニ交付セララルヘシ
俘虜ノ銘銘票ハ平和克復後其ノ服役シタル國ニ交付セラ

ルヘシ

尙情報局ハ送還セラレ、宣誓解放セラレ、逃走シ又ハ死亡シタル俘虜ニ依リ遺留セラレタル一切ノ自用品、有價物、信書、給料帳、認識票等ヲ收集シ且之ヲ關係國ニ交付スルノ義務ヲ有スヘシ

第七十八條 慈善行為ノ媒介者タル目的ヲ以テ自國ノ法律ニ從ヒ正式ニ組織セラレタル俘虜救恤協會ハ其ノ博愛的事業ヲ有效ニ遂行スル爲メ交戦者ヨリ自己及其ノ正當ノ委任アル代表者ノ爲メ軍事上ノ必要ニ依リテ定メラレタル範圍内ニ於テ一切ノ便宜ヲ受クヘシ右協會ノ代表者ハ各自軍事官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ケ且該官憲ノ定メタル秩序及取締ニ關スル一切ノ規律ニ服スヘキ旨書面ヲ以テ約シタル上收容所並ニ送還俘虜ノ途中休止所ニ於テ救恤品ヲ分與スルコトヲ許サルヘシ

第七十九條 俘虜情報中央部ハ中立國ニ設立セラレヘシ赤十字國際委員會ハ必要ナリト認ムルトキハ該部ノ組織ヲ關係國ニ提議スヘシ

セラルヘシ

戰時ニ於テ交戦者ノ一カ本條約ノ當事者タラサル場合ト雖モ本條約ノ規定ハ之ニ參加セル交戦者ノ間ニ拘束力ヲ有スヘシ

第八十三條 締約國ハ俘虜ニ關スル一切ノ問題ニシテ特ニ規律スルヲ適當ナリト認ムルモノニ關シ特別條約ヲ締結スルノ權利ヲ留保ス
俘虜ハ送還ノ完了迄引續キ右協定ノ利益ヲ享有スヘシ但シ前記協定若ハ將來ニ於ケル協定ニ含マルル反對ノ明白ナル規定又ハ同様ニ何レカノ交戦者ニ依リ其ノ留置スル俘虜ニ關シ執ラレル更ニ有利ナル措置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本條約ノ規定ノ相互ノ適用ヲ確保シ且前記特別條約ノ締結ヲ容易ナラシムル爲メ交戦者ハ戰爭開始後直ニ俘虜管理ノ任務ヲ有スル各自ノ官憲ノ代表者ノ會合ヲ許可スルコトヲ得ヘシ

第八十四條 本條約及前條ニ規定セラレタル特別條約ノ本

第四 捕獲審檢及俘虜取扱等ニ關スル國內法規ノ參考

該部ハ俘虜ニ關スル一切ノ情報ニシテ公ノ又ハ私ノ方法ニ依リ其ノ獲得シ得ヘキモノヲ蒐集スルノ任務ヲ有スヘシ該部ハ右情報ヲ俘虜ノ本國又ハ俘虜カ服役シタル國ニ成ルヘク速ニ交付スヘシ

此等ノ規定ハ赤十字國際委員會ノ博愛的活動ヲ制限スルモノト解釋セラレサルヘシ

第八十條 情報局ハ郵便物ニ關スル料金ノ免除並ニ第三十八條ニ規定セラレタル一切ノ免除ヲ享有スヘシ

第七編 或種非軍人ニ對スル條約ノ適用

第八十一條 通信員、新聞ノ探訪者、酒保商人、用達人ノ如キ直接ニ軍ノ一部ヲ爲ササル從軍者ニシテ敵ノ權内ニ陥リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認メタル者ハ其ノ隨伴シタル軍ノ軍事官憲ノ證明書ヲ携帯スル場合ニ限り俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ有スヘシ

第八編 條約ノ執行

第一款 總 則

第八十二條 本條約ノ規定ハ一切ノ場合締約國ニ依リ尊重

文ハ一切ノ俘虜ニ依リ參照セラレ得ヘキ場所ニ於テ能フ限り俘虜ノ母國語ニテ揭示セララルヘシ

右條約ノ本文ハ揭示セラレタル本文ヲ知ルコトヲ得サル俘虜ノ要求アルトキハ之ニ對シ通知セララルヘシ

第八十五條 締約國ハ本條約ノ公ノ譯文並ニ本條約ノ適用ヲ確保スル爲メ採用セシメラルルコトアルヘキ法律及規則ヲ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ相互ニ通知スヘシ

第二款 監督ノ組織

第八十六條 締約國ハ本條約ノ正確ナル適用カ交戦者ノ利益ノ保護ヲ委託セラレタル保護國ノ協力ノ可能ナルニ依リ保障セララルルモノナルコトヲ認ム此ノ點ニ關シ保護國ハ外交官以外ニ自國人民又ハ他ノ中立國人民ヨリ代表ヲ任命スルコトヲ得ヘシ右代表ハ其ノ任務ヲ執行セントスル側ノ交戦者ノ承認ヲ受クヘシ

保護國ノ代表者又ハ其ノ代表ニシテ承認ヲ受ケタル者ハ俘虜ノ留置セラレタル一切ノ場所ニ例外ナク到ルコトヲ許可セララルヘシ右代表者又ハ代表ハ俘虜ニ依リ占メラレ

タル一切ノ場所ニ到リ且一般ニ立會人ナク、自ラ又ハ通譯ノ仲介ニ依リ俘虜ト會談スルコトヲ得ヘシ

交戦者ハ保護國ノ代表者又ハ代表ニシテ承認ヲ受ケタル者ノ職務ヲ容易ナラシムヘシ軍事官憲ハ右代表者又ハ代表ノ訪問ヲ通知セラルヘシ

交戦者ハ俘虜ノ國籍ヲ有スル者カ右視察旅行ニ參加ヲ許サルコトヲ承認スル爲協定シ得ヘシ

第八十七條 本條約ノ適用ニ付交戦者間ニ意見ノ不一致アル場合ニハ保護國ハ右紛争ノ處理ノ爲能フ限リ周旋スヘシ

之カ爲各保護國ハ關係交戦者ニ對シ必要ニ應シテ適當ニ選擇セラレタル中立地域ニ於ケル右關係交戦者ノ代表者ノ會合ヲ特ニ提議シ得ヘシ交戦者ハ右趣旨ヲ以テ自己ニ對シ爲サルル提議ヲ遂行スルニ努ムヘシ保護國ハ場合ニ依リ中立國ニ屬スル者又ハ赤十字國際委員會ニ依リ派遣セラレタル者ニシテ右會合ニ參加ヲ招請セラルヘキモノニ對シ關係國ノ承認ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第八十八條 前記諸規定ハ赤十字國際委員會カ關係交戦者ノ承認ヲ得テ俘虜ノ保護ノ爲爲シ得ヘキ博愛的活動ヲ妨クルモノニ非ス

第三款 最終規定

第八十九條 陸戰ノ法規慣例ニ關スル「ヘーグ」條約(千八百九十九年七月二十九日ノモノタルト千九百七年十月十八日ノモノタルトヲ間ハス)ニ依リ拘束セラレ且本條約ニ參加スル諸國間ノ關係ニ於テ本條約ハ右「ヘーグ」條約附屬規則第二章ヲ補足スヘシ

第九十條 本日ノ日附ヲ有スヘキ本條約ハ千九百二十九年七月一日「ジュネーヴ」ニ開會シタル會議ニ代表者ヲ派遣シタル一切ノ國ノ名ニ於テ千九百三十年二月一日迄ニ署名セラレ得ヘシ

第九十一條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准セラルヘシ批准書ハ「ベルス」ニ於テ寄託セラルヘシ各批准書ノ寄託ニ付調書一通作成セラレ其ノ認證本ハ瑞西聯邦政府ニ依リ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ本條約

カ署名セラレ又ハ加入カ通告セラレタルモノノ政府ニ交付セラルヘシ

第九十二條 本條約ハ少クトモ二箇ノ批准書カ寄託セラレタル後六月ニシテ實施セラルヘシ

爾後本條約ハ各締約國ニ付其ノ批准書ノ寄託後六月ニシテ實施セラルヘシ

第九十三條 本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ本條約カ署名セラレサリシモノノ名ニ於テ爲サルル加入ノ爲開カルヘシ

第九十四條 加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ對シ通告セラルヘク加入書カ同國政府ニ到達シタル日ノ後六月ニシテ效力ヲ生スヘシ

瑞西聯邦政府ハ一切ノ國ニシテ其ノ名ニ於テ條約カ署名セラレ又ハ加入カ通告セラレタルモノノ政府ニ加入ヲ通知スヘシ

第九十五條 戰爭狀態ハ戰爭開始前又ハ開始後交戦國ニ依リ寄託セラレタル批准及通告セラレタル加入ニ對シ直ニ

第四 捕獲審檢及俘虜取扱等ニ關スル國內法規ノ參考

效力ヲ生セシムヘシ戰爭狀態ニ在ル諸國ヨリ受領セラレタル批准又ハ加入ノ通知ハ最迅速ナル方法ニ於リ瑞西聯邦政府ニ依リ爲サルヘシ

第九十六條 各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有スヘシ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シタル後一年ヲ經過スルニ非サレハ效力ヲ生スルコトナカルヘシ瑞西聯邦政府ハ右通告ヲ一切ノ締約國ノ政府ニ通知スヘシ廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スヘシ

尙右廢棄ハ廢棄國カ參加セル戰爭中其ノ效力ヲ生セサルヘシ此ノ場合ニ於テハ本條約ハ一年ノ期間滿了後平和克復迄引續キ其ノ效力ヲ生スヘシ

第九十七條 本條約ノ認證本一通ハ瑞西聯邦政府ニ依リ國際聯盟ノ記錄ニ寄託セラルヘシ同様ニ瑞西聯邦政府ニ通告セラルヘキ批准、加入、廢棄ハ瑞西聯邦政府ニ依リ國際聯盟ニ通知セラルヘシ

第五 敵 產 管 理

一、敵產管理法

(昭和十六年十二月二十二日)
法律第九十九號

第一條 政府ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ管理人ヲ選任シ之ヲ管理セシムルコトヲ得

本法ニ於テ敵産トハ敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ヲ謂フ

第二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵産ニ關シ政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第三條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ債務ヲ負擔スル者ハ政府ノ指定スル者ニ對シ前條ノ規定ニ

基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ依リ債權ノ目的物タル金錢又ハ物ノ支拂又ハ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ債務ヲ免ル

第四條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ハ其ノ者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ガ第一條第一項ノ管理ニ付セラレタルトキハ其ノ財産(事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム)ニ關シ處分其ノ他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ニ規定スルモノノ外第一條第一項ノ管理及管理人ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲ス行爲ニシテ左ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

一 本邦内ニ在ル動産又ハ不動産

二 本邦内ニ在ル事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資

三 本邦證券

四 本邦又ハ本邦内ニ在ル者ニ對スル債權

第六條 第一條第一項ノ規定ニ依リ管理セシムル敵産ニシテ登記又ハ登録ノ規定アルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ管理ニ關スル登記又ハ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第七條 第一條第一項ノ管理ニ要スル費用ハ本人ニ屬スル敵産ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得

第八條 第一條第一項ノ管理ヲ免レ又ハ之ヲ妨グル目的ヲ以テ敵産ヲ取得、處分、隱匿、毀棄又ハ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該敵産ノ價額ノ三倍ガ一萬圓ヲ超エルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依ル政府ノ命ニ從ハザル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓

以下ノ罰金ニ處ス

第十條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第十一條 本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲敵產管理委員會ヲ置ク

敵產管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年十二月八日以後本法施行前敵國、敵國人其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ノ外國ニ於テ爲シタル行爲ニシテ第五條ニ掲グルモノノ取得又ハ處分ヲ目的トスルモノハ行爲ノ時ニ遡リテ之ヲ無効トス

二、敵産管理法施行令

(昭和十六年十二月二十二日)
勅令第千七百七十九號

第一條 敵産管理法及本令ニ規定スル敵國ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第二條 敵産管理法及本令ニ於テ敵國人トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 敵國ノ國籍ヲ有スル個人(日本ノ國籍ヲ有スル個人ヲ除ク)
- 二 敵國ノ公共團體及之ニ準ズルモノ
- 三 敵國內ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人
- 四 敵國ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ニシテ前號ニ該當セザルモノ

第三條 敵産管理法第一條第二項、第三條、第四條第一項第五條又ハ附則第二項ノ規定ニ依リ定ムル者ハ左ニ掲グル者(第一號乃至第三號ニ掲グル者ニシテ大藏大臣ノ指

定スルモノヲ除ク)トス

一 敵國內ニ居住スル個人

二 法人ノ敵國內ニ在ル支店其ノ他ノ營業所

三 敵國人以外ノ法人ニシテ社員、株主若ハ業務ヲ執行スル役員ノ半數以上又ハ資本ノ半額以上若ハ議決權ノ過半數ヲ敵國、敵國人又ハ敵國內ニ居住スル個人ニ屬スルモノ

四 大藏大臣ノ指定スルモノ

大藏大臣前項ノ規定ニ依リ指定シタルトキハ之ヲ告示ス
第四條 敵産管理法第一條第一項ノ管理人(以下敵産管理人ト稱ス)ハ大藏大臣之ヲ選任ス

大藏大臣ハ必要アルトキハ敵産管理人ヲ解任スルコトヲ得

第五條 敵産管理法第一條第二項、第三條、第四條第一項第五條又ハ附則第二項ノ規定ニ依リ定ムル者ハ左ニ掲グル者(第一號乃至第三號ニ掲グル者ニシテ大藏大臣ノ指

第一項ノ規定ニ依リ敵産管理人ヲ選任シタルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス前項ノ規定ニ依リ解任シタルトキ亦同ジ
第五條 敵産(敵産管理法ニ規定スル敵産ヲ謂フ以下同ジ)ニシテ敵産管理人ノ管理スルモノノ處分其ノ他ノ行爲

(法人ノ事業又ハ營業ノ管理ニ在リテハ法人ノ意思決定、業務執行及代表ヲ含ム)ヲ爲ス權限ハ敵産管理人ニ專屬ス

敵産管理人ノ管理スル敵産ニ關スル訴ニ付テハ敵産管理人ヲ以テ原告又ハ被告トス

第六條 敵産管理人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フコトヲ要ス

敵産管理人ハ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ敵産管理人ハ利害關係人ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ズ

第七條 敵産管理人ハ其ノ管理スル敵産中登記又ハ登録アルモノニ付テハ管理ノ開始後遲滞ナク當該敵産管理人之ヲ管理スル旨ノ登記又ハ登録ヲ申請スベシ
前項ノ規定ハ法人ノ事業又ハ營業ガ敵産管理人ノ管理ニ付セラレタルトキ當該法人ニ付之ヲ準用ス

第八條 敵産管理人ハ前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登録ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク變更ノ登記又ハ登録ヲ申請スベシ

敵産管理人ハ管理終了シタルトキハ遲滞ナク前條ノ規定ニ依ル登記又ハ登録ノ抹消ノ登記又ハ登録ヲ申請スベシ
第九條 前二條ノ規定ニ依リ登記又ハ登録スベキ事項ハ登記又ハ登録ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

敵産管理人ニ依ル債權ノ管理ハ之ヲ債務者ニ通知スルニ非ザレバ之ヲ以テ債務者其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十條 大藏大臣ハ必要アルトキハ敵産ニ關シ大藏大臣ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 敵産管理法第五條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ認可申請書ヲ大藏大臣ニ提出スベシ

第十二條 敵産管理法第七條ノ規定ニ依リ支辨スベキ敵産管理人ノ報酬ハ大藏大臣之ヲ定ム

第十三條 本令中大藏大臣トアルハ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三、敵産管理法施行規則

(昭和十六年十二月二十三日)
大藏省令第七十六號

第一條 敵産管理法第一條第一項ノ規定ニ依ル敵産ノ管理

ハ當該敵産ニ付敵産管理人ノ選任アリタル日ヨリ開始ス

第二條 敵産管理人ノ管理ニ付セラレタル敵産ヲ占有スル

者ハ當該敵産管理人ノ請求アリタルトキハ直ニ之ヲ當該

敵産管理人ニ引渡スベシ但シ當該敵産ニ付質權又ハ留置

權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 敵國、敵國人又ハ敵産管理法施行令第三條第一項

各號ニ掲グル者ニ屬シ又ハ其ノ者ノ保管スル財産ガ敵産

管理人ノ管理ニ付セラレタルトキハ當該敵國、敵國人又

ハ敵産管理法施行令第三條第一項各號ニ掲グル者ニ對シ

債權又ハ債務ヲ有シ其ノ他財産上ノ利害關係ヲ有スル者

ハ管理開始ノ日以後二週間以内ニ之ヲ當該敵産管理人ニ
通知スベシ

第四條 敵産管理人ハ管理開始後遲滯ナク其ノ管理スル敵

産ノ財産目錄ヲ本令附屬報告書式第一號ニ依リ作成シ大

藏大臣ニ提出スベシ

敵産管理人ハ曆年ニ依ル四半期毎ニ其ノ管理スル敵産ニ

付各期間ニ於ケル増減ノ内容及管理ノ狀況並ニ各期末ニ

於ケル現在高ヲ本令附屬報告書式第二號ニ依リ大藏大臣

ニ報告スベシ

第五條 敵産管理人ハ帳簿ヲ備付ケ其ノ管理ニ付セラレタ

ル敵産ノ管理ニ付必要ナル事項ヲ記載スベシ

第六條 敵産管理法施行令第十條ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ

指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額

ハ大藏大臣之ヲ定ムルコトヲ得

第七條 敵産管理法第五條ノ規定ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ

ントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル認可申請書正

副三通ヲ作成シ最寄ノ地ニ駐在スル日本ノ大使、公使若

ハ領事又ハ最寄ノ日本銀行ヲ經テ大藏大臣ニ提出スベシ

一 申請者ノ住所職業國籍及氏名又ハ商號

二 取得又ハ處分ノ相手方ノ住所、職業、國籍及氏名又

ハ商號

三 取得又ハ處分スル財産ノ種類、數量、價額及所在地

四 取得又ハ處分ノ目的其ノ他之ヲ必要トスル事由

五 取得又ハ處分ノ原因及方法

六 對價タル通貨其ノ他ノ財産ノ種類、數量、價額及所

在地並ニ其ノ支拂又ハ受領ノ時期其ノ他ノ條件

七 取得又ハ處分スル財産ノ受渡地

八 取得又ハ處分ノ時期

九 其ノ他參考トナルベキ事項

第八條 大藏大臣ハ必要アルトキハ本令ニ定ムルモノノ外

報告ヲ徴シ又ハ本令ニ定ムル報告ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四、敵産管理法ヲ朝鮮、臺灣
及樺太ニ施行スルノ件

(昭和十六年十二月二十二日)
勅令第千七百七十八號

敵産管理法ハ第十一條ノ規定ヲ除クノ外之ヲ朝鮮、臺灣及
樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五、南洋群島ニ於ケル敵産ノ
管理ニ關スル件

(昭和十六年十二月二十二日)
勅令第千八百八十號

南洋群島ニ於ケル敵産ノ管理ニ關シテハ敵産管理法(第十
一條ノ規定ヲ除ク)及敵産管理法施行令ニ依ル但シ敵産管
理法中本法トアルハ本令トシ敵産管理法施行令中大藏大臣

トアルハ南洋廳長官トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六、關東州敵産管理令

(昭和十六年十二月二十七日)
勅令第千二百五十一號

關東州ニ於ケル敵産ノ管理ニ關シテハ敵産管理法第十一條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル但シ同法中政府トアルハ滿洲國駐劄特命全權大使トシ本法トアルハ本令トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

七、敵國ノ告示

1 昭和十六年十二月二十四日大藏省告示第五百八十五號

敵産管理法施行令第一條ノ規定ニ依リ敵産管理法及敵産管

理法施行令ノ敵國ハ左ニ掲グルモノトス

昭和十六年十二月二十四日

大藏大臣 賀屋 興宣

米國 (「フィリッピン」聯邦及領地全體ヲ含ム)

英國 (印度及海外領土ヲ含ム)

2 昭和十七年一月十六日大藏省告示第十二號

敵産管理法施行令第一條ノ規定ニ依リ左ニ掲グルモノハ敵産管理法及敵産管理法施行令ノ敵國トス

昭和十七年一月十六日

大藏大臣 賀屋 興宣

和蘭國及蘭領印度

(附記) 敵産管理法案議會提案理

由説明書

(第七十八回帝國議會委員會)

本年七月の資産凍結以降外國爲替管理法に基ク外國人關係

取引取締規則即ち所謂資産凍結令に依りまして米英等諸國及此等諸國人の本邦内財産並に本邦内經濟活動に對し相當嚴重なる取締を實施して來たのであります。本月八日米英に對し宣戰が布告せられ兩國と敵對關係に立つこととなります。取敢へず此等の諸國人に對しては資産凍結令に於ける緩和的取扱を撤廢致しますると共に從來の爲替管理に關する規則及資産凍結令に基いて與へられました許可は何れも將來に向つて效力を失ふことと致したのであります。尙宣戰布告と同時に米英系の外國爲替銀行並に主要商社に對しては一齊に検査官を派遣し其の資産の調査を爲さしめると共に現地監督に當らしめたのであります。

此等各種の應急措置は凡て現行の法規に基き出來得る限り取締を強化せんとするの意圖に出でたものであります。何れも消極的取締の範圍を出ないのであります。開戦後の今日の事態に對處する措置としては猶不十分なる點が尠くないと存するのであります。即ち敵國側の財産に關し必要に應じ政府に於て管理人を選任して之を管理せしむるの外

賣却命令等の方法に依り積極的に之を統制活用する必要が生ずるのであります。之を實施致しますが爲には從來の外國爲替管理法のみを以てしては充分其の徹底を期することが出来ませんので新に敵産管理に關する單行法律を制定することを必要と認め本案を提出致した次第であります。

次に本案の内容に付其の要點を御説明致します。

第一に政府は必要に應じ敵國、又は敵國人關係の財産に關し管理人を選任して之を管理せしむることと致したのであります。即ち政府は當該財産の所有者又は保管者が居りませぬ場合又は居りましても之に所有又は保管せしめ置くことをば不適當と認められた場合等に於きましては別に適當なる管理人を選任して之を管理せしめるのであります。例へば工場事業場等であつて本邦生産力の増強に資し得るものは之を適當に管理活用し戦時下國家目的に適合する様運営致し度いと存するのであります。

管理人を選任して管理せしむることと致しました場合には其の管理人のみが當該財産に付處分其の他の行爲を爲すこ

とが出来るのであります。本人は其の範圍に於て行爲能力を奪はるのであります。従つて管理財産に付きましては其の旨を第三者に知らしめる必要がありませんので之を登記又は登録を爲さしめることと致しました。尙敵産の管理人に對する報酬其の他の費用は管理財産の中より支辨せしむることと致しました。

第二に政府は敵國又は敵國人關係の財産に關し政府の指定する者に對する賣却其の他必要なる事項を命じ得ることと致したのであります。

例へば敵國人が本邦内に有して居りまする重要物資は之を必要なる方面に賣却せしめ又敵國人が本邦人に對して負つて居りまする借入金債務の辨濟を命ずる等の場合に此の機能を活用致したいと存するのであります。

第三に敵國又は敵國人に對し債務を負擔する者が政府の命令に従つて支拂等を爲しましたときは其の債務に付免責せられることと致したのであります。外債の利子、株式の配當金、特許料等に關し米英人に對し支拂債務を負擔する者

は政府の命ずるところに従ひまして例へば横濱正金銀行に設けられました特別の勘定に拂ひ込みますれば其の債務に付免責せられることと相成るのであります。斯の如き免責の措置を講じまする趣旨は開戦に因り對敵債務の履行が困難となるに伴ひ種々法律上の紛争を生ずる處がありますので之を防止致しますると共に敵國人の本邦人に對して有する債權に付政府が適切なる統制を加へることを容易ならしめ様とするに在るのであります。

第四に敵國又は敵國人が外國に於て敵性を免るるが爲に本邦關係財産を處分致しまするが如き場合其の行爲に付效力を認めないことと致したのであります。米英人の所有する本邦の外債は約十四億圓に上り又米英人の本邦内に有して居りまする動産、不動産、事業、營業等も尠くないのであります。開戦の結果此等の財産が敵産として不利なる取扱を受くることを免るるが爲に之を中立國人に賣却する等の方法を講ずる處が多分にありますので之を防止致しまする爲斯る行爲の効果を否認する規定を設けたのであります。

尙此の規定の効力は之を開戦當日に遡及せしむることと致しました。

第五に敵産管理の實施は其の關係する所が廣く、又其の實施に當りまして相手國の出支、取扱振等に付ても慎重なる注意を拂ふ必要がありますので關係各省の關係官を以て組織する委員會を設置し重要事項は右の委員會に諮つて之を決定し運営の圓滑を期して行き度いと存じて居ります。敵産管理の目的は最初に申述べました通りであります。其の運用は飽く迄相互的な考慮を以て臨み、敵國私人の財産に付きましては私權尊重の建前より相手國が本邦側財産に對し暴戾なる態度に出でない限り沒收等の如き事柄は之を致さない考であります。云々

第六 占領地軍政

マニラの治安維持其他に關する取極

昭和十七年一月七日大日本軍代表ハ「マニラ」市大日本軍司令部ニ於テ大「マニラ」市長「バルガス」氏ト會見、大日本軍最高指揮官ハ昭和十七年一月三日大「マニラ」市占領ヲ宣言シ同時ニ軍政ヲ施行スルコトヲ述べ左記各項ニツキ大「マニラ」市長「バルガス」氏ニソノ實行ヲ要求セリ

- 一、安寧秩序ノ維持オヨビ運輸通信、「ガス」、電氣、水道、病院、消防ナドノ公共施設復舊（但シ上記施設ハ例示的ノモノニシテ公共施設ノ全テヲ包含スルモノニ非ズ）
- 二、大「マニラ」市ヨリノ、及ビ同市ヘノ物資移出入並ビニ同市ニオケル物資ノ移動ヲ統制シ以テ大日本軍及ビ市

民ニ對スル物資ノ供給ヲ確保スベキコト

- 三、敵國民、オヨビ大日本帝國ニ對シ敵對行爲ヲナシ又ハ爲サントスル者ノ取締
- 四、大日本軍ノ必要トスル勞役オヨビ物資ノ供給並ビニ施設ノ使用承認
- 五、大「マニラ」市ニオケル官公吏オヨビ市民ノ所持スル全テノ銃砲彈藥ノ引渡シ（尤モ大日本軍當局ニヨリソノ所持ヲ認メタルモノハコノ限りニ非ズ）
- 六、社會救濟事業ノ實施
- 七、大「マニラ」市ニオケル一般行政オヨビ安寧秩序保持ニ關シ日本人ノ指導監督官オヨビ専門家ヲ招聘スルコト

コレニ對シ「バルガス」氏ハ大日本軍ノ大「マニラ」市占領ヲ確認シソノ軍政ニ服シ且ツ上記ノ要求ヲ應諾スル用意アル旨ヲ答ヘタリ。大日本軍代表ハ「バルガス」氏ノ陳述

ヲ諒トシ同氏ノ大「マニラ」市長トシテノ地位オヨビ職權ヲ承認シ且ツ同氏ノ監督下ニアル全テノ官公吏並ニ市民ニシテ、大日本帝國ニ對シ敵性行爲ヲナサズ且ツ敵國ヲ利スルガ如キ如何ナル行爲ヲモナサザルニ於テハ大日本軍ハ左ノ各項ヲ許與スル旨ヲ述べタリ。

昭和十七年一月七日
「マニラ」大日本軍司令部ニテ日本語ナラビニ英語ヲ以テ各二通ヲ作成ス

- 一、官公吏ノ地位職權ヲ承認スルコト
- 二、生命財產ニツイテハ保護ヲ與ヘルコト
- 三、信仰ノ自由ヲ認メルコト
- 四、現行法規並ビニ慣行ヲ承認スルコト（但シ新事態ニ即應セザルモノハコノ限りニ非ズ）

大日本軍代表ハ上記要求實施方法ニ關スル詳細ニツイテハ双方關係官ニオイトテ隨時協議スル必要アリト述べタリ

右ニ關シ「バルガス」氏ハ大日本軍代表ノカ、ル宣言ヲ聞クコトハ欣快トスル所ニシテ具體的詳細ノ取極メニ對シモハ大日本軍政關係當局ト常ニ協議スルト述べタリ

第七ヘーグ條約

國際紛爭平和的處理條約

千九百七年(明治四十年) 十月十八日(ヘーグ)ニテ署名
 千九百十一年(明治四十四年) 十一月六日 批 准
 同 年(同) 十二月十三日 批 准 寄 託
 千九百十二年(明治四十五年) 一月十三日 公 布

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名略)ハ一般
 平和ノ維持ニ協力スルノ堅實ナル意思ヲ有シ
 全力ヲ竭シテ國際紛爭ノ友好的處理ヲ幫助スルニ決シ
 文明國團ノ各員ヲ結合スル運帶責務ヲ認識シ
 法ノ領域ヲ擴張スルト共ニ國際的正義ノ感ヲ鞏固ナラシメ
 ムコトヲ欲シ
 諸獨立國ノ間ニ於ケル各國ノ頼ルヲ得ヘキ仲裁裁判ノ常設
 制度カ右ノ目的ヲ達スルニ有效ナルヘキヲ確信シ

仲裁裁判手續ニ關スル一般且正則ナル組織ノ有益ナルコト
 ヲ考慮シ
 萬國平和會議ノ至尊ナル發議者ト共ニ國安民福ノ基礎タル
 公平正理ノ原則ヲ國際的合意ニ依リテ定立スルノ須要ナル
 ヲ認め
 之カ爲審査委員會及仲裁裁判部ノ實地ノ運用ヲ一層確實ニ
 保障シ且簡易ナル手續ニ依リ得ヘキ性質ノ紛爭ヲ仲裁裁判
 ニ付スルコトヲ容易ナラシムコトヲ希望シ
 國際紛爭平和的處理ニ關スル第一回平和會議ノ事業ニ若干
 ノ修正ヲ加ヘ且之ヲ増補スルヲ必要ト認めタリ
 締約國ハ之カ爲新ナル條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委
 員ヲ任命セリ
 (全權委員名略)
 因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認めラレタル委任狀

ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 一般平和ノ維持

第一條 國家間ノ關係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク
 豫防セムカ爲締約國ハ國際紛爭ノ平和的處理ヲ確保スル
 ニ付其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

第二章 周旋及居中調停

第二條 締約國ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛爭ヲ生シタル
 場合ニ於テ兵力ニ訴フルニ先チ事情ノ許ス限其ノ交親國
 中ノ一國又ハ數國ノ周旋又ハ居中調停ニ依頼スルコトヲ
 約定ス

第三條 締約國ハ右依頼ニ關係ナク紛爭以外ニ立ツ一國又
 ハ數國カ事情ノ許ス限自己ノ發意ヲ以テ周旋又ハ居中調
 停ヲ紛爭國ニ提供スルコトヲ有益ニシテ且希望スヘキコ
 トト認ム

紛爭以外ニ立ツ國ハ交戰中ト雖其ノ周旋又ハ居中調停ヲ
 提供スルノ權利ヲ有ス
 紛爭國ハ右權利ノ行使ヲ友誼ニ戻レルモノト看做スコト

第七ヘーグ條約

ヲ得ス

第四條 居中調停者ノ本文ハ紛爭國ノ主張ヲ調停シ且其ノ
 間ニ惡感情ヲ生シタルトキ之ヲ融和スルニ在ルモノトス
第五條 居中調停者ノ職務ハ其ノ提供シタル調停方法ノ受
 諾セラレサルコトヲ紛爭當事者ノ一方又ハ居中調停者ニ
 於テ認メタルトキ終止スルモノトス

第六條 周旋及居中調停ハ紛爭國ノ依頼ニ因ルト紛爭以外
 ニ立ツ國ノ發意ニ出ツルトト問ハス全ク勸告メ性質ヲ有
 スルニ止リ決シテ拘束力ヲ有スルコトナシ

第七條 居中調停ノ受諾ハ反對ノ約定アルニ非サレハ之カ
 爲動員其ノ他戰爭ノ準備ヲ中止シ遲延シ又ハ阻害スルノ
 結果ヲ生スルコトナシ

開戰ノ後右ノ受諾アリタルトキハ反對ノ約定アルニ非サ
 レハ之カ爲進行中ノ軍事的行動ヲ中止スルコトナシ
第八條 締約國ハ事情ノ許ス限左ノ手續ニ依リ特別居中調
 停ノ適用ヲ慈惠スルコトニ一致ス

平和ヲ破ルノ虞アル重大ナル紛爭ヲ生シタル場合ニ於テ

一九九

第七ヘーグ條約

國際紛爭平和的處理條約

千九百七年(明治四十年) 千九百七年(明治四十年)
 十月十八日(ヘーグ)ニテ署名
 千九百十一年(明治四十四年) 十一月六日 批
 同 年(同) 年(同) 批
 千九百十二年(明治四十五年) 十二月十三日 批 書 寄 託
 一月十三日 公 布

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名略)ハ一般
 平和ノ維持ニ協力スルノ堅實ナル意思ヲ有シ
 全力ヲ竭シテ國際紛爭ノ友好的處理ヲ幫助スルニ決シ
 文明國團ノ各員ヲ結合スル運帶責務ヲ認識シ
 法ノ領域ヲ擴張スルト共ニ國際的正義ノ感ヲ鞏固ナラシメ
 ムコトヲ欲シ
 諸獨立國ノ間ニ於ケル各國ノ頼ルヲ得ヘキ仲裁裁判ノ常設
 制度カ右ノ目的ヲ達スルニ有效ナルヘキヲ確信シ

仲裁裁判手續ニ關スル一般且正則ナル組織ノ有益ナルコト
 ヲ考慮シ
 萬國平和會議ノ至尊ナル發議者ト共ニ國安民福ノ基礎タル
 公平正理ノ原則ヲ國際的合意ニ依リテ定立スルノ須要ナル
 ヲ認メ
 之カ爲審査委員會及仲裁裁判部ノ實地ノ運用ヲ一層確實ニ
 保障シ且簡易ナル手續ニ依リ得ヘキ性質ノ紛爭ヲ仲裁裁判
 ニ付スルコトヲ容易ナラシメムコトヲ希望シ
 國際紛爭平和的處理ニ關スル第一回平和會議ノ事業ニ若干
 ノ修正ヲ加ヘ且之ヲ増補スルヲ必要ト認メタリ
 締約國ハ之カ爲新ナル條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委
 員ヲ任命セリ
 (全權委員名略)
 因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀

ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 一般平和ノ維持

第一條 國家間ノ關係ニ於テ兵力ニ訴フルコトヲ成ルヘク
 豫防セムカ爲締約國ハ國際紛爭ノ平和的處理ヲ確保スル
 ニ付其ノ全力ヲ竭サムコトヲ約定ス

第二章 周旋及居中調停

第二條 締約國ハ重大ナル意見ノ衝突又ハ紛爭ヲ生シタル
 場合ニ於テ兵力ニ訴フルニ先テ事情ノ許ス限其ノ交親國
 中ノ一國又ハ數國ノ周旋又ハ居中調停ニ依頼スルコトヲ
 約定ス

第三條 締約國ハ右依頼ニ關係ナク紛爭以外ニ立ツ一國又
 ハ數國カ事情ノ許ス限自己ノ發意ヲ以テ周旋又ハ居中調
 停ヲ紛爭國ニ提供スルコトヲ有益ニシテ且希望スヘキコ
 トト認ム

紛爭以外ニ立ツ國ハ交戰中ト雖其ノ周旋又ハ居中調停ヲ
 提供スルノ權利ヲ有ス
 紛爭國ハ右權利ノ行使ヲ友誼ニ戻レルモノト看做スコト

第七ヘーグ條約

ヲ得ス

第四條 居中調停者ノ本文ハ紛爭國ノ主張ヲ調停シ且其ノ
 間ニ惡感情ヲ生シタルトキ之ヲ融和スルニ在ルモノトス

第五條 居中調停者ノ職務ハ其ノ提供シタル調停方法ノ受
 諾セラレサルコトヲ紛爭當事者ノ一方又ハ居中調停者ニ
 於テ認メタルトキ終止スルモノトス

第六條 周旋及居中調停ハ紛爭國ノ依頼ニ因ルト紛爭以外
 ニ立ツ國ノ發意ニ出ツルトハ全ク勸告メ性質ヲ有
 スルニ止リ決シテ拘束力ヲ有スルコトナシ

第七條 居中調停ノ受諾ハ反對ノ約定アルニ非サレハ之カ
 爲動員其ノ他戰爭ノ準備ヲ中止シ遲延シ又ハ阻害スルノ
 結果ヲ生スルコトナシ

開戰ノ後右ノ受諾アリタルトキハ反對ノ約定アルニ非サ
 レハ之カ爲進行中ノ軍事的行動ヲ中止スルコトナシ

第八條 締約國ハ事情ノ許ス限左ノ手續ニ依ル特別居中調
 停ノ適用ヲ慈惠スルコトニ一致ス
 平和ヲ破ルノ虞アル重大ナル紛爭ヲ生シタル場合ニ於テ

一九九

ハ紛争國ハ平和關係ノ斷絶ヲ豫防スル爲各一國ヲ選定シ
他方ノ選定シタル國ト直接ノ交渉ヲ開クノ任務ヲ委託ス
右委任ノ期間ハ反對ノ規定アルニ非サレハ三十日ヲ超エ
サルモノトシ其ノ期間中紛争國ハ紛争事件ヲ居中調停國
ニ一任シタルモノト看做シ之ニ關スル一切ノ直接交渉ヲ
中止ス右居中調停國ハ紛争ヲ處理スルニ全力ヲ竭スヘキ
モノトス

平和關係ノ現實ニ斷絶シタル場合ニ於テ右居中調停國ハ
尙平和ヲ回復スルノ機會アル毎ニ之ヲ利用スルノ共同任
務ヲ負フモノトス

第三章 國際審査委員會

第九條 締約國ハ名譽又ハ重要ナル利益ニ關係セス單ニ事
實上ノ見解ノ異ナルヨリ生シタル國際紛争ニ關シ外交上
ノ手段ニ依リ妥協ヲ遂クルコト能ハサリシ當事者カ事情
ノ許ス限國際審査委員會ヲ設ケ之ヲシテ公平誠實ナル審
理ニ依リテ事實問題ヲ明ニシ右紛争ノ解決ヲ容易ニスル
ノ任ニ當ラシムルヲ以テ有益ニシテ且希望スヘキコトト

認ム
第十條 國際審査委員會ハ紛争當事者間ノ特別條約ヲ以テ
之ヲ構成ス
審査條約ハ審理スヘキ事實ヲ明定シ委員會組織ノ方法及
期限並委員ノ權限ヲ定ム

審査條約ハ又場合ニ依リ委員會ノ開會地及之ヲ變更スル
ノ權能、委員會ノ使用スヘキ國語及委員會ニ於テ使用ス
ルコトヲ許スヘキ國語、各當事者カ事實ノ證明書ヲ提出
スヘキ期日其ノ他當事者間ニ約定セル一切ノ條件ヲ定ム
當事者カ補助委員ノ任命ヲ必要ト認ムルトキハ審査條約
ヲ以テ其ノ任命方法及權限ヲ定ム

第十一條 審査條約ヲ以テ委員會ノ開會地ヲ指定セサリシ
トキハ海牙ニ於テ開會スルモノトス
審査委員會ハ當事者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ一旦定メタ
ル開會地ヲ變更スルコトヲ得ス
審査條約ヲ以テ使用スヘキ國語ヲ定メサリシトキハ委員
會之ヲ定ム

第十二條 審査委員會ハ反對ノ規定アルニ非サレハ本條約

第四十五條及第五十七條ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ組織
スルモノトス

第十三條 委員ノ一人又ハ補助委員アル場合ニ於テ其ノ一
人死亡シ辭任シ又ハ原因ノ如何ニ拘ラス支障アルトキハ
其ノ任命ノ爲ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ補闕ス

第十四條 當事者ハ自己ヲ代表シ且自己ト審査委員會トノ
間ノ媒介者タルヘキ特別代理人ヲ審査委員會ニ簡派スル
コトヲ得

當事者ハ又顧問又ハ辯護人ヲ任命シテ委員會ニ於テ自己
ノ利益ヲ開陳辯護セシムルコトヲ得

第十五條 常設仲裁裁判所國際事務局ハ之ヲ海牙ニ開會ス
ル委員會ノ書記局ニ充テ且其ノ廳舎及施設ヲ審査委員會
執務ノ爲締約國ノ用ニ供スヘシ

第十六條 委員會ハ海牙以外ノ地ニ開會スルトキハ書記官
長一人ヲ任命シ其ノ事務所ヲ以テ委員會ノ書記局ニ充ツ
書記局ハ委員長ノ指揮ノ下ニ委員會會場ノ設備、調書ノ

作成及審査繼續中記録ノ保管ヲ掌リ記録ハ後之ヲ海牙國
際事務局ニ引渡スヘキモノトス

第十七條 締約國ハ審査委員會ノ設置及執務ヲ容易ナラシ
ムル爲當事者ニ於テ別段ノ規則ヲ採用セサル限左ノ規定
ヲ審査手續ニ適用スルコトヲ得

第十八條 委員會ハ特別審査條約又ハ本條約中ニ規定セサ
ル手續ノ細目ヲ定メ且證據調ニ關スル一切ノ手續ヲ行フ

第十九條 審査ハ對審ノ上之ヲ行フ
各當事者ハ豫定ノ期日ニ於テ場合ニ依リ事實ノ説明書及
如何ナル場合ニ於テモ事實ノ真相ヲ示スニ有益ナリト認
メタル證書、文書其ノ他ノ書類並陳述ヲ爲サシメムト欲
スル證人及鑑定人ノ名簿ヲ委員會及他ノ當事者ニ送付ス
ヘシ

第二十條 委員會ハ當事者ノ承諾ヲ得タル上取調ノ爲有益
ナリト認メタル地ニ一時移轉シ又ハ一人若ハ數人ノ委員
ヲ同地ニ派遣スルコトヲ得但シ右取調ヲ爲スヘキ地ノ所
屬國ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二十一條 一切ノ事實上ノ檢證及實地ノ臨檢ハ當時者ノ代理人及顧問出席ノ上又ハ之ニ對シ正式ニ呼出ヲ爲シタル後之ヲ行フコトヲ要ス

第二十二條 委員會ハ有益ナリト認ムル説明又ハ報告ヲ一方又ハ他方ノ當事者ニ請求スルコトヲ得

第二十三條 當事者ハ係爭事實ヲ完全ニ知悉シ且精確ニ會得スルニ必要ナル一切ノ方法及便宜ヲ其ノ爲シ得ヘシト認ムル限充分ニ審査委員會ニ提供スヘキモノトス

當事者ハ委員會ノ呼出ヲ受ケタル自國領土ニ在ル證人又ハ鑑定人ノ出頭ヲ保障スル爲國內法規ニ依リ爲シ得ル手段ヲ盡スヘキモノトス

證人又ハ鑑定人ニシテ委員會ニ出頭スルコト能ハサルトキハ當事者ハ其ノ當該官憲ヲシテ之カ訊問ヲ爲サシムヘシ

第二十四條 委員會カ締約國タル第三國ノ領土ニ於テ爲スコトアルヘキ一切ノ通告ハ委員會ヨリ直接ニ當該國政府ニ宛テ之ヲ爲スヘシ實地ニ就キ一切ノ證據蒐集手續ヲ行フコトヲ得

フトキ亦同シ
右請求ヲ受ケタル國ハ其ノ國內法規ニ遵ヒ爲シ得ヘキ方法ニ依リ其ノ請求ヲ履行スヘク且其ノ主權又ハ安寧ニ害アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス
委員會ハ又常ニ其ノ開會地ノ所屬國ノ媒介ニ依頼スルコトヲ得

第二十五條 證人及鑑定人ノ呼出ハ當事者ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ委員會之ヲ爲シ且如何ナル場合ニ於テモ證人及鑑定人所在地ノ所屬國政府ノ媒介ニ依ルモノトス
證人ノ訊問ハ委員會ノ定ムル順序ニ從ヒ代理人及顧問出席ノ上順次各別ニ之ヲ行フ

第二十六條 證人ノ訊問ハ委員長之ヲ行フ
委員會ノ委員ハ各證人ニ對シ其ノ供述ヲ明瞭ナラシメ若ハ之ヲ補充スル爲又ハ事實ノ真相ヲ明ニスルニ必要ナル程度ニ於テ證人ニ關係アル一切ノ事項ヲ取調ノル爲適當ナリト認ムル質問ヲ爲スコトヲ得
當事者ノ代理人及顧問ハ證人ノ供述ヲ中斷シ又ハ證人ニ

直接ノ質問ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ有益ナリト認ムル補足的質問ヲ證人ニ對シ爲サムコトヲ委員長ニ請求スルコトヲ得

第二十七條 證人ハ供述ヲ爲スニ當リ何等ノ文案ヲモ朗讀スルコトヲ得ス但シ報告スヘキ事實ノ性質上覺書又ハ文書ヲ用キルコトヲ必要トスルトキハ委員長ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スルコトヲ得

第二十八條 證人供述ノ調書ハ即時ニ之ヲ作成シ證人ニ讀聞カスヘシ證人ハ之ニ對シ所要ノ變更又ハ追加ヲ爲スコトヲ得右變更及追加ハ之ヲ供述ノ次ニ記載ス

供述ノ全部ヲ讀聞カセタル後ハ證人ヲシテ署名ヲ爲サシムヘシ

第二十九條 代理人ハ審査ノ進行中又ハ其ノ終ニ於テ事實ノ真相ヲ知ル爲有益ナリト認ムル言明、請求又ハ事實ノ要領ヲ書面ヲ以テ委員會及相手方ニ提出スルコトヲ得

第三十條 委員會ノ評議ハ秘密會ニ於テ之ヲ行ヒ且之ヲ秘密ニ付ス

一切ノ決定ハ委員ノ多數決ニ依ル
委員中投票ニ加ルコトヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨調書ニ記載スヘシ

第三十一條 委員會ハ公開セス且審査ニ關スル調書其ノ他ノ文書ハ當事者ノ同意ヲ得テ爲シタル委員會ノ決定ニ依ルニ非サレハ之ヲ公表セス

第三十二條 當事者ヨリ一切ノ説明及證據ヲ提出シ各證人ノ訊問終了シタルトキハ委員長ハ審査ノ終結ヲ宣告シ委員會ハ評議及報告書調製ノ爲停會ス

第三十三條 委員會ノ各委員ハ報告書ニ署名ス
委員中署名ヲ拒ム者アルトキハ其ノ旨ヲ記載ス但シ報告書ハ之ニ拘ラス有效トス

第三十四條 委員會ノ報告書ハ當事者ノ代理人及顧問出席ノ上又ハ之ニ對シ正式ニ呼出ヲ爲シタル後公開廷ニ於テ之ヲ朗讀ス

各當事者ニ報告書ノ謄本ヲ交付ス
第三十五條 委員會ノ報告書ハ單ニ事實ノ認定ニ止リ仲裁

判決ノ性質ヲ有スルコトナシ右認定ニ對シ如何ナル結果ヲ付スヘキヤハ全ク當事者ノ自由タルヘシ

第三十六條 當事者ハ各自ノ費用ヲ負擔シ且委員會ノ費用ヲ均等ニ分擔ス

第四章 國際仲裁裁判

第一節 仲裁裁判

第三十七條 國際仲裁裁判ハ國家間ノ紛争ヲ其ノ選定シタル裁判官ヲシテ法ノ尊重ヲ基礎トシ處理セシムルコトヲ目的トス

仲裁裁判ニ依頼スルコトハ誠實ニ其ノ判決ニ服從スルノ約定ヲ包含ス

第三十八條 締約國ハ法律問題就中國際條約ノ解釋又ハ適用ノ問題ニ關シ外交上ノ手段ニ依リ解決スルコト能ハサリシ紛争ヲ處理スルニハ仲裁裁判ヲ以テ最有效ニシテ且最公平ナル方法ナリト認ム

故ニ前記ノ問題ニ關スル紛争ヲ生シタルトキハ締約國ニ於テ事情ノ許ス限仲裁裁判ニ依頼セムコトヲ希望ス

第三十九條 仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル又ハ將來生スルコトアルヘキ紛争ノ爲ニ之ヲ締結ス

仲裁裁判條約ハ總テノ紛争又ハ特種ノ紛争ノミニ關スルコトヲ得

第四十條 締約國間ニ仲裁裁判ニ依頼スヘキ義務ヲ現ニ規定シタル總括的又ハ特別的條約ノ有無ニ拘ラス締約國ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ヘシト認ムル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシメムカ爲總括的又ハ特別的新協定ヲ締結スヘキコトヲ留保ス

第二節 常設仲裁裁判所

第四十一條 締約國ハ外交上ノ手段ニ依リテ處理スルコト能ハサリシ國際紛争ヲ直ニ仲裁裁判ニ付スルヲ容易ナラシムルノ目的ヲ以テ何時クリトモ依頼スルコトヲ得ヘク且當事者間ニ反對ノ規約ナキ限本條約ニ掲ケタル手續ニ依リテ其ノ職務ヲ行フヘキ常設仲裁裁判所ヲ第一回平和會議ニ依リ設置セラレタル儘維持スルコトヲ約定ス

第四十二條 常設裁判所ハ特別裁判ヲ開クコトニ付當事者

間ニ協定アル場合ヲ除クノ外一切ノ仲裁事件ヲ管轄スルモノトス

第四十三條 常設裁判所ハ之ヲ海牙ニ置ク

國際事務局ハ之ヲ裁判所書記局ニ充テ裁判開廷ニ關スル通信ヲ媒介シ記録ヲ保管シ及一切ノ事務ヲ處理ス

締約國ハ其ノ相互間ニ定メタル仲裁裁判ニ關スル一切ノ約款及自國ニ關シ特別裁判ニ於テ爲シタル一切ノ仲裁判決ノ認證原本ヲ成ルヘク速ニ事務局ニ送付スルコトヲ約定ス

第四十四條 各締約國ハ國際法上ノ問題ニ堪能ノ名アリテ德望高ク且仲裁裁判官ノ任務ヲ受諾スルノ意アル者四人以下ヲ任命ス

前項ニ依リ任命セラレタル者ハ裁判所裁判官トシテ名簿ニ記入シ右名簿ハ事務局ヨリ之ヲ各締約國ニ通告スヘシ事務局ハ仲裁裁判官ノ名簿ニ變更アル毎ニ之ヲ締約國ニ

通告ス

二國又ハ數國ハ協議ノ上一人又ハ數人ノ裁判官ヲ共同ニ任命スルコトヲ得

同一人ハ數國ヨリ任命セラレルコトヲ得

裁判所裁判官ノ任期ハ六年トス但シ再任セラレルコトヲ得

裁判所裁判官中死亡又ハ退職シタル者アルトキハ其ノ任命ノ爲ニ定メタル方法ニ依リ更ニ六年ヲ任期トシテ之ヲ補闕ヲ行フ

第四十五條 締約國カ其ノ相互間ニ生シタル紛争ヲ處理セムカ爲常設裁判所ニ訴ヘムト欲スル場合ニ於テ其ノ紛争ヲ判定スルニ付當該裁判部ヲ組織スヘキ仲裁裁判官ノ選定ハ裁判所裁判官ノ總名簿ニ就キテ之ヲ爲スコトヲ要ス仲裁裁判部ノ構成ニ付當事者ノ合意ナキ場合ニ於テハ左ノ方法ニ依ル

當事者ハ各自二人ノ仲裁裁判官ヲ指定スヘシ其ノ内一人ニ限り自國民又ハ自國カ常設裁判所裁判官トシテ任命シ

タル者ノ中ヨリ之ヲ選定スルコトヲ得右仲裁裁判官ハ合同シテ一人ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

投票相半シタル場合ニ於テハ當事者ノ協議ヲ以テ指定シタル第三國ニ上級仲裁裁判官ノ選定ヲ委託ス

右指定ニ關スル合意成立セサルトキハ當事者ハ各自異ナル一國ヲ指定シ其ノ指定セラレタル國ハ協議ヲ以テ上級仲裁裁判官ヲ選定ス

二月ノ期間内ニ右兩國間ニ合意成立シ能ハサルトキハ兩國ハ常設裁判所裁判官名簿ニ就キ當事者ノ指定シタル裁判官ニ非ス且當事者ノ執レノ國民ニモ非サル者ノ中ヨリ各二人ノ候補者ヲ出シ抽籤ヲ以テ該候補者中上級仲裁裁判官タルヘキ者ヲ定ム

第四十六條 裁判部構成セラレタルトキハ當事者ハ直ニ裁判所ニ訴フルノ決意、仲裁契約ノ正文及仲裁裁判官ノ氏名ヲ事務局ニ通告スヘシ
事務局ハ遲滯ナク各仲裁裁判官ニ對シ仲裁契約及其ノ裁判部ノ他ノ裁判官ノ氏名ヲ通知スヘシ

裁判部ハ當事者ノ定メタル期日ヲ以テ開廷シ事務局ハ其ノ準備ヲ爲スヘシ

裁判部裁判官ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ自國以外ニ於テ外交官ノ特權及免除ヲ享有ス

第四十七條 事務局ハ仲裁裁判ニ關スル一切ノ特別裁判ノ職務ノ爲其ノ廳舎及施設ヲ締約國ノ用ニ供スルコトヲ得常設裁判所ノ裁判權ハ當事者カ其ノ裁判ニ訴フルコトヲ約定シタルトキハ規則ニ定メタル條件ニ從ヒ之ヲ非締約國間又ハ締約國ト非締約國トノ間ニ存スル紛争ニ及ホスコトヲ得

第四十八條 締約國ハ其ノ二國又ハ數國ノ間ニ激烈ナル紛争ノ起ラムトスル場合ニ於テハ常設仲裁裁判所ニ訴フルノ途アルコトヲ之ニ注意スルヲ以テ其ノ義務ナリト認ム故ニ締約國ハ紛争當事者ニ對シ本條約ノ規定アルコトヲ注意シ且平和ノ重要ナル利益ノ爲常設裁判所ニ訴フヘキコトヲ勸告スルハ全ク周旋ノ行爲ニ外ナラサルモノト認ムヘキコトヲ宣言ス

兩國間ニ紛争ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ一方ハ何時ニテモ國際事務局ニ宛テ該紛争ヲ仲裁裁判ニ付スルノ意向アル旨ノ宣言ヲ含ム文書ヲ送ルコトヲ得

事務局ハ直ニ右宣言ヲ他ノ一方ニ通知スルコトヲ要ス

第四十九條 常設評議會ハ和蘭國ニ駐劄スル締約國ノ外交代表者及和蘭國外務大臣ヲ以テ組織シ國際事務局ヲ指揮監督ス和蘭國外務大臣ハ議長ノ職務ヲ行フ

評議會ハ庶務規程其ノ他必要ナル諸規則ヲ定ム

評議會ハ裁判所ノ職務執行ニ關シテ生スルコトアルヘキ事務上ノ一切ノ問題ヲ決定ス

評議會ハ事務局ノ役員及雇員ノ任命、停職及罷免ニ關スル全權ヲ有ス

評議會ハ俸給及手當ヲ定メ且全般ノ支出ヲ監督ス
評議會ハ正式ニ召集セラレタル會合ニ於テ九人以上ノ出席者アルトキハ有效ノ評議ヲ爲スコトヲ得決議ハ多數決ニ依ル

評議會ハ其ノ採用シタル諸規則ヲ遲滯ナク締約國ニ通知

シ毎年裁判所ノ事業、事務ノ執行及支出ニ關スル報告書ヲ締約國ニ提出ス報告書中ニハ又本條約第四十三條第三項及第四項ニ基キ各國ヨリ事務局ニ送付スル書類中重要事項ノ要領ヲ掲クヘシ

第五十條 事務局ノ費用ハ萬國郵便聯合總管理局ノ爲ニ定メタル比例ニ依リ締約國之ヲ負擔ス

加盟國ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ加盟カ效力ヲ生スル日ヨリ之ヲ計算ス

第三節 仲裁裁判手續

第五十一條 仲裁裁判ノ發達ヲ助クルノ目的ヲ以テ締約國ハ當事者カ別段ノ規則ヲ協定セザリシ場合ニ於テ仲裁裁判手續ニ適用スヘキ左ノ規則ヲ定ム

第五十二條 仲裁裁判ニ依頼スル諸國ハ其ノ紛争ノ目的、仲裁裁判官ヲ指定スヘキ期間、第六十三條ノ送達ヲ爲スヘキ方式、順序及期間並各當事者カ費用ノ豫納金トシテ寄託スヘキ金額ヲ定メタル仲裁契約ニ記名ス

仲裁契約ハ又必要ニ應シ仲裁裁判官指定ノ方法、裁判部

ノ有スルコトアルヘキ一切ノ特別權能、其ノ開廷地、其ノ使用スヘキ國語及裁判部ニ於テ使用スルコトヲ許スヘキ國語其ノ他當事者間ニ約定セル一切ノ條件ヲ定ム

第五十三條 常設裁判所ハ當事者カ仲裁契約ノ作成ヲ該裁判所ニ委託スルコトニ一致シタルトキハ之ヲ作成スルノ權能ヲ有ス

裁判所ハ左ノ場合ニ於テハ外交上ノ手段ニ依リ合意ノ成立セサリシ後ハ單ニ當事者ノ一方ヨリ請求アルトキニ於テモ亦前項ノ權限ヲ有ス

(1) 本條約實施後締結セラレ又ハ更新セラレタル總括的仲裁裁判條約ニシテ各紛争ニ付仲裁契約ノ作成ヲ豫見シ且明白ニモ又暗黙ニモ其ノ作成ニ關スル裁判所ノ權限ヲ否認セサルモノノ中ニ規定スル紛争ニ關スルトキ但シ他ノ當事者ニ於テ該紛争カ義務的仲裁裁判ニ付スヘキ紛争ノ種類ニ屬セスト認ムルコトヲ宣言シタルトキハ仲裁裁判條約カ此ノ先決問題ヲ決定スルノ權能ヲ仲裁裁判部ニ付與シタル場合ヲ除クノ外裁判所ノ

干與スル限ニ在ラス

(2) 一國ニ對シ他ノ一國カ其ノ國民ニ支拂ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヨリ生シタル紛争ニシテ其ノ解決ニ付仲裁裁判ノ提議カ受諾セラレタルモノニ關スルトキ但シ他ノ方法ニ依リ仲裁契約ヲ定ムルコトヲ受諾ノ條件トシタルトキハ右規定ヲ適用セス

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ第四十五條第三項乃至第六項ニ定メタル方法ニ依リテ指定セラルル五人ノ委員ヲ以テ組織スヘキ委員會ニ於テ仲裁契約ヲ作成ス

第五十五條 仲裁裁判ノ職務ハ之ヲ當事者カ隨意ニ指定シ又ハ本條約ニ依リテ設置シタル常設仲裁裁判所ノ裁判官中ヨリ選出シタル一人又ハ數人ノ仲裁裁判官ニ委託スルコトヲ得

裁判部ノ構成ニ付當事者ノ合意ナキトキハ第四十五條第三項乃至第六項ニ規定スル方法ニ從フモノトス

第五十六條 君主其ノ他國ノ元首ニシテ仲裁者ニ選定セラ

レタルトキハ仲裁裁判手續ハ仲裁者之ヲ定ム

第五十七條 上級仲裁裁判官ハ當然裁判長タルモノトス

裁判部ニ上級仲裁裁判官ナキトキハ裁判部自ラ其ノ裁判長ヲ指定ス

第五十八條 第五十四條ニ規定スル委員會ニ於テ仲裁契約

ヲ作成シタル場合ニハ反對ノ規約アルニ非サレハ該委員會自ラ仲裁裁判部ヲ組織ス

第五十九條 仲裁裁判官中死亡シ辭職シ又ハ原因ノ如何ニ拘ラス支障ヲ生シタル者アルトキハ其ノ指定ノ爲ニ定メタル方法ニ依リ之カ補闕ヲ行フ

第六十條 裁判部ハ當事者ニ於テ指定ヲ爲ササルトキハ之ヲ海牙ニ開ク

裁判部ハ第三國ノ領土ニ於テハ其ノ同意ヲ得ルニ非サレハ開廷スルコトヲ得ス

裁判部ハ當事者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ一旦定メタル開廷地ヲ變更スルコトヲ得ス

第六十一條 仲裁契約ヲ以テ使用スヘキ國語ヲ定メサリシ

トキハ裁判部之ヲ定ム

第六十二條 當事者ハ自己ト裁判部トノ間ノ媒介者タルヘキ特別代理人ヲ裁判部ニ簡派スルコトヲ得

當事者ハ又顧問又ハ辯護人ヲ任命シ裁判部ニ於テ其ノ權利及利益ヲ辯護セシムルコトヲ得

常設裁判所裁判官ハ之ヲ裁判所裁判官ニ任命シタル國ノ爲ニスルノ外代理人、顧問又ハ辯護人ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第六十三條 仲裁裁判手續ハ原則トシテ準備書面提出及辯論ノ二段ニ分ツ

準備書面提出トハ各代理人ヨリ陳述書、答辯書及必要アルトキハ辯駁書ヲ裁判部裁判官及相手方ニ送達スルヲ謂フ當事者ハ右書面ニ其ノ申立中ニ援用シタル一切ノ文書其ノ他ノ書類ヲ添附ス送達ハ仲裁契約ヲ以テ定メタル順序及期間ニ於テ直接ニ又ハ國際事務局ヲ經テ之ヲ行フモノトス

仲裁契約ヲ以テ定メタル期間ハ合意アルトキハ當事者ニ

於テ又裁判部カ正當ナル決定ヲ與フル爲必要アリト認ム
ルトキハ裁判部ニ於テ之ヲ伸長スルコトヲ得

辯論トハ裁判部ニ於ケル當事者ノ事由ノ口頭演述ヲ謂フ

第六十四條 當事者ノ一方ヨリ提出シタル一切ノ文書ハ其
ノ認證謄本ヲ他ノ一方ニ送達スヘキモノトス

第六十五條 特別ナル事情アル場合ヲ除クノ外裁判部ハ準
備書面提出終結ノ後ニ非サレハ開廷セズ

第六十六條 辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス
辯論ハ當事者ノ承諾ヲ經テ爲シタル裁判部ノ決定ニ依ル
ノ外之ヲ公開セズ

辯論ハ之ヲ裁判長ノ任命スル書記官ノ作成スル調書ニ記
載シ裁判長及書記官ノ一名之ニ署名ス此ノ調書ニ限公正
ナル性質ヲ有ス

第六十七條 裁判部ハ準備書面提出終結ノ後ハ當事者ノ一
方ヨリ相手方ノ承諾ヲ得スシテ提出セムト欲スル新ナル
一切ノ證書其ノ他ノ書類ニ付辯論ヲ拒絕スルコトヲ得

第六十八條 裁判部ハ當事者ノ代理人又ハ顧問カ其ノ注意
ルコトヲ得ス

第七十三條 裁判部ハ仲裁契約及事件ニ關シテ援用シ得ヘ
キ其ノ他ノ證書及書類ヲ解釋シ且法律上ノ原則ヲ適用シ
テ自己ノ權限ヲ定ムルコトヲ得

第七十四條 裁判部ハ裁判指揮ノ爲手續上ノ命令ヲ發シ各
當事者カ辯論ヲ終結スヘキ方式、順序及期間ヲ定メ且證
據調ニ關スル一切ノ手續ヲ行フコトヲ得

第七十五條 當事者ハ紛争決定ノ爲必要ナル一切ノ方法ヲ
其ノ爲シ得ヘシト認ムル限充分ニ裁判部ニ提出スヘシ

第七十六條 裁判部カ締約國タル第三國ノ領土ニ於テ爲ス
ヘキ一切ノ通告ハ裁判部ヨリ直接ニ當該國政府ニ宛テ之
ヲ爲スヘシ實地ニ就キ一切ノ證據蒐集手續ヲ行フトキ亦
同シ

右ニ關スル請求ヲ受ケタル國ハ其ノ國內法規ニ遵ヒ爲シ
得ヘキ方法ニ依リ其ノ請求ヲ履行スヘク且其ノ主權又ハ
安寧ニ害アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得
ス

ヲ求ムルコトアルヘキ新ナル證書其ノ他ノ書類ヲ參酌ス
ルノ自由ヲ有ス

右ノ場合ニ於テ裁判部ハ右證書其ノ他ノ書類ノ提出ヲ請
求スルコトヲ得但シ其ノ旨相手方ニ通知スルコトヲ要ス

第六十九條 裁判部ハ又當事者ノ代理人ニ一切ノ證書ノ提
出ヲ請求シ且必要ナル一切ノ説明ヲ求ムルコトヲ得其ノ
拒絕アリタル場合ニハ其ノ旨ヲ記錄ス

第七十條 當事者ノ代理人及顧問ハ其ノ申立ヲ辯護スル爲
有益ナリト認ムル一切ノ事由ヲ口頭ニテ仲裁裁判部ニ陳
述スルコトヲ得

第七十一條 當事者ノ代理人及顧問ハ抗辯ヲ爲シ又ハ中間
爭議ヲ起スコトヲ得之ニ關スル裁判部ノ決定ハ確定的ニ
シテ更ニ之ヲ論議スルヲ得サルモノトス

第七十二條 裁判部裁判官ハ當事者ノ代理人及顧問ニ質問
ヲ爲シ且疑ハシキ事項ニ關シテ説明ヲ求ムルコトヲ得

辯論ノ進行中裁判部裁判官カ爲シタル質問又ハ發言ハ裁
判部全體又ハ裁判官各員ノ意見ヲ表明シタルモノト認ム

裁判部ハ又常ニ其ノ開廷地ノ所屬國ノ媒介ニ依頼スルコ
トヲ得

第七十七條 當事者ノ代理人及顧問カ各其ノ申立ヲ支持ス
ル一切ノ説明及證據提出ヲ終リタルトキハ裁判長ハ辯論
ノ終結ヲ宣告ス

第七十八條 裁判部ノ評議ハ秘密會ニ於テ行ヒ且之ヲ秘密
ニ付ス

一切ノ決定ハ裁判官ノ多數決ニ依ル

第七十九條 仲裁判決ニハ理由ヲ附シ裁判官ノ氏名ヲ掲ケ
裁判長及裁判部書記局員又ハ其ノ職務ヲ行フ書記官之ニ
署名ス

第八十條 判決ハ當事者ノ代理人及顧問出席ノ上又ハ之ニ
對シ正式ノ呼出ヲ爲シタル後公開廷ニ於テ之ヲ朗讀ス

第八十一條 正式ニ言渡ヲ爲シ且當事者ノ代理人ニ通告シ
タル判決ハ確定的ニ終審トシテ紛争ヲ決定ス

第八十二條 判決ノ解釋及執行ニ關シ當事者間ニ起ルコト
アルヘキ一切ノ紛争ハ反對ノ規約アルニ非サレハ該判決

ヲ言渡シタル裁判部ノ裁判ニ付スヘシ

第八十三條 當事者ハ仲裁契約ニ於テ仲裁判決ニ對スル再審ノ請求ヲ留保スルコトヲ得

右ノ場合ニ於テハ反對ノ規約アルニ非サレハ判決ヲ爲シタル裁判部ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス右請求ハ判決ニ對シ決定的影響ヲ與フヘキ性質ヲ有スル新事實ニシテ辯論終結ノトキ裁判部及再審ヲ請求スル當事者カ知ラサリシモノヲ發見シタル場合ニ限之ヲ爲スコトヲ得

再審ノ手續ハ裁判部ニ於テ特ニ新事實ノ存在ヲ確認シ其ノ事實カ前項ニ掲クル特質ヲ有スルコトヲ認識シ且之ニ因リ請求カ受理スヘキモノナルコトヲ宣言スル決定ヲ爲スニ非サレハ之ヲ開始スルコトヲ得ス再審ノ請求ヲ爲スヘキ期間ハ仲裁契約ニ於テ之ヲ定ム

第八十四條 仲裁判決ハ紛争當事者ニ對シテノミ效力ヲ有ス
若紛争當事者以外ノ諸國カ加リタル條約ノ解釋ニ關スルモノナルトキハ紛争當事者ハ適當ノ時期ニ之ヲ各記名國

ニ通知スヘシ右諸國ハ各訴訟ニ參加スルノ權利ヲ有ス一

國又ハ數國カ此ノ權能ヲ利用シタルトキハ判決中ニ包含スル解釋ハ其ノ國ニ對シテモ亦等シク效力ヲ有スルモノトス

第八十五條 當事者ハ各自ノ費用ヲ負擔シ且裁判部ノ費用ヲ均等ニ分擔ス

第四節 仲裁裁判簡易手續

第八十六條 締約國ハ簡易ナル手續ニ依リ得ヘキ性質ノ紛争ニ關シ仲裁裁判ノ運用ヲ容易ナラシムル爲別段ナル規約ナキ場合ニ適用スヘキ次ノ規定ヲ設ク但シ第三節ノ條項ニシテ右規定ニ牴觸セサルモノハ之ヲ適用ス

第八十七條 紛争當事者ハ各一人ノ仲裁裁判官ヲ指定ス右兩人ノ仲裁裁判官ハ一人ノ上級仲裁裁判官ヲ選定ス若其ノ選定ニ關シ合意成立セサルトキハ仲裁裁判官ハ常設裁判所裁判官ノ總名簿ニ就キ各當事者ノ指定シタル裁判官ニ非ス且其ノ孰レノ國民ニモ非サル者ノ中ヨリ各二人ノ候補者ヲ出シ抽籤ヲ以テ該候補者中上級仲裁裁判官タル

第九十二條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス
第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス
爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第九十三條 第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニシテ記名國ニ非サルモノハ本條約ニ加盟スルコトヲ得
加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

ヘキ者ヲ定ム

上級仲裁裁判官ハ裁判長ト爲ル裁判部ノ決定ハ多數決ニ依ル

第八十八條 裁判部ハ豫メ何等ノ合意ナキトキハ其ノ構成後直ニ當事者雙方ヨリ陳述書ヲ提出スヘキ期間ヲ定ム

第八十九條 各當事者ハ一人ノ代理人ヲシテ裁判部ニ於テ自己ヲ代表セシム

右代理人ハ裁判部ト之ヲ任命シタル政府トノ間ノ媒介者タルヘキモノトス

第九十條 裁判手續ハ悉ク書面ニ依ルモノトス但シ各當事者ハ證人及鑑定人ノ出頭ヲ請求スルコトヲ得裁判部ハ當事者雙方ノ代理人並出頭セシムルヲ有益ナリト認メタル鑑定人及證人ニ對シ口頭ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第五章 附 則

第九十一條 本條約ハ正式ニ批准セラレタル上締約國間ノ關係ニ於テ千八百九十九年七月二十九日ノ國際紛争平和的處理條約ニ代ルヘキモノトス

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル爾餘ノ諸國ニ送付シ且通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第九十四條 第二回平和會議ニ招請セラレザリシ諸國カ本條約ニ加盟シ得ヘキ條件ハ後日締約國間ノ協商ニ依リテ之ヲ定ム

第九十五條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第九十六條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ
廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノ其ノ效力ヲ生スル

モノトス

第九十七條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第九十二條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第九十三條第二項)又ハ廢棄(第九十六條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス
千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ締約國ニ交付スヘキモノトス
(全權委員署名略)

留保

亞米利加合衆國 千九百七年十月十六日ノ總會ニ於テ爲シタル宣言ヲ留保ス

「ブラジル」國 第五十三條第二項ヲ留保ス

「チリ」國 十月七日ノ第一委員會第七回會議ニ於テ

第三十九條ニ關シテ爲シタル宣言ヲ留保ス

希臘國 第五十三條第二項ヲ留保ス

日本國 第四十八條第三項、第四項、第五十三條第二項及第五十四條ヲ留保ス

「ルーマニア」國 千八百九十九年七月二十九日ノ國際紛爭平和的處理條約ニ署名ノ際「ルーマニア」國全權委員ノ爲シタル同一ノ留保ヲ爲ス

瑞西國 第五十三條第二項第二號ヲ留保ス

土耳其國 千九百七年十月十六日ノ第九回總會ノ議事錄ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

契約上ノ債務回收ノ爲ニスル 兵力使用ノ制限ニ關スル條約

千九百七年(明治四十年) 十月十八日「ヘーグ」ニテ署名
千九百十一年(明治四十四年) 十一月六日 批
同 年(同) 十二月十三日 批
千九百十二年(明治四十五年) 一月十三日 公

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名略)ハ一國ノ政府ニ對シ他ノ一國ノ政府カ其ノ國民ニ支拂ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヨリ生スル金錢上ノ原因ニ基ク武力的衝突ノ國家間ニ生スルヲ避ケムコトヲ希望シ

之カ爲條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ

(全權委員名略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 締約國ハ一國ノ政府ニ對シ他ノ一國ノ政府カ其ノ國民ニ支拂ハルヘキモノトシテ請求スル契約上ノ債務ヲ回收スル爲ニ兵力ニ訴ヘサルコトヲ約定ス

右規定ハ債務國カ仲裁裁判ノ申出ヲ拒絕スルカ之ニ對シテ回答ヲ與ヘサルカ之ヲ受諾スルモ仲裁契約ノ作成ヲ不能ナラシムルカ又ハ仲裁裁判ノ後其ノ判決ニ遵ハサル場合ニハ其ノ適用ナキモノトス

第二條 前條第二項ニ掲ケル仲裁裁判ハ國際紛争平和的處理ニ關スル海牙條約第四章第三節ニ規定セル手續ニ依ルモノトス

仲裁裁判ノ判決ハ當事者間ニ特別ナル取極アルニ非サレハ請求ノ當否、債務ノ金額並支拂ノ時期及方法ヲ定ム

第三條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シ

タル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第四條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第五條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准

又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第六條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第七條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第三條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第四條第二項)又ハ廢棄(第六條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭

國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ締約國ニ交付スヘキモノトス

(全權委員署名略)

留保

「アルゼンティン」國(一)一國ノ人民ト外國政府トノ間ニ於ケル普通ノ契約ニ基ク債務ニ關シテハ豫メ一切ノ手續ヲ盡シタルモ尙契約ヲ爲シタル國ノ裁判所カ裁判ヲ爲ササル特別ノ場合ニ非サレハ仲裁裁判ニ依ルコトナカルヘシ

(二)證券ノ發行ヲ以テスル公債ニシテ國債ヲ成スモノハ如何ナル場合ニ於テモ亞米利加諸國ノ土地ニ對シ軍事侵略又ハ事實的占領ノ原由ト爲ルコトナカルヘシ

「ボリヴィア」國 第一委員會ニ於テ表明シタル留保ヲ爲ス

「コロムビア」國 如何ナル場合ニ於テモ債務ノ性質如

何ニ拘ラス之ヲ回收スル爲兵力ヲ使用スルコトヲ承諾セス又債務國ノ裁判所ノ確定判決ノ後ニ非サレハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ承諾セス

「ドミニカ」國 千九百七年十月十六日ノ總會議ニ於テ爲シタル留保ヲ爲ス

「エクアドル」國 千九百七年十月十六日ノ總會議ニ於テ爲シタル留保ヲ爲ス

希臘國 千九百七年十月十六日ノ總會議ニ於テ爲シタル留保ヲ爲ス

「グアテマラ」國 「アルゼンティン」國ト同一ノ留保ヲ爲ス

「ペルー」國 本條約ニ定メタル原則ハ一國ト外國臣民トノ間ニ締結シタル契約ニ基ク要求又ハ紛争ニ付右ノ

契約中ニ要求又ハ紛争カ該國ノ裁判官及裁判所ニ訴ヘラルヘキコトヲ明白ニ規定シタル場合ニ之ヲ適用シ得

サルコトヲ留保ス
「サルヴァドル」國 「アルゼンティン」國ト同一ノ留

保ヲ爲ス

「ウルグアイ」國 疑義又ハ紛争ヲ生セシメタル契約以前ノ債務國ノ基本法ニ於テ又ハ該契約ニ於テ右疑義又

ハ紛争カ該國ノ裁判所ニ依リ決定セラルヘキモノナルコトヲ定メタルトキハ常ニ當然仲裁裁判ヲ拒絕シ得ヘ

キモノト認ムルヲ以テ第一條第二項ヲ留保ス

開戦ニ關スル條約

千九百七年(明治四十年) 十月十八日 海牙ニ於テ調印
千九百十一年(明治四十四年) 十一月六日 批
同 年(同) 十二月十三日 批准書寄託
千九百十二年(明治四十五年) 一月十三日 公 布

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ平和關係ノ安固ヲ期スル爲戰爭ハ豫告ナクシテ之ヲ開始セサルヲ必要トスルコト及戰爭狀態ハ遲滯ナク之ヲ中立國ニ通

告スルヲ必要トスルコトヲ考慮シ之カ爲條約ヲ締結セムコ

トヲ希望シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 締約國ハ理由ヲ附シタル開戰宣言ノ形式又ハ條件

附開戰宣言ヲ含ム最後通牒ノ形式ヲ有スル明瞭且事前ノ通告ナクシテ其ノ相互間ニ戰爭ヲ開始スヘカラサルコト

ヲ承認ス

第二條 戰爭狀態ハ遲滯ナク中立國ニ通告スヘク通告受領

ノ後ニ非サレハ該國ニ對シ其ノ效果ヲ生セサルモノトス該通告ハ電報ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但シ中立國力實際

戰爭狀態ヲ知リタルコト確實ナルトキハ該中立國ハ通告ノ欠缺ヲ主張スルコトヲ得ス

第三條 本條約第一條ハ締約國中ノ二國又ハ數國間ノ戰爭

ノ場合ニ效力ヲ有スルモノトス
第二條ハ締約國タル一交戰國ト均シク締約國タル諸中立

國間ノ關係ニ付拘束力ヲ有ス

第四條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ

以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場

合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第五條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得

。加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託

スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證本ヲ爾餘ノ諸

國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第六條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第七條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第八條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第四條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第五條第二項)又ハ(廢棄)第七條第一項ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

(參考) 獨逸に對する英の最後通牒

牒

一九三九年九月三日午前九時英國大使は次の通牒を獨逸外務省へ提出した。

九月一日閣下に呈するの光榮を有した通告に於て、小官は陛下の外務大臣の訓令に基き、聯合王國陛下の政府は、

陸戰ノ法規慣例ニ關スル條約

(同 上)

獨逸國政府が波蘭に於ける一切の侵略行爲を中止したる旨並に其軍隊を波蘭國領土より即時撤收するに吝かならざる旨の十分の確約を、聯合王國陛下の政府に與ふる用意なき場合に於ては、遲滞なく波蘭に對するその義務を履行すべきことを閣下に通告した。

上記の通告が二十四時間以前に爲れたに拘らず未だ何等の回答に接せず、却て波蘭に對する獨逸の攻撃は續行強化された。

仍て小官は閣下に對し本九月三日、英國夏期時間午前十一時迄に、前記の意味に於ける十分なる確約が獨逸政府に依つて與へられ、且倫敦に於ける陛下の政府に到着せざる場合には、兩國の間に該時刻以後、戰爭狀態の存在する旨を通告するの光榮を有す。

ネヴィル・ヘンダーソン(署名)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ平和ヲ維持シ且諸國間ノ戰爭ヲ防止スルノ方法ヲ講スルト同時ニ其ノ所期ニ反シ避クルコト能ハサル事件ノ爲兵力ニ訴フル事アルヘキ場合ニ付攻究ヲ爲スノ必要ナルコトヲ考慮シ斯ノ如キ非常ノ場合ニ於テモ尙能ク人類ノ福利ト文明ノ發展トシテ止ムコトナキ要求トニ副ハムコトヲ希望シ之カ爲戰爭ニ關スル一般ノ法規慣例ハ一層之ヲ精確ナラシムルヲ目的トシ又ハ成ルヘク戰爭ノ慘害ヲ減殺スヘキ制限ヲ設クルヲ目的トシテ之ヲ修正スルノ必要ヲ認メ千八百七十四年ノ比律悉會議ノ後ニ於テ聰明仁慈ナル先見ヨリ出デタル前記ノ思想ヲ體シテ陸戰ノ慣習ヲ制定スルヲ以テ目的トスル諸條規ヲ採用シタル第一回平和會議ノ事業ヲ或點ニ於テ補充シ且精確ニスルヲ必要ト判定セリ

締約國ノ所見ニ依レハ右條規ハ軍事上ノ必要ノ許ス限努メ

テ戰爭ノ慘害ヲ輕減スルノ希望ヲ以テ定メラレタルモノニシテ交戦者相互間ノ關係及人民トノ關係ニ於テ交戦者ノ行動ノ一般ノ準繩タルヘキモノトス

但シ實際ニ起ル一切ノ場合ニ普ク適用スヘキ規定ハ此ノ際之ヲ協定シ置クコト能ハサリシト雖明文ナキノ故ヲ於テ規定セラレサル總テノ場合ヲ軍隊指揮者ノ擅斷ニ委スルハ亦締約國ノ意思ニ非サリシナリ

一層完備シタル戰爭法規ニ關スル法典ノ制定セララルニ至ル迄ハ締約國ハ其ノ採用シタル條規ニ含マレサル場合ニ於テモ人民及交戦者カ依然文明國ノ間ニ存立スル慣習、人道ノ法則及公共良心ノ要求ヨリ生スル國際法ノ原則ノ保護及支配ノ下ニ立ツコトヲ確認スルヲ以テ適當ト認ム

締約國ハ採用セラレタル規則ノ第一條及第二條ハ特ニ右ノ趣旨ヲ以テ之ヲ解スヘキモノナルコトヲ宣言ス

締約國ハ之カ爲新ナル條約ヲ締結セムコトヲ欲シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀

ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 締約國ハ其ノ陸軍軍隊ニ對シ本條約ニ附屬スル陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則ニ適合スル訓令ヲ發スヘシ

第二條 第一條ニ掲ケタル規則及本條約ノ規定ハ交戦國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限締約國間ニノミ之ヲ適用ス

第三條 前記規則ノ條項ニ違反シタル交戦當時者ハ損害アルトキハ之カ賠償ノ責ヲ負フヘキモノトス交戦當事者ハ其ノ軍隊ヲ組成スル人員ノ一切ノ行爲ニ付責任ヲ負フ

第四條 本條約ハ正式ニ批准セラレタル上締約國間ノ關係ニ於テハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ代ルヘキモノトス

千八百九十九年ノ條約ハ該條約ニ記名シタルモ本條約ヲ批准セサル諸國間ノ關係ニ於テハ依然效力ヲ有スルモノトス

第五條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添付シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第六條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第七條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對

シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准書又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第八條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告書カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第九條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第五條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第六條第二項)又ハ廢棄(第八條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルニトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス
千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭
國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證騰本ヲ外交上ノ手續ニ依リ
第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノト
ス

レタル留保ヲ爲ス
土 耳 其 國 第三條ヲ留保ス

條約附屬書

陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則

第一款 交戰者

第一章 交戰者ノ資格

第一條 戰爭ノ法規及權利義務ハ單ニ之ヲ軍ニ適用スルノ
ミナラス左ノ條件ヲ具備スル民兵及義勇兵團ニモ亦之ヲ
適用ス

- 一 部下ノ爲ニ責任ヲ負フ者其ノ頭ニ在ルコト
- 二 遠方ヨリ認識シ得ヘキ固著ノ特殊徽章ヲ有スルコト
- 三 公然兵器ヲ携帯スルコト

獨 逸 國 附屬規則第四十四條ヲ留保ス
奧地利 洪牙利國 千九百七年八月十七日ノ總會議ニ
於テ爲シタル宣言ヲ留保ス

日 本 國 第四十四條ヲ留保ス

「モンテネグロ」國 本條約附屬規則第四十四條ニ關シ
テ表明シ且千九百七年八月十七日
ノ第四回總會議事錄ニ記入セラ
レタル留保ヲ爲ス

露 西 亞 國 本條約附屬規則第四十四條ニ關シ
テ表明シ且千九百七年八月十七日
ノ第四回總會議事錄ニ記入セラ
レタル留保ヲ爲ス

四 其ノ動作ニ付戰爭ノ法規慣例ヲ遵守スルコト

民兵又ハ義勇兵團ヲ以テ軍ノ全部又ハ一部ヲ組織スル國
ニ在リテハ之ヲ軍ノ名稱中ニ包含ス

第二條 占領セラレサル地方ノ人民ニシテ敵ノ接近スルニ

當リ第一條ニ依リテ編成ヲ爲スノ適ナク侵入軍隊ニ抗敵
スル爲自ラ兵器ヲ操ル者カ公然兵器ヲ携帯シ且戰爭ノ法
規慣例ヲ遵守スルトキハ之ヲ交戰者ト認ム

第三條 交戰當事者ノ兵力ハ戰闘員及非戰闘員ヲ以テ之ヲ
編成スルコトヲ得

敵ニ捕ハレタル場合ニ於テハ二者均シク俘虜ノ取扱ヲ受
クルノ權利ヲ有ス

第二章 俘虜

第四條 俘虜ハ敵ノ政府ノ權内ニ屬シ之ヲ捕ヘタル個人又

ハ部隊ノ權内ニ屬スルコトナシ

俘虜ハ人道ヲ以テ取扱ハルヘシ

俘虜ノ一身ニ屬スルモノハ兵器、馬匹及軍用書類ヲ除ク
ノ外依然其ノ所有タルヘシ

第五條 俘虜ハ一定ノ地域外ニ出テサル義務ヲ負ハシメテ

之ヲ都市、城寨、陣營其ノ他ノ場所ニ留置スルコトヲ得
但シ已ムヲ得サル保安手段トシテ且該手段ヲ必要トスル
事情ノ繼續中ニ限之ヲ幽閉スルコトヲ得

第六條 國家ハ將校ヲ除クノ外俘虜ヲ其ノ階級及技能ニ應

シ勞務者トシテ使役スルコトヲ得

其ノ勞務ハ過度ナルヘカラス又一切作戰動作ニ關係ヲ有
スヘカラス

俘虜ハ公務所、私人又ハ自己ノ爲ニ勞務スルコトヲ許可
セラルルコトアルヘシ

國家ノ爲ニスル勞務ニ付テハ同一勞務ニ使役スル内國陸
軍軍人ニ適用スル現行定率ニヨリ支拂ヲ爲スヘシ右定率
ナキトキハ其ノ勞務ニ對スル割合ヲ以テ支拂フヘシ

公務所又ハ私人ノ爲ニスル勞務ニ關シテハ陸軍官憲ト協
議ノ上條件ヲ定ムヘシ

俘虜ノ勞銀ハ其ノ境遇ノ艱苦ヲ輕減スルノ用ニ供シ剩餘
ハ解放ノ時給養ノ費用ヲ控除シテ之ヲ俘虜ニ交付スヘシ

第七條 政府ハ其ノ權内ニ在ル俘虜ヲ給養スヘキ義務ヲ有ス

交戦者間ニ特別ノ協定ナキ場合ニ於テハ俘虜ハ糧食、寢具及被服ニ關シ之ヲ捕ヘタル政府ノ軍隊ト對等ノ取扱ヲ受クヘシ

第八條 俘虜ハ之ヲ其ノ權内ニ屬セシメタル國ノ陸軍現行法律、規則及命令ニ服従スヘキモノトス總テ不從順ノ行爲アルトキハ俘虜ニ對シ必要ナル嚴重手段ヲ施スコトヲ得

逃走シタル俘虜ニシテ其ノ軍ニ違スル前又ハ之ヲ捕ヘタル軍ノ占領シタル地域ヲ離ルルニ先チ再ヒ捕ヘラレタル者ハ懲罰ニ付セラルヘシ
俘虜逃走ヲ遂ケタル後再ヒ俘虜ト爲リタル者ハ前ノ逃走ニ對シテハ何等ノ罰ヲ受クルコトナシ

第九條 俘虜其ノ氏名及階級ニ付訊問ヲ受ケタルトキハ實ヲ以テ答フヘキモノトス若此ノ規定ニ背クトキハ同種ノ俘虜ニ與ヘラルヘキ利益ヲ減殺セラルルコトアルヘシ

陸軍官憲ノ證明書ヲ携帶スル場合ニ限り俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十四條 各交戦國ハ戰爭開始ノ時ヨリ又中立國ハ交戦者ヲ其ノ領土ニ收容シタル時ヨリ俘虜情報局ヲ設置ス情報局ハ俘虜ニ關スル一切ノ問合ニ答フルノ任務ヲ有シ俘虜ノ留置、移動、宣誓解放、交換、逃走、入院、死亡ニ關スル事項其ノ他各俘虜ニ關シ銘銘票ヲ作成補修スル爲ニ必要ナル通報ヲ各當該官憲ヨリ受クルモノトス情報局ハ該票ニ番號、氏名、年齢、本籍地、階級、所屬部隊、負傷並捕獲、留置、負傷及死亡ノ日附及場所其ノ他一切ノ備考事項ヲ記載スヘシ、銘銘票ハ平和克復ノ後之ヲ他方交戦國ノ政府ニ交付スヘシ

情報局ハ又宣誓解放セラレ交換セラレ逃走シ又ハ病院若ハ繃帶所ニ於テ死亡シタル俘虜ノ遺留シ並戰場ニ於テ發見セラレタル一切ノ自用品、有價物、信書等ヲ收集シテ之ヲ其ノ關係者ニ傳送スルノ任務ヲ有ス

第十五條 慈善行爲ノ媒介者タル目的ヲ以テ自國ノ法律ニ

第七條 一、格條約

第十條 俘虜ハ其ノ本國ノ法律カ之ヲ許ストキハ宣誓ノ後

解放セララルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ本國政府及之ヲ捕ヘタル政府ニ對シ一身ノ名譽ヲ賭シテ其ノ誓約ヲ嚴密ニ履行スルノ義務ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ俘虜ノ本國政府ハ之ニ對シ其ノ宣誓ニ違反スル勤務ヲ命シ又ハ之ニ服セムトノ申出ヲ受諾スヘカラサルモノトス

第十一條 俘虜ハ宣誓解放ノ受諾ヲ強制セラルルコトナク又敵ノ政府ハ宣誓解放ヲ求ムル俘虜ノ請願ニ應スルノ義務ナシ

第十二條 宣誓解放ヲ受ケタル俘虜ニシテ其ノ名譽ヲ賭シテ誓約ヲ爲シタル政府又ハ其ノ政府ノ同盟國ニ對シテ兵器ヲ操リ再ヒ捕ヘラレタル者ハ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ權利ヲ失フヘク且裁判ニ付セラルルコトアルヘシ

第十三條 新聞ノ通信員及探訪者並酒保用達人等ノ如キ直接ニ軍ノ一部ヲ爲ササル從軍者ニシテ敵ノ權内ニ陥リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認メタル者ハ其ノ所屬

從ヒ正式ニ組織セラレタル俘虜救恤協會ハ其ノ人道的事業ヲ有效ニ遂行スル爲軍事上ノ必要及行政上ノ規則ニ依リテ定メラレタル範圍内ニ於テ交戦者ヨリ自己及其ノ正當ノ委任アル代表者ノ爲ニ一切ノ便宜ヲ受クヘシ右協會ノ代表者ハ各自陸軍官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ケ且該官憲ノ定メタル秩序及風紀ニ關スル一切ノ規律ニ服従スヘキ旨書面ヲ以テ約シタル上俘虜收容所及送還俘虜ノ途中休泊所ニ於テ救恤品ヲ分與スルコトヲ許サルヘシ

第十六條 情報局ハ郵便料金ノ免除ヲ享ク俘虜ニ宛テ又ハ其ノ發シタル信書、郵便爲替、有價物件及小包郵便物ハ差出國名宛國及通過國ニ於テ一切ノ郵便料金ヲ免除セララルヘシ

俘虜ニ宛テタル贈與品及救恤品ハ輸入稅其ノ他ノ諸稅及國有鐵道ノ運費ヲ免除セラルヘシ

第十七條 俘虜將校ハ其ノ抑留セラルル國ノ同一階級ノ將校カ受クルト同額ノ俸給ヲ受クヘシ右俸給ハ其ノ本國政府ヨリ償還セラルヘシ

第十八條 俘虜ハ陸軍官憲ノ定メタル秩序及風紀ニ關スル規律ニ服従スヘキコトヲ唯一ノ條件トシテ其ノ宗教ノ遵行ニ一切ノ自由ヲ與ヘラレ其ノ宗教上ノ禮拜式ニ參列スルコトヲ得

第十九條 俘虜ノ遺言ハ内國陸軍軍人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ領置シ又ハ作成ス

俘虜ノ死亡ノ證明ニ關スル書類及埋葬ニ關シテモ亦同一ノ規則ニ遵ヒ其ノ階級及身分ニ相當スル取扱ヲ爲スヘシ
第二十條 平和克復ノ後ハ成ルヘク速ニ俘虜ヲ其ノ本國ニ歸還セシムヘシ

第三章 病者及傷者

第二十一條 病者及傷者ノ取扱ニ關スル交戦者ノ義務ハ「ジエネヴァ」條約ニ依ル

第二款 戰 闘

第一章 害敵手段、攻圍及砲撃

第二十二條 交戦者ハ害敵手段ノ選擇ニ付無制限ノ權利ヲ有スルモノニ非ス

第二十三條 特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモノ左ノ如シ

イ 毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト
ロ 敵國又ハ敵軍ニ屬スル者ヲ背信ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト

ハ 兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵ヲ殺傷スルコト

ニ 助命セサルコトヲ宣言スルコト
ホ 不必要ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器、投射物其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

ヘ 軍使旗、國旗其他ノ軍用ノ標章、敵ノ制服又ハ「ジエネヴァ」條約ノ特殊徽章ヲ擅ニ使用スルコト
ト 戰爭ノ必要上萬已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押收スルコト

チ 對手當事國國民ノ權利及訴權ノ消滅、停止又ハ裁判上不受理ヲ宣言スルコト

交戦者ハ又對手當事國ノ國民ヲ強制シテ其ノ本國ニ對ス

ル作戰動作ニ加ラシムルコトヲ得ス戰爭開始前其ノ役務ニ服シタル場合ト雖亦同シ

第二十四條 奇計並敵情及地形探知ノ爲必要ナル手段ノ行使ハ適法ト認ム

第二十五條 防守セサル都市、村落、住宅又ハ建物ハ如何ナル手段ニ依ルモ之ヲ攻撃又ハ砲撃スルコトヲ得ス

第二十六條 攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ヲ除クノ外砲撃ヲ始ムルニ先チ其ノ旨官憲ニ通告スル爲施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ盡スヘキモノトス

第二十七條 攻圍及砲撃ヲ爲スニ當リテハ宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セラルル建物、歴史上ノ紀念建造物、病院並病者及傷者ノ收容所ハ同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限之ヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシムル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス

被圍者ハ看易キ特別ノ徽章ヲ以テ右建物又ハ收容所ヲ表示スルノ義務ヲ負フ右徽章ハ豫メ之ヲ攻圍者ニ通告スヘシ

第二十八條 都市其ノ他ノ地域ハ突撃ヲ以テ攻取シタル場合ト雖之ヲ掠奪ニ委スルコトヲ得ス

第二章 間 諜

第二十九條 交戦者ノ作戰地帯内ニ於テ對手交戦者ニ通報スルノ意思ヲ以テ隱密ニ又ハ虚偽ノ口實ノ下ニ行動シテ情報ヲ蒐集シ又ハ蒐集セムトスル者ニ非サレハ之ヲ間諜ト認ムルコトヲ得ス

故ニ變裝セサル軍人ニシテ情報ヲ蒐集セムカ爲敵軍ノ作戰地帯内ニ進入シタル者ハ之ヲ間諜ト認メス又軍人タルト否トヲ問ハス自國軍又ハ敵軍ニ宛テタル通信ヲ傳達スルノ任務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ間諜ト認メス通信ヲ傳達スル爲及總テ軍又ハ地方ノ各部門ノ聯絡ヲ通スル爲輕氣球ニテ派遣セラレタルモノ亦同シ

第三十條 現行中捕ヘラレタル間諜ハ裁判ヲ經ルニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三十一條 一旦所屬軍ニ復歸シタル後ニ至リ敵ノ爲ニ捕ヘラレタル間諜ハ俘虜トシテ取扱ハルヘク前ノ間諜行爲

第十八條 俘虜ハ陸軍官憲ノ定メタル秩序及風紀ニ關スル規律ニ服従スヘキコトヲ唯一ノ條件トシテ其ノ宗教ノ遵行ニ一切ノ自由ヲ與ヘラレ其ノ宗教上ノ禮拜式ニ參列スルコトヲ得

第十九條 俘虜ノ遺言ハ内國陸軍軍人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ領置シ又ハ作成ス

俘虜ノ死亡ノ證明ニ關スル書類及埋葬ニ關シテモ亦同一ノ規則ニ遵ヒ其ノ階級及身分ニ相當スル取扱ヲ爲スヘシ

第二十條 平和克復ノ後ハ成ルヘク速ニ俘虜ヲ其ノ本國ニ歸還セシムヘシ

第三章 病者及傷者

第二十一條 病者及傷者ノ取扱ニ關スル交戦者ノ義務ハ「ジエネヴァ」條約ニ依ル

第二款 戰 闘

第一章 害敵手段、攻圍及砲擊

第二十二條 交戦者ハ害敵手段ノ選擇ニ付無制限ノ權利ヲ有スルモノニ非ス

第二十三條 特別ノ條約ヲ以テ定メタル禁止ノ外特ニ禁止スルモノ左ノ如シ

イ 毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

ロ 敵國又ハ敵軍ニ屬スル者ヲ背信ノ行爲ヲ以テ殺傷スルコト

ハ 兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵ヲ殺傷スルコト

ニ 助命セサルコトヲ宣言スルコト

ホ 不必要ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器、投射物其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

ヘ 軍使旗、國旗其他ノ軍用ノ標章、敵ノ制服又ハ「ジエネヴァ」條約ノ特殊徽章ヲ擅ニ使用スルコト

ト 戰爭ノ必要上萬已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外敵ノ財産ヲ破壊シ又ハ押收スルコト

チ 對手當事國國民ノ權利及訴權ノ消滅、停止又ハ裁判上不受理ヲ宣言スルコト

交戦者ハ又對手當事國ノ國民ヲ強制シテ其ノ本國ニ對ス

ル作戰動作ニ加ラシムルコトヲ得ス戰爭開始前其ノ役務ニ服シタル場合ト雖亦同シ

第二十四條 奇計並敵情及地形探知ノ爲必要ナル手段ノ行使ハ適法ト認ム

第二十五條 防守セサル都市、村落、住宅又ハ建物ハ如何ナル手段ニ依ルモ之ヲ攻撃又ハ砲擊スルコトヲ得ス

第二十六條 攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ヲ除クノ外砲撃ヲ始ムルニ先チ其ノ旨官憲ニ通告スル爲施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ盡スヘキモノトス

第二十七條 攻圍及砲擊ヲ爲スニ當リテハ宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セラルル建物、歴史上ノ紀念建造物、病院並病者及傷者ノ收容所ハ同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限之ヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシムル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス

被圍者ハ看易キ特別ノ徽章ヲ以テ右建物又ハ收容所ヲ表示スルノ義務ヲ負フ右徽章ハ豫メ之ヲ攻圍者ニ通告スヘシ

第二十八條 都市其ノ他ノ地域ハ突撃ヲ以テ攻取シタル場合ト雖之ヲ掠奪ニ委スルコトヲ得ス

第二章 間 諜

第二十九條 交戦者ノ作戰地帯内ニ於テ對手交戦者ニ通報スルノ意思ヲ以テ隱密ニ又ハ虚偽ノ口實ノ下ニ行動シテ情報ヲ蒐集シ又ハ蒐集セムトスル者ニ非サレハ之ヲ間諜ト認ムルコトヲ得ス

故ニ變裝セサル軍人ニシテ情報ヲ蒐集セムカ爲敵軍ノ作戰地帯内ニ進入シタル者ハ之ヲ間諜ト認メス又軍人タルト否トヲ問ハス自國軍又ハ敵軍ニ宛テタル通信ヲ傳達スルノ任務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ間諜ト認メス通信ヲ傳達スル爲及總テ軍又ハ地方ノ各部間ノ聯絡ヲ通スル爲輕氣球ニテ派遣セラレタルモノ亦同シ

第三十條 現行中捕ヘラレタル間諜ハ裁判ヲ經ルニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス

第三十一條 一旦所屬軍ニ復歸シタル後ニ至リ敵ノ爲ニ捕ヘラレタル間諜ハ俘虜トシテ取扱ハルヘク前ノ間諜行爲

ニ對シテハ何等ノ責ヲ負フコトナシ

第三章 軍 使

第三十二條 交戦者ノ一方ノ命ヲ帶ヒ他ノ一方ト交渉スル爲白旗ヲ掲ケテ來ル者ハ之ヲ軍使トス軍使並之ニ隨從スル喇叭手、鼓手、旗手及通譯ハ不可侵權ヲ有ス

第三十三條 軍使ヲ差向ケラレタル部隊長ハ必スシモ之ヲ受クルノ義務ナキモノトス

部隊長ハ軍使カ軍情ヲ探知スル爲其ノ使命ヲ利用スルヲ防クニ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルコトヲ得
濫用アリタル場合ニ於テハ部隊長ハ一時軍使ヲ抑留スルコトヲ得

第三十四條 軍使カ背信ノ行爲ヲ教唆シ又ハ自ラ之ヲ行フ爲其ノ特權アル地位ヲ利用シタルノ證據明確ナルトキハ其ノ不可侵權ヲ失フ

第四章 降伏規約

第三十五條 締約當事者間ニ協定セララル降伏規約ニハ軍人ノ名譽ニ關スル例規ヲ參酌スヘキモノトス

降伏規約一旦確定シタル上ハ當事者雙方ニ於テ嚴密ニ之ヲ遵守スヘキモノトス

第五章 休 戰

第三十六條 休戰ハ交戦當事者ノ合意ヲ以テ作戰動作ヲ停止ス若其ノ期間ノ定ナキトキハ交戦當事者ハ何時ニテモ再ヒ動作ヲ開始スルコトヲ得但シ休戰ノ條件ニ遵依シ所定ノ時期ニ於テ其ノ旨敵ニ通告スヘキモノトス

第三十七條 休戰ハ全般的又ハ部分的タルコトヲ得全般的休戰ハ普ク交戦國ノ作戰動作ヲ停止シ部分的休戰ハ單ニ特定ノ地域ニ於テ交戦軍ノ或部分間ニ之ヲ停止スルモノトス

第三十八條 休戰ハ正式ニ且適當ノ時期ニ於テ之ヲ當該官憲及軍隊ニ通告スヘシ通告ノ後直ニ又ハ所定ノ時期ニ至リ戰闘ヲ停止ス

第三十九條 戰地ニ於ケル交戦者ト人民トノ間及人民相互間ノ關係ヲ休戰規約ノ條項中ニ規定スルコトハ當事者ニ一任スルモノトス

第四十條 當事者ノ一方ニ於テ休戰規約ノ重大ナル違反アリタルトキハ他ノ一方ハ規約廢棄ノ權利ヲ有スルノミナラス緊急ノ場合ニ於テハ直ニ戰闘ヲ開始スルコトヲ得

第四十一條 個人カ自己ノ發意ヲ以テ休戰規約ノ條項ニ違反シタルトキハ唯其ノ違反者ノ處罰ヲ要求シ且損害アリタル場合ニ賠償ヲ要求スルノ權利ヲ生スルニ止ルヘシ

第三款 敵國ノ領土ニ於ケル軍ノ權力

第四十二條 一地方ニシテ事實上敵軍ノ權力内ニ歸シタルトキハ占領セラレタルモノトス

占領ハ右權力ヲ樹立シタル且之ヲ行使シ得ル地域ヲ以テ限トス

第四十三條 國ノ權力カ事實上占領者ノ手ニ移リタル上ハ占領者ハ絶對的ノ支障ナキ限占領地ノ現行法律ヲ尊重シテ成ルヘク公共ノ秩序及生活ヲ回復確保スル爲施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ盡スヘシ

第四十四條 交戦者ハ占領地ノ人民ヲ強制シテ他方ノ交戦者ノ軍又ハ其ノ防禦手段ニ付情報ヲ供與セシムルコトヲ

得ス

第四十五條 占領地ノ人民ハ之ヲ強制シテ其ノ敵國ニ對シ忠誠ノ誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

第四十六條 家ノ名譽及權利、個人ノ生命、私有財産並宗教ノ信仰及其ノ遵行ハ之ヲ尊重スヘシ

私有財産ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第四十七條 掠奪ハ之ヲ嚴禁ス

第四十八條 占領者カ占領地ニ於テ國ノ爲ニ定メラレタル租稅、賦課金及通過稅ヲ徵收スルトキハ成ルヘク現行ノ賦課規則ニ依リ之ヲ徵收スヘシ此ノ場合ニ於テハ占領者ハ國ノ政府カ支辨シタル程度ニ於テ占領地ノ行政費ヲ支辨スルノ義務アルモノトス

第四十九條 占領者カ占領地ニ於テ前條ニ掲ケタル税金以外ノ取立金ヲ命スルハ軍又ハ占領地行政上ノ需要ニ應スル爲ニスル場合ニ限ルモノトス

第五十條 人民ニ對シテハ連帶ノ責アリト認ムヘカラサル個人ノ行爲ノ爲金錢上其他ノ連坐罰ヲ科スルコトヲ得ス

第五十一條 取立金ハ總テ總指揮官ノ命令書ニ依リ且其ノ責任ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ徵收スルコトヲ得ス

取立金ハ成ルヘク現行ノ租稅賦課規則ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

一切ノ取立金ニ對シテハ納付者ニ領收證ヲ交付スヘシ

第五十二條 現品徵發及課役ハ占領軍ノ需要ノ爲ニスルニ

非サレハ市區町村又ハ住民ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス徵發及課役ハ地方ノ資力ニ相應シ且人民ヲシテ其ノ本國ニ對スル作戰動作ニ加ルノ義務ヲ負ハシメサル性質ノモノタルコトヲ要ス

右徵發及課役ハ占領地方ニ於ケル指揮官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

現品ノ供給ニ對シテハ成ルヘク即金ニテ支拂ヒ然ラサレハ領收證ヲ以テ之ヲ證明スヘク且成ルヘク速ニ之ニ對スル金額ノ支拂ヲ履行スヘキモノトス

第五十三條 一地方ヲ占領シタル軍ハ國ノ所有ニ屬スル現金、基金及有價證券、貯藏兵器、輸送材料、在庫品及糧

秣其ノ他總テ作戰動作ニ供スルコトヲ得ヘキ國有動産ノ外之ヲ押收スルコトヲ得ス

海上法ニ依リ支配セラルル場合ヲ除クノ外陸上海上及空中ニ於テ報道ノ傳送又ハ人若ハ物ノ輸送ノ用ニ供セラルル一切ノ機關貯藏兵器其ノ他各種ノ軍需品ハ私人ニ屬スルモノト雖モ之ヲ押收スルコトヲ得但シ平和克復ニ至リ之ヲ還付シ且之カ賠償ヲ決定スヘキモノトス

第五十四條 占領地ト中立地トヲ連結スル海底電線ハ絕對的ノ必要アル場合ニ非サレハ之ヲ押收シ又ハ破壊スルコトヲ得ス右電線ハ平和克復ニ至リ之ヲ還付シ且之カ賠償ヲ決定スヘキモノトス

第五十五條 占領國ハ敵國ノ屬シ且占領地ニ在ル公共建物、不動産、森林及農場ニ付テハ其ノ管理者及用益權者タルニ過キサルモノナリト考慮シ右財産ノ基本ヲ保護シ且用益權ノ法則ニ依リテ之ヲ管理スヘシ

第五十六條 市區町村ノ財産並國ニ屬スルモノト雖宗教、慈善、教育、技藝及學術ノ用ニ供セラルル開建設物ハ私

員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

有財産ト同様ニ之ヲ取扱フヘシ

右ノ如キ建設物、歴史上ノ記念建造物、技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押收、破壊又ハ毀損スルコトハ總テ禁セラレ且訴追セラルヘキモノトス

陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ關スル條約

(同 上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ陸戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ヲ一層明確ナラシメ且中立領土ニ避退シタル交戰者ノ地位ヲ規定セムコトヲ欲シ又交戰者トノ關係ニ於ケル中立人ノ地位ヲ其ノ全體ニ付テ規定スルコトハ之ヲ後日ニ期待シ茲ニ中立人ノ資格ヲ定メムコトヲ希望シ之カ爲條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委

員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 中立國ノ權利義務

第一條 中立國ノ領土ハ不可侵トス

第二條 交戰者ハ軍隊又ハ彈藥若ハ軍需品ノ輸重ヲシテ中立國ノ領土ヲ通過セシムルコトヲ得ス

第三條 交戰者ハ又左ノ事項ヲ爲スコトヲ得ス

イ 無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於ケル交戰國兵力トノ通信ノ用ニ供スヘキ一切ノ機械ヲ中立國ノ領土ニ設置スルコト

ロ 交戰者カ戰爭前ニ全然軍事上ノ目的ヲ以テ中立國ノ領土ニ設置シタル此ノ種ノ設備ニシテ公衆通信ノ用ニ供セラレサルモノヲ利用スルコト

第四條 交戰者ノ爲中立國ノ領土ニ於テ戰鬪部隊ヲ編成シ又ハ徵募事務所ヲ開設スルコトヲ得ス

第五條 中立國ハ其ノ領土ニ於テ第二條乃至第四條ニ掲ケ

タル一切ノ行爲ヲ寬容スヘカラサルモノトス
中立國ハ其ノ領土ニ於テ行ハレタルモノニ非サレハ中立
違反ノ行爲ヲ處罰スルヲ要セサルモノトス

第六條 中立國ハ交戰者ノ一方ノ勤務ニ服スル爲個人力箇
箇ニ其ノ國境ヲ通過スルノ事實ニ付其ノ責ニ任セス

第七條 中立國ハ交戰者ノ一方又ハ他方ノ爲ニスル兵器彈
藥其ノ他軍隊又ハ艦隊ノ用ニ供シ得ヘキ一切ノ物件ノ輸
出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セサルモノトス

第八條 中立國ハ其ノ所有ニ屬スルト會社又ハ個人ノ所有
ニ屬スルトヲ問ハス交戰者ノ爲ニ電信又ハ電話ノ線條並
無線電信機ヲ使用スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルヲ要セ
サルモノトス

第九條 第七條及第八條ニ規定シタル事項ニ關シ中立國ノ
定ムル一切ノ制限又ハ禁止ハ兩交戰者ニ對シ一樣ニ之ヲ
適用スヘキモノトス

中立國ハ電信若ハ電話ノ線條又ハ無線電信機ノ所有者タ
ル會社又ハ個人ヲシテ右ノ義務ヲ履行セシムル様監視ス

立國ハ之ヲ自由ニ任スヘシ若其ノ領土内ニ滯留スルコト
ヲ寬容スルトキハ之カ居所ヲ指定スルコトヲ得

右規定ハ中立國ノ領土ニ避退スル軍隊ノ引率シタル俘虜
ニ之ヲ適用ス

第十四條 中立國ハ交戰國ノ軍ニ屬スル傷者又ハ病者カ其
ノ領土ヲ通過スルヲ許スコトヲ得但シ之ヲ輸送スル列車
ニハ戰鬪ノ人員及材料ヲ搭載スルコトヲ得サルモノトス
此ノ場合ニ於テハ中立國ハ之カ爲必要ナル保安及監督ノ
處置ヲ執ルヘキモノトス

交戰者ノ一方カ前記條件ノ下ニ中立領土内ニ引率シタル
傷者又ハ病者ニシテ對手交戰者ニ屬スヘキ者ハ再ヒ作戰
動作ニ加ルコトヲ得サル様該中立國ニ於テ之ヲ監守スヘ
シ右中立國ハ自己ニ委ネラレタル他方軍隊ノ傷者又ハ病
者ニ付同一ノ義務ヲ有スルモノトス

第十五條 「ジエネヴア」條約ハ中立領土ニ留置セラレタ
ル病者及傷者ニ之ヲ適用ス

第三章 中立人

第七 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

ヘシ

第十條 中立國カ其ノ中立ノ侵害ヲ防止スル事實ハ兵力ヲ
用キル場合ト雖之ヲ以テ敵對行爲ト認ムルコトヲ得ス

**第二章 中立國內ニ於テ留置スル交戰者
及救護スル傷者**

第十一條 交戰國ノ軍ニ屬スル軍隊カ中立國領土ニ入りタ
ルトキハ該中立國ハ成ルヘク戰地ヨリ隔離シテ之ヲ留置
スヘシ

中立國ハ右軍隊ヲ陣管内ニ監置シ且城寨若ハ特ニ之カ爲
ニ設備シタル場所ニ幽閉スルコトヲ得

許可ナクシテ中立領土ヲ去ラサルノ宣誓ヲ爲サシメテ將
校ニ自由ヲ與フルト否トハ中立國ニ於テ之ヲ決スヘシ

第十二條 特別ノ條約ナキトキハ中立國ハ其ノ留置シタル
人員ニ糧食、被服及人道ニ基ク救助ヲ供與スヘシ
留置ノ爲ニ生シタル費用ハ平和克復ニ至リ償却セラルヘ
シ

第十三條 逃走シタル俘虜カ中立國ニ入りタルトキハ該中

第十六條 戰爭ニ與ラサル國ノ國民ハ中立人トス

第十七條 左ノ場合ニ於テ中立人ハ其ノ中立ヲ主張スルコ
トヲ得ス

イ 交戰者ニ對シ敵對行爲ヲ爲ストキ

ロ 交戰者ノ利益ト爲ルヘキ行爲ヲ爲ストキ殊ニ任意
ニ交戰國ノ一方ノ軍ニ入りテ服務スルトキ

右ノ場合ニ於テ交戰者ニ對シ中立ヲ守ラサリシ中立人ハ
該交戰者ヨリ同一ノ行爲ヲ爲シタル他方交戰國ノ國民ニ
比シ一層嚴ナル取扱ヲ受クルコトナシ

第十八條 左ニ掲クル事項ハ第十七條口號ニ所謂交戰者ノ
一方ノ利益ト爲ルヘキ行爲ト認メス

イ 交戰者ノ一方ニ供給ヲ爲シ又ハ其ノ公債ニ應スル
コト但シ供給者又ハ債主カ他方ノ交戰者ノ領土又
ハ其ノ占領地ニ住居セス且供給品カ此等地方ヨリ
來ラサルモノナルトキニ限ル

ロ 警察又ハ民政ニ關スル勤務ニ服スルコト

第四章 鐵道材料

第十九條 中立國ノ領土ヨリ來リタル鐵道材料ニシテ該中立國又ハ私立會社若ハ個人ニ屬シ及屬スト認ムヘキモノハ必要已ムヲ得サル場合及程度ニ於テスルノ外交戰者ニ於テ之ヲ徵發使用スルコトヲ得ス右材料ハ成ルヘク速ニ本國ニ送還スヘシ

中立國モ亦必要ナル場合ニ於テハ交戰國ノ領土ヨリ來リタル材料ヲ該交戰國カ徵發使用シタル程度以內ニ於テ留置使用スルコトヲ得

右ニ關スル賠償ハ使用シタル材料及使用ノ期間ニ應シテ雙方ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第五章 附 則

第二十條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第二十一條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ
批准書ハ海牙ニ寄託ス
第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第二十二條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得

加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第二十三條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ

後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第二十四條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第二十五條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第二十一條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第二十二條第二項)又ハ廢棄(第二十四條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス
各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百十七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

亞爾然丁國 亞爾然丁共和國ハ第十九條ヲ留保ス
大不列顛國 第十六條、第十七條及第十八條ヲ留保ス

開戰ノ際ニ於ケル敵ノ商船取扱ニ關スル條約

(同上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ戰爭ノ危禍ニ對シ國際商業ノ安全ヲ保障セムト欲シ及近世ノ實例ニ從ヒ開戰前ニ善意ヲ以テ著手シ且履行中ニ在ル取引ヲ爲シ得ル限保護セムト欲シ之カ爲條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 交戦國ノ一方ニ屬スル商船カ開戦ノ際敵港内ニ在ルトキハ該船舶ニ對シ即刻又ハ相當ノ恩惠期間ノ後自由ニ出港シ且通航券ヲ付與セラレタル後其ノ到達港又ハ指定セラレタル他ノ港ニ直航スルヲ許サレムコトヲ希望ス開戦前ニ最後ノ發航港ヲ去リ戰爭ヲ知ラスシテ敵港内ニ入りタル船舶ニ付亦同シ

第二條 不可抗力ニ基ク事情ノ爲前條ニ掲ケタル期間内ニ敵港ヲ去ルト能ハサリシ商船又ハ出港ヲ許サレサリシ商船ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス
交戦者ハ單ニ戰爭後賠償ナクシテ之ヲ還付スルノ義務ヲ負ヒテ該船舶ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ拂ヒテ之ヲ發發スルコトヲ得

第三條 開戦前ニ最後ノ發航港ヲ去リ海上ニ於テ遭遇シタル際戰爭ヲ知ラサリシ敵商船ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス右商船ハ單ニ戰爭後賠償ナクシテ還付スルノ義務ヲ負ヒ

テ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ爲シ且人員ノ安全及船舶書類ノ保管ヲ爲スノ義務ヲ負ヒテ之ヲ發發シ又ハ破壞スルコトヲ得

右船舶ニシテ本國港又ハ中立港ニ寄港シタル後ハ海戰ノ法規慣例ニ依ルモノトス

第四條 第一條及第二條ニ掲ケタル船舶内ニ在ル敵貨ハ又之ヲ抑留シタル上戰爭後賠償ナクシテ還付シ又ハ賠償ヲ爲シテ船舶ト共ニ若ハ船舶ト離シテ之ヲ發發スルコトヲ得

第三條ニ掲ケタル船舶内ニ在ル貨物ニ付亦同シ

第五條 本條約ハ商船ニシテ其ノ構造上軍艦ニ變更セラルヘキモノナルコト明ナルモノニハ之ヲ適用セス

第六條 本條約ノ規定ハ交戦國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第七條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭

國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第八條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第九條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其後ニ批

准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又

ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第十條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ
廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第十一條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第七條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第八條第二項)又ハ廢棄(第十條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス
各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

獨逸國 第三條及第四條第二項ヲ留保ス

露西亞國 本條約第三條及第四條第二項ニ對シテ

表明シ且千九百七年九月二十七日ノ第

七回總會議ノ議事録ニ記入セラレタル

留保ヲ爲ス

商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ

關スル條約

上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ戰

時ニ於テ商船ヲ戰艦ニ編入スル爲之ヲ行ヒ得ヘキ條件ヲ定ムルノ希望スヘキコトヲ考慮シ締約國ハ商船ヲ軍艦ニ變更スルコトハ之ヲ公海ニ於テ行ヒ得ルヤ否ノ問題ニ關シ一致スルコト能ハサリシニ因リ變更ノ場所ハ問題外ト爲シ左記ノ規則中ニ包含セラレサルモノナルコトヲ考慮シ之カ爲條約ヲ締結セムコトヲ希望シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ

(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 軍艦ニ變更セラレタル商船ハ其ノ掲ケタル國旗ノ所屬國ノ直接ノ管轄直接ノ監督及責任ノ下ニ置カルルニ非サレハ軍艦ニ屬スル權利及義務ヲ有スルコトヲ得ス

第二條 軍艦ニ變更セラレタル商船ニハ其ノ國ノ軍艦ノ外部ノ特殊徽章ヲ附スルコトヲ要ス

第三條 指揮官ハ國家ノ勤務ニ服シ且當該官憲ニ依テ正式ニ任命セラレ其ノ氏名ハ艦隊ノ將校名簿中ニ記載セラルヘキモノトス

第四條 乘員ハ軍紀ニ服スヘキモノトス

第五條 軍艦ニ變更セラレタル一切ノ商船ハ其ノ行動ニ付

戰爭ノ法規慣例ヲ遵守スヘキモノトス

第六條 交戦者ニシテ商船ヲ軍艦ニ變更シタルモノハ成ル

ヘク速ニ右變更ヲ其ノ軍艦表中ニ記入スルコトヲ要ス

第七條 本條約ノ規定ハ交戦國カ悉ク本條約ノ當事者ナル

トキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第八條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭

國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シ

タル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告

書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ

以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本

條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場

合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第九條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第十一條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スルモノトス

自動觸發海底水雷ノ敷設ニ關スル條約

(同 上)

第十二條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第八條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第九條第二項)又ハ廢棄(第十一條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス
各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス
千九百十七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證原本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

土耳其國 千九百十七年十月九日ノ第八回總會議ニ於テ爲シタル宣言ヲ留保ス

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ各國民ニ對シテ開放セラレタル海路ノ自由ノ原則ニ鑑ミ現時ノ狀態ニ於テハ自動觸發海底水雷ノ使用ヲ禁止スルコト能ハストスルモ戰爭ノ禍害ヲ輕減シ且戰爭ノ存在ニ拘ラス爲シ得ル限平和的航海ニ對シテ其ノ當然主張シ得ヘキ安全ヲ付與セムカ爲之カ使用ヲ制限シ且之ニ付規定ヲ設クルノ必要ナルコトヲ考慮シ本件ハ之ニ關スル利害關係ニ對シ一切ノ望マシキ保障ヲ與フル様規定スルコトハ之ヲ後日ニ期待シ之カ爲條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ
(委員氏名省略)
因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 左ノ事項ハ之ヲ禁止ス

一 敷設者ノ監理ヲ離レテヨリ長クトモ一時間以内ニ無害ト爲ルノ構造ヲ有スルモノヲ除クノ外無繋維自動觸發水雷ヲ敷設スルコト

二 繋維ヲ離レタル後直ニ無害ト爲ラサル繋維自動觸發水雷ヲ敷設スルコト

三 命中セサル場合ニ無害ト爲ラサル魚形水雷ヲ使用スルコト

第二條 單ニ商業上ノ航海ヲ遮斷スルノ目的ヲ以テ敵ノ沿岸及港ノ前面ニ自動觸發水雷ヲ敷設スルコトヲ禁ス

第三條 繋維自動觸發水雷ヲ使用スルコトキハ平和的航海ヲ安全ナラシムル爲一切ノ爲シ得ヘキ豫防手段ヲ執ルヘシ交戰者ハ爲シ得ル限右水雷ヲシテ一定ノ期間經過後ハ無害タラシムルノ裝置ヲ施スヘキコト及右水雷ニシテ監視セラレサルニ至リタルトキハ軍事ノ必要上差支ナキ限速ニ航海者ニ對スル告示ヲ以テ其ノ危險區域ヲ指示スヘキコトヲ約定ス右告示ハ外交上ノ手續ニ依リ之ヲ各國政府

ニ通告スヘキモノトス

第四條 中立國ニシテ其ノ沿岸ノ前面ニ自動觸發水雷ヲ敷設スルモノハ交戰者ト同一ノ規定ニ遵據シ且同一ノ豫防手段ヲ執ルコトヲ要ス

中立國ハ豫メ告示ヲ以テ自動觸發水雷ヲ敷設セムトスル區域ヲ航海者ニ知ラシムルコトヲ要ス右告示ハ外交上ノ手續ニ依リ至急之ヲ各國政府ニ通知スヘキモノトス

第五條 締約國ハ戰爭終了シタルトキハ各自其ノ敷設シタル水雷ヲ引上クル爲施シ得ヘキ總テノ手段ヲ盡スヘキコトヲ約定ス

交戰國ノ一方カ他ノ交戰國ノ沿岸ニ敷設シタル繋維自動觸發水雷ニ關シテハ之ヲ敷設シタル國ハ其ノ敷設面ヲ他ノ國ニ通告シ各國ハ最短期限内ニ自國ノ水域中ニ在ル敷設水雷ヲ引上クルノ手段ヲ執ルヘシ

第六條 締約國ニシテ未タ本條約ニ規定スルカ如キ完全ナル敷設水雷ヲ有セス從テ現ニ第一條及第三條ニ定メタル規則ニ準據スルコト能ハサルモノハ前記規定ニ適應セシ

ムル爲其ノ水雷材料ヲ速ニ改良スヘキコトヲ約定ス

第七條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第八條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場

合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第九條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得

加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府

ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准

又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スヘキモノトス

第十一條 本條約ハ第一回批准書寄託ノ日以後第六十日ヨリ七年間有效ナルモノトス

本條約ハ廢棄アルニ非サレハ右期間滿了後引續キ效力ヲ有ス

廢棄ハ書面ヲ以テ和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ六月

ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第十二條 締約國ハ自動觸發水雷使用ノ問題カ前條第一項ノ期間滿了ヨリ六月前ニ於テ第三回平和會議ニ由リテ審議決定セラレサリシ場合ニハ右六月前ニ於テ該問題ヲ審議セムコトヲ約定ス

締約國ニ於テ敷設水雷使用ニ關スル新條約ヲ締結スル時ハ本條約ハ其實施ノ時ヨリ之ヲ適用セス

第十三條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第八條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第九條第二項)又ハ廢棄(第十一條第三項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ

第七 一、格條約

第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

獨逸 國 第二條ヲ留保ス

「ドミニカ」共和國 第一條第一號ヲ留保ス

佛蘭西 國 第二條ヲ留保ス

大不列顛 國 左ノ宣言ヲ留保ス

英國全權委員ハ本條約ニ署名スルニ當リ本條約カ或行爲又ハ方法ヲ禁止セサルノ單純ナル事實ハ英國皇帝陛下ノ政府ヨリ前記ノ行爲又

ハ方法ノ當否ヲ爭フノ權利ヲ奪フモノニ非サルコトヲ宣言ス

暹羅 國 第一條第一號ヲ留保ス

土耳其 國 千九百七年十月九日ノ第八回總會

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

ムル爲其ノ水雷材料ヲ速ニ改良スヘキコトヲ約定ス

第七條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第八條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第九條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得

加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府

ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第十二條 締約國ハ自動觸發水雷使用ノ問題カ前條第一項ノ期間滿了ヨリ六月前ニ於テ第三回平和會議ニ由リテ審議決定セラレサリシ場合ニハ右六月前ニ於テ該問題ヲ審議セムコトヲ約定ス

締約國ニ於テ敷設水雷使用ニ關スル新條約ヲ締結スル時ハ本條約ハ其實施ノ時ヨリ之ヲ適用セス

第十三條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第八條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第九條第二項)又ハ廢棄(第十一條第三項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ

第七 一、格條約

ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准書又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日後ニ其ノ效力ヲ生スヘキモノトス

第十一條 本條約ハ第一回批准書寄託ノ日以後第六十日ヨリ七年間有效ナルモノトス

本條約ハ廢棄アルニ非サレハ右期間滿了後引續キ效力ヲ有ス

廢棄ハ書面ヲ以テ和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ六月ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

獨逸 國 第二條ヲ留保ス

「ドミニカ」共和國 第一條第一號ヲ留保ス

佛蘭西 國 第二條ヲ留保ス

大不列顛 國 左ノ宣言ヲ留保ス

英國全權委員ハ本條約ニ署名スルニ當リ本條約カ或行爲又ハ方法ヲ禁止セサルノ單純ナル事實ハ英國皇帝陛下ノ政府ヨリ前記ノ行爲又ハ方法ノ當否ヲ爭フノ權利ヲ奪フモノニ非サルコトヲ宣言ス

暹羅 國 第一條第一號ヲ留保ス

土耳其 國 千九百七年十月九日ノ第八回總會議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

議ノ議事録ニ記入セラレタル宣言ヲ留保ス

戰時海軍力ヲ以テスル砲撃ニ 關スル條約

(同 上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ防
守セラレサル港、都市及村落ヲ海軍力ヲ以テ砲撃スルコト
ニ關シ第一回平和會議ノ表明シタル希望ヲ實行セムト欲シ
爲シ得ル限隨戰ノ法規慣例ニ關スル千八百九十九年ノ規則
ノ主義ヲ海軍力ヲ以テスル砲撃ニ及ホシ以テ住民ノ權利ヲ
保障シ且重要ナル建物ノ保存ヲ確實ニスヘキ一般規定ヲ右
砲撃ニ適用スルノ必要ヲ考慮シ之ニ依リテ人類ノ利益ニ貢
獻シ戰爭ノ慘害ヲ輕減セムトノ希望ヲ體シ之カ爲條約ヲ締
結スルニ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)
因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀
ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 防守セラレサル港、都市、村落、

住宅又ハ建物ノ砲撃

第一條 防守セラレサル港、都市、村落、住宅又ハ建物ハ
海軍力ヲ以テ之ヲ砲撃スルコトヲ禁ス

孰レノ地域ト雖其ノ港前ニ自動觸發海底水雷ヲ敷設シタ
ル事實ノミヲ以テ之ヲ砲撃スルコトヲ得サルモノトス

第二條 右禁止中ニハ軍事上ノ工作物、陸海軍建設物、兵
器又ハ軍用材料ノ貯藏所、敵ノ艦隊又ハ軍隊ノ用ニ供セ
ラルヘキ工場及設備並港内ニ在ル軍艦ヲ包含セサルモノ
トス海軍指揮官ハ相當ノ期間ヲ以テ警告ヲ與ヘタル後地
方官憲ニ於テ右期間内ニ之ヲ破壊スルノ措置ヲ執ラサリ
シ場合ニ於テ全ク他ニ手段ナキトキハ砲撃ニ依リ之ヲ破
壞スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テ右指揮官ハ砲撃ノ爲ニ生スルコトアルヘ
キ故意ニ出テサル損害ニ付何等責任ヲ負フコトナシ

軍事ノ必要上即時ノ行動ヲ要スル爲期間ヲ與フルコトヲ
得サル場合ト雖防守セラレサル都市ノ砲撃ニ關スル禁止
ニ付テハ第一項ノ場合ト同一ナルヘク且指揮官ハ砲撃ノ

爲右都市ニ來スヘキ不便ヲ成ルヘク少ナカラシムル爲一
切ノ相當手段ヲ執ルヘシ

第三條 防守セラレサル港、都市、村落、住宅又ハ建物ハ
地方官憲カ其ノ附近ニ在ル海軍ノ目前ノ需要ヲ充ス爲必
要ナル糧食又ハ軍需品ノ徵發ヲ正式ノ催告ニ依リ命セラ
レタルニ拘ラス之ニ應スルコトヲ拒ミタルトキハ明示ノ
通告ヲ爲シタル後之ヲ砲撃スルコトヲ得

右徵發ハ地方ノ資力ニ相應スルモノタルヘシ徵發ハ必ス
該海軍指揮官ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スヘク且之レニ對シテ
ハ成ルヘク即金ニテ支拂ヒ然ラサレハ領收證ヲ以テ之ヲ
證明スヘシ

第四條 防守セラレサル港、都市、村落、住宅又ハ建物ハ
取立金ヲ支拂ハサルヲ理由トシテ之ヲ砲撃スルコトヲ得
ス

第二章 一般ノ規定

第五條 海軍力ヲ以テ砲撃ヲ爲スニ當リテハ指揮官ハ宗
教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セラルル建物歴史上ノ記

第七 一七條約

念建造物、病院並病者及傷者ノ收容所ハ同時ニ軍事上ノ
目的ニ使用セラレサル限之ヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシ
ムル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス

第六條 軍事ノ必要上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外攻撃海
軍指揮官ハ砲撃ヲ始ムル前其ノ旨官憲ニ通告スル爲施シ
得ヘキ一切ノ手段ヲ盡スヘキモノトス

第七條 都市其ノ他ノ地域ハ突撃ヲ以テ攻取シタル場合ト
雖之ヲ掠奪ニ委スルコトヲ得ス

第三章 附 則

第八條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當事者ナル
トキニ限締約國間ニノミ之ヲ適用ス

第九條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ
批准書ハ海牙ニ寄託ス

二四七

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第十條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十一條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ

對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第十二條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第十三條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第九條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第十條第二項)又ハ廢棄(第十二條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

- 獨逸 國 第一條第二項ヲ留保ス
- 智利 國 八月十七日ノ第四回總會議ニ於テ爲シタル第三條ニ關スル留保ヲ爲ス
- 佛蘭西 國 第一條第二項ヲ留保ス
- 大不列顛 國 第一條第二項ヲ留保ス
- 日本 國 第一條第二項ヲ留保ス

「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約

(同 上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ互ニ其ノ力ノ及フ限戰爭ニ避クヘカラサル禍害ヲ輕減セムコトヲ希望シ此ノ目的ヲ以テ千九百六年七月六日ノ「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用セムト欲シ之ニ關スル千八百九十九年七月二十九日ノ條約ヲ改正スル爲條約ヲ締結スルニ決シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好安當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 軍用病院船即チ傷者、病者及難船者ヲ救護スル唯一ノ目的ヲ以テ國家ニ於テ製造シ又ハ設備スル船舶ニシテ開戰ノ際又ハ戰爭中其ノ使用ニ先チ船名ヲ交戰國ニ通告シタルモノハ戰爭ノ繼續中ニ之ヲ尊重スヘク且捕獲スル

右船舶ハ中立港内ノ滞留ニ關シ亦軍艦ト同一視セララルコトヲ得サルモノトス

第二條 私人又ハ公認セラレタル救恤協會ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部ヲ續裝シタル病院船ニシテ其ノ所屬交戰國カ

之ニ官ノ命令ヲ付シ且開戰ノ際又ハ戰爭中其ノ使用ニ先チ船名ヲ對手國ニ通告シタルモノハ亦均シク尊重セラレ且捕獲ヲ免ルルモノトス

第三條 中立國ノ私人又ハ公認セラレタル協會ノ費用ヲ以テ全部又ハ一部ヲ續裝シタル病院船ニシテ豫メ本國政府

ノ同意ヲ得且交戰國ノ一方ノ許可ヲ得テ該交戰國ノ指揮ノ下ニ立テ開戰ノ際又ハ戰爭中該交戰國ヨリ其ノ使用ニ先チ船名ヲ對手國ニ通告シタルモノハ尊重セラレ且捕獲ヲ免ルルモノトス

第四條 第一條、第二條、第三條ニ掲ケタル船舶ハ國籍ノ

幅約一「メートル」半ノ赤色ノ橫筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

前記ノ諸船舶ニ附屬スル端舟及救護用ニ供セラルヘキ小船ハ前二項ニ準シテ塗色シ以テ之ヲ標識スヘシ

病院船ハ總テ其ノ國旗ト共ニ「ジェネヴァ」條約ニ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ掲ケ又中立國ニ屬スルモノナルトキハ右ノ外指揮ヲ受クル交戰國ノ國旗ヲ大櫓ニ掲ケテ之ヲ標識スヘシ

第四條ノ規定ニ依リ敵ノ爲ニ抑留セラレタル病院船ハ其ノ屬スル交戰國ノ國旗ヲ撤去スヘシ

前記ノ病院船及端舟ニシテ其ノ享有スル尊重ヲ夜間確實ナラシメムト欲スルモノハ其ノ附隨スル交戰者ノ同意ヲ得テ其ノ標識塗色ヲ看易クスル爲ニ必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第六條 第五條ニ定メタル特殊徽章ハ平時ト戰時トヲ問ハス同條ニ掲ケタル船舶ヲ保護シ又ハ標識スル爲ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

如何ヲ問ハス交戰國ノ傷者、病者及難船者ヲ救護扶助スヘシ

各國政府ハ右船舶ヲ何等軍事上ノ目的ニ使用セサルコトヲ約定ス

右船舶ハ決シテ戰鬪者ノ運動ヲ妨碍スヘカラス

右船舶ハ戰鬪中ト戰鬪後トヲ問ハス自己ノ危險ヲ以テ行動スルモノトス

交戰者ハ右船舶ニ對シ監督及臨檢搜索ヲ爲スノ權利ヲ有シ其ノ介助ヲ拒絕シ其ノ離隔ヲ命シ其ノ航行スヘキ方向ヲ指定シ且其ノ船内ニ監督員ヲ乗込マシムルコトヲ得若事情重大ナルカ爲ニ必要ナルトキハ之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ

第五條 軍用病院船ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗り幅約一「メートル」半ノ綠色ノ橫筋ヲ施シテ之ヲ標識スヘシ

第二條及第三條ニ掲ケタル船舶ハ其ノ外部ヲ白色ニ塗り

第七條 軍艦内ニ於ケル戰鬪ノ場合ニ於テハ病室ハ爲シ得ル限之ヲ尊重庇護スヘシ

右病室及其ノ所屬材料ニ付テハ戰爭ノ法規ニ從フ但シ傷者及病者ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉スルコトヲ得ス

病室及其ノ所屬材料ヲ自己ノ權内ニ屬セシメタル指揮官ハ重大ナル軍事上ノ必要アル場合ニ於テハ豫メ病室内ニ在ル傷者及病者ノ安全ヲ確保シタル上之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 病院船及艦内病室カ害敵行爲ノ爲ニ使用セラルルトキハ其ノ保護ヲ失フヘシ

病院船及病室ノ人員カ秩序維持及傷者又ハ病者防護ノ爲ニ武裝シタル事實並船内ニ無線電信ノ設備ヲ有スル事實ハ其ノ保護ヲ喪失スヘキ性質ノモノト認メス

第九條 交戰者ハ中立ノ商船、遊船又ハ端舟ノ船長ニ對シ傷者又ハ病者ヲ船内ニ收容シ且之ヲ看護スルコトニ付其ノ慈惠心ニ訴フルコトヲ得

右ノ依頼ニ應シタル船舶及自ラ進テ傷者、病者又ハ難船者ヲ收容シタル船舶ハ特別ノ保護及一定ノ特典ヲ享有スヘシ該船舶ハ如何ナル場合ニ於テモ右輸送ノ事實アリタルノ故ヲ以テ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ右船舶ニ對スル特別ノ約束アル場合ヲ除クノ外其ノ行ヒタル中立違反ノ行為ノ爲之ヲ捕獲スルコトヲ得ルモノトス

第十條 捕獲セラレタル一切ノ艦船内ニ在リテ救法、醫療及看護ニ従事スル人員ハ不可侵ニシテ俘虜ト爲スコトヲ得ス右人員力艦船ヲ退去スルトキハ其ノ私有ニ屬スル物品及外科用具ヲ携帶ス

右人員ハ必要アル限ハ引續キ其ノ職務ニ従事スヘク總指揮官ニ於テ差支ナシト認ムル時ニ至リ退去スルコトヲ得交戰者ハ其ノ權内ニ歸シタル右人員ニ對シ自國海軍ノ同一階級ノ人員ニ對スルト同額ノ給養及俸給ヲ支給スルコトヲ要ス

第十一條 艦船内ニ在ル陸海軍人及公務上陸海軍ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ國

籍ノ如何ヲ問ハス捕獲者ニ於テ之ヲ尊重シ且看護スヘシ
第十二條 交戰國ノ軍艦ハ船舶ノ國籍如何ヲ問ハス軍用病院船、救恤協會若ハ私人ニ屬スル病院船、商船、遊船又ハ端舟内ニ在ル傷者病者又ハ難船者ノ引渡ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 中立國軍艦ニ於テ傷者病者又ハ難船者ヲ收容シタルトキハ爲シ得ル限右人員ヲシテ再ヒ作戰動作ニ加ルコトヲ得サラシムヘシ

第十四條 交戰國ノ一方ノ難船者、傷者又ハ病者ニシテ他ノ一方ノ權内ニ歸シタル者ハ俘虜タルヘシ之ヲ俘虜ト爲シタル交戰者ハ事情ノ如何ニ依リ或ハ之ヲ抑留シ或ハ之ヲ自國港、中立港又ハ對手國ノ港ニ送致スルコトヲ得此ノ最後ノ場合ニ於テ本國ニ送還セラレタル俘虜ハ戰爭ノ權續中服役スルコトヲ得ス

第十五條 地方官憲ノ承諾ヲ得テ中立港ニ上陸シタル難船者、傷者又ハ病者ハ中立國ト交戰國トノ間ニ反對ノ協定ナキ限再ヒ作戰動作ニ加ルコトヲ得サラシムル機中立國

ニ於テ之ヲ抑留スヘシ

入院及留置ノ費用ハ難船者、傷者又ハ病者ノ所屬國ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

第十六條 各戰國ノ後雙方ノ交戰者ハ軍事上差支ナキ難船者、傷者及病者ヲ搜索シ且掠奪及虐待ニ對シ此等ノ者及死者ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘシ

右交戰者ハ死者ノ土葬、水葬又ハ火葬カ其ノ死體ヲ綿密ニ検査シタル上ニテ行ハルル様監視スヘシ

第十七條 各交戰者ハ死者ニ付發見シタル軍隊ノ認識票又ハ身分ヲ證明スヘキ記號及蒐集シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ成ルヘク速ニ其ノ本國官憲又ハ所屬陸海軍官憲ニ送付スヘシ

交戰者ハ互ニ其ノ權内ニ存スル傷者及病者ノ留置、移動、入院及死亡ニ關シ通報ヲ爲スヘク又捕獲シタル艦船内ニ於テ發見シ又ハ病院ニ於テ死亡シタル傷者若ハ病者ノ遺留シタル一切ノ自用品、有價物、信書等ヲ關係者ニ其ノ本國官憲ヲシテ傳送セシムル爲蒐集スヘシ

第十八條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限縮約國間ニノミ之ヲ適用ス

第十九條 交戰國艦隊ノ總指揮官ハ其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ且本條約ノ綱領ニ準據シテ前諸條ノ執行ニ關スル細目ヲ定メ且規定ナキ場合ニ付處理スヘシ

第二十條 記名國ハ本條約ノ規定ヲ其ノ海軍及特ニ保護セラルル人員ニ教示シ且之ヲ國民ニ知ラシムル爲必要ナル手段ヲ執ルヘシ

第二十一條 記名國ハ又其ノ刑法不備ナル場合ニ於テハ戰時海軍ノ傷者及病者ニ對スル掠奪及虐待ノ個人的行為ヲ禁制シ且本條約ニ依リ保護セラレサル船舶カ第五條ニ定メタル特殊徽章ヲ濫用スルコトヲ軍事徽章ノ濫用トシテ處罰スルニ必要ナル手段ヲ執リ又ハ其ノ立法府ニ之ヲ提案スヘキコトヲ約定ス

記名國ハ遲クトモ本條約批准後五年内ニ和蘭國政府ヲ經テ右禁制ニ關スル規定ヲ互ニ通告スヘシ

第二十二條 交戰國陸海軍ノ間ニ戰爭アル場合ニハ本條約

ノ規定ハ艦船内ニ在ル軍隊ニ限之ヲ適用スルモノトス

第二十三條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ

批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本

條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スルモノトス

第二十四條 記名國ニ非サル諸國ニシテ千九百零六年七月六日ノ「ジエネヴァ」條約ヲ承諾シタルモノハ本條約ニ加盟スルコトヲ得

加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府

政府ハ直ニ通告書ノ認證本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

廢棄ハ其ノ通告書力及和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

第二十八條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第二十三條第三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第二十四條第二項)又ハ廢棄(第二十七條第一項)ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百零七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證本ヲ外交上ノ手續ニ依リ

第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

第七ヘーグ條約

第七ヘーグ條約

第七ヘーグ條約

第七ヘーグ條約

ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第二十五條 本條約ハ正式ニ批准セラレタル上締約國間ノ關係ニ於テ「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル

千八百九十九年七月二十九日ノ條約ニ代ルヘキモノトス

千八百九十九年ノ條約ハ該條約ニ記名シタルモノ本條約ヲ批准セサル諸國間ノ關係ニ於テハ依然效力ヲ有スルモノトス

第二十六條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ

後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府力右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ

其ノ效力ヲ生スルモノトス

第二十七條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國

清 國 第二十一條ヲ留保ス

大不列顛國 第六條、第二十條及左ノ宣言ヲ留保ス

英國全權委員ハ本條約ニ署名スルニ當

リ英國皇帝陛下ノ政府ニ於テハ第十二

條ノ適用ハ海戰中又ハ其ノ後ニ於テ收

容セラレタル戰鬪員ニシテ該海戰ニ參

加シタルモノニ限ルモノト解スルコト

ヲ宣言ス

波斯 國 平和會議ニ於テ承認セラレタル赤十字

ノ代ニ獅子及赤太陽ノ記章ヲ用キルノ

權利ヲ留保ス

土耳其 國 平和會議ニ於テ承認セラレタル赤新月

ヲ用キルノ權利ヲ留保ス

(署名省略)

第七ヘーグ條約

海戰ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約

(同 上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ戰時ニ於テ國際海上關係ニ對スル法ノ衡平ナル適用ヲ過去ニ於ケルヨリモ一層確保スルノ必要ヲ認メ右ノ目的ヲ達スルニハ區區ニ出テタル從來ノ或種ノ慣行ヲ共通利益ノ爲ニ拋棄シ又ハ調和シテ平和的商業及無害的作業ニ對シテ與フヘキ保障ノ狀態ニ置カレ又ハ諸國政府ノ專斷ニ委セラレタル原則ヲ書面ヲ以テスル相互的約定ニ由リ確定スルノ必要ナルコト及現行法ニ抵觸スルコトナクシテ其ノ規定セサル事項ニ關シ今日既ニ若干ノ規則ヲ設ケ得ルコトヲ認メ各左ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一章 郵便信書

第一條 海上ニ於テ中立船又ハ敵船内ニ在ル中立者又ハ交戰者ノ郵便信書ハ其ノ性質ノ公私ヲ問ハス不可侵トス船ノ拿捕アリタルトキハ右信書ハ捕獲者ニ於テ爲シ得ル限速ニ之ヲ發送スヘシ

前項ノ規定ハ封鎖違反ノ場合ニ於テ封鎖港ニ宛テ又ハ封鎖國ヨリ來リタル信書ニ之ヲ適用セス

第二條 郵便信書ノ不可侵ハ之ヲ爲中立郵便船ニ對シ一般中立商船ニ關スル海戰ノ法規慣例ノ適用ヲ免除スルモノニ非ス但シ臨檢搜索ハ成ルヘク寛大且迅速ニ必要アル場合ニ限之ヲ行フコトヲ要ス

第二章 或種ノ船ニ對スル捕獲免除

第三條 専ラ沿海漁業又ハ地方的小航海ニ用キラルル船ハ其ノ漁獵具、船具及搭載物ト共ニ捕獲ヲ免除ス

右免除ハ該船力如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス敵對行爲ニ加ルトキヨリ其ノ適用ナキモノトス

締約國ハ前記ノ船ノ無害ナル性質ヲ利用シ其ノ平和的ナル

觀ヲ存シテ之ヲ軍事上ノ目的ニ使用セサルヘシ

第四條 宗教、學術又ハ博愛ノ任務ヲ帶フル船舶モ亦捕獲ヲ免除セラルルモノトス

第三章 交戰者ノ捕獲シタル敵商船ノ乘員ノ取扱

第五條 交戰者カ敵商船ヲ捕獲シタル場合ニ於テハ中立國民タル船員ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ス中立國民タル船長又職員ニシテ戰爭繼續中敵船ニ於テ勤務セサルコトヲ書面ヲ以テ正式ニ約束スル者亦同シ

第六條 敵國民タル船長、職員及船員ハ戰爭繼續中作戦動作ニ關係ヲ有スル何等ノ勤務ニモ服セサルコトヲ書面ヲ以テ正式ニ誓約シタルトキハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ス

第七條 捕獲ヲ爲シタル交戰者ハ第五條第二項及第六條ニ掲ケタル條件ヲ以テ俘虜ト爲ササリシ者ノ氏名ヲ地方ノ交戰者ニ通告スヘシ後者ハ故意ニ前記ノ者ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 前三條ノ規定ハ敵對行爲ニ加リタル船舶ニ之ヲ適用ス

用セサルモノトス

第四章 附 則

第九條 本條約ノ規定ハ交戰國カ悉ク本條約ノ當時者ナルトキニ限締約國間ニノミ之ヲ適用ス

第十條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ批准書ハ海牙ニ寄託ス

第一回ノ批准書寄託ハ之ニ加リタル諸國ノ代表者及和蘭國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス

爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シタル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告書及批准書ノ認證原本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十一條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ

得

加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其ノ意思ヲ和蘭國政府ニ通告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘシ

和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第十二條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第十三條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアルトキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ
廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノトス

トス

第十四條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第十條第三項及

第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟第十一條第二項又ハ廢棄第十三條第一項ノ通告ヲ接受シタル日ヲ記入スルモノトス

各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコトヲ得

右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス
千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノトス

(署名省略)

海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約

(同上)

獨逸皇帝普魯西國皇帝陛下(以下締約國元首名省略)ハ海戰ノ場合ニ於テ中立國ト交戰國トノ關係ニ付今尙存在スル意見ノ相違ヲ少ナカラシメ且右意見ノ相違ヨリ生スルコトアルヘキ紛争ヲ豫防セムト欲シ實際ニ起リ得ヘキ一切ノ場合ニ適用スヘキ規定ヲ今ヨリ協定シ置クコト能ハスト雖不幸ニシテ戰爭ノ起リタル場合ニ對スル共通ノ規則ヲ爲シ得ル限制制定スルハ争フヘカラサル利益ナルコトヲ考慮シ本條約ニ規定ナキ場合ニハ國際法ノ一般ノ原則ニ依ルヘキモノナルコトヲ考慮シ各國カ其ノ採ルコトアルヘキ中立狀態ノ結果ヲ律スル爲精確ナル規定ヲ設クルノ希望スヘキコトヲ考慮シ中立國カ其ノ採用シタル規則ヲ公平ニ諸交戰者ニ適用スルハ一般ニ認メラレタル該國ノ義務ナルコトヲ考慮シ

第七ヘーグ條約

此ノ趣旨ニ基キ右規則ハ中立國ニ於テ經驗上其權利ヲ擁護スル爲必要ト認メタル場合ヲ除クノ外戰爭中ハ主義トシテ之ヲ變更スヘカラサルコトヲ考慮シ現行ノ一般的諸條約ノ規定ニ何等低觸スルコトナカルヘキ次ノ共通規則ヲ遵守スルコトヲ約シ各左ノ全權委員ヲ任命セリ

(委員氏名省略)

因テ各全權委員ハ其ノ良好妥當ナリト認メラレタル委任狀ヲ寄託シタル後左ノ條項ヲ協定セリ

第一條 交戰者ハ中立國ノ主權ヲ尊重シ且中立國ニ於テ寬容ノ結果其ノ中立違反ヲ構成スルニ至ルヘキ一切ノ行爲ヲ中立領土又ハ領水ニ於テ行フコトヲ避クルコトヲ要ス
第二條 交戰國軍艦カ中立國領水ニ於テ捕獲及臨檢搜索權ノ行使其ノ他一切ノ敵對行爲ヲ行フコトハ中立ノ侵犯ヲ構成スルモノトシ之ヲ嚴禁ス

第三條 船舶カ中立國領水ニ於テ捕獲セラレタル場合ニ於テ該國ハ捕獲セラレタル船舶カ尙其ノ管轄内ニ在ルトキハ其ノ職員及船員ト共ニ之ヲ解放スル爲且捕獲者カ右船

船ニ乘込マシメタル艦員ヲ抑留スル爲施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ盡スコトヲ要ス

右捕獲セラレタル船舶カ既ニ中立國ノ管轄外ニアルトキハ捕獲國政府ハ右中立國ノ要求ニ依リ該船舶ヲ其ノ職員及船員ト共ニ解放スルコトヲ要ス

第四條 交戦者ハ中立領土内又ハ中立領水ニ在ル船舶内ニ捕獲審檢所ヲ設タルコトヲ得ス

第五條 交戦者ハ中立ノ港及領水ヲ以テ敵ニ對スル海軍作戰根據地ト爲スコトヲ得ス殊ニ無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於ケル交戦國兵力トノ通信ノ用ニ供スヘキ一切ノ器械ヲ設置スルコトヲ得ス

第六條 中立國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス交戦國ニ對シ直接又ハ間接ニ軍艦彈藥又ハ一切ノ軍用材料ヲ交付スルコトヲ得ス

第七條 中立國ハ交戦者ノ一方又ハ他方ノ爲ニスル兵器、彈藥其ノ他軍隊又ハ艦隊ノ用ニ供シ得ヘキ一切ノ物件ノ輸出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セサルモノトス

第八條 中立國政府ハ自己ト平和關係ヲ有スル國ニ對シ巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキモノト信スヘキ相當ノ理由アル一切ノ船舶カ其ノ管轄内ニ於テ艦裝又ハ武裝セラルルコトヲ防止スル爲施シ得ヘキ手段ヲ盡スコトヲ要ス中立國政府ハ又巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルヘキ船舶ニシテ其ノ管轄内ニ於テ全部又ハ一部戰爭ノ用途ニ適合セシメタルモノハ總テ其ノ管轄外ニ出發スルコトヲ防止スル爲同様ノ監視ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 中立國ハ其ノ港、泊地又ハ領水ニ交戦國軍艦又ハ其ノ捕獲シタル船舶ヲ入ラシムルコトニ關シテ定メタル條件、制限又ハ禁止ヲ交戦者雙方ニ對シテ均等ニ適用スルコトヲ要ス

中立國ハ其ノ定メタル命令及規則ヲ遵守スルコトヲ怠リ又ハ中立ヲ侵害シタル交戦國艦船ニ對シ其ノ港又ハ泊地ニ入ルヲ禁スルコトヲ得

第十條 交戦國軍艦及其ノ捕獲シタル船舶カ單ニ中立領水ヲ通過スルコトハ其ノ國ノ中立ヲ侵害スルモノニ非ス

第十一條 中立國ハ其ノ公許水先人ヲ交戦國軍艦ニ於テ使用スルニ任スコトヲ得

第十二條 中立國ノ法令中別段ノ規定ナキトキハ交戦國軍艦ハ本條約ニ規定シタル場合ヲ除クノ外二十四時間以上中立國ノ港、泊地又ハ領水ニ碇泊スルコトヲ得ス

第十三條 開戦ノ通知ヲ受ケタル國カ自國ノ港、泊地又ハ領水ニ交戦國軍艦ノ在ルコトヲ知リタルトキハ該國ハ右軍艦ニ對シ二十四時間内又ハ自國法令ニ規定シタル期間内ニ出發スルコトヲ通告スルコトヲ要ス

第十四條 交戦國軍艦ハ破損ノ爲又ハ海上ノ狀態ニ因ル場合ヲ除クノ外法定期間以上中立港内ノ碇泊ヲ延長スルコトヲ得ス右軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出發スヘキモノトス

中立ノ港、泊地及領水ニ於ケル碇泊ノ制限ニ關スル規則ハ專ラ宗教、學術又ハ博愛ノ任務ヲ有スル軍艦ニ之ヲ適用セス

第十五條 中立國ノ法令中別段ノ規定ナキトキハ該國ノ港

又ハ泊地ノ一ニ同時ニ滞在シ得ヘキ各交戦國軍艦ノ數ハ三隻ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 交戦國雙方ノ軍艦カ同時ニ中立國ノ港又ハ泊地ノ一ニ在ルトキハ一方ノ軍艦ノ出發ト他方ノ軍艦ノ出發トノ間ニ少クモ二十四時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス出發ノ順序ハ到着ノ順序ニ依リテ之ヲ定ム但シ最初到着シタル軍艦ニシテ碇泊ノ法定期間ノ延長ヲ許可セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 交戦國軍艦ハ中立ノ港及泊地ニ於テ航海ノ安全ニ缺クヘカラサル程度以上ニ其ノ破損ヲ修理シ且如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス其ノ戰鬥力ヲ増加スルコトヲ得ス中立國官憲ハ實行スヘキ修理ノ範圍ヲ定メ爲シ得ル限速ニ之ヲ行ハシムヘシ

第十八條 交戦國軍艦ハ其ノ軍需品又ハ武裝ヲ更新又ハ増

加スル爲及其ノ艦員ヲ補充スル爲中立ノ港、泊地及領水ヲ使用スルコトヲ得ス

ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非サレハ之ヲ中立港内ニ引致スルコトヲ得ス

第十九條 交戰國軍艦ハ平時ニ於ケル軍需品ノ通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限中立ノ港又ハ泊地ニ於テ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得

右船舶ハ其ノ入港ヲ正當ナラシムルノ事由止ミタルトキハ直ニ出發スヘキモノトス出發セサルトキハ中立國ハ直ニ出發ヲ命スヘク之ニ從ハサルトキハ其ノ職員及船員ト共ニ該船舶ヲ解放シ且捕護者カ船内ニ乗組マシメタル艦員ヲ留置スル爲施シ得ヘキ手段ヲ盡スヘキモノトス

右軍艦ハ又最近本國港ニ達スル爲ニ必要ナル量ニ限燃料ヲ積入ルルコトヲ得中立國カ供給スヘキ燃料額ヲ定ムルニ付軍艦ノ燃料艙ノ全容量ヲ補充スルノ制ヲ採レル場合ニ於テハ交戰國軍艦ハ該中立國ニ在リテハ前記ノ量ヲ補充スルニ必要ナル燃料ヲ積入ルルコトヲ得

第二十二條 中立國ハ又捕獲セラレタル船舶ニシテ第二十一條ニ規定シタル條件ニ依ラスシテ引致セラレタルモノヲ解放スルコトヲ要ス

中立國ノ法規ニ依リ軍艦カ其ノ到着ヨリ二十四時間ノ後ニ非サレハ石炭ノ供給ヲ受クルヲ得サルトキハ法定ノ碇泊期間ヲ二十四時間延長スルモノトス

第二十三條 捕獲セラレタル船舶カ捕獲審檢所ノ檢定アル迄之ヲ拘置スル爲引致セラレタル場合ニ於テハ中立國ハ其ノ護送セラルルト否トヲ問ハス之カ自國ノ港又ハ泊地ニ入ルヲ許スコトヲ得該中立國ハ右船舶ヲ自國ノ他ノ港ニ移サシムルコトヲ得ヘシ

第二十條 交戰國軍艦ニシテ中立國ノ港ニ於テ燃料ヲ積入レタルモノハ三月ヲ經過スルニ非サレハ同一中立國ノ港ニ於テ再ヒ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得ス

捕獲セラレタル船舶カ軍艦ニ由リ護送セラレタルトキハ捕獲者カ該船ニ乗組マシメタル將校其ノ他ノ艦員ハ護送

第二十一條 捕獲シタル船舶ハ航海ノ不能、海上ノ險惡又

捕獲者カ該船ニ乗組マシメタル將校其ノ他ノ艦員ハ護送

艦ニ轉乘スルコトヲ許サルヘシ

第二十五條 中立國ハ其ノ港、泊地及領水ニ於テ前記規定

捕獲セラレタル船舶カ單獨ニ航行シ來ルトキハ捕獲者カ之ニ乗組マシメタル艦員ハ自由ニ任スヘシ

ニ對スル一切ノ違反ヲ防止セムカ爲施シ得ヘキ手段ニ依ル監視ヲ行フコトヲ要ス

第二十四條 交戰國軍艦ニシテ中立官憲ノ通告アルニ拘ラヌ滯留スルノ權利ヲ有セサル港ヲ去ラサルトキハ中立國ハ該軍艦ヲシテ戰爭ノ繼續中出航スルコト能ハサラシムル爲必要ト認ムル手段ヲ執ルコトヲ得該軍艦ノ艦長ハ右手段ノ實行ヲ容易ナラシムルコトヲ要ス

第二十六條 中立國カ本條約ニ規定スル權利ヲ實行スルコトハ之ニ關スル條項ヲ承認シタル交戰者ノ一方又ハ他方ニ於テ友誼ニ戻リタル行爲ト認ムルコトヲ得サルモノトス

交戰國軍艦中立國ノ爲ニ抑留セラルルトキハ將校其ノ他ノ艦員モ亦均シク抑留セラルヘシ

第二十七條 各締約國ハ其ノ港及領水ニ於ケル交戰國軍艦ノ取扱ヲ定メタル一切ノ法令其ノ他ノ規定ヲ適當ナル時期ニ於テ相互ニ通知スヘク之カ爲當該國ヨリ和蘭國政府ニ通告ヲ爲シ同國政府ヨリ直ニ他ノ締約國ニ移牒スルモノトス

右抑留セラレタル將校其ノ他ノ艦員ハ之ヲ該軍艦内ニ留メ又ハ他ノ船舶内若ハ陸上ニ宿泊セシムルコトヲ得ヘク且之ヲシテ必要ナリト認ムル制限的規律ニ服セシムルコトヲ得ルモノトス但シ軍艦ノ保存上必要ナル人員ヲ常ニ艦内ニ殘シ置クコトヲ要ス

第二十八條 本條約ノ規定ハ交戰者カ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限締約國間ニノミ之ヲ適用ス

將校ハ許可ナクシテ該中立領土ヲ去ラサル旨宣誓セシメタル上之ニ自由ヲ與フルコトヲ得

第二十九條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准スヘシ批准書ハ海牙ニ寄託ス

國外務大臣ノ署名シタル調書ヲ以テ之ヲ證ス
爾後ノ批准書寄託ハ和蘭國政府ニ宛テ且批准書ヲ添附シ
タル通告書ヲ以テ之ヲ爲ス

第一回ノ批准書寄託ニ關スル調書、前項ニ掲ケタル通告
書及批准書ノ認證謄本ハ和蘭國政府ヨリ外交上ノ手續ヲ
以テ直ニ之ヲ第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國及本
條約ニ加盟スル他ノ諸國ニ交付スヘシ前項ニ掲ケタル場
合ニ於テハ和蘭國政府ハ同時ニ通告書ヲ接受シタル日ヲ
通知スルモノトス

第三十條 記名國ニ非サル諸國ハ本條約ニ加盟スルコトヲ
得加盟セムト欲スル國ハ書面ヲ以テ其意思ヲ和蘭國ニ通
告シ且加盟書ヲ送付シ之ヲ和蘭國政府ノ文庫ニ寄託スヘ
シ
和蘭國政府ハ直ニ通告書及加盟書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸
國ニ送付シ且右通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ

第三十一條 本條約ハ第一回ノ批准書寄託ニ加リタル諸國
ニ對シテハ其ノ寄託ノ調書ノ日附ヨリ六十日ノ後又其ノ

後ニ批准シ又ハ加盟スル諸國ニ對シテハ和蘭國政府カ右
批准又ハ加盟ノ通告ヲ接受シタルトキヨリ六十日ノ後ニ
其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三十二條 締約國中本條約ヲ廢棄セムト欲スルモノアル
トキハ書面ヲ以テ其ノ旨和蘭國政府ニ通告スヘシ和蘭國
政府ハ直ニ通告書ノ認證謄本ヲ爾餘ノ諸國ニ送付シ且右
通告書ヲ接受シタル日ヲ通知スヘシ
廢棄ハ其ノ通告カ和蘭國政府ニ到達シタルトキヨリ一年
ノ後右通告ヲ爲シタル國ニ對シテノミ效力ヲ生スルモノ
トス

第三十三條 和蘭國外務省ハ帳簿ヲ備ヘ置キ第二十九條第
三項及第四項ニ依リ爲シタル批准書寄託ノ日並加盟(第
三十條第二項)又ハ廢棄(第三十二條第一項)ノ通告ヲ
接受シタル日ヲ記入スルモノトス
各締約國ハ右帳簿ヲ閱覽シ且其ノ認證抄本ヲ請求スルコ
トヲ得
右證據トシテ各全權委員本條約ニ署名ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭
國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ外交上ノ手續ニ依リ
第二回平和會議ニ招請セラレタル諸國ニ交付スヘキモノト
ス

第二回萬國平和會議最終決議書

千九百七年(明治四十年)
十月十八日海牙ニ於テ調印
千九百十二年(明治四十五年)
一月十三日告 示

(署名省略)

獨逸 國 第十一條、第十二條、第十三條及
第二十條ヲ留保ス

「ドミニカ」共和國 第十二條ヲ留保ス
大不列顛國 第十九條及第二十三條ヲ留保ス

日本 國 第十九條及第二十三條ヲ留保ス
波斯 國 第十二條、第十九條及第二十一條
ヲ留保ス

暹羅 國 第十二條、第十九條及第二十三條
ヲ留保ス

土耳其 國 千九百七年十月九日ノ第八回總會
議事録ニ記入セラレタル第十條
ニ關スル宣言ヲ留保ス

第二回萬國平和會議ハ亞米利加合衆國大統領ノ提議ニ係リ
全露西亞國皇帝陛下ノ招請ニ基キ和蘭國皇帝陛下ニ依リテ
召集セラレ千八百九十九年第一回會議ノ事業ノ基礎タリシ
博愛主義ヲ一層伸張セムカ爲千九百七年六月十五日ヲ以テ
海牙「シエヴァリエー」館ニ開會セリ
左ニ列記スル諸國ハ本會議ニ賛同シ各左ノ委員ヲ任命セリ
(委員氏名省略)

本會議ハ千九百七年六月十五日ヨリ十月十八日ニ互リテ會
議ヲ重ネ其ノ間終始前記ノ委員ハ至尊ナル本會議發議者ノ
仁慈ナル趣旨ト各本國政府ノ志望トヲ成ルヘク廣キ範圍ニ
於テ實現セシムルノ希望ヲ有シ全權委員ノ署名ヲ求ムル爲

本決議書ニ附屬スル左記ノ諸條約及宣言ヲ議定セリ

第一 國際紛争平和的處理條約

第二 契約上ノ債務回收ノ爲ニスル兵力使用ノ制限ニ關スル條約

ニ關スル條約

第三 開戦ニ關スル條約

第四 陸戦ノ法規慣例ニ關スル條約

第五 陸戦ノ場合ニ於ケル中立國及中立國人ノ權利義務ニ關スル條約

義務ニ關スル條約

第六 開戦ノ際ニ於ケル敵ノ商船取扱ニ關スル條約

第七 商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ關スル條約

第八 自動觸發海底水雷ノ敷設ニ關スル條約

第九 戰時海軍力ヲ以テスル砲撃ニ關スル條約

第十 「ジエネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ應用スル條約

條約

第十一 海戦ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約

第十二 國際捕獲審檢所設立ニ關スル條約

第十三 海戦ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約

ル條約

第十四 輕氣球上ヨリ投射物及爆裂物ノ投下ヲ禁止スルコトニ關スル宣言

ルコトニ關スル宣言

右諸條約及宣言ハ各別ノ文書ヲ成シ之ニ本日ノ日附ヲ附シ第二回平和會議ニ賛同シタル諸國ノ全權委員ハ海牙ニ於テ千九百八年六月三十日迄ニ之ニ署名スルコトヲ得ルモノトス

本會議ハ其ノ討論ノ精神タル和協及交讓ノ精神ニ基キ左ノ宣言ヲ決定シ各贊同國ニ其ノ投票ノ自由ヲ留保スルト同時ニ各贊同國ヲシテ其ノ一致承認セラレタリト思惟スル原則ヲ確認シ得セシム

本會議ハ次ノ事項ニ付一致セリ

一 義務的仲裁裁判ノ原則ヲ承認スルコト

二 或種ノ紛争殊ニ國際條約ノ規定ノ解釋及適用ニ關スルモノハ何等ノ制限ナク義務的仲裁裁判ニ付シ得ルコトヲ宣言スルコト

本會議ハ今回右ノ趣旨ヲ以テ條約ヲ締結スルニ至ラザリシ

ト雖發表セラレタル意見ノ相違ハ單ニ法律上ノ論争ニ止マリタルコト及列國ハ四月間會合協議シタルカ爲ニ相互ニ意思ヲ了解シテ益相接近シタルノミナラス此ノ長期ノ協力中ニ於テ人類ノ共同利益ニ關スル最高尙ナル感情ヲ表出シ得タルコトヲ宣言スルニ一致セリ

本會議ハ又全會一致ヲ以テ左ノ決議ヲ採用セリ

第二回平和會議ハ軍事上ノ負擔ノ制限ニ關シ千八百九十九年ノ會議カ採用シタル決議ヲ確認シ且軍事上ノ負擔ハ同年以降殆總テノ國ニ於テ著シク増加シタルコトニ鑑ミ列國政府ニ於テ誠意ニ本問題ノ攻究ヲ重ネラレムコトヲ切ニ希望スル旨ヲ宣言ス

本會議ハ右ノ外左ノ希望ヲ表明セリ

一 本會議ハ記名諸國ニ對シ本書ニ附屬スル仲裁司法裁判所設立ニ關スル條約案ヲ採用シ且判事ノ選任及裁判所ノ構成ニ付合意アリタル上ハ直ニ之ヲ實施セムコトヲ懇願ス

二 本會議ハ戰時ニ際シ當該文武官憲ニ於テ交戰國人

第七 「ハーグ」條約

民ト中立國トノ間ニ平和的關係殊ニ商工業關係ノ維持ヲ確保シ且之ヲ保護スルコトヲ以テ自己ノ特別ナル義務ト爲サムコトヲ希望ス

三 本會議ハ列國カ特別ノ條約ヲ以テ軍事上ノ負擔ニ關シ其ノ領土ニ居住スル外國人ノ地位ヲ規定セムコトヲ希望ス

四 本會議ハ海戦ノ法規慣例ニ關スル規則ノ制定カ次回ノ會議ノ議題中ニ掲ケラレムコト及如何ナル場合ニ於テモ列國ハ陸戦ノ法規慣例ニ關スル條約ノ原則ヲ爲シ得ル限海戦ニ應用セムコトヲ希望ス

終ニ本會議ハ前回ノ會議ヨリ本會議迄ニ經過シタルト同様ノ期間ニ於テ列國間ノ合意ヲ以テ定ムヘキ期日ニ第三回平和會議ヲ開催セムコトヲ列國ニ懇願シ且其ノ議事ヲシテ必要ナル威信ト速度トヲ以テ進行セシムカ爲豫メ充分ナル期間右第三回會議ノ事業ヲ準備スルノ必要アルコトニ付列國ノ注意ヲ促ス

本會議ハ右ノ目的ヲ達スル爲列國政府ニ於テ開催ノ豫定期

ヨリ約二年前ニ準備委員會ヲ設ケテ會議ニ付スヘキ各種ノ
提議ヲ蒐集シ次回ノ國際規定ト爲シ得ヘキ事項ヲ攻究シ且
各國力精細ノ研究ヲ爲シ得ル爲速ニ諸國政府ニ於テ決定ス
ヘキ議事目錄ノ準備セシムルヲ極メテ望マシキコトト思惟
ス右委員會ハ尙會議ノ組織及手續ニ關スル方法ヲ提議スヘ
キモノトス

右證據トシテ各全權委員本決議書ニ署名調印ス

千九百七年十月十八日海牙ニ於テ本書一通ヲ作り之ヲ和蘭
國政府ノ文庫ニ寄託シ其ノ認證謄本ヲ會議ニ贊同シタル諸
國ニ交付スルモノトス

(署名省略)

瑞 西 國 瑞西聯邦政府ニ於テ承認セサル第一號

ノ希望ヲ留保ス

第八 赤十字條約

戰地軍隊ニ於ケル傷者及病者 ノ狀態改善ニ關スル條約

千九百二十九年(昭和四年)	七月二十七日	「ジュネーヴ」ニテ署名
千九百三十四年(昭和九年)	十月二十六日	批 准
同	年(同)	年
十二月十八日	批 准	書 寄 託
千九百三十五年(昭和十年)	三月七日	日 公 布

獨逸國大統領(以下締約國元首名略)ハ

共ニ其ノ力ノ及フ限り戰爭ニ避クヘカラサル慘害ヲ輕減セ
ンコトヲ冀望シ此ノ目的ヲ以テ戰地軍隊ニ於ケル傷者及病
者ノ狀態改善ニ關シ千八百六十四年八月二十二日及千九百
六年七月六日「ジュネーヴ」ニ於テ約定シタル規定ヲ完成
補修セント欲シ

第八 赤十字條約

之カ爲新條約ヲ締結スルコトニ決定シ各左ノ全權委員ヲ任
命セリ

(全權委員名略)

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナ
ルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

第一章 傷者及病者

第一條 軍人及公ニ軍隊ニ附屬スル其ノ他ノ人員ニシテ負
傷シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ如何ナル場合ニ於テモ尊
重且保護セラルヘシ右ノ軍人及人員ハ國籍ノ如何ヲ問ハ
ス之ヲ自己ノ權内ニ收容シタル交戦者ニ依リ博愛ノ心ヲ
以テ待遇セラレ且看護セラルヘシ
尤モ傷者又ハ病者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得サルニ至リ
タル交戦者ハ軍事上ノ要求ノ許ス限り其ノ看護ニ寄與ス
ル爲其ノ衛生人員及衛生材料ノ一部ヲ傷者病者ト共ニ遺

留スヘシ

第二條 一方ノ軍隊ノ傷者及病者ニシテ他方ノ交戦者ノ捕内ニ陥リタルモノハ前條ニ依リテ看護ヲ享クルノ外俘虜ト爲リ俘虜ニ關スル國際法ノ一般規則ヲ適用セラルヘシ尤モ交戦者ハ傷者又ハ病者タル俘虜ノ爲ニ且現存ノ義務以外ニ其ノ有益ト認ムル條項ヲ定ムルコトヲ得ヘシ

第三條 各戰鬪後戰場ノ占領者ハ傷者及死者ヲ搜索シ且掠奪及虐待ニ對シ之ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘシ

戰線間ニ殘留スル傷者ヲ收容スルコトヲ得シムル爲事情ノ許ストキハ其ノ都度局地的休戰又ハ射撃中止ヲ協定スヘシ

第四條 交戦者ハ收容又ハ發見セラレタル傷者、病者及死者ノ姓名並ニ之ヲ認識スルニ足ル一切ノ資料ヲ成ルヘク速ニ相互ニ通知スヘシ

交戦者ハ死亡證明書ヲ作成シ且交換スヘシ
交戦者ハ又戰場ニ於テ又ハ死者ヨリ發見セラレタル一切ノ個人的用品特ニ認識票ノ半分(他ノ半分ハ屍體ニ附ケ

置カルヘキモノトス)ヲ蒐集シ且交換スヘシ

交戦者ハ死者ノ土葬又ハ火葬ニ先チ死亡ヲ確認シ死者ヲ認識シ且之カ報告ヲ爲シ得ル爲慎重ナル且出來得レハ醫學的ノ身體検査ノ行ルル様注意スヘシ

交戦者ハ尙死者カ敬意ヲ以テ埋葬セラレ、其ノ墳墓カ尊敬セラレ且常ニ見出サレ得ル様注意スヘシ

交戦者ハ之カ爲戰爭開始ニ際シ墳墓ノ場所ノ移轉如何ニ拘ラス後日爲スコトアルヘキ屍體發掘ヲ可能ナラシメ且屍體ヲ認識シ得シムル目的ヲ以テ墳墓係ヲ公ニ組織スヘシ

交戦者ハ戰爭ノ終リタルトキハ直ニ墳墓表並ニ其ノ墓地及他ノ場所ニ埋葬セラレタル死者ノ表ヲ交換スヘシ

第五條 軍事官憲ハ其ノ監督ノ下ニ兩軍ノ傷者又ハ病者ヲ收容看護セシムル爲住民ノ慈惠心ニ訴フルコトヲ得ヘク之ニ應シタル者ニハ特別ノ保護及一定ノ便宜ヲ與フルモノトス

第二章 衛生上ノ部隊及營造物

第六條 移動衛生部隊即チ戰地軍隊ニ隨伴スヘキモノ及衛生機關ノ固定營造物ハ交戦者ニ於テ之ヲ尊重保護スヘシ

第七條 衛生上ノ部隊及營造物カ害敵行爲ノ爲ニ使用セラルトキハ其ノ保護ヲ失フヘシ

第八條 左記ノ事實ハ衛生上ノ部隊又ハ營造物カ第六條ニ依リ保障セラレタル保護ヲ喪失スヘキ性質ノモノト看做サレサルヘシ

(1) 部隊又ハ營造物ノ人員カ武装シ其ノ武器ヲ自己又ハ傷者及病者ノ防衛ノ爲ニ使用スルノ事實

(2) 武装看護人ノ在ラサルニ當リ歩哨又ハ衛兵ヲシテ部隊又ハ營造物ヲ守衛セシムルノ事實

(3) 傷者及病者ヨリ取上ケタルモ未タ所轄機關ニ引渡サレサル携帶武器及彈藥カ部隊又ハ營造物内ニ發見セラレタルノ事實

(4) 獸醫機關ノ人員及材料カ部隊又ハ營造物ノ一部分ヲ構成セスシテ其ノ内ニ在ルノ事實

第三章 人員

第八 赤十字條約

第九條 傷者及病者ノ收容、輸送及治療並ニ衛生上ノ部隊及營造物ノ事務ニ專ラ從事スル人員並ニ軍隊附屬ノ教法者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重且保護セラルヘシ此等ノ者ハ敵手ニ陥リタルトキト雖モ俘虜トシテ取扱ハルルコトナカルヘシ

軍人ニシテ場合ニ依リ補助看護人又ハ補助擔架兵トシテ傷者及病者ノ收容、輸送及治療ニ使用セラルル爲特別ニ教育セラレ且認識證明書ヲ携帶スルモノハ此等ノ職務ノ遂行中捕ヘラレタルトキハ常置衛生人員ト同一ノ制度ノ利益ヲ享有スヘシ

第十條 本國政府カ適法ニ認可シタル篤志救恤協會ノ人員ニシテ第九條第一項ニ掲ケタル人員ト同一ノ職務ニ使用セラルルモノハ該項ニ掲ケタル人員ト同一ニ看做サルヘシ但シ該協會ノ人員ハ軍ノ法令ニ服従スヘキモノトス各締約國ハ其ノ責任ノ下ニ自國軍隊ノ公ノ衛生勤務ニ援助ヲ與フルコトヲ許可シタル協會ノ名稱ヲ平時ヨリ又ハ戰爭開始ノ際若ハ戰爭中何レノ場合ニモ之ヲ實際ニ使用

スルニ先チ他ノ締約國ニ通告スヘシ

第十一條 中立國ニ於テ認可セラレタル協會ハ豫メ自國政

府ノ承認ヲ得且交戦者ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ人員及衛生部隊ヲシテ當該交戦者ニ援助ヲ與ヘシムルコトヲ得サルヘシ

右救護ヲ承諾シタル交戦者ハ其ノ使用ニ先チ之ヲ敵ニ通告スヘシ

第十二條 第九條、第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ハ相

手方ノ權内ニ陥リタル後抑留セラルルヲ得サルヘシ
反對ノ合意ナキ限り右人員ハ歸路開通シ且軍事上ノ要求カ之ヲ許スニ至リタルトキハ直ニ其ノ屬スル交戦者ニ送還セラルヘシ

右人員ハ送還セラルル迄相手方ノ指揮ノ下ニ在リテ引續キ各自ノ職務ヲ執行スヘシ右人員ハ成ルヘク其ノ屬スル交戦者ノ傷者及病者ノ看護ニ從事セシメラルヘシ
右人員ハ其ノ出發ニ際シ其ノ所有スル被服、器具、武器及輸送機關ヲ持去ルヘシ

造物内ニ於テ治療セラルル傷者及病者ノ安全ヲ圖リタル後之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ

第十六條 本條約ノ利益ヲ享有スル救恤協會ノ建物ハ私有財産ト看做サルヘシ

右協會ノ材料ハ其ノ所在ノ如何ヲ問ハス同様ニ私有財産ト看做サルヘシ

戰爭ノ法規慣例ニ依リ交戦者ニ認メラレタル徵發權ハ緊急ナル必要アル場合ニ於テ且傷者及病者ノ安全ヲ圖リタル後ニ於テノミ行使セラルヘシ

第五章 衛生上ノ輸送機關

第十七條 衛生上ノ後送ノ爲裝備セラレタル車輛ニシテ單獨ニ又ハ隊ヲ爲シテ移動スルモノハ左ノ特別規定ニ依ルノ外移動衛生部隊トシテ取扱ハルヘシ

單獨ノ又ハ隊ヲ爲セル衛生上ノ輸送車輛ヲ遮斷スル交戦者ハ軍事上ノ必要アルトキハ一切ノ場合ニ於テ該車輛ノ收容シタル傷者又ハ病者ヲ引取りタル後之ヲ停止シ隊ヲ解クコトヲ得ヘシ交戦者ハ該車輛カ遮斷セラレタル戰區

第十三條 交戦者ハ第九條、第十條及第十一條ニ掲ケタル人員カ其ノ權内ニ在ル間自國軍隊ノ對當人員ニ對スルト同一ノ給養、宿舍、手當及給與ヲ之ニ支給スヘシ
交戦者ハ戰爭開始後直ニ其ノ衛生人員ノ階級ノ對當關係ニ付協定スヘシ

第四章 建物及材料

第十四條 移動衛生部隊ハ其ノ何タルヲ問ハス相手方ノ權内ニ陥ルトキト雖モ其ノ材料、輸送機關及輸送係員ヲ保有スヘシ

尤モ權限アル軍事官憲ハ傷者及病者看護ノ爲該材料、輸送機關及輸送係員ヲ使用スルノ權能ヲ有スヘク其ノ返還ハ衛生人員ノ爲ニ定メラレタル條件ニ於テ且成ルヘク之ト同時ニ爲サルヘシ

第十五條 軍隊ノ衛生上ノ固定營造物ノ建物及材料ハ戰爭ノ法規ニ從フヘシ然レトモ傷者及病者ノ爲ニ必要ナル間ハ其ノ用途ヲ他ニ轉スルコトヲ得サルヘシ尤モ作戰部隊ノ指揮官ハ緊急ナル軍事上ノ必要アルトキハ豫メ固定營

ニ於テ且衛生上ノ必要ノ爲ニ之ヲ利用スルコトヲ得ヘシ該車輛ハ其ノ局地的任務ノ終了シタルトキハ第十四條ニ規定セラレタル條件ニ於テ返還セラルヘシ

輸送ニ任シ且之カ爲正規ノ命令書ヲ携帯スル軍人軍屬ハ衛生人員ニ付第十二條ニ規定セラレタル條件ニ於テ且第十八條末項ノ留保ノ下ニ送還セラルヘシ

後送ノ爲ニ特ニ組織セラレタル一切ノ輸送機關及右輸送機關ノ裝備材料ニシテ衛生機關ニ屬スルモノハ第四章ノ規定ニ從ヒ返還セラルヘシ

衛生機關ニ屬セサル軍隊ノ輸送機關ハ其ノ緊要ト共ニ之ヲ捕獲スルコトヲ得ヘシ
徵發ニ由レル普通人及一切ノ輸送機關ハ國際法ノ一般規則ニ從フヘシ

第十八條 衛生上ノ輸送機關トシテ使用セラルル航空機ハ專ラ傷者及病者ノ後送並ニ衛生人員及衛生材料ノ輸送ニ充テラルル間本條約ノ保護ヲ享有スヘシ

右航空機ハ白色ニ塗ラルヘク且下面及上面ニ國色章ノ傍

ニ第十九條ニ規定セラレタル殊別記章ヲ明瞭ニ附セラルヘシ

特別ノ且明白ナル許可アル場合ヲ除キ戰線及野戰病院ノ前方ニ存スル地帯並ニ一般ニ敵ノ一切ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル一切ノ領域ノ上ノ飛行ハ禁止セラルヘシ

衛生航空機ハ著陸ノ要求アルトキハ必ス之ニ從フコトヲ要ス

敵ノ領域又ハ敵ニ依リ占領セラレタル領域上ニ於ケル右強制的ノ又ハ偶然ノ著陸ノ場合ニハ傷者及病者並ニ衛生人員及衛生材料(航空機ヲ含ム)ハ引續キ本條約ノ規定ノ利益ヲ享有スヘシ

捕ヘラレタル操縦者、運航従事者及無線電信技術者ハ戰爭ノ終了スル迄衛生勤務ニノミ使用セララルコトヲ條件トシテ送還セラルヘシ

第六章 殊別記章

第十九條 瑞西國ニ對シ敬意ヲ表スル爲該聯邦國旗ノ著色

如何ナル場合ニ於テモ衛生人員ハ其ノ徽章又ハ固有ノ認識證明書ヲ奪ハラルコトヲ得サルヘシ
紛失ノ場合ニハ右人員ハ其ノ複本ヲ取得スルノ權利ヲ有スヘシ

第二十二條 本條約ノ殊別旗ハ本條約ニ依リテ尊重セララル衛生上ノ部隊及營造物ニシテ軍事官憲ノ認許ヲ受ケタルモノニ非サレハ之ヲ掲揚スルコトヲ得サルヘシ
固定營造物ニ於テハ右殊別旗ト共ニ該營造物ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ要スヘク移動部隊ニ於テハ該部隊ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ之ト共ニ掲揚スルコトヲ得ヘシ
尤モ敵ノ權内ニ陥リタル衛生部隊ハ右權内ニ在ル限り本條約ノ殊別旗ノミヲ掲揚スヘシ

交戦者ハ一切ノ攻撃的行動ノ可能性ヲ除去スル目的ヲ以テ衛生上ノ部隊及營造物ヲ表示スル殊別標章ヲ陸上、空中及海上ノ敵軍ニ明瞭ニ認識セシムル爲必要ナル措置ヲ軍事上ノ要求ノ許ス限リ執ルヘシ

第二十三條 第十一條ニ規定シタル條件ニ於テ其ノ役務ヲ

ヲ顛倒シテ作成シタル白地赤十字ノ紋章ハ軍隊ノ衛生勤務ノ標章及殊別記章トシテ維持セラルヘシ

尤モ赤十字ノ代リニ白地ニ赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽ヲ殊別記章トシテ既ニ使用スル諸國ニ付テハ右標章ハ本條約ノ意義ニ於テ同様ニ許容セラルヘシ

第二十條 標章ハ權限アル軍事官憲ノ認許ヲ得テ衛生勤務ニ關係アル旗、臂章及一切ノ材料ニ表出セラルヘシ

第二十一條 第九條第一項、第十條及第十一條ニ依リ保護セララル人員ハ軍事官憲ヨリ交付シ且其ノ印章ヲ捺シタル殊別記章ヲ附セル臂章ヲ左腕ニ裝著シ置クヘシ

第九條第一項及第二項ニ掲ケタル人員ハ軍隊手牒ヘノ記入又ハ特別ノ書類ヨリ成ル認識證明書ヲ付與セラルヘシ
權限アル軍事官憲ハ第十條及第十一條ニ掲ケタル人員ニシテ軍服ヲ有セサルモノヲシテ其ノ衛生人員タルノ資格ヲ證明スル寫眞附認識證明書ヲ所持セシムヘシ
認識證明書ハ各軍ニ於テ劃一的ニシテ且同一型ノモノタルヘシ

提供スルノ許可ヲ得タル中立國ノ衛生部隊ハ本條約ノ殊別旗ト共ニ其ノ屬スル交戦者ノ國旗ヲ掲揚スルコトヲ要ス

右部隊ハ交戦者ニ役務ヲ提供スル限り同様ニ其ノ自國國旗ヲ掲揚スルノ權利ヲ有スヘシ

前條第二項ノ規定ハ右部隊ニ適用セラルヘシ

第二十四條 白地赤十字ノ標章及赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ語ハ平時ト戰時ト間ハ本條約ニ依リテ保護セラルル衛生上ノ部隊及營造物並ニ人員及材料ヲ保護シ又ハ表示スル爲ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得サルヘシ
第十九條第二項ニ掲ケル標章ニ關シ之ヲ使用スル諸國ニ對シテ亦同様ナルヘシ

尙第十條ニ掲ケル篤志救恤協會ハ平時ニ於ケル博愛事業ノ爲殊別標章ヲ國內法令ニ從ヒ使用スルコトヲ得ヘシ
特例トシテ且國ノ赤十字(赤新月又ハ赤ノ獅子及太陽)社ノ一ノ明白ナル許可ヲ得タルトキハ傷者又ハ病者ノ無料看護ニ專ラ充テラルル救恤所ノ場所ヲ指示スル爲平時

ニ於テ本條約ノ標章ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第七章 條約ノ適用及執行

第二十五條 本條約ノ規定ハ如何ナル場合ニ於テモ締約國ニ依リ尊重セラルヘシ

戰時ニ於テ交戰者ノ一カ條約ノ當事者タラサル場合ト雖モ條約ノ規定ハ條約ニ參加セル一切ノ交戰者ノ間ニ拘束力ヲ有スヘシ

第二十六條 交戰軍ノ總指揮官ハ各其ノ本國政府ノ訓令ニ從ヒ且本條約ノ一般原則ニ準據シ前諸條ノ執行ニ關スル細目及規定漏ノ事項ヲ補足處理スヘシ

第二十七條 締約國ハ本條約ノ規定ヲ其ノ軍隊及特ニ保護セラルル人員ニ教示スル爲及之ヲ人民ニ知悉セシムル爲必要ナル措置ヲ執ルヘシ

第八章 濫用及違反ノ禁止

第二十八條 締約國政府ニシテ現ニ其ノ法令十分ナラサルモノハ左記事項ヲ常ニ防止スルニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スヘシ

生スヘシ右實施後ハ右禁止ニ反スル製造標又ハ商標ヲ採用スルハ適法ナラサルヘシ

第二十九條 締約國政府ハ又其ノ刑法不十分ナル場合ニハ本條約ノ規定ニ反スル一切ノ行爲ヲ戰時ニ於テ禁止スルニ必要ナル措置ヲ執リ又ハ之ヲ其ノ立法機關ニ提案スヘシ

締約國政府ハ遲クトモ本條約批准ノ時ヨリ五年以内ニ瑞西聯邦政府ノ仲介ニ依リ右禁止ニ關スル規定ヲ相互ニ通告スヘシ

第三十條 本條約ニ對スル違反アリトノ主張アルトキハ一交戰者ノ請求ニ基キ關係當事者間ニ定メラルヘキ手續ニ從ヒ右違反ニ付審査開始セラルヘシ違反確認セラルルトキハ交戰者ハ成ルヘク速ニ違反ヲ止メ且之ヲ禁止スヘシ

最終規定

第三十一條 本日ノ日附ヲ有スヘキ本條約ハ千九百二十九年七月一日「ジュネーヴ」ニ開催セラレタル會議ニ代表者ヲ派遣シタル一切ノ國及該會議ニ代表者ヲ派遣セサル

(イ) 商業上ノ目的ヲ以テスルト他ノ如何ナル目的ヲ以テスルトヲ問ハス個人又ハ本條約ニ依リ使用ノ權利ヲ有スルモノ以外ノ團體ニ依ル赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ標章又ハ名稱竝ニ之カ模倣ト爲ル一切ノ記章及名稱ノ使用

(ロ) 瑞西聯邦國旗ノ著色ノ顛倒セラレタルモノノ採用ニ依リ同國ニ對シ敬意ノ表セラレタルニ鑑ミ商業上ノ誠實ニ反スル目的ニ於ケルト瑞西ノ國民的感情ヲ毀損スルコトアルヘキ状態ニ於ケルトヲ問ハス個人又ハ團體ニ依ル瑞西聯邦ノ紋章又ハ之カ模倣ト爲ル記章ノ製造標若ハ商標若ハ右製造標若ハ商標ノ要部トシテノ使用

赤十字又ハ「ジュネーヴ」十字ノ標章又ハ名稱ノ模倣ト爲ル記章又ハ名稱ノ使用ノ(イ)ニ規定セラレタル禁止及瑞西聯邦ノ紋章又ハ之カ模倣トナル記章ノ使用ノ(ロ)ニ規定セラレタル禁止ハ各法令ニ依リ決定セラルル時期ヨリ且遲クトモ本條約ノ實施後五年ニシテ其ノ效力ヲ發

モ千八百六十四年又ハ千九百六年ノ「ジュネーヴ」條約ニ參加セル國ノ名ニ於テ千九百三十年二月一日迄ニ署名セラレ得ヘシ

第三十二條 本條約ハ成ルヘク速ニ批准セラルヘシ批准書ハ「ベルヌ」ニ於テ寄託セラルヘシ

各批准書ノ寄託ニ付調書一通作成セラレ其ノ認證原本ハ瑞西聯邦政府ヨリ自己ノ名ニ於テ本條約カ署名セラレ又ハ加入カ通告セラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セラルヘシ

第三十三條 本條約ハ少クトモ二箇ノ批准書カ寄託セラレタル後六月ニシテ實施セラルヘシ

爾後本條約ハ各締約國ニ付其ノ批准書ノ寄託後六月ニシテ實施セラルヘシ

第三十四條 本條約ハ締約國間ノ關係ニ於テ千八百六十四年八月二十二日及千九百六年七月六日ノ條約ニ代ルヘシ

第三十五條 自己ノ名ニ於テ本條約カ署名セラレザリシ國ハ何レモ本條約實施ノ日ヨリ其ノ名ニ於テ之ニ加入スル

コトヲ得

第三十六條 加入ハ書面ヲ以テ瑞西聯邦政府ニ對シ通告セラルヘク加入書カ同國政府ニ到達シタル日ノ後六月ニシテ效力ヲ生スヘシ

瑞西聯邦政府ハ自己ノ名ニ於テ條約カ署名セラレ又ハ加入カ通告セラレタル一切ノ國ノ政府ニ右加入ヲ通知スヘシ

第三十七條 戰爭狀態ハ戰爭開始前又ハ開始後交戰國ニ依リ寄託セラレタル批准及通告セラレタル加入ニ對シ直ニ效力ヲ生セシムヘシ瑞西聯邦政府ハ戰爭狀態ニ在ル國ヨリ受ケタル批准又ハ加入ヲ最迅速ナル方法ニ依リ通知スヘシ

第三十八條 各締約國ハ本條約ヲ廢棄スルノ權能ヲ有スヘシ廢棄ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シタル後一年ヲ經過スルニ非サレハ效力ヲ生スルコトナカルヘシ瑞西聯邦政府ハ右通告ヲ一切ノ締約國政府ニ通知スヘシ廢棄ハ之ヲ通告シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生スヘシ

尙右廢棄ハ廢棄國カ參加セル戰爭中其ノ效力ヲ生セサルヘシ此ノ場合ニ於テハ本條約ハ一年ノ期間滿了後更ニ平和條約締結迄引續キ其ノ效力ヲ有スヘシ

第三十九條 本條約ノ認證本ハ瑞西聯邦政府ノ手配ニ依リ國際聯盟ノ記録ニ寄託セララルヘシ同様ニ瑞西聯邦政府ニ通告セララルヘキ批准、加入及廢棄ハ同政府ニ依リ國際聯盟ニ通知セララルヘシ

右證據トシテ前記全權委員ハ本條約ニ署名セリ
千九百二十九年七月二十七日、「ジュネーヴ」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右一通ハ瑞西聯邦ノ記録ニ寄託保存セララルヘク其ノ認證本ハ會議ニ招請セラレタル一切ノ國ノ政府ニ交付セララルヘシ

(全權委員署名略)

留保

英帝國 英帝國ノ各部分(南阿聯邦ヲ除ク)ノ代表委員

(參考一)「大本營發表」

我が病院船の撃沈

(昭和十七年一月十四日午前十一時三十分) 病院船 哈爾賓丸は一月十日朝南支那海において敵潜水艦の攻撃をうけ沈没せり、乗組員および患者の大部は救助せられたるも、六名はなほ行方不明なり、右は明治四十五年一月十二日ヘーグにおいて締結せられたる「ジュネーヴ」條約の原則を海戦に應用する條約に違反せる非人道行爲にして、帝國の最も遺憾とするところなり

(參考二)「新聞記事」

赤十字旗の下で衛生兵が砲撃

の觀測(朝日二萬七十五號掲載)

ブラカンマチ島要塞の二十五センチ要塞砲をはじめ、シン

ハ本條約ノ署名ハ第二十八條ヲ左ノ意味ニ解釋スヘシトノ留保ノ下ニ爲サルモノナルコトヲ宣言ス
同條ニ掲クル立法的措置ニ於テハ瑞西聯邦ノ紋章又ハ該紋章ノ模倣ト爲ル記章ヲ本條約實施前一切ノ適法ノ目的ヲ以テ使用シタル個人、組合、商社又ハ會社ハ同一目的ヲ以テスル右ノ紋章又ハ記章ノ使用ヲ繼續スルコトヲ妨ケラルヘキモノニ非サルコトヲ豫見スルコトヲ得

日本國 日本國ハ第二十八條ノ規定ニ主義上賛同スルモ同條(ロ)ニ規定スル禁止ノ實施ノ日ニ關シ留保ヲ爲ス
日本國ハ右ノ禁止ハ該禁止ノ實施前使用セラレ又ハ登録セラレタルコトアルヘキ紋章及記章ニ適用セラレサルモノト了解ス

日本國ノ代表委員ハ前記留保ノ下ニ本條約ニ署名ス

ガポール市東北方に放列を布いた敵砲兵陣地はここを第三の防禦陣地としてゐた、しかも我が部隊の通過を的確に探知し必中彈を浴せてくる、一體どんな觀測所を持つてゐるのかこれが大きな疑問であつた、そしてこの疑問が氷解するとともに餘りにも卑劣な敵軍の反人道的行爲に勇士は極度の憤激を押へ得なかつた、この隘路口を睨む觀測所は本街道の正面にたちはだかり——本道を見通す堂々たる三階建てのシンガポール競馬場本屋だ、屋上中央の高い煙突に赤十字旗が靡く、その旗竿の下が憎むべき觀測所であり、觀測手は非戦闘員になりすました衛生兵であつた

十一日熾烈な肉弾突破で競馬場を占領した〇〇部隊も二千のベツドを備へて屋上に大きな赤十字旗を掲げたこの本屋には人道上一發の銃弾も見舞はずに保護したのだ、この我が軍の保護下に安全圏内に置かれた病院に働く看護手が恐るべき悖德の牙を隠してゐたのだ、かれらが時折目を掠めて登つた圓筒の望樓には遙後方の要塞と結ぶ一本の電話線が巧妙に隠されてゐた、これは恐るべき一例だ、敵が十箇

年の歳月を費して全島を要塞化したシンガポールでは至るところに巧妙に秘匿されたこの種の觀測所が點在し、この中に突入した我が軍は八方から觀測されてゐるわけである、しかもこれらの施設がイギリス人が自慢する騎士道を逆にゆく假面を冠つてゐるだけに一層憎むべき遣り方である

〔附記〕上掲に就き前掲第七ヘーグ條約中「ジェネヴァ條約の原則を海戦に應用する條約」參照

第九 空 戰 法 規

ヘーグ空戰法規（空戰ニ關スル規則）（案）

本規則ハ戰時無線通信取捨規則ト共ニ先年海牙ニ開カレタル戰時法規改正委員會（一九二二年十二月ヨリ翌年二月ニ至ル）ノ報告ニシテ未タ各國ノ採用スル所トナラサルモ參考ノ爲ニ之ヲ掲ク
右委員會ハ華府會議（一九二一—二二年）ノ決議ニ基クモノニシテ日、米、英、佛、伊、蘭六國委員ヨリ成リタルモノナリ

第一章 適用範圍、種類及標識

第一條 空戰法規ハ一切ノ航空機ニ對シ其ノ空氣ヨリ輕キト若ハ重キトヲ問ハス又ハ水上ニ浮ヒ得ルト否トニ關セス之ヲ適用ス

第二條 左ニ掲クルモノハ之ヲ公航空機ト看做ス

(イ) 軍用航空機

(ロ) 公務ニ専用セラルル非軍用航空機

他ノ一切ノ航空機ハ之ヲ私航空機ト看做ス

第三條 軍用航空機ハ其ノ國籍及軍事的性質ヲ示ス外部標識ヲ掲クヘシ

第四條 稅關用又ハ警察用ニ使用セラルル非軍用航空機ハ其ノ公務ニ専用セラルルノ事實ヲ證明スル書類ヲ携帯スヘシ右航空機ハ其ノ國籍及其ノ軍用ニ非サル公ノ資格ヲ示ス外部標識ヲ掲クヘシ

第五條 稅關用又ハ警察用ノモノニ非サル非軍用公航空機ハ戰時ニ於テハ私航空機ト同一ノ外部標識ヲ掲クヘク且本規則ノ適用ニ關シテハ私航空機ト同様ニ取扱ハルヘシ

第六條 第三條及第四條ニ規定セラレサル航空機ニシテ私航空機ト看做サルヘキモノハ其ノ本國ニ於ケル現行規則ニ定ムル所ニ依リ書類ヲ携帯シ且外部標識ヲ掲クヘシ該

標識ハ其ノ國籍及資格ヲ示スコトヲ要ス

第七條 前數條ニ定ムル外部標識ハ航空中變更シ得サル様固着セラルヘシ右標識ハ成ルヘク大ナルヘク且上方下方及各側方ヨリ見得ヘキモノタルヘシ

第八條 各國ノ現行規則ニ依リ定メラレタル外部標識ハ速ニ之ヲ他ノ一切ノ國ニ通告スヘシ

外部標識ヲ定ムル規則ノ平時ニ於ケル變更ハ其ノ施行前之ヲ他ノ一切ノ國ニ通告スヘシ
開戰ノ際又ハ戰爭中ニ於ケル右規則ノ變更ハ各國ニ於テ成ルヘク速ニ且遅クトモ自國戰闘部隊ニ通知スル時迄ニ之ヲ他ノ一切ノ國ニ通告スヘシ

第九條 交戰國非軍用航空機ハ其ノ公タルト私タルトヲ問ハス之ヲ軍用航空機ニ變更スルコトヲ得但シ右變更ハ該航空機ノ屬スル交戰國ノ管轄内ニ於テ之ヲ行フヘク公海ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ス

第十條 航空機ハ一箇ヨリ多クノ國籍ヲ有スルコトヲ得ス
第二章 一般原則

ル語ハ交戰者ノ直接使用ノ爲ニスル軍事情報ノ航空中ニ於ケル傳達ヲ含ム
私航空機ハ戰時其ノ本國ノ管轄外ニ於テハ武裝ヲ有スルコトヲ得ス

第十七條 千九百六年ノ「ジエネヴァ」條約及前記條約ヲ海戰ニ應用スル條約（千九百七年ノ第十條約）中ニ定メラレタル原則ハ空戰及救護航空機ニ之ヲ適用スヘシ交戰國指揮官カ救護航空機ニ對シ行使スル監督ニ付亦同シ
千九百六年「ジエネヴァ」條約ニ依リテ衛生上ノ移動機關ニ許與セラレタル保護及特權ヲ享有スル爲ニハ救護航空機ハ通常ノ識別標識ノ外赤十字ノ殊別記章ヲ掲クルコトヲ要ス

第四章 敵對行爲

第十八條 航空機ニ依リ又ハ航空機ニ對シ曳尾彈、燒夷性又ハ爆發性ノ投射物ヲ使用スルコトハ之ヲ禁止セス
本規定ハ千八百六十八年ノ聖彼得堡宣言ノ當事國及然ラサル國ニ對シ均シク之ヲ適用ス

第十一條 交戰國タルト中立國タルトヲ問ハス一切ノ國ノ管轄外ニ於テハ總テノ航空機ハ空中通過及着水ノ完全ナル自由ヲ有ス

第十二條 戰時ニ於テハ交戰國タルト中立國タルトヲ問ハス一切ノ國ハ其ノ管轄内ニ於ケル航空機ノ進入、移動又ハ滞在ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三章 交戰者

第十三條 交戰國ハ軍用航空機ニ限り之ヲ行使スルコトヲ得

第十四條 軍用航空機ハ國ノ軍務ニ關シ正式ニ任命セラレ又ハ軍役ニ編入セラレタル者ノ指揮ノ下ニ置カルヘシ其ノ乘員ハ軍人タルコトヲ要ス

第十五條 軍用航空機ノ乘員ハ其ノ航空機ヨリ離レタル場合ニ於テ遠方ヨリ認識シ得ヘキ性質ヲ有スル固着ノ特殊徽章ヲ帶フヘシ

第十六條 交戰國軍用航空機以外ノ航空機ハ如何ナル形式ニ於テモ敵對行爲ニ從事スルコトヲ得ス「敵對行爲」ナ

第十九條 虚偽ノ外部標識ヲ使用スルコトハ之ヲ禁止ス

第二十條 航空機カ其ノ行動ノ自由ヲ失ヒタル場合機上ニ在リタル者カ落下傘ニ依リ避難セムト試ムルトキハ其ノ下降中攻撃セラルルコトナカルヘシ

第二十一條 宣傳流布ノ目的ヲ以テスル航空機ノ使用ハ不適法ナル戰爭手段トシテ取扱ハルルコトナカルヘシ
右航空機ノ乘員ハ前記行爲ヲ爲シタルノ理由ニ因リ其ノ俘虜タルノ權利ヲ剝奪セラルルコトナシ

爆 擊

第二十二條 普通人民ヲ威嚇シ軍事の性質ヲ有セサル私有財産ヲ破壊若ハ毀損シ又ハ非戰闘員ヲ損傷スルコトヲ目的トスル空中爆撃ハ之ヲ禁止ス

第二十三條 現物ノ徵發又ハ取立金ノ支拂ヲ強制スルコトヲ目的トスル空中爆撃ハ之ヲ禁止ス

第二十四條 (一) 空中爆撃ハ軍事の目標即チ其ノ破壊又ハ毀損カ明瞭ナル軍事の利益ヲ交戰者ニ與フルカ如キ目標ニ對シテ行ハレタル場合ニ限り適法ナリ

トス

(二) 右爆撃ハ専ラ下記ノ目標ニ對シテ行ハレタル場合ニ限り適法ナリトス (イ) 軍隊 (ロ) 軍事工作物

(ハ) 軍事建設物又ハ軍事貯藏所 (ニ) 兵器彈藥又ハ明瞭ナル軍需品ノ製造ニ從事スル工場ニシテ重要且公知ノ中樞ヲ構成スルモノ (ホ) 軍事上ノ目的ニ使用セラルル交通線又ハ運輸線

(三) 陸上軍隊ノ作戰行動ノ直近地域ニ在ラサル都市、町村、住宅又ハ建物ノ爆撃ハ之ヲ禁止ス第二號ニ掲ケタル目標カ普通人民ニ對シ無差別ノ爆撃ヲ爲スニ非サレハ爆撃スルコト能ハサル位置ニ在ル場合ニハ航空機ハ爆撃ヲ禁止スルコトヲ要ス

(四) 陸上軍隊ノ作戰行動ノ直近地域ニ於テハ都市、町村、住宅又ハ建物ノ爆撃ハ兵力ノ集中重大ニシテ爆撃ニ依リ普通人民ニ與フヘキ危険ヲ考慮スルモ尙爆撃ヲ正當ナラシムルニ充分ナリト推定スヘキ理由アル場合ニ限り適法ナリトス

(五) 交戦國ハ其ノ士官又ハ軍隊カ本條ノ規定ニ違反シタルニ因リ生シタル身體又ハ財産ニ對スル損害ニ付賠償金ヲ支拂フノ責ニ任ス

第二十五條 航空機ニ依リ爆撃ヲ行フ場合ニハ公衆ノ禮拜、技藝、學術又ハ慈善ノ用ニ供セラルル建物、歴史上ノ記念建造物、病院船、病院並病者及傷者ノ收容所ハ右建物、物件又ハ場所カ同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限り之ヲシテ成ルヘク損害ヲ免レシムル爲指揮官ニ於テ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルコトヲ要ス右建物、物件及場所ハ晝間ハ航空機ヨリ見得ヘキ標識ヲ以テ之ヲ表示スルコトヲ要ス前記以外ノ建物、物件又ハ場所ヲ表示スル爲標識ヲ使用スルコトハ之ヲ背信行爲ト看做ス右標識ハ「ジエネヴァ」條約ニ依リ保護セラルル建物ノ場合ニ於テハ白地ニ赤十字タルヘク其ノ他ノ保護建物ノ場合ニ於テハ方形ノ大板ニシテ對角線ノ一ヲ以テ一ハ黑色他ハ白色ノ兩三角形ニ區別シタルモノナルヘシ前項ニ掲ケタル病院及其ノ他特權ヲ有スル建物ニ關スル

保護ヲ夜間ニ於テ確保セムトスル交戦者ハ前項ニ掲ケタル特別標識ヲ充分看易クスル爲必要ナル措置ヲ執ルコトヲ要ス

第二十六條 各國ノ領域内ニ存在スル重要ナル歴史上ノ記念建造物ニ關シ一層有效ナル保護ヲ與フル爲當該國カ右

記念建造物及其ノ圍繞地帯ヲ軍事上ノ目的ニ使用スルコトヲ避ケ且其ノ監督ニ關シ特別ノ制度ヲ受諾スルコトヲ條件トシテ左ノ特別規則ヲ採用ス

一 各國ハ其ノ適當ト認ムル場合ニ於テ其ノ領域内ニ在ル該記念建造物ノ周圍ニ保護地帯ヲ設クルコトヲ得

二 其ノ周圍ニ地帯ヲ設クヘキ記念建造物ハ平時ニ於テ外交手段ニ依リ他國ニ之ヲ通告スヘシ該通告ハ地帯ノ限界ヲモ表示スヘキモノトス該通告ハ戰時ニ於テ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

三 保護地帯ハ記念建造物又ハ其ノ集團カ現ニ占ムル地域ノ外右地域ノ周圍ヨリ測リテ幅員五百米ヲ超エサ

四 交戦國航空機乗員ヲシテ右地帯ノ限界ヲ確實ニ識別スルコトヲ得シムル爲晝間夜間共ニ航空機ヨリ明確ニ見得ヘキ標識ヲ用フヘシ

五 記念建造物自體ノ標識ハ第二十五條ニ定メタルモノタルヘシ圍繞地帯ヲ表示スルカ爲用キラルル標識ハ本條ノ規定ヲ採用スル各國ニ於テ之ヲ定ムヘク且記念建造物及地帯ノ通告ト同時ニ之ヲ他國ニ通告スヘシ

六 第五號ニ掲ケタル地帯ヲ表示スル標識ノ濫用ハ總テ背信行爲ト看做サルヘシ

七 本條ノ規定ヲ採用スル國ハ記念建造物及其ノ圍繞地帯ヲ軍事上ノ目的ノ爲若ハ方法ノ如何ヲ問ハス其ノ軍事機關ノ利益ノ爲ニ使用スルコト又ハ右建造物内若ハ右地帯内ニ於テ軍事上ノ目的ヲ有スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ禁止スルヲ要ス

八 第七號ノ規定ノ違反カ行ハレサルコトヲ確保スル爲

本條ノ規定ヲ採用スル國ニ駐劄スル三名ノ中立國ノ代表者又ハ其ノ代理者ヨリ成ル監督委員會ヲ任命スヘシ右監督委員會委員中一名ハ對手交戰者ノ利益ヲ委託セラレタル國ノ代表者(又ハ其ノ代理者)タルヘシ

間 諜

第二十七條 交戰國又ハ中立國航空機ノ搭乗者ハ交戰國管轄内又ハ交戰者ノ作戰地帯内ニ於テ對手交戰者ニ通報スルノ意思ヲ以テ隱密ニ又ハ虚偽ノ口實ノ下ニ行動シテ航空中情報ヲ蒐集シ又ハ蒐集セムトスル者ニ非サレハ之ヲ間諜ト認ムルコトヲ得ス

第二十八條 航空機ノ乘員又ハ其ノ輸送スル乗客カ航空機ヨリ去リタル後犯シタル間諜行爲ニ關シテハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則ノ規定ニ從フ

第二十九條 第二十七條及第二十八條ニ掲ケタル間諜行爲ノ處罰ニ關シテハ陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第三十條及第三十一條ニ依ル

非サレハ射撃セラルヘシ

第三十四條 交戰國非軍用航空機ハ其ノ公タルト私タルトヲ問ハス(一)敵ノ管轄内(二)該管轄ノ直近地域ニシテ航空機所屬國ノ管轄外又ハ(三)陸上若ハ海上ニ於ケル敵ノ軍事行動ノ直近地域ヲ航空スル場合ニハ射撃セラルヘシ

第三十五條 交戰國ノ管轄内ヲ航空スル中立國航空機ニシテ對手交戰國ノ軍用航空機ノ接近ヲ警告セラレタルモノハ最モ近キ適當ノ場所ニ着陸又ハ着水スルコトヲ要ス之ヲ爲ササル場合ニハ右中立國航空機ハ射撃セラルルノ危険アルヘシ

第三十六條 敵國軍用航空機カ交戰者ノ手ニ歸シタル場合ニハ其ノ乘員及若シ乗客アルトキハ其ノ乗客ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得

敵國非軍用公航空機ノ乘員及若シ乗客アルトキハ其ノ乗客ニ付テモ亦同一ノ規定ヲ適用ス但シ非軍用公航空機カ旅客ノ輸送ニ專用セラルル場合ニハ其ノ乗客ハ敵ノ役務

第五章 敵國及中立國航空機並其ノ搭乗者ニ對スル軍ノ權力

第三十條 交戰國指揮官ハ航空機ノ存在カ其ノ現ニ從事スル作戰行動ノ成效ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ軍隊ノ直近地域ニ於ケル中立國航空機ノ通過ヲ禁止シ又ハ之ニ一定ノ航路ヲ執ルコトヲ強制スルコトヲ得交戰國指揮官ノ發シタル右示命ノ通告ヲ得テ之ニ從ハサル中立國航空機ハ射撃セラルルコトアルヘシ

第三十一條 陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第五十三條ノ原則ニ從ヒ交戰國占領軍カ敵ノ管轄内ニ入りテ發見シタル中立國私航空機ハ充分ナル賠償ヲ支拂フコトヲ條件トシテ之ヲ徵發スルコトヲ得

第三十二條 敵國公航空機ハ私航空機ト同様ニ取扱ハルルモノヲ除キ捕獲審檢手續ニ依ラスシテ沒收セラルヘシ

第三十三條 自國ノ管轄内ヲ航空スル交戰國非軍用航空機ハ其ノ公タルト私タルトヲ問ハス敵國軍用航空機ノ接近スル場合ニハ最モ近キ適當ノ場所ニ着陸又ハ着水スルニ

ニ服スル者又ハ軍役ニ適スル敵國人ニ非サル限り解放セラルルノ權利ヲ有ス

敵國私航空機カ交戰者ノ手ニ歸シタル場合ニハ敵國人又ハ敵ノ役務ニ服スル中立國人タル乘員ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得敵ノ役務ニ服セサル中立國人タル乘員ハ戰爭ノ繼續中敵國航空機ニ於テ勤務セサルコトヲ誓約スル書面ニ署名スルトキハ解放セラルルノ權利ヲ有ス乗客ハ敵ノ役務ニ服スル者又ハ軍役ニ適スル敵國人ニ限り之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ヘク其ノ他ノ者ハ解放セラルルノ權利ヲ有ス

解放ハ交戰者ニ於テ軍事上ノ必要アルトキハ如何ナル場合ト雖之ヲ延期スルコトヲ得

交戰者ハ如何ナル乘員又ハ乗客ト雖其ノ捕ハレタル際ノ航空中ニ於テ敵ニ對スル特別且積極的ノ幫助ヲ爲シタル者ハ之ヲ俘虜トシテ留置スルコトヲ得

本條第三項ノ規定ニ從ヒ書面ニ依ル誓約ヲ爲シタル後解放セラレタル個人ノ氏名ハ之ヲ對手交戰者ニ通告スヘク

對手交戰者ハ故意ニ右個人ヲ其ノ誓約ニ違反シテ使用スルコトヲ得ス

第三十七條 交戰者ニ依リ抑留セラレタル中立國航空機ノ乘員カ中立國人ニシテ且敵ノ役務ニ服セサル者ナルトキハ無條件ニテ之ヲ解放スヘシ若シ右乘員ニシテ敵國人又ハ敵ノ役務ニ服スル者ナルトキハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得

乗客中敵ノ役務ニ服スル者又ハ軍役ニ適スル敵國人ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ヘク其ノ他ノ者ハ解放セラルルノ權利ヲ有ス

解放ハ交戰者ニ於テ軍事上ノ必要アルトキハ如何ナル場合ト雖之ヲ延期スルコトヲ得

交戰者ハ如何ナル乘員又ハ乗客ト雖其ノ捕ハレタル際ノ航空中ニ於テ敵ニ對スル特別且積極的ノ幫助ヲ爲シタル者ハ之ヲ俘虜トシテ留置スルコトヲ得

第三十八條 第三十六條及第三十七條ノ規定ニ依リ乘員又ハ乗客ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタル場合ニ於テ

着水シタル交戰國軍用航空機ヲ其ノ乘員及若シ乗客アルトキハ其ノ乗客ト共ニ抑留スル爲施シ得ヘキ手段ヲ用フヘシ

第四十三條 行動ノ自由ヲ失ヒタル交戰國軍用航空機ノ乘員ニシテ中立國軍用航空機ニ依リ中立國領水外ニ於テ救助セラレ且中立國管轄内ニ送致セラレテ上陸シタル者ハ抑留セラルヘシ

第四十四條 中立國政府ハ交戰國ニ對シ航空機、其ノ部分品又ハ航空機ノ用ニ供スル材料、需品若ハ軍需品ヲ如何ナル方法ヲ以テスルヲ間ハス直接又ハ間接ニ供給スルコトヲ得ス

第四十五條 第四十六條ノ規定ヲ留保シテ中立國ハ交戰者ノ爲ニスル航空機、其ノ部分品又ハ航空機ノ用ニ供スル材料、需品若ハ軍需品ノ輸出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セサルモノトス

第四十六條 中立國政府ハ左ノ事項ヲ防止スル爲其ノ施シ得ヘキ手段ヲ用フヘキモノトス

右乘員又ハ乗客ニシテ軍隊ノ所屬員タラサル者ハ俘虜ニ比シ不利益ナル取扱ヲ受ケサルノ權利ヲ有スヘキモノトス

第六章 中立國ニ對スル交戰者ノ義務及交戰國ニ對スル中立者ノ義務

第三十九條 交戰國航空機ハ中立國ノ權利ヲ尊重スヘク且中立國ニ於テ阻止スルノ義務アル行爲ヲ中立國管轄内ニ於テ行フコトヲ禁止スヘキモノトス

第四十條 交戰國軍用航空機ハ中立國管轄内ニ入ルコトヲ得ス

第四十一條 軍艦(航空母艦ヲ含ム)ニ搭載中ノ航空機ハ軍艦ノ一部ト看做サルヘシ

第四十二條 中立國政府ハ交戰國軍用航空機カ其ノ管轄内ニ入ルコトヲ防止スル爲及其ノ管轄内ニ入りタルトキハ之カ着陸又ハ着水ヲ強制スル爲施シ得ヘキ手段ヲ用フルコトヲ要ス

中立國政府ハ原因ノ如何ヲ問ハス其ノ管轄内ニ着陸又ハ

一 「交戰國ニ對シ攻撃ヲ爲シ得ヘキ状態ニ在ル航空機」又ハ「之ヲ据付ケ若ハ利用スルニ於テハ攻撃ヲ爲シ得ルニ至ルヘキ器具若ハ材料ヲ搭載シ若ハ携帯スル」航空機カ交戰國ニ對抗シテ使用セラルヘキモノト信スヘキ理由アルトキハ該航空機ノ自國管轄ヲ出發スルコト、

二 航空機ノ乘員中ニ交戰國ノ戰團部隊ノ所屬員ヲ含ムトキハ該航空機ノ出發スルコト

三 「本條ノ目的ニ反シテ其ノ出發ヲ準備スル爲」航空機ニ對シ工事ヲ施スコト

中立國管轄内ニ在ル個人又ハ會社カ交戰國ノ注文ニ關シテ發送スル航空機カ空路ニ依リ出發スルニ當リテハ中立國政府ハ右航空機ニ對シ對手交戰者ノ軍事行動ノ附近ヲ避タルノ航路ヲ示命シ且右航空機カ示命ノ航路ヲ執ルコトヲ確保スル爲必要ナル保障ヲ要求スルコトヲ要ス

第四十七條 中立國ハ他方交戰者ニ通報スルノ意思ヲ以テ一方ノ交戰者ノ移動、作戰行動又ハ防禦ヲ自國管内ニ於

テ空中ヨリ偵察スルコトヲ防止スル爲其ノ施シ得ヘキ手段ヲ用フルノ義務アルモノトス

右ノ規定ハ軍艦ニ搭載中ノ交戰國軍用航空機ニモ均シク之ヲ適用ス

第四十八條 中立國カ本規則ニ基ク其ノ權利義務ノ實行上兵力又ハ其ノ他ノ施シ得ヘキ手段ヲ用フルノ行爲ハ之ヲ敵對行爲ト認ムルコトヲ得ス

第七章 臨檢及搜索、捕獲及沒收

第四十九條 私航空機ハ交戰國軍用航空機ニ依ル臨檢搜索及捕獲ニ服スヘキモノトス

第五十條 交戰國軍用航空機ハ非軍用航空機及私航空機ニ對シ臨檢及搜索ノ爲接到スルコトノ相當容易ナル適當ノ場所ニ着陸着水シ又ハ進航スヘキコトヲ命スルノ權利ヲ有ス

取調ノ爲前記ノ場所ニ着陸着水又ハ進航スヘシトノ命令ニ從フコトヲ警告ヲ受ケタル後拒ミタルトキハ該航空機ハ射撃セラルルノ危險アルヘシ

第五十一條 中立國非軍用公航空機ハ私航空機トシテ取扱ハルヘキモノヲ除クノ外其ノ書類檢證ノ爲ノ臨檢ノミヲ受クルモノトス

第五十二條 敵國私航空機ハ一切ノ場合ニ於テ之ヲ捕獲スルコトヲ得

第五十三條 中立國私航空機ハ左ニ掲クル場合ニ之ヲ捕獲スルコトヲ得

(イ) 交戰權ノ適法ナル行使ニ抵抗スルトキ

(ロ) 第三十條ニ從ヒ交戰國指揮官カ發シタル禁止ノ通告ヲ得タル後之ヲ犯ストキ

(ハ) 軍事的幫助ニ從事スルトキ

(ニ) 戰時其ノ本國ノ管轄外ニ於テ武装ヲ有スルトキ

(ホ) 外部標識ヲ有セス又ハ虚偽ノ標識ヲ使用スルトキ

(ヘ) 書類ヲ有セス又ハ不充分ナル若ハ正規ナラサル書類ヲ有スルトキ

(ト) 其ノ書類ニ示サレタル出發地及目的地間ノ航路ヲ明ニ離レ且交戰者カ必要ト認ムル調査ノ後右航路

變更ニ對スル充分ナル理由ヲ提示セサルトキ
交戰者ハ該航空機ヲ其ノ乗員及若シ乗客アルトキハ乗客ト共ニ右調査中抑留スルコトヲ得

(チ) 戰時禁制品ヲ輸送シ又ハ該航空機自體カ戰時禁制品タルトキ

(リ) 正當ニ設定セラレ且實力ヲ以テ維持セラルル封鎖ノ侵破ヲ爲ストキ

(ヌ) 敵國航空機トシテ受クヘキ結果ヲ免カルルノ意思アルコトヲ示スヘキ時期及事情ノ下ニ交戰國ノ國籍ヨリ中立國ノ國籍ニ移轉セラレタルトキ

但シ何レノ場合(ヌ)ヲ除ク)ニ於テモ捕獲ノ理由ハ該中立國航空機カ交戰者ノ手中ニ屬シタル際ノ航空中即其ノ出發地ヲ離レテヨリ其ノ目的地ニ到達スル以前ニ行ハレタル行爲ナルコトヲ要ス

第五十四條 私航空機ノ書類ニシテ該航空機ノ國籍ヲ明確ニセス且其ノ乗員及乗客ノ名及國籍、航空ノ出發地及目的地並載貨ノ細目及其ノ輸送ノ條件ヲ表示セサルモノハ

不十分ナルモノ又ハ正規ナラサルモノト看做サルヘシ右ノ中ニハ航空日誌モ亦含マルヘキモノトス

第五十五條 航空機又ハ航空機上ニ在ル貨物ノ捕獲ハ中立者ノ請求ヲ正當ニ聽取シ且判定スル爲捕獲審檢手續ニ付セラルヘシ

第五十六條 外部標識ヲ有セス若ハ虚偽ノ標識ヲ使用スルコト又ハ戰時其ノ本國管轄外ニ於テ武装ヲ有スルコトノ理由ニ因リ捕獲セラレタル私航空機ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第三十條ニ依ル交戰國指揮官ノ示命ニ從ハサルノ理由ニ因リ捕獲セラレタル中立國私航空機ハ該禁止地域内ニ在リタルコトノ正當ナリシコトヲ證明シ得ルニ非サレハ之ヲ沒收スルコトヲ得

其ノ他ノ一切ノ場合ニ於テハ捕獲審檢所ハ航空機若ハ其ノ載貨又ハ航空機上ニ在ル郵便信書ノ捕獲ニ關スル一切ノ事件ヲ審檢スルニ當リテハ商船若ハ其ノ載貨又ハ商船内ニ在ル郵便信書ニ對スルト同一ノ規定ヲ適用スヘシ

第五十七條 私航空機ニシテ臨檢搜索ノ結果敵國航空機タルコトヲ發見セラレタルモノハ交戰國指揮官ニ於テ其必要アリト認ムルトキハ一切ノ搭乗者ヲ豫メ安全ノ地ニ移シ且該航空機ノ一切ノ書類ヲ保存スルコトヲ條件トシテ之ヲ破壊スルコトヲ得

第五十八條 私航空機ニシテ臨檢搜索ノ結果軍事的幫助ノ理由ニ因リ又ハ外部標識ヲ有セス若ハ虛偽ノ標識ヲ掲ケタリトノ理由ニ因リ沒收セラレヘキ中立國航空機タルコトヲ發見セラレタルモノハ檢定ノ爲之ヲ送致スルコト不可能ナル場合又ハ交戰國航空機ノ安全若ハ其ノ從事スル作戰行動ノ成效ヲ害スル場合ニハ之ヲ破壊スルコトヲ得前記ノ場合以外ニ於テハ中立國私航空機ハ最モ重大ナル軍事上ノ緊急狀態ノ爲交戰國指揮官ニ於テ之ヲ解放シ又ハ檢定ノ爲メ送致スルコトヲ得サル場合ノ外之ヲ破壊スルコトヲ得ス

第五十九條 中立國航空機ヲ破壊スルニ先テ一切ノ搭乗者ハ之ヲ安全ノ地ニ移シ且該航空機ノ一切ノ書類ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

存スルコトヲ要ス

中立國私航空機ヲ破壊シタル捕獲者ハ該捕獲事件ヲ捕獲審檢所ニ提起シ且第五十八條ノ規定ニ從ヒ正當ニ之ヲ破壊シ得ヘカリシコトヲ先ツ辯明スルコトヲ要ス捕獲者ニ於テ右辯明ヲ爲ササルトキハ該航空機又ハ其ノ載貨ノ利害關係人ハ賠償ヲ受クルノ權利ヲ有ス該捕獲力無効ナリト檢定セラレタルトキハ破壊ノ行爲カ正當ナリト認メラレタル場合ニ於テモ當該利害關係人ニ對シ其ノ受クヘカリシ返還ニ代ヘ賠償ヲ與フルコトヲ要ス

第六十條 中立國私航空機カ禁制品輸送ノ理由ニ因リ捕獲セラレタル場合ニ於テ檢定ノ爲之ヲ送致スルコト不可能ナル場合又ハ交戰國航空機ノ安全若ハ其ノ從事スル作戰行動ノ成效ヲ害スル場合ニハ捕獲者ハ機上ニ在ル絕對的禁制品ノ引渡ヲ請求シ又ハ該絕對的禁制品ヲ破壊スルノ手段ヲ執ルコトヲ得捕獲者ハ該航空機ノ航空日誌ニ貨物ノ引渡又ハ破壊ノ旨ヲ記入シ且該航空機ノ關係書類ノ正本又ハ謄本ヲ入手シタル後該中立國私航空機ニ其ノ航空

ノ續行ヲ許スコトヲ要ス

第五十九條第二項ノ規定ハ中立國私航空機上ニ在ル絕對的禁制品ヲ引渡シ又ハ破壊スル場合ニ付之ヲ適用ス

第八章 定 義

第六十一條 「軍事」、「軍用」等ニ於ケル「軍」ナル語ハ本規則ヲ通シテ一切ノ兵力ノ種類即チ陸上軍隊、海上軍隊及航空軍隊ニ關スルモノト解スヘシ

第六十二條 本規則ニ特別ノ規定アル場合及本規則第七章ノ規定又ハ國際諸條約ニ於テ海上法及其ノ手續ノ適用セラルヘキコトヲ示ス場合ヲ除クノ外敵對行爲ニ從事スル航空機乗員ハ國際法ノ慣例並ニ關係國ノ加盟シタル諸宣言及諸條約ニ基キ陸上軍隊ニ適用セラルル戰時法規及中立法規ニ遵フヘキモノトス

戰時無線通信取締規則 (案)

(起草經過ハ空戰法規ニ同シ)

第一條 戰時ニ於テハ無線通信局ノ經營ハ成ルヘク他ノ無線通信局ノ業務ヲ妨害セサル様之ヲ組織スルコトヲ繼續スヘシ本規定ハ對敵交戰者ノ無線通信局間ニ之ヲ適用セ

第二條 交戰國及中立國ハ其ノ管轄内ニ於ケル無線通信局ノ運用ヲ取締リ又ハ禁止スルコトヲ得

第三條 交戰國又ハ其ノ代理人カ中立國管轄内ニ於テ無線通信局ヲ設置シ又ハ之ヲ運用スルコトハ該交戰國側ニ於テ及右通信局ノ設置又ハ運用ヲ許容スル中立國側ニ於テ中立違反ヲ構成スルモノトス

第四條 中立國ハ軍隊又ハ軍事行動ニ關スル情報ニシテ交戰者ニ仕向ケラレタルモノノ傳送ヲ防止スルニ必要ナル限度以外及第五條ノ規定以外ニハ其ノ管轄内ニ在ル無線

通信局ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルヲ要セサルモノトス
中立國ノ執ル制限又ハ禁止ニ關スル一切ノ措置ハ該中立
國ニ於テ交戰者ニ對シ一様ニ之ヲ適用スヘキモノトス

第五條 交戰國移動無線通信局ハ中立國ノ管轄内ニ於テハ

其ノ無線電信機ノ一切ノ使用ヲ禁止スヘキモノトス中立
國政府ハ右使用ヲ防止スル爲其ノ施シ得ヘキ手段ヲ用フ
ヘキモノトス

第六條 (一) 敵國ノ又ハ中立國ノ船舶又ハ航空機カ公海

又ハ其ノ上空ニ於テ交戰者ノ即時使用ノ爲
軍事情報ヲ無線通信ニ依リ傳送スルコトハ
之ヲ敵對行爲ト看做スヘク右船舶又ハ航空
機ハ射撃セラルヘキモノトス

(二) 中立國船舶又ハ中立國航空機ニシテ公海又

ハ其ノ上空ニ於テ軍事行動又ハ軍隊ニ關ス
ル交戰者ニ仕向ケラレタル情報ヲ傳送スル
モノハ捕獲セラルヘシ捕獲審檢所ハ沒收ヲ
正當ナラシムル事情アリト認ムルトキハ該

船舶又ハ該航空機ヲ沒收スルコトヲ得

(三) 第一號及第二號ニ掲クル行爲ニ因リ中立國

ノ船舶又ハ航空機ノ捕獲セラルルコトハ右
船舶又ハ航空機カ當時從事シタル航海又ハ
航空ノ終了ニ依リテ消滅スルコトナク當該
行爲アリタル後一年間存續スルモノトス

第七條 交戰國指揮官ニ於テ其ノ兵力ノ直近地域ニ無線通

信裝置ヲ有スル船舶又ハ航空機ノ存在スルコト又ハ該地
域ニ於テ右裝置ヲ使用スルコトカ其ノ從事スル作戰行動
ノ成效ヲ害スルモノト認ムルトキハ該指揮官ハ公海又ハ
其ノ上空ニ於テ中立國船舶又ハ中立國航空機ニ對シ左記
ヲ命令スルコトヲ得

一 其ノ指揮ノ下ニ行動スル兵力ニ接近スルコトヲ防止
スルニ必要ナル程度ニ右船舶又ハ航空機ノ針路ヲ變
更スルコト

二 該兵力ノ直近地域ニ在ル間右船舶又ハ航空機ノ無線
通信發信機ヲ使用セサルコト

中立國船舶又ハ中立國航空機ニシテ右示命ノ通告ヲ
得テ之ニ從ハサルモノハ射撃セラルルノ危險アルヘ
シ該船舶又ハ航空機ハ捕獲セラルヘク且捕獲審檢所
カ沒收ヲ正當ナラシムル事情アリト認ムルトキハ沒
收セラルヘシ

第八條 中立國移動無線通信局ハ交戰國軍用無線通信局ヨ

リ受クル無線通信ニ付テハ自局ニ宛テラレタルモノニ非
サレハ其ノ如何ナル記録ヲモ之ヲ保存スルコトヲ避クヘ
シ

本條ノ規定ニ違反アリタルトキハ交戰者ハ當該傍受通信
ノ記録ヲ除去スルコトヲ得

第九條 交戰者ハ其ノ軍事行動ノ許ス限リ遭難信號及遭難

通信ニ關スル國際條約ノ規定ニ從フノ義務アルモノトス
本規則中何レノ條項モ交戰者ヲシテ右ノ義務ヲ免レシメ
又ハ遭難信號、遭難通信及航行ノ安全ニ缺クヘカラサル
通信ノ傳送ヲ禁止スルモノト解スルコトヲ得ス

第十條 國際條約ニ規定スル無線遭難信號及無線遭難通信

ヲ其ノ通常且適法ナル目的以外ニ冒用スルコトハ戰時法
規ノ違反ヲ構成シ且右犯行者ハ國際法ニ依リ個人的責任
ヲ負フモノトス

第十一條 他ノ關係ニ於テ間諜行爲ヲ構成セサル行爲ハ本

規則ノ違反アルノ故ヲ以テ間諜行爲タルコトナシ

第十二條 無線通信手ハ其ノ通信手タルノ任務ノ遂行ニ付
受ケタル命令ヲ實行シタルノ事實ノミニ因リテ個人的責
任ヲ負フコトナシ

第十 (參考) 中立關係

一、パナマ宣言

千九百三十九年十月三日ノ

「パナマ」宣言

千九百三十九年十月三日「アメリカ」諸共和國外相協議會ニ依リ「パナマ」市ニ於テ可決

「パナマ」ニ於テ會合シタル「アメリカ」諸共和國ノ政府ハ「ヨーロッパ」ノ平和ヲ破裂セシメツツアル紛争ニ於ケル其ノ中立的地位ヲ嚴肅ニ確認セリ然レドモ本戦争ハ「アメリカ」ノ根本的利益ニ影響ヲ及ボスコトアルベキ不測ノ結果ヲ招來スルコトアルベク且交戦國ノ利益方中立國ノ權利ニ優先シ以テ右紛争ニ於ケル中立ト戦争ノ現場ヨリノ距離トニ依リ右紛争ノ重大且困難ナル結果ヲ負擔セシメラルベキニ非ザル諸國ニ對シ騷亂及苦痛ヲ與フルハ正當ノ理由

ノ存シ得ザル所ナリ

千九百十四年乃至千九百十八年ノ世界戦争中「アルゼンティン」國、「ブラジル」國、「チリ」國、「コロンビア」國、「エクスアドル」國及「ペルー」國ノ政府ハ交戦國ハ右諸國ノ海岸ヨリ相當ノ距離内ニ於テ敵對行為ヲ行フベカラズト「アメリカ」諸共和國ニ依ル宣言ヲ原則トシテ規定セル個別的提議ヲ提出シ又ハ支持セリ

今次ノ大戦ノ性質ハ其ノ現在迄ノ遺憾ナル部分ニモ拘ラズ「アメリカ」諸國間ノ交通ニ對スル如何ナル障害ニモ正當ノ理由ヲ與ヘザルベク右交通ハ重要ナル利益ニ依リテ生ゼシメラルルモノナルヲ以テ充分ナル保護ヲ要求ス此ノ事實ハ「アメリカ」諸國間ニ於ケル交通及通商ノ一切ノ通常ノ海上通路ヲ包含スル安全帯域ノ劃定ヲ必要トセリ

右目的ニ對シテハ千九百十四年乃至千九百十八年ノ戦争ニ

於テ「アメリカ」諸國及其ノ國民ノ蒙リタル損害及苦痛ノ

反覆ヲ避ケンガ爲右利益擁護ノ爲ノ規定ニシテ前記先例ヲ基礎トスルモノヲ直ニ採用スルコトガ必要ナル措置トシテ缺クベカラザルモノナリ

「アメリカ」諸共和國ノ政府ガ右ノ危険ヲ豫見セザルベカラズ且其ノ海岸ヨリ相當ノ距離ニ至ル迄ノ水域ハ右政府ノ介入セザル戦争ニ從事スル國ニ依ル敵對行為ノ遂行又ハ交戦活動ノ企圖ノ外ニ在ルベキコトヲ自己保護ノ措置トシテ主張セザルベカラザルコトハ疑ヲ存セザル所ナリ

右ノ諸理由ニ依リ「アメリカ」諸共和國ノ政府ハ左ノ如ク決議シ且宣言ス

一 大陸ノ自己保護ノ措置トシテ「アメリカ」諸共和國ハ其ノ中立ヲ維持スル限リ其ノ關係ニ於テ基本的關心ト直接の效用トヲ有スト認ムル「アメリカ」大陸ノ隣接水域ヲ陸、海又ハ空ノ何レヨリ企テラレ又ハ爲サルルヲ問ハズ何レノ非「アメリカ」交戦國ニ依ル如何ナル敵對行為ノ遂行ノ外ニモ在ラシムルノ權利ヲ固有ノ權利トシテ有

スルモノナリ

右ノ水域ハ左ノ如ク明定セラルベシ左ニ示サルル限界内ニ包含セラルル全水域但シ右限界内ニ在ル「カナダ」ノ領水竝ニ「ヨーロッパ」諸國ノ明白ナル殖民地及屬地ノ領水ヲ除ク

「パッサマクオデイ」灣ニ於ケル北緯四十四度四十六分三十六秒及西經六十六度五十四分十一秒ノ合衆國「カナダ」間國境ノ終點ニ始マリ

次デ眞東ニ向ヒ右四十四度四十六分三十六秒ノ緯線ニ沿ヒ西經六十度ノ地點ニ至ル

次デ眞南ニ向ヒ北緯二十度ノ地點ニ至ル

次デ羅針方位線ニ依リ北緯五度西經二十四度ノ地點ニ至ル

次デ眞南ニ向ヒ南緯二十度ノ地點ニ至ル

次デ羅針方位線ニ依リ南緯五十八度西經五十七度ノ地點ニ至ル

次デ眞西ニ向ヒ西經八十度ノ地點ニ至ル

次で羅針方位線ニ依リ西經九十七度ノ赤道上ノ地點ニ至ル

次で羅針方位線ニ依リ北緯十五度西經百二十度ノ地點ニ至ル

次で羅針方位線ニ依リ北緯四十八度二十九分三十八秒西經百三十六度ノ地點ニ至ル

次で眞東ニ向ヒ「フアン、デ、フリーカ」海峡ニ於ケル合衆國「カナダ」間國境ノ太平洋側終點ニ至ル

二 「アメリカ」諸共和國ノ政府ハ其ノ主權ニ固有ナル各國ノ個別權利ノ行使ヲ害スルコトナクシテ、現在又ハ將來戰鬪ニ從事スルコトアルベキ交戰國ニ對スル共同申入ニ依リ本宣言ノ規定ノ右交戰國ニ依ル遵守ヲ確保スルコトニ努ムルコトヲ約ス

三 更ニ「アメリカ」諸共和國ノ政府ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ本宣言ノ規定ノ遵守ヲ確保スル爲個別のニ又ハ共同シテ執ルコトアルベキ措置ヲ決定スル爲協議スベキコトヲ宣言ス

陸、海及空ニ於テ「アメリカ」諸國ノ各及一切ニ對スル安全ノ保障ヲ有ス

海外ヨリノ侵略ニ對スル大陸ノ安全ハ一層確實ナル基礎ノ上ニ得ラレザルベカラズ

吾人ノ主權ノ將來ノ運命ハ吾人ヲ圍繞スル海洋ノ上ニ存在ス何トナレバ「アメリカ」國土ノ保護ハ四周ノ海洋ノ安全ナクシテハ過去ニ於ケルガ如クニハ可能ナラザルベキヲ以テナリ

吾人ノ沿岸、吾人ノ都市更ニ吾人ノ首都ヨリスルモ僅ニ三「マイル」ニ過ギザル領水以外ノ海ハ吾人ノモノニ非ザルノミナラズ吾人ハ其處ニ於テハ吾人ノ主權、吾人ノ大陸ニ於ケル關係更ニ同一國ノ諸港間ノ海上交通ノ自由且平和的ナル發展ニ反對スル如何ナル行動ノ司配ノ下ニモ在ルモノナリ

故ニ吾人ハ「アメリカ」ノ政治的全體ノ不可分ノ一部トシテ大陸ノ領土保全ノ防衛ニ加フルニ大陸ノ水域ノ安全ヲ以テセザルベカラズ

四 「アメリカ」諸共和國ハ其ノ介入セザル戰爭狀態ノ存在スル間ニ於テハ必要ノ存在スルコトヲ決定スルトキハ何時ニテモ右ニ明定セラレタル區域内ニ於ケル其ノ海岸ノ隣接水域ヲ合意ニ依リ協定セラルベキ所ニ從ヒ個別のニ又ハ共同シテ且各國ノ手段及資源ノ許ス限ニ於テ警戒スルコトアルベシ

大陸ノ水域ニ關スル「ブラジール」國政府ノ宣言

「アメリカ」大陸ノ主權ハ協議、不干涉、調停、仲裁裁判ノ不可侵ナル基礎ノ上就中戰爭ノ敵ニシテ平和ノ友タル「アメリカ」諸國ノ平和的感情ノ上ニ根底ヲ有ス

吾人ハ「アメリカ」ニ於テハ相互ニ脅威ヲ感ズベキ何モノヲモ有セズ且有スルコトナカルベシ反對ニ吾人ハ相互ニ

「パナマ」會議ハ交戰國ハ「アメリカ」諸共和國ニトリ有用ノモノ又ハ直接且基本的ナル利害ヲ有スルモノト認メラルル「アメリカ」大陸隣接水域ノ限界内ニ在ル海上ニ於テハ如何ナル交戰的行爲又ハ活動ヲモ爲サザルベシトノ保障ヲ何レノ「アメリカ」共和國モ介入セザル戰爭ニ從事スル一切ノ交戰國ニ對シ要求シ且之ヲ右交戰國ヨリ受領セザルベカラズ

吾人ハ交戰國及將來ニ於テ今次ノ戰爭ニ參加スルコトアルベキ諸國ガ「パナマ」ニ於テ「モンロー」主義並ニ「ブエノス、アイレス」宣言及「リマ」宣言ノ補足トシテ爲サルベキ本宣言ヲ遵守シ且尊重スルコトヲ期待ス

吾人ハ大陸ノ水域ノ原則ガ他ノ諸國ノ主權ニ影響ヲ及ボスコトナカルベキコト寧ロ右原則ガ「アメリカ」諸國ノ主權ヲ保護シ且一切ノ國ノ平和的關係ニ資スベキコトヲ信ズ更ニ吾人ノ大陸ハ戰爭ノ衝突ガ吾人ノ海岸附近ニ及ボサレ其ノ結果吾人ノ靜謐ヲ攪亂シ吾人ノ中立的地位ヲ危殆ナラシメ又ハ複雑ナラシムルコトヲ防止スルコトニ依リ戰爭ノ

影響ヲ輕減スルノ權利ヲ有ス

「ブラジル」國ハ方式及語句ヲ問題トセズ且問題トシタルコトナシ然レドモ「ブラジル」國ガ大陸ノ水域ニ關シ提議シタル觀念ハ之ヲ擁護セントス何トナレバ「ブラジル」國ハ右原則ヲ以テ其ノ生存及他ノ「アメリカ」諸共和國ノ生存ニトシ有用ナルモノト認ムルヲ以テナリ
右ハ「ブラジル」國ノ表決及「パナマ」會議ニ於ケル其ノ代表ノ態度ノ基礎ナリ

又ハ屬地ノ存在ヲ認メザルコトヲ宣言シ且「マルヴィナス」ノ如キ島嶼及右帶域ノ内又ハ外ニ在ル他ノ何レカノ「アルゼンティン」國領域ニ對スル「アルゼンティン」共和國ノ正當ナル權原及權利ヲ其ノ儘特ニ留保シ且維持スルコトヲ附言ス

「グアテマラ」國外務大臣ノ 宣言

「アルゼンティン」國ノ「ドクトル、メーロ」閣下ノ宣言及留保ハ余ヲ促シテ「グアテマラ」國ノ爲ニ同様ノ宣言及留保ヲ提出セシムルモノナリ何トナレバ「グアテマラ」國ノ英帝國トノ紛議ハ同様ナルモノニシテ余ノ沈黙ハ現在論議中ノ正當ナル權利ノ拋棄ナリト解釋セラルルコトアルベキヲ以テナリ

「アルゼンティン」國代表ノ 宣言

「アルゼンティン」國代表ハ南「アメリカ」大陸隣接水域ニ於テハ即チ如何ナル敵對行爲モ行ハレザルモノトシテ明定セラレタル帶域中「アルゼンティン」共和國ニ該當スル領域タル海岸ノ範圍ニ於テハ「ヨーロッパ」諸國ノ殖民地

二、根據地租賃ニ關スル英米協定

海軍及空軍根據地ノ租賃ニ關スル英國「アメリカ」合衆國間交換公文

千九百四十年九月二日
「ワシントン」ニ於テ署名

英國大使ヨリ國務長官ニ宛テタル書翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ合衆國ノ國ノ安全ニ對スル聯合王國ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ノ友好的且同情的ナル關心竝ニ西半球ノ防衛ノ爲兩「アメリカ」ノ他ノ國ト有效ニ協力スルノ合衆國ノ能力ヲ強化スルノ右政府ノ希望ニ鑑ミ皇帝陛下ノ政府ハ「アヴァロン」半島竝ニ「ニューファウンドランド」ノ南方沿岸、「バーミユダ」島ノ東部沿岸及「バ

「バーミユダ」大灣（「グレート、ベイ、オヴ、バーミユダ」）ニ於ケル海軍及空軍ノ根據地竝ニ之ヘノ到達、之ガ運管及之ガ保護ノ爲ノ便益ノ即時ノ建設及使用ノ爲ノ租借權ヲ自由ニ且無償ニテ合衆國政府ニ對シ許與スルコトヲ確保スベキ旨ヲ皇帝陛下ノ外務大臣ヨリノ訓令ニ依リ貴國務長官ニ對シ通知スルノ光榮ヲ有シ候

尙又右ニ鑑ミ且「カリブ」海及英領「ギアナ」ニ於テ更ニ空軍及海軍ノ根據地ヲ獲得スルノ合衆國ノ希望ニ鑑ミ竝ニ關係アル多數ノ有形及無形ノ權利及財產ニ金錢的又ハ商業的價值ヲ附セント努ムルコトナクシテ皇帝陛下ノ政府ハ合衆國政府ガ皇帝陛下ノ政府ニ讓渡スベキ海軍及陸軍ノ裝備及資材トノ交換トシテ「パナマ」諸島ノ東側、「ジマイカ」島ノ南方沿岸、「セント、ルーシア」島ノ西方沿岸、「パリア」灣内ノ「トリニダッド」島西部沿岸、「アンティグア」島内及「ジョージタウン」ヨリ五十「マイル」以内ノ英領「ギアナ」ニ於ケル海軍及空軍ノ根據地竝ニ之ヘノ到達、之ガ運管及之ガ保護ノ爲ノ便益ヲ（註）即時ノ建設及

使用ノ爲合衆國ニ利用シ得ベカラシムベシ

註 英國政府發行ノ白書 Cmd 6224 ニ依ルトキハ此ノ

「ヲ」ハ「ノ」爲ルベシ

前諸項ニ掲ゲラルル一切ノ根據地及便益ハ右根據地及便益ノ建設ヨリ生ズル收容又ハ損害ニ依ル損失ヲ私有財産ノ所有者ニ對シ補償スル爲合衆國ガ支拂フベキ相互ニ協定セラレベキ補償金以外ノ一切ノ租借料及課金ヲ免除シテ九十九年間合衆國ニ對シ租賃セラルベシ

皇帝陛下ノ政府ハ協定セラルベキ租賃ニ於テハ租賃根據地内竝ニ右根據地ノ隣接又ハ附近ノ領水及空闊ノ限界内ニ於ケル一切ノ權利、權能及權力ニシテ右根據地ヘノ通路ヲ設ケ及右根據地ノ防禦ヲ施シ竝ニ右根據地ノ取締ノ爲ノ適當ナル規定ヲ設クルニ必要ナルモノヲ租賃期間中合衆國ニ對シ許與スベシ

租賃區域内ニ於ケル合衆國官憲ノ前記權利及右官憲ノ裁判管轄權ヲ害スルコトナクシテ右區域内ノ合衆國官憲ノ裁判管轄權ト右區域ノ存在スル地域ノ官憲ノ裁判管轄權トノ間

ノ調整及調停ハ合意ニ依リ決定セラルベシ
前記根據地、必要ナル向海、沿岸及對空防禦物ノ正確ナル位置及境界竝ニ充分ナル陸軍ノ守備所、貯藏所及他ノ必要ナル補助的便益ノ位置ハ合意ニ依リ決定セラルベシ
皇帝陛下ノ政府ハ之ガ爲合衆國ノ專門委員ト會合スベキ專門委員ヲ直ニ指名スルノ用意ヲ有ス右專門委員ガ何レカノ特定事態ニ關シ意見一致スルコト能ハザルトキハ「ニューファウンドランド」及「バミューダ」ニ關スル場合ヲ除クノ外問題ハ合衆國國務長官及皇帝陛下ノ外務大臣ニ依リ解決セラルベシ

本使ハ茲ニ貴國務長官ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百四十年九月二日「コロンビア」區

「ワシントン」英國大使館ニ於テ

ロ シ ア ン

在「コロンビア」區「ワシントン」

合衆國國務長官「コーデル、ハル」殿

國務長官ヨリ英國大使ニ宛テタル書翰

以書翰啓上致候陳者本官ハ左ノ本文ヲ有スル千九百四十年九月二日ノ貴翰ヲ受領致候

「此ノ處ニ前記書翰ノ本文入ル」

本官ハ貴官ニ對シ左ノ如ク回答スル様大統領ヨリ命ゼラレ候

合衆國政府ハ貴通報ニ掲ゲラルル皇帝陛下ノ政府ノ宣言及寬大ナル行動ヲ多トスルモノニ有之候右宣言及行動ハ合衆國ノ國ノ安全ヲ増大シ且西半球ノ防衛ノ爲兩「アメリカ」ノ他ノ國ト有效ニ協力スルノ合衆國ノ能力ヲ大ニ強化スルノ運命ヲ定ムルモノニ有之從テ合衆國政府ハ右提案ヲ欣然受諾致候

合衆國政府ハ茲許受領ヲ通告スル貴翰ニ掲ゲラルル海軍及空軍ノ根據地ノ正確ナル位置ヲ決定スル爲皇帝陛下ノ政府ニ依リ指名セラルル專門委員ト會合スベキ專門委員ヲ直ニ指名可致候

前記宣言ノ代價トシテ合衆國政府ハ一般ニ千二百トン型ト稱セラルル合衆國海軍驅逐艦五十隻ヲ直ニ皇帝陛下ノ政府ニ讓渡可致候

本官ハ茲ニ貴大使ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百四十年九月二日「ワシントン」國務省ニ於テ

コーデル、ハル

英國大使「オーダー、オヴ、ザ、コンパニオンズ、

オヴ、オナー」「ロシアン」侯閣下

三、米國の所謂武器貸與法

米國武器貸與法（正式ノ名稱

ハ米國國防促進法）

（一九四一年三月十一日成立）

第一條 本法ハ米國國防促進法ト稱ス、アメリカ合衆國上

院及ビ下院ハ本法ヲ制定ス

第二條 (甲) 本法ニ國防器材トハ

- 一 各種武器、彈藥、飛行機、船舶
- 二 本項(甲)ニ規定セル各種器材ノ製造、生産、加工、修繕、配給、運用等ニ必要ナル各種機械、設備、用具、資材、豫備品

三 本項(甲)ニ規定セル各種構成資材、部分品、裝備品

四 國防ノ爲ノ「農業用、工業用」若シクハソノ他ノ用品乃至物品

以上國防器材トハ本項(甲)規定ノ諸品目ニシテ第三條ニ基キ製造又ハ入手セラレタルモノ若シクハ米國乃至任意ノ外國政府ガソノ權利、所有權又ハ支配權ヲ現ニ有シ或ハ將來之ヲ取得スヘキモノヲ言フ

(乙) 本法ニ「國防情報」トハ各種國防器材ノ設計圖、說明書意匠、模型乃至情報ヲ言フ

第三條 (甲) 現行ノ如何ナル他ノ法律ノ規定ニ牴觸スル

モ處分スルコトヲ得ス、本項(二)ノ權限ニヨル何等カノ方法ニヨリ處分セラルヘキ、且本項(二)ノクメニ計上セラレタル支出ニヨリ入手セラルヘキ國防器材ノ價格ハ、十三億弗ヲ越ユルコトヲ得ス、右國防器材ノ價格評價ハ、關係行政省乃至政府機關ノ長官、又ハ本法ニ基キ公布セラルヘキ細則ノ規定スル方法ニヨリ指定セラルヘキ行政省、政府機關、乃至事務局ニヨリ行ハルヘキモノトス、本法ニ依リ計上セラレタル支出ニヨルニ非スシテ、今後各省乃至政府機關ニ對シ計上セラルヘキ支出ニヨリ入手セラルル國防器材ノ處分ハ、本項(二)ノ權限ニ基キテハ之ヲ爲スコトヲ得ス、但シ、右支出方乃至ソノ他ノ方法ニツキ今後議會ノ協賛アリタルトキハソノ範圍内ニ於テハ、右ノ限リニ非ス

三 右ノ如キ外國政府ノ爲ニ各種國防器材ヲ試驗、修繕、裝備、再製、乃至其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ機能ヲ復活セシムルコト、但シ右ハ議會カ右目的ノクメニ協

ト否トヲ問ハス、大統領ハ國防上必要ト認メタル時ハ陸軍長官、海軍長官若シクハ其ノ他ノ各省又ハ政府機關ノ長官ニ對シ隨時次ノ如キ權限ヲ賦與スルコトヲ得

- 一 外國政府ニシテソノ防衛カ米國國防上絕對必要ナリト大統領カ認メタルモノノ爲ニ、各長官カソノ管轄下ニ屬スル兵器廠、工場、造船所ニ於テ各種國防器材ヲ製造シ、若シクハソノ他ノ方法ニヨリ之ヲ入手スルコト

但シ、右製造乃至入手ハ、議會カ右目的ノクメニ協賛セル支出、若シクハソノ隨時賦與セル契約權限ノ範圍、又ハ兩者ノ範圍ヲ越ユルコトヲ得ズ

- 二 右ノ如キ外國政府ノ爲ニ、各種國防器材ヲ賣却、讓渡、交換、貸與、又其ノ他ノ方法ニヨリ處分スルコト、但シ、本項(一)ノ規定ニ基キテ製造乃至入手セラレタルニ非ラザル國防器材ハ、陸軍參謀總長若シクハ海軍作戰部長、又ハ兩者ト合議スルニ非ラサレハ、之ヲ本項(二)ニヨル如何ナル方法ニヨツテ

贊セル支出、若シクハ、ソノ隨時賦與セル契約權限ノ範圍、又ハ兩者ノ範圍ヲ越ユルコトヲ得ス、又右ノ如キ外國政府ノ爲ニ、私的契約ニヨリ、右ノ如キ便益ノ一、若シクハ總テヲ獲得スルコト

四 本項(二)ノ規定ニ基キ、右ノ如キ外國政府ニ供與サル各種國防器材ニ關スル國防情報ヲ右ノ政府ニ送達スルコト

五 右ノ如キ政府ニ對シテ本項(甲)ノ規定スル方法ニヨリ處分セラレタル各種國防器材ノ輸出ヲ許可スルコト

(乙) 右外國政府カ本條(甲)號規定ノ援助ヲ受クヘキ條件ハ大統領カ適當ト認メタルモノナルコトヲ要シ、且米國ニ對スル代價ハ、物品若シクハ財産ヲ以テスル支拂乃至辨償、或ハ大統領カ米國ニ取り適當ト認メタルソノ他直接間接ノ利益ヲ以テスルコトヲ得

(丙) 一九四三年六月三十日ヲ限リトシテ、若シクハ、本條(甲)項ノ賦與シ又ハ之ニ基ク權限カ最早合衆國

防促進ノタメ必要ナラスト宣言スル本法關係決議カ一九四三年六月三十日以前ニ兩院ヲ通過スル場合ハ右ヲ限リトシテ、大統領及ヒ各省乃至政府機關長官ハ本條(甲)項ノ賦與シ又ハ之ニ基ク權限ヲ行使シ得サルモノトス、但シ一九四三年七月一日以前、若シクハ右ノ如キ關係決議ノ通過以前ニ前記外國政府トノ協定乃至契約ノ取極メアル場合ニ於テハ右協定乃至契約ヲ遂行スルニ必要ナル限リニ於テ、一九四六年七月一日マテ右權限ヲ行使シ得ルモノトス

(丁) 本法ノ如何ナル條項モ、合衆國海軍艦艇ニヨル護送ノ權限ヲ賦與シ乃至許可セルモノト解スルコトヲ許サス

(戊) 本法ノ如何ナル條項モ、アメリカノ船舶カ一九三九年ノ中立法第三條ノ規定ニ反シテ戰鬪區域ニ入ル權限ヲ賦與シ乃至許可セルモノト解スルコトヲ許サス

第四條 第三條ニ規定セル國防器材或ハ國防情報等ノ處分ノタメ結ハレル一切ノ契約乃至協定中ニ、右外國政府ハ

大統領ノ承諾ヲ得サル限リ、贈與、賣却其他ノ方法ニヨリ國防器材乃至國防情報ノ權利若クハ所有權ヲ他ニ移轉セス、又ソノ使用ヲ右外國政府ノ官憲使用人或ハ代理人以外ノ何人ニ對シテモ許可セストノ一項ヲ包含スルコトヲ要ス

第五條 (甲) 陸軍長官、海軍長官及ヒソノ他關係各省並ニ政府各機關ノ長官ハ、上記國防器材乃至國防情報ノ輸出ニ際シ、一九四〇年七月二日ノ法律第六條ノ規定ニ基キ大統領ノ指定セル各省或ハ政府機關ニ對シ、直チニソノ數量、性質、價格、處分ノ條件、目的地等ヲ報告スルコトヲ要ス

(乙) 大統領ハ、ソノ公表カ公共ノ利害ニ背馳セスト認メタル限リニ於テ、本法實施ニ關スル報告書ヲ隨時議會ニ提出スヘキモノトス、但シ右ハ最小限九十日ニ一度宛テ之ヲナスコトヲ要ス、本項規定ニ基キ提出セラルル報告書ハ上院若シクハ下院ノ開會中ニ非ラサル場合ハ時宜上院書記局長若シクハ下院書記局長ニ提出セラルヘキモノ

トス

第六條 (甲) 大統領ハ、國庫資金中、別途費目ニ計上セラレサル支出ハ、之ヲ本法ノ條項ヲ施行シ且ソノ目的ヲ達成スルタメニ必要ナル額ニ限リ、隨時使用スル權限ヲ附與セラル

(乙) 第三條ノ規定ニ基キ外國政府ヨリ受理セル金銀及ビ金銀ニ換算セラレタル財産ハ、豫算局長ノ認可ヲ經タル上、夫々當該國防器材或ハ國防情報ニ關シ支出セラレタル經費ノ屬セシ會計ニ歸スヘク、且右金銀及ヒ財産ハソノ受理セラレタル會計年度及ビ翌會計年度内ニ於テ、此ノ種支出カ法律ニヨリ豫算ニ計上セラレタル目的ノタメ使用セラレ得ヘキモノトス、但シ受理セラレタル右金銀乃至財産ハ、如何ナル場合タルトヲ問ハス、一九四六年六月三十日以後ニ於テハ之ヲ支出ニ計上スルコトヲ得ス

第七條 陸軍長官、海軍長官並ニ各省及ビ各政府機關ノ長官ハ各種國防器材又ハ國防情報ノ處理ニ關スル契約若シ

クハ協定ヲ締結スルニ際シテハ、本法ニヨリ處理ヲ許可セラレタル器材若シクハ情報ノ特許權ヲ所有スル米國市民ノ權利ヲ充分保護スベシ、カカル特許權ノ使用料ノ支拂ヲ受ケタル時ハコレヲ右特許權保持者ニ支拂フベシ

第八條 陸軍長官並ニ海軍長官ハ大統領ガ米國國防上必要ト認メタル場合ハ第三條ノ適用サルベキ國家ノ管轄下ニ於テ生産サレル武器彈藥軍用器材ヲ購入若シクハソノ他ノ方法ニヨリ取得スル權限ヲ有ス

第九條 大統領ハ本邦ノ各條項ヲ實施スルニ必要又ハ適當ナル施行細則ヲ隨時公布シ且ツソノ監督ニ屬スル各省、政府機關、官吏ヲシテ、本法ニヨリ大統領ニ附與セラレタル權能乃至權限ヲ行使セシムルコトヲ得

第十條 本法ノ如何ナル條項モ合衆國陸海軍ノ使用ニ付國防器材ノ製造入手及修繕、情報ノ傳達及本法ニ學ケラレタル他ノ非戰鬪的目的ニ關スルモノヲ除キ現行法ヲ變更セルモノト解スルコトヲ許サズ

適用力無效トナリタル場合ト雖モ本法殘餘ノ規定及右規定ノ他ノ事態ヘノ適用ハ右ニ依リ影響セララルコトナカルベシ

テ發表セラレタル制限ヲ內國法規ニ依リ自國民ニ自發的ニ課スルモノナルニ因リ
斯クスルコトニ依リ合衆國ハ國際法ニ依ル自國ノ權利若ハ特權又ハ自國民ノ權利若ハ特權ノ何レヲモ拋棄セズ且自國及自國民方國際法ニ依リ與ヘラレ居ル一切ノ權利及特權ヲ明白ニ留保スルモノナルニ因リ

四、米國ノ所謂中立法

米國中立法

一九三九年十一月四日制定
一九四〇年六月二十六日
一九四一年八月二十七日
一九四二年二月二十三日
一部修正

合衆國ノ中立及平和ヲ保持シ且其ノ人民ノ安全及利益ヲ確保スル

共同決議

合衆國ハ外國間ノ戰爭ニ於テ自國ノ中立ヲ保持センコトヲ欲シ且又戰爭ヘノ參加ヲ避ケンコトヲ欲シ本共同決議ニ於

合衆國ハ合衆國及其ノ國民ノ平和、安全又ハ安寧ノ爲ニ本共同決議又ハ他ノ內國法規ヲ廢止シ、變更シ又ハ修正スルノ權利ヲ茲ニ明白ニ留保スルモノナルニ因リ
「アメリカ」合衆國ノ上院及下院ハ召集セラレタル議會ニ於テ左ノ如ク決議セリ

第一節 外國間ノ戰爭狀態ノ布告

(イ) 大統領又ハ一致セル決議ヲ以テ議會ガ外國間ノ戰爭狀態ノ存在及合衆國ノ安全ノ助長若ハ其ノ平和ノ保持又ハ合衆國人民ノ生命ノ保護ノ必要ヲ認ムルトキハ大統領ハ該戰爭參加國ヲ指定セル布告ヲ發スベク且他國ノ該戰

爭ヘノ參加ニ從ヒ右國名ヲ隨時布告ヲ以テ指定スベシ

(ロ) 大統領ハ本節ニ依リ布告ヲ發スルニ至リタル戰爭狀態ガ右布告記載ノ國ニ關シ存在セザルニ至レルトキハ其ノ國ニ關シ右布告ヲ取消スベシ

第二節 武力紛爭ニ從事スル國トノ通商

(一九四一年十一月十三日(イ)(ロ)削除)

〔舊法文〕(イ) 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後「アメリカ」船舶ガ右布告記載ノ國ニ旅客又ハ物品若ハ材料ヲ運送スルコトハ不法タルベシ

(ロ) 何人タルヲ問ハズ本節(イ)ノ規定又ハ之ニ基キ發セラレタル規則ニ違反スル者ハ右違反ニ付有罪判決アリタルトキ五萬「ドル」以下ノ罰金若ハ五年以下ノ禁錮又ハ其ノ雙方ニ處セラルベシ右違反ガ法人、團體又ハ協會ニ依リ行ハレタルトキハ其ノ役員又ハ理事者ニシテ右違反ニ參

加シタルモノノ各方本節ニ定メラルル刑罰ニ處セラルベシ

(ハ) 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後如何ナル物品又ハ材料(著作権アル物品又ハ材料ヲ除ク)タルヲ問ハズ之ヲ合衆國ヨリ右布告記載ノ國ニ輸出若ハ輸送シ、輸出若ハ輸送センコトヲ企テ又ハ輸出若ハ輸送セシムルコトハ右物品又ハ材料ニ關スル一切ノ權利、權原及利益ガ外國ノ政府、代理人、施設、協會、組合、法人又ハ國民ニ移轉セラルル迄ハ不法タルベシ輸出又ハ輸送セラルベキ物品又ハ材料ノ運送人ヘノ引渡ト同時ニ該物品又ハ材料ニ關スル權原ガ無條件ニテ外國ノ購入者ニ移轉スル船荷證券ノ發行ハ本項ノ意義ニ於ケル該物品又ハ材料ニ關スル一切ノ權利、權原及利益ノ移轉ヲ構成スベシ右物品又ハ材料ノ積出人ハ右物品又ハ材料ニ關スル權利、權原及利益ノ移轉ニ關シテハ本項ノ要求ニ從ヒタル旨並ニ隨時公布セラルベキ命令及規則ニ從フベキ旨ノ宣誓セル申告書ヲ右物品又ハ材料ノ輸出港又ハ輸

出ノ際ノ通過港ノ徵稅官ニ提出スルコトヲ要求セラルベシ
 シ斯ク提出セラレタル申告書ハ合衆國人民方右申告書提出ヲ知り居タルトキハ右物品又ハ材料ニ關スル權利、權原又ハ利益ニ付テノ右合衆國人民ノ請求權ニ對スル決定、的禁反言タルベク又本項ニ依リ要求セララルル申告書ノ提出ナクシテ物品又ハ材料ヲ輸出シ又ハ輸送スルコトハ合衆國人民方此ノ違反ヲ知り居タルトキハ右物品又ハ材料ニ關スル權利、權原又ハ利益ニ付テノ右合衆國人民ノ請求權ニ對スル決定、的禁反言タルベシ右人民ノ蒙レル損害ニシテ(一)右物品又ハ材料ニ關スル權利、權原及利益ノ賣却又ハ移轉ニ關スルモノ又ハ(二)右ノ著作權アル物品又ハ材料ノ輸出又ハ輸送ニ關スルモノハ合衆國政府ノ提出スル要求ノ基礎タラザルモノトス

(ニ)本共同決議ノ規定ニ基キ制限ヲ課セラルル積荷中ニ包含セラルル物品又ハ材料及右積荷ヲ運送スル船舶ニ對シ保險業者ノ引受ケタル保險ハ右物品又ハ材料及船舶ニ付テノ「アメリカ」人ノ利益トハ看做サレズ且右物品又

ハ材料若ハ船舶ニ對シ發給セラレタル保險證書及之ニ基キテ生ジタル又ハ右船舶所有者ノ蒙レル損害ハ合衆國政府ノ提出スル要求ノ基礎タラザルモノトス

(ホ)第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告ガ何レカノ國ニ關シ取消サレタルトキハ本節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ關スル場合ヲ除クノ外右ノ國ニ關シ取消ト同時ニ適用ナキニ至ルベシ

(ヘ)本節(イ)ノ規定ハ合衆國ノ國境ニ在ル湖河川及内水ニ於ケル又ハ之ヲ越ユル「アメリカ」船舶ニ依ル輸送並ニ合衆國ノ國境地帯ニ於ケル又ハ之ヲ越ユル航空機ニ依ル輸送ニハ適用セラレザルモノトス又本節(ハ)ノ規定ハ(一)第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セララルル物品以外ノ物品又ハ材料ノ右ノ如キ輸送又ハ(二)第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セララルル物品以外ノ物品又ハ材料ノ合衆國ノ國境地帯ニ於ケル又ハ之ヲ越ユル他ノ輸送ニモ適用セラレザルモノトス又本

節(イ)及(ハ)ノ規定ハ第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セララルル物品又ハ材料ガ「アメリカ」ノ船舶、航空機又ハ他ノ運送手段ノ操作及維持ニ關シテノミ使用セララルル場合ニハ斯ク表記セラレタル物品又ハ材料ノ本項並ニ(ト)及(チ)ニ掲ゲラルル輸送ニハ適用セラレザルモノトス

(ト)本節(イ)及(ハ)ノ規定ハ「アメリカ」船舶(航空機以外ノ)ニ依ル郵便物、旅客又ハ物品若ハ材料(第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セララルル物品又ハ材料ヲ除ク)ノ(一)北緯三十五度以南ノ西半球ニ在ル港、(二)北緯三十五度以北ニシテ西經六十六度以西ノ西半球ニ在ル港、(三)支那海、「タスマン」海、「ベンガル」灣及「アラビヤ」海ヲ含ム太平洋又ハ印度洋並ニ右ノ海洋、海又ハ灣ノ何レカニ附屬スル他ノ水面ニ在ル港又ハ(四)北緯三十度以南ノ大西洋又ハ之ニ附屬スル水面ニ在ル港ヘノ輸送ニハ適用セラレザルモノトス本項ニ包含セララルル例外ハ右船舶

ニ適用セララルベキ第三節ニ於テ定メラルル交戰區域内ニ在ル港ニハ適用セラレザルモノトス

(チ)本節(イ)及(ハ)ノ規定ハ航空機ニ依ル郵便物、旅客又ハ物品若ハ材料(第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セララルル物品又ハ材料ヲ除ク)ノ(一)西半球ニ在ル港又ハ(二)支那海、「タスマン」海、「ベンガル」灣及「アラビヤ」海ヲ含ム太平洋又ハ印度洋並ニ右ノ海洋、海又ハ灣ノ何レカニ附屬スル他ノ水面ニ在ル港ヘノ輸送ニハ適用セラレザルモノトス本項ニ包含セララルル例外ハ右航空機ニ適用セララルベキ第三節ニ於テ定メラルル交戰區域内ニ在ル港ニハ適用セラレザルモノトス

(リ)(ト)及(チ)ノ規定ノ適用ヲ受クル「アメリカ」船舶及(ヲ)ノ規定ノ適用ヲ受クル中立國船舶ハ合衆國ノ港又ハ管轄區域ヨリ出發スルニ先チ(一)右船舶ガ載荷トシテ運送スル一切ノ物品及材料ノ完全ナル表記並ニ右ノ一切ノ物品及材料ノ荷受人ノ氏名住所及(二)右物品

及材料方荷揚セラルベキ港並ニ右船舶ノ寄港地ヲ記載セ
ル宣誓書ヲ出發港ノ稅關徵稅官ニ又ハ右出發港ニ徵稅官
アラザル場合ニハ最寄ノ徵稅官ニ提出スベシ本節(ヘ)、
(ト)、(チ)及(ヲ)ニ掲ゲラルル一切ノ輸送ハ大統領
方定ムベキ制限、命令及規則ニ從フベシ但シ本節(ト)、
(チ)及(ヲ)ノ規定ニ基キ除外セラルル輸送ニ關シ生
ジタル損害ハ合衆國政府ノ提出スル要求ノ基礎タラザル
モノトス

(ヌ) 第一節(イ)ニ依リ發セラレタル一切ノ布告ヲ取消
サレタルトキハ本節(ヘ)、(ト)、(チ)、(リ)及(ヲ)
ノ規定ハ失効スベシ

(ル) 本節ノ規定ハ(一)本共同決議ノ制定ノ日又ハ(二)
本共同決議ノ第一節(イ)ニ依リ右ノ日以後ニ發セラル
ル布告ニ先チ外國港ニ向ケ出港手續ヲ爲シテ合衆國ノ港
又ハ管轄區域ヨリ出發シタル「アメリカ」船舶ノ現ニ繼
續中ノ航海ニハ適用セラレザルモノトス但シ右船舶ハ右
制定又ハ布告ノ日以後ハ自己ノ危險ニ於テ進航スベク且

右制定又ハ布告ノ日以後ニ右船舶又ハ其ノ載荷ニ關シ生
ジタル損害ハ合衆國政府ノ提出スル要求ノ基礎タラザル
モノトス

(ヲ) 本節(ハ)ノ規定ハ中立國船舶ニ依ル物品又ハ材料
(第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ之ニ依リ發セラル
ル布告ニ表記セラルル物品又ハ材料ヲ除ク)ノ本節(ト)
ニ掲ゲラルル港ヘノ輸送ニハ該港ガ「アメリカ」船舶ニ
適用セラルベキ第三節ニ於テ定メラルル交戰區域内ニ在
ラザル限り適用セラレザルモノトス

第三節 交戰區域

(一九四一年十一月十三日削除)

〔舊法文〕(イ) 大統領ハ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シ

タル後合衆國人民ノ保護ノ爲ニ必要アリ
ト認ムルトキハ布告ニ依リ交戰區域ヲ定
ムベシ右布告アリタルトキハ爾後合衆國
人民又ハ「アメリカ」船舶ガ右交戰區域
ニ立入り又ハ之ヲ通過スルコトハ定メテ

ルコトアルベキ命令及規則ニ從フ場合
ヲ除クノ外不法タルベシ斯ク定メラルル
交戰區域ハ水上船舶若ハ航空機又ハ其ノ
雙方ニ適用アルモノトセラルルコトヲ得

(ロ) 「アメリカ」船舶又ハ其ノ所有者若ハ職員

本節ノ規定ニ違反セルトキハ右ノ船舶、
其ノ所有者又ハ職員ハ五萬「ドル」以下
ノ罰金若ハ五年以下ノ禁錮又ハ其ノ雙方
ニ處セラルベシ右船舶ノ所有者ガ法人、
團體又ハ協會ナルトキハ右違反ニ參加シ
タル其ノ各役員又ハ理事者ガ本節ニ定メ
ラルル右ノ刑罰ニ處セラルベシ旅客トシ
テ旅行シツツアル人民本節ノ規定ニ違反
セルトキハ右旅客ハ一萬「ドル」以下ノ
罰金若ハ二年以下ノ禁錮又ハ其ノ雙方ニ
處セラルベシ

修正シ又ハ擴大スルコトヲ得ベク且右布
告ヲ發スルニ至リタル條件ヲ存在セザル
ニ至レルトキハ右布告ヲ取消スベク且本
節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ
關スル場合ヲ除クノ外右取消ト同時ニ適
用ナキニ至ルベシ

第四節 「アメリカ」赤十字

第二節(イ)ノ規定ハ第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布
告記載ノ國ノ與フル護照ノ下ニ進航スル「アメリカ」赤十
字ノ備船セル又ハ其ノ他ノ指揮及監理ノ下ニ在ル船舶ニ依
ル人類ノ苦惱ノ救濟ノ爲ノ官吏及「アメリカ」赤十字職員、
醫員並ニ醫療用品、食物及衣服ノ輸送ヲ禁止セザルモノト
ス

(註) 本條は一九四〇年六月及八月に於て二項目を附加せ
られたるも一九四一年の交戰水域立入禁止條項廢止
に因り該追加條項は事實上效力を喪失せるものと看
做すべく、追加條項の略意は左の如くである。

(一) (一九四〇年六月二十六日追加) 封鎖國官憲の許可なきときは如何なる米國赤十字船と雖も封鎖地域に入ることを得ざること

(二) (一九四〇年八月二十七日追加) 十六歳以下の避難兒童を輸送する一定の條件の下にある船舶に對しては第二條(イ)及第三條の規定を適用せざること

第五節 交戰國船舶ニ依ル旅行

(イ) 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後合衆國人民ガ右布告記載ノ國ノ船舶ニ依リ旅行スルコトハ定メラルルコトアルベキ命令及規則ニ從フ場合ヲ除クノ外不法タルベシ

(ロ) 第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告ガ何レカノ國ニ關シ取消サレタルトキハ本節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ關スル場合ヲ除クノ外右ノ國ニ關シ取消ト同時ニ適用ナキニ至ルベシ

第六節 「アメリカ」商船ノ武裝ノ禁止

政治的小分域又ハ其ノ爲ニ若ハ之ニ代リ行動スル者ニ貸付ヲ爲シ又ハ信用(電信、海底電信、無線電信及電話ノ通信業務ニ關シテ生ズル必然的ノ信用ヲ除ク)ヲ供與スルコトハ不法タルベシ本項ノ規定ハ合衆國內ニ在ル者ガ右布告記載ノ國ニ在ル者ニ對シテ行フ第十二節(リ)ニ掲ゲラルル布告又ハ同項ニ依リ發セララルル布告ニ表記セラレタル物品又ハ材料ノ賣却ニモ亦適用セララルベシ

(ロ) 本節ノ規定ハ右布告ノ日ニ存在スルコトアルベキ負債ノ更新又ハ整理ニハ適用セラレザルモノトス

(ハ) 何人タルヲ問ハズ本節ノ規定又ハ之ニ基キ發セララルル規則ノ規定ニ故意ニ違反スル者ハ右違反ニ付有罪判決アリタルトキ五萬(ドル)以下ノ罰金若ハ五年以下ノ

(一九四一年十一月十三日削除)

〔舊法文〕 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後右布告ノ取消ニ至ル迄ハ外國トノ通商ニ從事スル「アメリカ」船舶ノ武裝ハ右船舶用ノ小型兵器及彈藥ニシテ大統領ガ該船舶内ノ規律維持ノ爲必要ト思考シ且公ニ指定スベキモノヲ除キ不法タルベシ

第七節 金融上ノ取引

(一九四二年二月二十三日削除)

〔舊法文〕(イ) 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後合衆國內ニ在ル何人ト雖モ右布告記載ノ國ノ政府、又ハ該國ノ政治的小分域又ハ右政府若ハ政治的小分域ノ爲ニ若ハ之ニ代リ行動スル者ノ公債、證券又ハ其ノ他ノ債務證書ニシテ右布告ノ日以後ニ發セラレタルモノヲ購入、賣却又ハ交換スルコト又ハ右ノ如キ政府、

禁錮又ハ其ノ雙方ニ處セララルベシ右違反ガ法人、團體又ハ協會ニ依リ行ハレタルトキハ其ノ役員又ハ理事者ニシテ右違反ニ參加シタルモノノ各ガ本節ニ定メラルル刑罰ニ處セララルベシ

(ニ) 第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告ガ何レカノ國ニ關シ取消サレタルトキハ本節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ關スル場合ヲ除クノ外右ノ國ニ關シ右取消ト同時ニ適用ナキニ至ルベシ

第八節 基金及贖金ノ勸誘及募集

(イ) 大統領ガ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ爾後合衆國內ニ在ル何人ト雖モ右布告記載ノ國ノ政府ノ爲ニ若ハ之ニ代リ又ハ該國ノ代理人若ハ被依囑者ノ爲ニ若ハ之ニ代リ贖金ノ勸誘ヲ爲シ又ハ之ヲ受領スルコトハ不法タルベシ

(ロ) 人類ノ苦惱救済ノ爲醫療上ノ救援及救助ノ用ニ又ハ

食物及衣服ノ用ニ供セラルベキ基金及贖金ノ勸誘又ハ募集ガ右政府ノ爲ニ若ハ之ニ代リ行動スルニ非ザル者又ハ團體ノ爲ニ爲サレ且其ノ使用ニ供スルモノナルトキハ本節ハ之ヲ禁止スルモノト解セラレザルモノトス但シ一切ノ右ノ如キ基金及贖金ノ勸誘及募集ハ定メラルルコトアルベキ命令及規則ニ從フベシ

(ハ) 第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告ガ何レカノ國ニ關シ取消サレタルトキハ本節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ關スル場合ヲ除クノ外右ノ國ニ關シ右取消ト同時ニ適用ナキニ至ルベシ

第九節 「アメリカ」大陸ノ諸共和國

本共同決議(第十二節ヲ除ク)ハ「アメリカ」大陸以外ノ一又ハ二以上ノ國トノ戰爭ニ從事スル「アメリカ」大陸ノ共和國ニ對シテハ適用ナキモノトス但シ該共和國ガ右戰爭ニ於テ「アメリカ」大陸以外ノ一又ハ二以上ノ國ト協同シ居ラザル場合ニ限ル

第十節 「アメリカ」諸港ノ使用制限

ノ軍艦、附屬船又ハ補給船ニ供給セザルノ條件ノ下ニ大統領ノ適當ト思考スル金額ノ保證ヲ充分ナル擔保ト共ニ合衆國ニ差出スベキコトヲ合衆國ノ港又ハ其ノ管轄區域ヨリノ出發前ニ船舶所有者、船長又ハ指揮者ニ要求スルノ權能ヲ有シ且之ヲ爲スベキ義務ヲ負フ

(ロ) 大統領又ハ大統領ニ依リ特ニ權限ヲ付與セラレタル者ハ合衆國ノ港ニ在ル内國又ハ外國ノ船舶ガ曩ニ右戰爭中合衆國ノ港又ハ其ノ管轄區域ヨリ出發シテ第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告記載ノ國ノ軍艦、附屬船又ハ補給船ニ人員、燃料、需品、通報、情報又ハ其ノ載荷ノ一部ヲ供給シタルコトヲ知ルトキハ右戰爭ノ繼續中右船舶ノ出發ヲ禁止スルコトヲ得

(ハ) 大統領ハ第一節(イ)ニ依リ布告ヲ發シタルトキハ右布告ガ效力ヲ有スル間外國又ハ内國ノ船舶所有者、船長又ハ指揮者ニ對シ合衆國ヨリノ出發前、該船舶ニテ到着シタル外國ノ船員ガ千九百十七年二月五日ノ移民法第三十三節(合衆國法典第八編第一六八節)ニ從ヒ發セラ

(イ) 合衆國ガ中立國タル戰爭中大統領又ハ大統領ニ依リ特ニ權限ヲ付與セラレタル者ニ於テ、出港免許狀ヲ要スルモノナルト否トヲ問ハズ内國又ハ外國ノ船舶ガ燃料、人員、兵器、彈藥、軍用器材、需品、通報又ハ情報ヲ合衆國ノ港ヨリ又ハ其ノ管轄區域ヨリ第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告記載ノ國ノ軍艦、附屬船又ハ補給船ニ運バントシツツアリト信ズベキ理由アルモノ千九百十七年六月十五日裁可セラレタル法律第三十章第五編第一節(法令集第四〇卷第二一七節及二二二節、合衆國法典一九三四年版第一八編第三一節)ニ依リ規定セララルル所ニ從ヒ右船舶ノ出港ヲ禁止スルコトヲ正當タラシムルニハ證據不充分ナリト思考シ、而モ大統領ニ於テ右ノ措置ガ合衆國ト外國トノ間ノ平和ヲ維持シ、合衆國及其ノ人民ノ通商上ノ利益ヲ保護シ又ハ合衆國ノ安全若ハ中立ヲ助長スルニ役立つベシト判斷スルトキハ大統領ハ當該船舶ガ人員又ハ燃料、需品、通報、情報若ハ載荷ノ如何ナル部分ヲモ第一節(イ)ニ依リ發セラレタル布告記載ノ國

レ隨時修正セラレタル規則ニ依リ許可セララルル期間ヲ超エテ合衆國內ニ留マラザルコトヲ條件トシテ、大統領ノ適當ト思考スル金額ノ保證ヲ充分ナル擔保ト共ニ合衆國ニ差出スベキコトヲ要求スルコトヲ得前記移民法第三十三節ノ規定ニ拘ラス大統領ハ右船舶所有者、船長又ハ指揮者ノ負擔ニ於テ右船舶又ハ其ノ他ノ船舶ニ依ル右ノ如キ船員ノ出發ヲ保證スル爲必要ナリト思考スルトキハ右ノ如キ船員ノ上陸ニ關シ規則ヲ發スルコトヲ得

第十一節 潜水艦及武裝商船

合衆國ガ中立國タル戰爭中大統領ニ於テ外國ノ潜水艦又ハ武裝商船ニ依ル合衆國ノ港及領水ノ使用ニ對シ特別ノ制限ヲ加フルコトガ合衆國ト外國トノ間ノ平和ヲ維持シ、合衆國及其ノ人民ノ通商上ノ利益ヲ保護シ又ハ合衆國ノ安全ヲ助長スルニ役立つベキコトヲ認メ右ノ制限ノ布告ヲ爲ストキハ爾後大統領ノ定ムルコトアルベキ條件及制限ニ從フ場合ヲ除キ右潜水艦又ハ武裝商船ガ合衆國ノ港又ハ領水ニ入り又ハ之ヨリ出發スルコトハ不法タルベシ大統領ハ布告ヲ

發スルニ至リタル條件ガ存在セザルニ至レリト判斷スルトキハ其ノ布告ヲ取消スベク且本節ノ規定ハ右取消前ニ行ハレタル違反ニ關スル場合ヲ除クノ外右取消ト同時ニ適用ナキニ至ルベシ

第十二節 合衆國軍需品統制院

(イ) 茲ニ合衆國軍需品統制院(以下「統制院」ト稱ス)ヲ設置ス統制院ハ其ノ議長兼執行委員タルベキ國務長官、大藏長官、陸軍長官、海軍長官及商務長官ヲ以テ組織セラルベシ本節又ハ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本節ノ運用ノ權限ハ國務長官ニ付與セラル國務長官ハ本節ノ施行ニ關スル規則及命令ニシテ本節ノ規定ノ實施ニ必要ナリト思考スルモノヲ公布スベシ統制院ハ議長ニ依リ招集セラレ且少クトモ年一回會議ヲ開催スベシ
(ロ) 輸出業者、輸入業者製造業者又ハ商人ノ何レタルヲ問ハズ本節(リ)ニ掲グルタル布告又ハ同項ニ基キ發セラルル布告ニ表記セラルル兵器、彈藥又ハ軍用器材ノ製造、輸出、又ハ輸入業務ニ從事スル一切ノ者ハ其ノ氏名

又ハ商號、主タル營業所及合衆國ニ於ケル營業所並ニ其ノ製造、輸入又ハ輸出スル兵器、彈藥及軍用器材ノ一覽表ヲ國務長官ノ許ニ登錄スベシ

(ハ) 本節ニ基キ登錄ヲ要スル者ハ其ノ輸出、輸入又ハ製造スル兵器、彈藥又ハ軍用器材ニ關スル如何ナル變更ヲモ國務長官ニ通告スベシ又右通告アリタルトキハ國務長官ハ修正セラレタル登錄證明書ヲ無料ニテ右ノ者ニ發給スベク右證明書ハ原證明書ノ期間滿了ノ日迄引續キ效力ヲ有スベシ本節ノ規定ニ基キ登錄ヲ要求スル者ハ百「ドル」ノ登錄稅ヲ支拂フベシ所要ノ登錄稅ヲ受領シタルトキハ國務長官ハ五年間有效ナル登錄證明書ヲ發給スベク右證明書ハ各更新ニ對シ百「ドル」ノ手數料ヲ支拂ヒテ五年毎ニ更新セラレ得ベシ但シ千九百三十五年八月三十一日ノ共同決議ノ第二節又ハ修正セラレタル千九百三十五年八月三十一日ノ共同決議ノ第五節ニ依リ發給セラレタル有效ナル登錄證明書(修正セラルタル證明書ヲ含ム)ハ追加登錄稅ヲ支拂フコトナクシテ本項ニ依リ發給セラ

レタル有效ナル登錄證明書ト看做サルベク且本共同決議ガ制定セラレザリシ場合ト同様所定ノ期間引續キ效力ヲ有スベシ

(ニ) 國務長官ニ購入者名及販賣條件ヲ申告シ免許狀ヲ得タル後ニ非ザレバ何人ト雖モ本節(リ)ニ掲グルタル布告又ハ同項ニ依リ發セラルル布告ニ表記セラルル兵器、彈藥若ハ軍用器材ヲ合衆國ヨリ別國ニ輸出シ又ハ輸出セント企テ又ハ右布告ニ表記セラルル兵器、彈藥若ハ軍用器材ノ何レヲモ別國ヨリ合衆國ニ輸入シ又ハ輸入セント企ツルコトハ不法タルベシ

(ホ) 本節ニ基キ登錄ヲ要求セラルル一切ノ者ハ國務長官又ハ其ノ指定セル一名若ハ二名以上ノ者ノ検査ヲ受クルノ條件ノ下ニ兵器、彈藥及軍用器材ノ輸出向製造、輸入及輸出ノ記録ニシテ國務長官ノ定ムベキモノヲ常ニ保持スベシ

(ヘ) 免許狀ハ本節ニ定メラルル所ニ從ヒ登錄シタル者ニ對シ國務長官ニ依リ發給セラルベシ但シ兵器、彈藥又ハ

軍用器材ノ輸出ガ本共同決議若ハ合衆國ノ他ノ法令又ハ合衆國ガ締約國タル條約ノ違反ト爲ルベキトキハ該輸出免許狀又ハ輸入免許狀ハ發給セラレザルモノトス尤モ千九百三十五年八月三十一日ノ共同決議第二節又ハ修正セラレタル千九百三十五年八月三十一日ノ共同決議第五節ニ依リ發給セラレタル有效ナル免許狀ハ本項ニ依リ發給セラレタル有效ナル免許狀ト看做サルベク且本共同決議ガ制定セラレザリシ場合ト同様所定ノ期間引續キ效力ヲ有スベシ

(ト) 官吏、行政部又ハ政府ノ獨立營造物ハ本共同決議ノ規定ニ基キ登錄セザリシ者ヨリ合衆國ノ爲ニ兵器、彈藥又ハ軍用器材ヲ購入スルコトヲ得ザルモノトス

(チ) 統制院ハ毎年一月三日及七月三日ニ議會ニ對シ報告ヲ爲スベク其ノ謄本ハ議會ニ送付セラルル他ノ報告書ト同様ニ配布セラルベシ右報告書ハ兵器、彈藥及軍用器材ノ取引ノ取締ニ關聯スル問題ノ決定ニ有益ナリト認めラルルコトアルベキ統制院蒐集ノ情報及資料並ニ購買者ノ

氏名及右免許狀ニ基キ爲サレタル販賣ノ條件ヲモ包含ス
 ベシ統制院ハ本共同決議ノ規定ニ基キ登録ヲ要スル一切
 ノ者ノ名簿竝ニ購買者ノ氏名及本節ニ基キ發給セラルル
 免許狀ニ基キ爲サレタル販賣ノ條件ヲモ含ム右免許狀ニ
 關スル完全ナル情報ヲ右報告書ニ包含セシムベシ

(リ) 大統領ハ統制院ノ勸告ニ基キ本節ノ適用上兵器、彈
 藥及軍用器材ト看做サルベキ物品ノ一覽表ヲ臨時布告ス
 ルノ權限ヲ本節ニ依リ付與セラル但シ「兵器、彈藥及軍
 用器材」ナル語ヲ定義セル千九百三十七年五月一日ノ第
 二千二百三十七號布告(法令集第五十卷第千八百三十四
 節)(註)ハ其ノ取消サル迄ハ本項ニ依リ發セラレタル
 ト同様ニ完全ナル效力及效果ヲ有スベシ

(註) 同法第三十一卷(一九三七年)(追加號)第一六〇
 頁ニ掲載

第十三節 規則

大統領ハ法律ト抵觸セザル限り本共同決議ノ規定ノ實施ニ
 必要且適當ナル命令及規則ヲ隨時公布スルコトヲ得又大統

領ハ本共同決議ニ依リ付與セラレタル權能又ハ權限ヲ其ノ
 命ズル一名若ハ二名以上ノ官吏又ハ代理人ニ依リ行使スル
 コトヲ得

第十四節 「アメリカ」國旗ノ不法使用

(イ) 外國ニ屬シ若ハ其ノ管轄ノ下ニ行動スル船舶ガ合衆
 國ノ國旗ヲ使用スルコト又ハ該船舶ガ「アメリカ」船舶
 ナルコトヲ表示スル特殊ノ記號若ハ標識ヲ使用スルコト
 ハ不法タルベシ

(ロ) 本節(イ)ノ規定ニ違反セル船舶ハ不可抗力ノ場合
 ヲ除クノ外合衆國ノ港又ハ領水ニ入ルノ權利ヲ三月間否
 認セラルベシ

第十五節 一般刑罰規定

本共同決議又ハ之ニ從ヒ發セラレタル命令及規則ノ何レカ
 ノ規定ノ違反ノ場合ニシテ本共同決議ニ特定ノ刑罰ノ規定
 ナキモノニ於テハ右ノ違反者ハ有罪判決アリタルトキ一萬
 「ドル」以下ノ罰金若ハ二年以下ノ禁錮又ハ其ノ雙方ニ處
 セラルベシ

第十六節 定義

本共同決議ノ適用ニ付テハ

(イ) 「合衆國」ナル語ハ地理的意義ニ於テ使用セラレタ
 ルトキハ各州及各屬領、合衆國ノ島嶼タル屬地(「フィリ
 ッピン」諸島ヲ含ム)、運河地帶竝ニ「コロンビア」地方
 ヲ包含ス
 (ロ) 「者」ナル語ハ組合、會社、協會又ハ法人及自然人
 ヲ包含ス

(ハ) 「船舶」トハ水面、水中又ハ水ノ上空ニ於ケル輸送
 ノ手段トシテ使用セラレ得ル各種ノ水上用船舶及航空機
 ヲ謂フ

(ニ) 「アメリカ」船舶トハ合衆國ノ法令ニ基キ船舶書類
 ヲ交附セラレタル船舶又ハ右法令ニ基キ登録セラレ若ハ
 認可セラレタル航空機ヲ謂フ

(ホ) 「國」ナル語ハ國民、政府及國ヲ包含ス

(ヘ) 「人民」ナル語ハ合衆國ニ對シ忠誠ノ義務ヲ負フ個
 人、全部又ハ一部ガ合衆國人民ヨリ成ル組合、會社又ハ

協會及本節(イ)ニ定義セラルル合衆國ノ法令ニ基キ組
 織セラレ且現存スル法人ヲ包含ス
 第十七節 規定ノ可分性
 本共同決議ノ規定ノ何レカ又ハ右規定ノ何レカノ者若ハ場
 合ヘノ適用ガ無効ト判決セラレタルトキト雖モ本共同決議
 ノ殘餘ノ部分及右規定ノ他ノ者又ハ場合ヘノ適用ハ右ニ依
 リ影響セラルルコトナカルベシ

第十八節 經費

本共同決議ノ規定ヲ實施シ及本共同決議ノ目的ヲ達成スル
 ニ必要ナルベキ金額ハ國庫豫備金ヨリ隨時支出スルコト本
 共同決議ニ依リ許容セラル

第十九節 廢止

修正セラレタル千九百三十五年八月三十一日ノ共同決議及
 千九百三十七年一月八日ノ共同決議ハ茲ニ廢止セラル但シ
 本共同決議ノ制定前ニ行ハレタル違反及刑罰、沒收又ハ義
 務ニシテ右兩共同決議ノ何レカノ一方ニ基クモノハ之ヲ訴
 追シ處罰スルコトアルベタ又右兩共同決議ノ何レカノ一方

ノ又ハ右兩共同決議ニ從ヒ發セラルル命令若ハ規則ノ違反ニ對スル訴訟及訴訟手續ハ右兩共同決議ガ廢止セラレザリシ場合ト同様ノ方法ニ依リ且同様ノ效力ヲ以テ之ヲ開始シ訴追スルコトヲ得

第二十節 略稱

本共同決議ハ「千九百三十九年ノ中立法」ト稱セラルルコトヲ得

千九百三十九年十一月四日午後十二時四分裁可

第十一 英國の公布せる獨貨拿捕令

第一條 敵國及敵ノ占領又ハ支配下ニ在ル地帯ノ港ヨリ十二月四日以後出港セル商船ハ如何ナルモノト雖斯ル港ニ於テ積載セル貨物ヲ其ノ種類ヲ問ハス英國又ハ聯合國ノ港ニ荷揚スルコトヲ要求セラルベシ

第二條 十二月四日以後敵國ノ港以外ノ港ヨリ出港セル商船ニシテ敵國產ノ貨物又ハ敵ノ所有ニ屬スル貨物ヲ積載セルモノハ斯ル貨物ヲ英國又ハ聯合國ノ港ニ荷揚スルコトヲ要求セラルベシ

第三條 前條ノ規定ニ基キ英國ノ港ニ荷揚セル貨物ハ捕獲審檢所長ノ管理ノ下ニ置カルベク同審檢所ガ之ヲ政府ノ用ニ供スル爲徵發スル様命令セザル限り同審檢所ノ指示ニ從ツテ抑留又ハ賣却セラルベシ
本條ノ規定ニ從ヒ賣却セル貨物ノ賣上金ハ審檢所ノ勘定ニ入レラルベシ

平和克服後斯ル賣上金及抑留シテ賣却セザル貨物ハ審檢所ガ適當ト認ムル方法ヲ以テ處理セラルベシ

(イ) 若シ貨物ガ本令ノ公布前ニ中立國ノ所有ニ移レルコトガ審檢所ニ於テ充分證明セラレ

(ロ) 英國政府ノ所管官吏ノ承認ヲ得タル場合

審檢所ハ本令ノ規定ニ拘ラズ何時ニテモ該貨物ノ賣上金ヲ支拂ヒ又該貨物ノ拿捕ヲ解除スルコトヲ得

第四條 本令ノ適用サルベキ凡ユル場合ニ際シ拿捕ニ關スル現行法規竝ニ慣習ハ適用可能ナル限り之ヲ適用スベシ

第五條 本令ノ規定ハ本令トハ別個ニ船舶又ハ貨物ガ拿捕又ハ沒收セラルルヲ妨ゲザルモノトス

第六條 本令ニ「敵國產ノ貨物」ト云フハ其ノ產地ガ敵ノ占領又ハ支配下ニ在ル地域ニ在ル貨物ヲ包含シ又「敵ノ所有ニ屬スル貨物」ト云フハ斯ル地域ニ居住スル人ノ所

有二屬スル貨物ヲ含ムモノトス

第七條 本令ニ依ル審理ハ一九三九年捕獲審檢所規定ノ適用ニ依ツテ裁判權ヲ有スル如何ナル捕獲審檢所ニ於テモ之ヲ行フコトヲ得

第八條 本令ニ「英國ノ港」ト云フハ一九三九年捕獲審檢所規定ノ適用サレル捕獲審檢所ノ管轄内ニ在ル凡ユル港ヲ指スモノトス

第十二 休戰條約

獨佛間休戰條約

獨逸國佛蘭西國間休戰條約

千九百四十年六月二十二日
「コンピエーニユ」ノ森ニ於テ署名
同 年同月二十四日ヨリ實施

一方獨逸國總統兼獨逸國防軍最高指揮官ニ依リ委任セラレタル國防軍總司令官「カイテル」元帥ト他方充分ナル權限ヲ付與セラレタル佛蘭西國政府全權委員即チ陸軍大將「アンチジエ」(首席全權委員)、「ノエール」佛蘭西國大使、「ル、リュック」海軍中將、「バリゾー」軍團長及「ベルジュレ」空軍大將トノ間ニ左ノ休戰條約協定セラレタリ

第一條 佛蘭西國政府ハ佛蘭西本國、佛蘭西國ノ屬地、殖民地、保護領、委任統治地域及海上ニ於ケル獨逸國ニ對スル戰鬪行爲ヲ停止セシム佛蘭西國政府ハ獨逸國軍隊ニ

依リ既ニ包圍セラレ居ル佛蘭西國部隊ニ對シ即時武器放棄ヲ命ズ

第二條 獨逸國軍隊ハ獨逸國ノ利益確保ノ爲附屬地圖記載ノ線ノ北方及西方ノ佛蘭西國領域ヲ占領ス占領セラルベキ地域ガ未ダ獨逸國軍隊ノ手中ニ在ラザル限り右占領ハ本協定締結後直ニ實行セラルベシ

第三條 佛蘭西國ノ被占領部分ニ於テハ獨逸國政府ハ占領國トシテノ一切ノ權利ヲ行使ス佛蘭西國政府ハ右權利ノ行使ニ當リ發セラルル命令ヲ一切ノ手段ニ依リ支持シ且佛蘭西國行政機關ノ助力ニ依リ之ヲ遂行スルノ義務ヲ有ス依テ佛蘭西國政府ハ被占領地域ノ一切ノ佛蘭西國官廳ニ對シ獨逸國ノ陸軍指揮官ノ命令ニ服從シ且正當ナル方法ヲ以テ之ト協力スル様即時命令スベシ

獨逸國政府ハ英國トノ戰鬪行爲ノ停止後ニ於テハ西部海

岸ノ占領ヲ絕對必要ノ限度ニ止ムルノ意思ヲ有ス
 政府所在地ヲ未占領地域内ニ選擇スルカ又ハ希望スル場
 合ニ於テ之ヲ「バリ」ニ移スカハ佛蘭西國政府ノ自由ト
 ス後者ノ場合ニ於テハ獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ガ被占
 領地域及未占領地域ノ行政ヲ「バリ」ヨリ施行スルニ必
 要ナル一切ノ便宜ヲ政府及其ノ中央官廳ニ對シ與フルコ
 トヲ保障ス

第四條 佛蘭西國ノ陸、海及空ノ國防軍ハ追テ決定セラレ
 ベキ期間内ニ動員及武装ノ解除ヲ行フベキモノトス但シ
 國內治安ノ維持ニ必要ナル部隊ハ此ノ限ニ在ラズ右軍隊
 ノ兵力及武装ハ獨逸國又ハ伊太利國之ヲ決定ス

獨逸國ニ依リ占領セラレベキ地域内ニ在ル佛蘭西國國防
 軍ノ部隊ハ占領セラレザルベキ地域内ニ速ニ送還セラレ
 且解放セラレベシ右部隊ハ其ノ出發ニ先チ本協定實施當
 時ニ於ケル自己ノ所在地ニ於テ其ノ武器及機材ヲ放棄ス
 ベシ右部隊ハ獨逸國軍隊ヘノ整然タル引渡ニ付責ニ任ズ
 ルモノトス

第五條 休戰條約遵守ノ保障トシテ佛蘭西國國防軍ノ部隊
 ノ一切ノ大砲、戰車、對戰車砲、軍用航空機、高射砲、
 歩兵武器、牽引車及彈藥ニシテ獨逸國ニ對スル戰爭ニ使
 用セラレ且本協定實施當時獨逸國ニ依リ占領セラレザル
 ベキ地域内ニ在リタルモノノ損傷ナキ引渡ハ之ヲ要求ス
 ルコトヲ得右引渡ノ範圍ハ獨逸國ノ休戰委員會之ヲ決定
 ス

第六條 佛蘭西國ノ未占領地域ニ於ケル各種ノ殘存セル武
 器、彈藥及軍用機材ハ存續ヲ容認セラレタル佛蘭西國部
 隊ノ裝備ノ爲ニ解放セラレタルモノニ非ザル限り獨逸國
 又ハ伊太利國ノ管理ノ下ニ保管シ確保セラレベシ獨逸國
 司令官ハ此等ノ武器ノ不正使用ヲ防止スル爲ニ必要ナル
 有ラユル措置ヲ執ルノ權利ヲ留保ス未占領地域ニ於ケル
 軍用機材ノ新規ノ製造ハ即時之ヲ停止スベシ

第七條 占領セラレベキ地域内ニ於テハ一切ノ陸上及沿岸
 ノ要塞ハ各種ノ武器、彈藥、機材、貯藏物及施設ト共ニ
 損傷ナク引渡サルベキモノトス右要塞ノ見取圖及既ニ獨

逸國軍隊ニ依リ占領セラレタル要塞ノ見取圖ハ之ヲ引渡
 スベシ豫テ敷設セラレタル爆發物、地雷、導火線、妨害
 等ノ明細圖ハ獨逸國司令官ニ之ヲ提出スベシ此等ノ妨害
 物ハ獨逸國ノ請求ニ依リ佛蘭西國軍隊之ヲ除去スベキモ
 ノトス

第八條 佛蘭西國艦隊ハ佛蘭西國ノ殖民地ニ於ケル利益保
 護ノ爲佛蘭西國政府ニ解放セラレベキモノヲ除クノ外今
 後詳細ニ決定セラレベキ港灣ニ集結シ且獨逸國又ハ伊太
 利國ノ監督ノ下ニ動員及武装ヲ解除セラレベキモノトス
 港灣ノ決定ノ標準タルベキモノハ艦船ノ平時ノ常駐地ナ
 リトス

獨逸國政府ハ佛蘭西國政府ニ對シ獨逸國政府ハ沿岸警備
 及機雷除去ノ目的ニ必要ト爲ル艦船ヲ除クノ外獨逸國ノ
 監督ノ下ニ在ル港灣ニ在ル佛蘭西國艦隊ヲ戰爭ニ於テ自
 國ノ目的ノ爲ニ轉用スルノ意思ナキコトヲ嚴肅ニ聲明ス
 獨逸國政府ハ更ニ講和條約ノ締結ニ際シ佛蘭西國艦隊ニ
 對シ要求ヲ提起スルノ意思ナキコトヲ嚴肅且明白ニ聲明

ス佛蘭西國艦隊ノ一部ニシテ今後決定セラレ殖民地ニ於
 ケル佛蘭西國ノ利益ヲ代表スルコトヲ要スルモノヲ除ク
 ノ外佛蘭西本國以外ニ在ル一切ノ軍艦ハ佛蘭西本國ニ歸
 航セシメラルベシ

第九條 佛蘭西國司令官ハ佛蘭西國ニ依リ敷設セラレタル
 一切ノ機雷並ニ他ノ一切ノ港灣用及沿岸用障礙物並ニ防
 護施設ニ關スル明細ナル報告ヲ獨逸國司令官ニ對シ爲ス
 ベシ
 機雷ノ除去ハ獨逸國司令官ノ要求アル限り佛蘭西國軍隊
 之ヲ行フベキモノトス

第十條 佛蘭西國政府ハ其ノ殘存セル國防軍ノ何レノ部分
 ヲ以テシテモ又他ノ如何ナル方法ニ依リテモ獨逸國ニ對
 シ今後敵對行動ヲ執ラザルノ義務ヲ有ス
 同様ニ佛蘭西國政府ハ佛蘭西國國防軍ノ軍人ノ國外ニ出
 ツルコト並ニ一切ノ種類ノ武器及裝備並ニ艦船、航空機
 等ノ英國又ハ他ノ外國ニ持出サルルコトヲ阻止スベシ
 佛蘭西國政府ハ獨逸國ガ今尙交戰中ナル國ノ勤務ニ服シ

テ獨逸國ト戰フコトヲ佛蘭西國民ニ對シ禁止スベシ之ニ違反スル佛蘭西國民ハ獨逸國軍隊ニ依リ非正規兵トシテ取扱ハルベシ

第十一條 沿岸用及港灣用船舶ヲ含メル佛蘭西國ノ手中ニ在ル一切ノ種類ノ佛蘭西國商船ハ今後ノ命令アル迄出港ヲ禁止セラル通商貿易ノ再開ハ獨逸國又ハ伊太利國ノ承認ヲ經ベキモノトス

佛蘭西國ノ港ノ外ニ在ル佛蘭西國商船ハ佛蘭西國政府之ヲ呼戻スベク又其ノ實行不可能ナル場合ニ於テハ之ニ中立港ヘノ入港ヲ命ズベシ

佛蘭西國ノ港ニ在ル拿捕セラレタル一切ノ獨逸國商船ハ要求ニ基キ損傷ナク引渡サルベキモノトス

第十二條 佛蘭西國ノ領土上ニ在ル一切ノ航空機ニ對シテハ即時ノ離陸禁止ヲ命ズベシ獨逸國ノ承認ナクシテ離陸セル航空機ハ獨逸國空軍ニ依リ敵性アルモノト看做サレ之ニ應ジテ處分セララルベシ

未占領地域ニ於ケル飛行場及空軍ノ地上施設ハ獨逸國又

ハ伊太利國ノ管理ノ下ニ監視セラルベク之ヲ使用不可能ノモノト爲スコトヲ要求スルコトヲ得佛蘭西國政府ハ未占領地域ニ在ル一切ノ外國航空機ヲ獨逸國ノ自由處分ニ委ヌルト共ニ其ノ飛行繼續ヲ阻止スルノ義務ヲ有ス右航空機ハ獨逸國國防軍ニ引渡サルベキモノトス

第十三條 佛蘭西國政府ハ獨逸國軍隊ニ依リ占領セララルベキ地域内ニ於テ國防軍ノ一切ノ設備及施設並ニ軍需資材ガ損傷ナク獨逸國軍隊ニ引渡サルベキ様配慮スルノ義務ヲ有ス右政府ハ更ニ港灣、工業設備及造船所ガ現狀ニ於テ維持セラレ且毫モ損傷セラレ又ハ破壊セラレザル様配慮スルノ義務ヲ有ス一切ノ交通機關、交通路特ニ鐵道、道路及國內水路、全電信電話網並ニ水路標識及沿岸燈臺ノ施設ニ付テモ亦同ジ佛蘭西國政府ハ同様ニ獨逸國司令官ノ要求ニ基キ一切ノ必要ナル復興事業ヲ遂行スルノ義務ヲ有ス

佛蘭西國政府ハ被占領地域内ニ於テハ必要ナル技術職員、多數ノ鐵道車輛及他ノ輸送機關ガ存在シ且此等方正

常ナル平和關係ニ適應スル様配慮スルノ義務ヲ有ス

第十四條 佛蘭西國ノ領土上ニ在ル一切ノ無線通信局ニ對シテハ即時ノ送信禁止ヲ爲スモノトス佛蘭西國ノ未占領部分ヨリノ無線通信ノ再開ハ特別ノ規則ヲ必要トス

第十五條 佛蘭西國政府ハ未占領地域ヲ經テ行ハルル獨逸國伊太利國間貨物通過輸送ヲ獨逸國政府ニ依リ要求セララル範圍ニ於テ實行スルノ義務ヲ有ス

第十六條 佛蘭西國政府ハ住民ノ被占領地域ヘノ復歸ヲ權限アル獨逸國官憲トノ合意ニ依リ遂行スベシ

第十七條 佛蘭西國政府ハ經濟的有價物及貯藏品ヲ獨逸國軍隊ニ依リ占領セララルベキ地域ヨリ未占領地域又ハ外國ヘ移送スルコトヲ阻止スルノ義務ヲ有ス被占領地域内ニ在ル右ノ物及貯藏品ニ關シテハ獨逸國政府トノ合意ニ依リテノミ之ヲ處分スベキモノトス

右ノ場合ニ於テハ獨逸國政府ハ未占領地域ノ住民ノ生活必需品ニ付考慮スベシ

第十八條 佛蘭西國ノ領土上ニ於ケル獨逸國占領軍ノ維持

ニ關スル費用ハ佛蘭西國政府之ヲ負擔ス

第十九條 獨逸國ノ爲ニ行動シタルノ廉ヲ以テ逮捕セララルカ又ハ有罪判決ヲ受ケタル拘禁者及入監者ヲ含メル一切ノ獨逸國ノ戰闘員及非戰闘員タル捕虜ニシテ佛蘭西國ノ獄舎ニ在ルモノハ即時獨逸國軍隊ニ引渡サルベシ

佛蘭西國政府ハ佛蘭西本國並ニ佛蘭西國ノ屬地、殖民地、保護領及委任統治地域ニ在ル獨逸人ニシテ獨逸國政府ニ依リ指名セラレタルモノヲ要求ニ基キ引渡スノ義務ヲ有ス

佛蘭西國政府ハ獨逸國ノ戰闘員及非戰闘員タル捕虜ガ佛蘭西本國ヨリ佛蘭西國ノ屬地又ハ外國ニ送出セララルコトヲ阻止スルノ義務ヲ有ス既ニ佛蘭西國外ニ送出セラレタル捕虜及輸送不能ノ獨逸國傷病捕虜ニ關シテハ住所ヲ附記セル正確ナル名簿ヲ提示スベシ獨逸國傷病捕虜ニ關スル監督ハ獨逸國司令官ニ於テ之ヲ行フ

第二十條 獨逸國ノ捕虜ト爲レル佛蘭西國國防軍軍人ハ講和條約ノ締結ニ至ル迄引續キ捕虜タルベシ

第二十一條 佛蘭西國政府ハ本協定ニ於テ獨逸國ノ處分ノ爲損傷ナキ引渡若ハ其ノ準備ガ要求セラレタルカ又ハ外國ヘノ持出ガ禁止セラレタル一切ノ物及有價物ノ保管ノ責ニ任ズ佛蘭西國政府ハ本條約ニ背馳スル一切ノ破壞、損傷又ハ持出ニ對スル損害賠償ノ責ニ任ズ

第二十二條 休戰條約ノ實行ハ獨逸國司令官ノ指示ニ從ヒ行動スル獨逸國休戰委員會之ヲ規律シ且監視ス

休戰委員會ノ任務ハ更ニ本條約ト伊佛休戰條約トノ必要ナル一致ヲ確保スルニ在リ佛蘭西國政府ハ佛蘭西國ノ希望ノ主張ノ爲及獨逸國休戰委員會ノ實施規定ノ受領ノ爲特別委員ヲ獨逸國休戰委員會ニ派遣ス

第二十三條 本休戰條約ハ佛蘭西國政府ガ伊太利國政府ト戰鬪行爲ノ停止ニ關シ協定ヲ締結スルト同時ニ實施セラレルモノトス戰鬪行爲ハ伊太利國政府ガ右協定ノ締結ヲ獨逸國政府ニ通告シタル時ヨリ六時間後ニ於テ停止セラレルベシ獨逸國政府ハ右時刻ヲ無線ニ依リ佛蘭西國政府ニ通知スベシ

第二十四條 休戰條約ハ講和條約ノ締結ニ至ル迄效力ヲ有ス佛蘭西國政府ガ右休戰條約ニ依リ佛蘭西國ニ課セラレタル義務ヲ履行セザルトキハ右休戰條約ハ獨逸國政府ニ依リ何時ニテモ廢棄セラルルコトヲ得ベク右廢棄ハ即時效力ヲ生ズ

本休戰條約ハ千九百四十年六月二十二日獨逸國夏季時間午後六時五十分「コンピエーニユ」ノ森ニ於テ署名セラレタリ

ア
ン
チ
ジ
エ
カ
イ
テ
ル

本休戰條約第二條ニ記載セラレタル線ハ東ハ「ジュネーヴ」附近ノ佛瑞國境ニ始リ次デ概ネ「ドール」、「バレー、ル、モニアール」及「ブールジュ」ノ諸地點ヲ經テ「トゥール」ノ東方約二十「キロメートル」ノ地點ニ至ル右國境線ハ此ノ處ヨリ「トゥール」、「アングレム、リブールヌ」間鐵道線ノ東方二十「キロメートル」ヲ隔テテ進ミ更ニ「モン、ド、マルサン」及「オルテ」ヲ經テ西班牙國國境ニ至ル

第十三 (參考) 講和條約

一、日清講和條約

明治二十八年(千八百九十五年)
四月十七日 下ノ關ニテ署名
同 年(同) 年
同 月二十日 批 准
同 年(同) 年
五月八日 批准書交換
同 年(同) 年
同 月十三日 公 布

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ且將來紛議ノ端ヲ除クコトヲ欲シ媾和條約ヲ訂結スル爲メニ大日本國皇帝陛下ハ(全權大臣名略)ヲ大清國皇帝陛下ハ(全權大臣名略)ヲ各其ノ全權大臣ニ任命セリ因テ各全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條 清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ノ國タルコトヲ確認ス因テ右獨立自主ヲ損害スヘキ朝鮮國ヨリ清國

ニ對スル貢獻、典禮等ハ將來全ク之ヲ廢止スヘシ

第二條 清國ハ左記ノ土地ノ主權並ニ該地方ニ在ル城堡、兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス

- (1) 左ノ經界内ニ在ル奉天省南部ノ地
鴨綠江口ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城、海城、營口ニ互リ遼河口ニ至ル折線以南ノ地併セテ前記ノ各城市ヲ包含ス而シテ遼河ヲ以テ界トスル處ハ該河ノ中央ヲ以テ經界トスルコトト知ルヘシ
- 遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ奉天省ニ屬スル諸島嶼
- (2) 臺灣全島及其ノ附屬諸島嶼
- (3) 澎湖列島即英國「グリーンウィチ」東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼

第三條 前條ニ掲載シ附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ本約批

准交換後直チニ日清兩國ヨリ各二名以上ノ境界共同制定委員ヲ任命シ實地ニ就テ確定スル所アルヘキモノトス面シテ若本約ニ掲記スル處ノ境界ニシテ地形上又ハ施政上ノ點ニ付完全ナラサルニ於テハ該境界制定委員ヘ之ヲ更正スルコトニ任スヘシ

該境界制定委員ハ成ルヘク速ニ其ノ任務ニ從事シ其ノ任命後一箇年以内ニ之ヲ終了スヘシ

但シ該境界制定委員ニ於テ更定スル所アルニ當リテ其ノ更定シタル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ認可スル迄ハ本約ニ掲記スル所ノ經界ヲ維持スヘシ

第四條 清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀貳億兩ヲ日本國ニ支拂フヘキコトヲ約ス右金額ハ都合八回ニ分チ初回及次回ニハ每回五千萬兩ヲ支拂フヘシ而シテ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六箇月以内ニ次回ノ拂込ハ本約批准交換後十二箇月以内ニ於テスヘシ殘リノ金額ハ六箇年賦ニ分チ其ノ第一次ハ本約批准交換後二箇年以内ニ其ノ第二次ハ本約批准交換後三箇年以内ニ其ノ第三次ハ本約批准交換

後四箇年以内ニ其ノ第四次ハ本約批准交換後五箇年以内ニ其ノ第五次ハ本約批准交換後六箇年以内ニ其ノ第六次ハ本約批准交換後七箇年以内ニ支拂フヘシ又初回拂込ノ期日ヨリ以後未タ拂込ヲ了ラサル額ニ對シテハ毎年百分ノ五ノ利子ヲ支拂フヘキモノトス

但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ全額或ハ其ノ幾分ヲ前以テ一時ニ支拂フコトヲ得ヘシ如シ本約批准交換後三箇年以内ニ該賠償金ノ總額ヲ皆済スルトキハ總テ利子ヲ免除スヘシ若夫迄ニ二箇年半若ハ更ニ短期ノ利子ヲ拂込ミタルモノアルトキハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

第五條 日本國ヘ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スルモノハ自由ニ其ノ所有不動産ヲ賣却シテ退去スルコトヲ得ヘシ其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ二箇年間ヲ猶豫スヘシ但シ右年限ノ滿チタルトキハ未タ該地方ヲ去ラサル住民ヲ日本國ノ都合ニ因リ日本國臣民ト視爲スコトアルヘシ
日清兩國政府ハ本約批准交換後直チニ各一名以上ノ委員

ヲ臺灣省ヘ派遣シ該省ノ受渡ヲ爲スヘシ而シテ本約批准交換後二箇月以内ニ右受渡ヲ完了スヘシ

第六條 日清兩國間ノ一切ノ條約ハ交戰ノ爲メ消滅シタレハ清國ハ本約批准交換ノ後速ニ全權委員ヲ任命シ日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定ヲ締結スヘキコトヲ約ス而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程ヲ以テ該日清兩國間諸條約ノ基礎ト爲スヘシ又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ實施ニ至ル迄ハ清國ハ日本國政府官吏商業航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ總テ最惠國待遇ヲ與フヘシ
清國ハ右ノ外左ノ讓與ヲ爲シ而シテ該讓與ハ本約調印ノ日ヨリ六箇月ノ後有效ノモノトス

第一 清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ日本國臣民ノ商業住居工業及製造業ノ爲メニ左ノ市港ヲ開クヘシ但シ現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハルル所ト同一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益ヲ享有スヘキモノトス

- (1) 湖北省荊州府沙市
 - (2) 四川省重慶府
 - (3) 江蘇省蘇州府
 - (4) 浙江省杭州府
- 日本國政府ハ以上列記スル所ノ市港中何レノ處ニモ領事館ヲ置クノ權利アルモノトス

第二 旅客及貨物運送ノ爲メ日本國汽船ノ航路ヲ左記ノ場所迄擴張スヘシ

- (1) 揚子江上流湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル
- (2) 上海ヨリ吳淞江及運河ニ入り蘇州杭州ニ至ル

日清兩國ニ於テ新章程ヲ安定スル迄ハ前記航路ニ關シ適用シ得ヘキ限ハ外國船舶清國內地水路航行ニ關スル現行章程ヲ施行スヘシ

第三 日本國臣民カ清國內地ニ於テ貨品及生産物ヲ購買シ又ハ其ノ輸入シタル商品ヲ清國內地ヘ運送スルニハ右購買品又ハ運送品ヲ倉入スル爲メ何等ノ税金取立金ヲモ納ムルコトナク一時倉庫ヲ借入ルルノ權利ヲ有ス

ヘシ

第四 日本國臣民ハ清國各開市場開港場ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトヲ得ヘク又所定ノ輸入税ヲ拂フノミニテ自由ニ各種ノ機械類ヲ清國へ輸入スルコトヲ得ベシ

清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ内國運送税内地税賦課金取立金ニ關シ又清國內地ニ於ケル倉入上ノ便益ニ關シ日本國臣民カ清國へ輸入シタル商品ト同一ノ取扱ヲ受ケ且同一ノ特典免除ヲ享有スヘキモノトス

此等ノ讓與ニ關シ更ニ章程ヲ規定スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ本條ニ規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載スヘキモノトス

第七條 現ニ清國版圖内ニ在ル日本國軍隊ノ撤回ハ本約批准交換後三箇月内ニ於テスヘシ但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フヘキモノトス

第八條 清國ハ本約ノ規定ヲ誠實ニ施行スヘキ擔保トシテ

日本國軍隊ノ一時山東省威海衛ヲ占領スルコトヲ承諾ス

而シテ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ初回次回ノ拂込ヲ了リ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル時ニ當リテ清國政府ニテ右賠償金ノ殘額ノ元利ニ對シ充分適當ナル取極ヲ立テ清國海關稅ヲ以テ抵當ト爲スコトヲ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊ヲ前記ノ場所ヨリ撤回スヘシ若又之ニ關シ充分適當ナル取極立タサル場合ニハ該賠償金ノ最終回ノ拂込ヲ了リタル時ニ非サレハ撤回セサルヘシ尤モ通商航海條約ノ批准交換ヲ了リタル後ニ非サレハ軍隊ノ撤回ノ行ハサルモノト承知スヘシ

第九條 本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ在ル所ノ俘虜ヲ還附スヘシ而シテ清國ハ日本國ヨリ斯ク還附セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若ハ處刑セサルヘキコトヲ約ス
日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若ハ犯罪者ト認メラレタルモノハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清國ハ又交戰中日本國軍隊ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サス又之ヲ爲サシメサルコトヲ

約ス

第十條 本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スヘシ

第十一條 本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘク而シテ右批准ハ芝罘ニ於テ明治二十八年五月八日即光緒二十一年四月十四日ニ交換セラルヘシ右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ茲ニ記名調印スルモノナリ
明治二十八年四月十七日光緒二十一年三月二十三日下ノ關ニ於テ二通ヲ作ル (全權大臣署名略)

二、日露講和條約

明治三十八年(千九百五年)	九月五日	日	ポーツマス	ニテ署名
同	十月十四日	日	年	年
同	十月十五日	日	年	年
同	十月十六日	日	年	年
同	十一月二十五日	日	年	年

准 告 布 換 交 換

日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ハ兩國及其ノ人民ニ

約ス

第二條 露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本帝國政府カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ

平和ノ幸福ヲ回復セムコトヲ欲シ講和條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ(全權委員名略)ヲ全露西亞國皇帝陛下ハ(全權委員名略)ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條 日本國皇帝陛下ト全露西亞國皇帝陛下トノ間及兩國並兩國臣民ノ間ニ將來平和及親睦アルヘシ

第二條 露西亞帝國政府ハ日本國カ韓國ニ於テ政事上、軍事上及經濟上ノ卓越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ日本帝國政府カ韓國ニ於テ必要ト認ムル指導、保護及監理ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙シ又ハ之ニ干涉セサルコトヲ

ヘキ何等又軍事上措置ヲ執ラサルコトニ同意ス

第三條 日本國及露西亞國ハ互ニ左ノ事ヲ約ス

(1) 本條約ニ附屬スル追加約款第一ノ規定ニ從ヒ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域以外ノ滿洲ヨリ全然且同時ニ撤兵スルコト

(2) 前記地域ヲ除クノ外現ニ日本國又ハ露西亞國ノ軍隊ニ於テ占領シ又ハ其ノ監理ノ下ニ在ル滿洲全部ヲ舉ケテ全然清國專屬ノ行政ニ還附スルコト

露西亞帝國政府ハ清國ノ主權ヲ侵害シ又ハ機會均等主義ト相容レサル何等ノ領土上利益又ハ優先的若ハ專屬的讓與ヲ滿洲ニ於テ有セサルコトヲ聲明ス

第四條 日本國及露西亞國ハ清國カ滿洲ノ商工業ヲ發達セシメムカ爲列國ニ共通スル一般ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻礙セサルコトヲ互ニ約ス

第五條 露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口、大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ日

本帝國政府ニ移轉讓渡ス露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國臣民ノ財產權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第六條 露西亞帝國政府ハ長春(寬城子)旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利、特權及財產及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ利益ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトナク且清國政府ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

第七條 日本國及露西亞國ハ滿洲ニ於ケル各自ノ鐵道ヲ全ク商工業ノ目的ニ限り經營シ決シテ軍略ノ目的ヲ以テ之

ヲ經營セサルコトヲ約ス

該制限ハ遼東半島租借權カ其ノ效力ヲ及ホス地域ニ於ケル鐵道ニ適用セサルモノト知ルヘシ

第八條 日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ交通及運輸ヲ増進シ且之ヲ便宜ナラシムルノ目的ヲ以テ滿洲ニ於ケル其ノ接續鐵道業務ヲ規定センカ爲成ルヘク速ニ別約ヲ締結スヘシ

第九條 露西亞帝國政府ハ薩哈噠島南部及其ノ附近ニ於ケル一切ノ島嶼並該地方ニ於ケル一切ノ公共營造物及財產ヲ完全ナル主權ト共ニ永遠日本帝國政府ニ讓與ス其ノ讓與地域ノ北方境界ハ北緯五十度ト定ム該地域ノ正確ナル經界線ハ本條約ニ附屬スル追加約款第二ノ規定ニ從ヒ之ヲ決定スヘシ

日本國及露西亞國ハ薩哈噠島又ハ其ノ附近ノ島嶼ニ於ケル各自ノ領地内ニ堡壘其ノ他之ニ類スル軍事上工作物ヲ築造セサルコトニ互ニ同意ス又兩國ハ各宗谷海峽及韃靼海峽ノ自由公開ヲ妨礙スルコトアルヘキ何等ノ軍事上措

置ヲ執ラサルコトヲ約ス

第十條 日本國ニ讓與セラレタル地域ノ住民タル露西亞國臣民ニ付テハ其ノ不動産ヲ賣却シテ本國ニ退去スルノ自由ヲ留保ス但シ該露西亞國臣民ニ於テ讓與地域ニ在留セムト欲スルトキハ日本國ノ法律及管轄權ニ服従スルコトヲ條件トシテ完全ニ其ノ職業ニ從事シ且財產權ヲ行使スルニ於テ支持保護セラルヘシ日本國ハ政事上又ハ行政上ノ權能ヲ失ヒタル住民ニ對シ前記地域ニ於ケル居住權ヲ撤回シ又ハ之ヲ該地域ヨリ放逐スヘキ充分ノ自由ヲ有ス但シ日本國ハ前記住民ノ財產權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第十一條 露西亞國ハ日本海、「オコーツク」海及「ベリ」ング「海」ニ瀕スル露西亞國領地ノ沿岸ニ於ケル漁業權ヲ日本國臣民ニ許與セムカ爲日本國ト協定ヲナスヘキコトヲ約ス

前項ノ約束ハ前記方面ニ於テ既ニ露西亞國又ハ外國ノ臣民ニ屬スル所ノ權利ニ影響ヲ及ササルコトニ雙方同意ス

第十二條

日露通商航海條約ハ戰爭ノ爲廢止セラレタルヲ以テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ現下ノ戰爭以前ニ效力ヲ有シタル條約ヲ基礎トシテ新ニ通商航海條約ヲ締結スルニ至ル迄ノ間兩國通商關係ノ基礎トシテ相互ニ最惠國ノ地位ニ於ケル待遇ヲ與フルノ方法ヲ採用スヘキコトヲ約ス而シテ輸入税及輸出税、税關手續、通過税及噸税並一方ノ代辨者、臣民及船舶ニ對スル他ノ一方ノ領土ニ於ケル入國ノ許可及待遇ハ何レモ前記ノ方法ニ依ル

第十三條

本條約實施ノ後成ルヘク速ニ一切ノ俘虜ハ互ニ之ヲ還附スヘシ日本帝國政府及露西亞帝國政府ハ各俘虜ヲ引受クヘキ一名ノ特別委員ヲ任命スヘシ一方ノ政府ノ收容ニ係ル一切ノ俘虜ハ他ノ一方ノ政府ノ特別委員又ハ正當ニ其ノ委任ヲ受ケタル代表者ニ引渡シ同委員又ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ受領スヘク而シテ其ノ引渡及受領ハ引渡國ヨリ豫メ受領國ノ特別委員ニ通知スヘキ便宜ノ人員及引渡國ニ於ケル便宜ノ出入地ニ於テ之ヲ行フヘシ日本國政府及露西亞國政府ハ俘虜引渡完了ノ後成ルヘク

連ニ俘虜ノ捕獲又ハ投降ノ日ヨリ死亡又ハ引渡ノ時ニ至ルマテ之カ保護給養ノ爲ニ各負擔シタル直接費用ノ計算書ヲ互ニ提出スヘシ同計算書交換ノ後露西亞國ハ成ルヘク速ニ日本國カ前記ノ用途ニ支出シタル實際ノ金額ト露西亞國カ同様ニ支出シタル實際ノ金額トノ差額ヲ日本國ニ拂戻スヘキコトヲ約ス

第十四條

本條約ハ日本國皇帝陛下及全露西亞國皇帝陛下ニ於テ批准セラレヘシ該批准ハ成ルヘク速ニ且如何ナル場合ニ於テモ本條約調印ノ日ヨリ五十日以内ニ東京駐劄佛蘭西國公使及聖彼得堡駐劄亞米利加合衆國大使ヲ經テ日本帝國政府及露西亞帝國政府ニ各之ヲ通告スヘシ而シテ其ノ終ノ通告ノ日ヨリ本條約ハ全部ヲ通シテ完全ノ效力ヲ生スヘシ正式ノ批准交換ハ成ルヘク速ニ華盛頓ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十五條

本條約ハ英吉利文及佛蘭西文ヲ以テ各二通ヲ作リ之ニ調印スヘシ其ノ各本文ハ全然符合スト雖モ其ノ解釋ニ差異アル場合ニハ佛蘭西文ニ據ルヘシ

右證據トシテ兩帝國全權委員ハ茲ニ本講和條約ニ記名調印スルモノナリ
明治三十八年九月五日即一千九百零五年八月二十三日(九月五日)「ボーツマス」(「ニュー・ハムプシヤ」州)ニ於テ之ヲ作ル

(全權委員署名略)

三、「ヴェルサイユ」條約拔萃

白耳義國

第三十一條 獨逸國ハ戰前ニ於ケル白耳義國ノ地位ヲ確立シタル千八百三十九年四月十九日ノ條約カ既ニ現時ノ要求ニ適合セサルニ至リタルコトヲ認メ該條約ノ廢棄ニ同意シ且前記千八百三十九年ノ條約ニ代フル爲主タル同盟及聯合國又ハ其ノ何レカノ國カ白耳義國政府及和蘭國政

府ト共ニ締結スヘキ一切ノ條約ヲ直ニ承認遵守スルコトヲ約ス該條約又ハ其ノ何レカノ條項ニ對シ獨逸國ノ正式加入ヲ求メラルル場合ニ於テハ獨逸國ハ直ニ之ニ加入スヘキコトヲ約ス

第三十二條

獨逸國ハ「モレスネ」係爭地域(所謂「モレスネ」中立地帯)全部ニ對スル白耳義國ノ完全ナル主權ヲ承認ス

盧森堡國

第四十條 盧森堡大公國ニ關シ獨逸國ハ千八百四十二年二月八日、千八百四十七年四月二日、千八百六十五年十月二十日—二十五日、千八百六十六年八月十八日、千八百六十七年二月二十一日同五月十一日、千八百七十一年五月十日、千八百七十二年六月十一日及千九百零二年十一月十一日ノ諸條約並此等條約ニ基ク一切ノ條約中獨逸國ノ爲ニ設ケタル一切ノ規定ノ利益ヲ拋棄ス

獨逸國ハ盧森堡大公國カ千九百零九年一月一日以後獨逸關稅同盟ヲ脫退シタルコトヲ承認シ、鐵道經營ニ關スル

一切ノ權利ヲ拋棄シ、大公國ノ永世局外中立ノ終了ニ同意シ且同盟及聯合國カ大公國ニ關シテ締結スヘキ一切ノ國際協定ヲ豫メ承認ス

萊因河左岸

第四十二條 獨逸國ハ萊因河ノ左岸又ハ同河ノ東方五十吉米ニ引キタル線ノ西方ニ在ル同河右岸ニ於テ築城ヲ保有シ又ハ構設スルコトヲ得ス

第四十三條 前條規定ノ境域内ニ於テハ武裝シタル兵力ノ永久又ハ一時ノ駐屯及集合並各種ノ軍事演習ヲ禁ス動員ノ爲ニスル一切ノ永久施設ノ保持ニ付亦同シ

第四十四條 獨逸國ニシテ其ノ方法ノ如何ヲ問ハス第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタルトキハ本條約ノ署名國ニ對シ敵對行爲ヲ爲シ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノト看做サルヘシ

「ザール」河流域

第四十五條 獨逸國ハ佛蘭西國北部ノ炭鑛破壊ニ對スル補償トシテ又戰爭ニ基ク損害ニ付獨逸國ノ負擔スル全賠償

額ノ一部支拂トシテ第四十八條ニ規定スル「ザール」河流域ニ在ル炭鑛ニ對スル完全且絶對ナル所有權及之カ採掘ノ獨占權ヲ何等ノ金錢債務及負擔ヲモ伴フコトナク佛蘭西國ニ讓渡ス

第四十九條 獨逸國ハ受託者トシテノ國際聯盟ノ爲ニ前記地域上ノ施政權ヲ拋棄ス

本條約實施後十五年ノ終ニ於テ前記地域ノ住民ヲシテ何レノ主權ニ服スルコトヲ希望スルヤヲ表示セシムヘシ

「ザール」河流域地方ノ施政(附屬書ノ内)

十六 「ザール」河流域地方ノ施政ハ國際聯盟ヲ代表スル委員會ニ之ヲ委任スヘシ該委員會ハ「ザール」河流域地方ニ之ヲ設置ス

二十一 施政委員會ハ其ノ適當ト認ムル手段及條件ニ依リ「ザール」河流域地方住民ノ利益ヲ其ノ地方外ニ於テ確實ニ保護スルノ責ニ任ス

「アルサス、ロレーヌ」

締約國ハ佛蘭西國ノ權利ニ對シ並「ボルドー」會議ニ於ケ

ル「アルサス」及「ロレーヌ」代表者ノ嚴重ナル抗議ニ拘ラス祖國ヨリ分離セラレタル右兩州人民ノ希望ニ對シ千八百七十一年獨逸國ノ加ヘタル非行ヲ是正スヘキ德義上ノ義務アルコトヲ認メ

左ノ諸條ヲ約定ス

第五十一條 千八百七十一年二月二十六日「ヴェルサイユ」ニ於テ署名セラレタル講和豫備條約及千八百七十一年五月十日ノ「フランクフルト」條約ニ依リ獨逸國ニ讓渡セラレタル地域ハ千九百十八年十一月十一日ノ休戰條約締結ノ日以後佛蘭西國主權ノ下ニ復歸ス

千八百七十一年以前ニ於ケル國境劃定ニ關スル諸條約ノ規定ハ其ノ效力ヲ回復スヘキモノトス

「ダンチツヒ」自由市

第二百二條 主タル同盟及聯合國ハ「ダンチツヒ」市ヲ第百條ニ掲タル爾餘ノ地域ト共ニ自由市ト爲スコトヲ約ス右自由市ハ國際聯盟ノ保護ノ下ニ置カルヘシ

第二百三條 「ダンチツヒ」自由市ノ憲法ハ該自由市ノ正當

ニ任命スル代表者ニ於テ國際聯盟ノ任命スル高級委員ト協議ノ上之ヲ起草スヘシ該憲法ハ國際聯盟之ヲ保障スヘシ

高級委員ハ本條約又ハ之ニ基ク協定若ハ取極ニ關シ波蘭國ト「ダンチツヒ」自由市トノ間ニ發生スル一切ノ紛議ヲ第一次ニ處理スルノ任務ヲ付託セラルヘシ

高級委員ハ「ダンチツヒ」ニ駐在スヘシ

第二百四條 主タル同盟及聯合國ハ波蘭國政府ト「ダンチツヒ」自由市トノ間ニ同自由市ノ設立ト同時ニ實施スヘキ左ノ目的ヲ有スル條約ノ商議ヲ爲スコトヲ約ス

一 「ダンチツヒ」自由市ヲ波蘭國關稅地域ニ編入シ且同港ニ一ノ自由地域ヲ設定スルコト

二 自由市地域内ニ存スル波蘭國ノ輸出入品ノ爲必要ナル一切ノ水路、船渠、泊船渠、埠頭其ノ他ノ工作物ノ自由使用ヲ波蘭國ニ對シ何等ノ制限ナク保障スルコト

三 波蘭國ニ對シ「ヴィスチュラ」河及右自由市内ニ

在ル鐵道系全部並「ダンチッヒ」波蘭國間ノ郵便、電信及電話ノ管理經營權ヲ保障スルコト但シ主トシテ同自由市ノ用ニ供セラルル市街鐵道其ノ他ノ鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

四 波蘭國ニ對シ水路、船渠、泊船渠、埠頭、鐵道其ノ他本條ニ掲クル工作物及交通機關ヲ改良シ發達セシムルノ權利並右目的ノ爲必要ナル土地其ノ他ノ財產ヲ適當ナル手續ニ依リ賃借又ハ買收スルノ權利ヲ保障スルコト

五 「ダンチッヒ」自由市内ニ於テ波蘭國人民及波蘭系ニ屬シ又ハ波蘭語ヲ用キル人民ニ不利益ナル差別待遇ヲ爲ササル規定ヲ設クルコト

六 波蘭國政府ヲシテ「ダンチッヒ」自由市ノ外交關係ヲ處理シ且外國ニ在ル該市人民ノ外交上ノ保護ニ當ラシムルノ規定ヲ設クルコト

獨逸國外ニ於ケル獨逸國ノ權利及利益

第一百八條 獨逸國ハ本條約ニ定メタル其ノ歐羅巴ニ於ケ

ル國境外ノ地域ニ於テ自國又ハ其ノ同盟國ノ領土内ニ又ハ該領土ニ關シテ有スル一切ノ權利、權原及特權並發生事由ノ如何ヲ問ハス同盟及聯合國ニ對シテ有スル一切ノ權利、權原及特權ヲ拋棄ス

獨逸國ハ前項ノ規定實行ノ爲主タル同盟及聯合國カ必要ナル場合ニハ第三國ト協議シテ現在又ハ將來ニ於テ孰ルコトアルヘキ措置ヲ承認シ且之ニ遵由スルコトヲ茲ニ約ス

獨逸國ハ殊ニ特定事項ニ關スル左ノ各條ヲ受諾スルコトヲ聲明ス

獨逸國殖民地

第一百九條 獨逸國ハ其ノ海外屬地ニ關スル一切ノ權利及權原ヲ主タル同盟及聯合國ノ爲ニ拋棄ス

摩洛哥國

第一百四十二條 獨逸國ハ摩洛哥國ニ於ケル佛蘭西國ノ保護權ヲ承認シタルニ因リ茲ニ其ノ保護權確立ノ一切ノ結果ヲ容認シ且摩洛哥國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄ス

右拋棄ハ千九百十四年八月三日ヨリ其ノ效力ヲ有スルモノトス

埃及國

第一百四十七條 獨逸國ハ千九百十四年十二月十八日大不列顛國カ宣言シタル埃及國ニ對スル保護權ヲ承認シ且埃及國ニ於ケル治外法權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス
右拋棄ハ千九百十四年八月四日ヨリ其ノ效力ヲ有ス

山東

第一百五十六條 獨逸國ハ千八百九十八年三月六日獨逸國ト支那國トノ間ニ締結シタル條約及山東省ニ關スル他ノ一切ノ協定ニ依リ取得シタル權利、權原及特權ノ全部殊ニ膠州灣地域、鐵道、鑛山及海底電信線ニ關スルモノヲ日本國ノ爲ニ拋棄ス

青島濟南府間ノ鐵道(其ノ支線ヲ含ミ並各種ノ附屬財產、停車場、工場、固定物件及車輛、鑛山、鑛業用設備及材料ヲ包含ス)ニ關スル一切ノ獨逸ノ權利ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、及特權ト共ニ日本國之ヲ取得保持ス

青島上海間及青島芝罘間ノ獨逸國有海底電信線ハ之ニ附帶スル一切ノ權利、特權及財產ト共ニ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得ス

第一百五十七條 膠州灣地域内ニ於ケル獨逸國有ノ動産及不動産並該地域ニ關シ獨逸國カ直接又ハ間接ニ施設若ハ改良ヲ爲シ又ハ費用ヲ負擔シタル爲其ノ主張シ得ヘキ一切ノ權利ハ無償且無條件ニテ日本國之ヲ取得保持ス

陸軍、海軍及航空條項

各國軍備ノ一般の制限ノ企圖ヲ實現セシムル爲獨逸國ハ左ニ掲クル陸軍、海軍及航空條項ヲ嚴ニ遵守スルコトヲ約ス

陸軍條項

獨逸國陸軍ノ兵力及幹部

第一百五十九條 獨逸國陸軍ハ左ニ規定スル所ニ從ヒ復員シ

且縮少スヘシ

第一百六十條

一 獨逸國陸軍ハ千九百二十年三月三十一日迄ニ之ヲ步兵七師團及騎兵三師團以下ト爲スコトヲ要ス

獨逸國ヲ組織スル諸邦ノ陸軍總兵員數ハ前記ノ期限以後將校及補充部隊要員ヲ合セ十萬人ヲ超ユルコトヲ得ス獨逸國陸軍ハ專ラ其ノ版圖内ノ秩序維持及國境ノ警備ニ從事スヘキモノトス

將校ノ總員數ハ其ノ編成ノ如何ヲ問ハス司令部ノ要員ヲ合セ四千人ヲ超ユルコトヲ得ス

一 師團及軍團司令部ノ編制ハ本款第一附屬表ニ依ル前記附屬表ニ掲クル步兵、砲兵及工兵ノ部隊並特種勤務部隊ノ數並人員數ハ超過スヘカラサル最大限ヲ示スモノトス

左ノ部隊ハ各其ノ補充部隊ヲ有スルコトヲ得

步兵 聯 隊

騎 兵 聯 隊

野戰砲兵聯隊

工 兵 大 隊

三 師團ハ之ヲ二箇ヲ超ユル軍團司令部ノ下ニ編合スルコトヲ得ス

軍隊ノ統率又ハ戰爭準備ノ爲右ト異リテ編合セラレタル軍隊又ハ他ノ機關ヲ維持シ又ハ設クルコトヲ禁止ス獨逸國參謀本部及之ニ類似スル一切ノ機關ハ之ヲ廢止スヘク且如何ナル形式ヲ以テスルモ再ヒ之ヲ設置スルコトヲ得ス

獨逸國各邦ノ陸軍省及其ノ附屬諸官衙ニ在ル將校又ハ之ト同一ノ地位ニ在ル者ノ員數ハ三百人ヲ超ユヘカラス尙此ノ人員ハ本條第一號第三項ニ規定スル最大限四千人ノ中ニ包含セラルルモノトス

兵器、彈藥及材料

第七十條 獨逸國ニ對スル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ輸入ハ嚴ニ之ヲ禁止ス

前項ノ規定ハ外國ノ爲ニスル兵器、彈藥及一切ノ軍用材料ノ製造及外國ニ對スル其ノ輸出ニ之ヲ適用ス

第七十一條 窒息性、毒性其ノ他ノ瓦斯及之ニ類似スル一切ノ液體、材料又ハ考案ハ其ノ使用ヲ禁止セラレアルニ因リ獨逸國內ニ於テ之ヲ製造シ又ハ輸入スルコトヲ嚴

禁ス

前項ノ規定ハ特ニ右物品又ハ考案ノ製造、貯藏及使用ヲ目的トスル材料ニ付之ヲ適用ス

裝甲車、「タンク」及軍用ニ供シ得ヘキ之ニ類似スル一切ノ製品亦之ヲ製造及獨逸國ヘノ輸入ヲ禁止ス

募兵及軍事教育

第七十三條 獨逸國ニ於ケル一般義務兵役制度ハ之ヲ廢止スヘシ

獨逸國陸軍ハ志願兵制度ノミニ依リ之ヲ組織シ且補充スルコトヲ得

築 城

第八十條 萊因河ノ東方五十吉米ニ引カレタル線ノ西方ニ位スル獨逸國版圖内ニ在ル一切ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ハ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ

前記ノ築城工事、堡壘及陸地要塞ニシテ同盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ラサルモノハ本條約實施後二月以内ニ其ノ武裝ヲ解除シ爾後四月以内ニ其ノ防備ヲ撤廢スヘシ同

盟及聯合軍ノ占領地域内ニ在ルモノハ同盟軍最高統帥部ノ定ムル期間内ニ其ノ武裝ヲ解除シ且防備ヲ撤廢スヘシ本條第一項ノ地帯内ニ於テハ其ノ性質ノ如何及重要ノ程度ヲ論セス新築城ノ構設ヲ禁止ス

海軍條項

第八十一條 本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸國常備海軍力ハ左ノ定數ヲ超エサルコトヲ要ス

「ドイチュランド」又ハ

「ロートリンゲン」型戰艦 六 隻

輕 巡 洋 艦 六 隻

驅 逐 艦 十二隻

水 雷 艇 十二隻

又ハ第九十條ノ規定ニ依リ右艦艇ノ代艦トシテ建造セラルル同數ノ艦艇

前項ノ海軍力中ニハ潜水艦ヲ包含セサルモノトス爾餘ノ艦艇ハ本條約中ニ反對ノ規定ナキ限り總テ之ヲ豫

備ニ編入シ又ハ商業上ノ目的ニ専用スルコトヲ要ス

第八十三條 本條約實施後二月ノ期間滿了後ニ於テ獨逸

國海軍所屬總人員ハ艦隊乘員及沿岸防禦、望樓、官衙其
ノ他ノ陸上勤務者ヲ合セ各兵種及階級ノ准士官以上及下
士卒ヲ通シテ一萬五千人ヲ超エサルコトヲ要ス

准士官以上ノ總員數ハ千五百人ヲ超ユヘカラス

前記員數ヲ超過スル人員ハ本條約實施後二月以内ニ之ヲ

復員スヘシ

獨逸國ニ於テハ前記員數以外ニ海軍ニ關係アル海上若ハ
陸上ノ部隊又ハ豫備兵力ヲ編成スルコトヲ得ス

第九十一條 獨逸國ニ於テハ如何ナル潜水艦船ヲモ建造

又ハ取得スルコトヲ得ス其ノ商業上ノ目的ニ供セラルル

モノト雖異ルコトナシ

第九十四條 獨逸國海軍人員ハ准士官以上ハ繼續二十五

年、下士卒ハ繼續十二年ヲ最短期間トスル志願契約ニ依
リ總テ之ヲ採用スヘシ

航空條項

第九十八條 獨逸國軍ニハ陸軍又ハ海軍ノ航空隊ヲ包含

セサルコトヲ要ス

獨逸國ハ千九百十九年十月一日迄ノ期間水中機雷ノ搜索

ニ專ラ使用セラレ且此ノ目的ノ爲必要ナル裝備ヲ有スル

水上飛行機又ハ飛行艇百隻以内ヲ存置スルコトヲ得該水

上飛行機又ハ飛行艇ハ如何ナル場合ニ於テモ何等ノ兵

器彈藥又ハ爆彈ヲ携行スルコトヲ得ス

前項ノ水上飛行機又ハ飛行艇ニ對シテハ之ニ裝置スル發

動機ノ外各機艇ノ各發動機ニ付一箇ノ豫備發動機ヲ準備

シ置クコトヲ得

航空船ハ之ヲ保有スルコトヲ得ス

制 裁

第二百二十七條 同盟及聯合國ハ國際道義ニ反シ條約ノ神

聖ヲ瀆シタル重大ノ犯行ニ付前獨逸皇帝「ホーヘンツォ

ルレルン」家ノ維廉二世ヲ訴追ス

右被告審理ノ爲特別裁判所ヲ設置シ被告ニ對シ辯護權ニ

必要ナル保障ヲ與フ該裁判所ハ五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ

構成シ亞米利加合衆國、大不列顛國、佛蘭西國、伊太利
國及日本國各一名ノ裁判官ヲ任命ス

右裁判所ハ國際間ノ約諾ニ基ク嚴正ナル義務ト國際道義

ノ儼存トヲ立證セムカ爲國際政策ノ最高動機ノ命スル所

ニ從ヒ判決スヘシ其ノ至當ト認ムル刑罰ヲ決定スルハ該

裁判所ノ義務ナリトス

同盟及聯合國ハ審理ノ爲前皇帝ノ引渡ヲ和蘭國政府ニ要

求スヘシ

第二百二十八條 獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル

行爲アリトシテ訴追セラルル者ヲ軍事裁判所ニ出廷セシ

ムル同盟及聯合國ノ權利ヲ承認ス上記ノ者有罪ト決シタ

ルトキハ之ヲ法ノ定ムル刑罰ニ處スヘシ本規定ハ獨逸國

又ハ其ノ同盟國ノ裁判所ニ於ケル訴訟手續又ハ公訴ノ爲

其ノ適用ヲ妨ケラルルコトナシ

獨逸國政府ハ戰爭ノ法規慣例ニ違反スル行爲アリトシテ

訴追セラルル者ニシテ其ノ氏名又ハ獨逸國官憲ノ下ニ於

テ其ノ有シタル地位官職ヲ明示セラレタルモノハ總テ之

ヲ同盟及聯合國又ハ引渡ヲ要求スル其ノ一國ニ引渡スヘ

シ

第二百二十九條 同盟及聯合國中ノ一國ノ國民ニ對シ罪ヲ

犯シタル者ハ之ヲ該國ノ軍事裁判所ノ裁判ニ付ス

同盟及聯合國中ニ二國以上ノ國民ニ對シ罪ヲ犯シタル者

ハ之ヲ該諸國ノ軍事裁判所ノ職員ヲ以テ組織スル軍事裁

判所ノ裁判ニ付ス

被告ハ何レノ場合ニ於テモ自己ノ辯護人ヲ指定スルノ權

ヲ有ス

賠 償

一般規定

第二百三十一條 同盟及聯合國政府ハ獨逸國及其ノ同盟國

ノ攻撃ニ因リテ強ヒラレタル戰爭ノ結果其ノ政府及國民

ノ被リタル一切ノ損失及損害ニ付テハ責任ノ獨逸國及其

ノ同盟國ニ在ルコトヲ斷定シ獨逸國ハ之ヲ承認ス

第二百三十二條 同盟及聯合國政府ハ獨逸國ノ資源カ本條

約ノ他ノ規定ノ結果永遠ニ減少スヘキコトヲ考量シ其ノ

右損失及損害ノ全部ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スニ充分ナラサルコトヲ認ム

然レトモ同盟及聯合國政府ハ其ノ各國ト獨逸國トノ交戦期間内其ノ陸上、海上及空中ノ攻撃ニ因リ同盟及聯合國ノ普通人民及其ノ財産ニ對シ加ヘラレタル一切ノ損害概言スレハ本款第一附屬書ニ掲クル一切ノ損害ニ付補償ヲ要求シ獨逸國ハ之カ補償ヲ爲スヘキコトヲ約ス

獨逸國ハ本編中別ニ規定スル損害ヲ補償スル外ニ白耳義國ノ完全ナル回復ニ關シ其ノ既ニ與ヘタル誓約ニ遵ヒ白耳義國カ千九百十八年十一月十一日前ニ於テ同盟及聯合國政府ヨリ借入レタル一切ノ金額及之ニ對スル年五分ノ利息ヲ千八百三十九年ノ條約ニ違反シタル結果トシテ償還スヘキコトヲ約ス右金額ハ賠償委員會之ヲ決定スヘク獨逸國政府ハ該決定後直ニ千九百二十六年五月一日又ハ其ノ選擇ニ從ヒ千九百二十六年以前ノ年ノ五月一日「廢」金貨ヲ以テ支拂フヘキ右金額相當ノ無記名債券ヲ特ニ發行スルコトヲ約ス上記規定ニ依ルノ外該債券ノ様式ハ賠償委員會之ヲ定ム

賠償委員會之ヲ定ム該債券ハ之ヲ賠償委員會ニ引渡スヘク同委員會ハ白耳義國ニ代リテ之ヲ受領シ且受領ヲ通牒スルノ權限ヲ有ス

第二百三十三條 獨逸國ノ補償スヘキ前記損害ノ總額ハ賠償委員會ト稱スル同盟國國際委員會之ヲ決定スヘシ該委員會ノ組織及權能ハ本款及本款第二乃至第七附屬書ノ定ムル所ニ依ル

右委員會ハ請求ヲ審査シ且意見陳述ノ公平ナル機會ヲ獨逸國政府ニ與フヘシ

前記損害額ニ關スル委員會ノ查定ハ獨逸國政府ノ債務ノ範圍ヲ示スモノトシテ千九百二十一年五月一日前ニ之ヲ確定シ且獨逸國政府ニ通告スヘシ

委員會ハ同時ニ千九百二十一年五月一日以後三十年ノ期間内ニ獨逸國カ右債務全部ヲ辨濟スヘキ時期及方法ヲ定ムル支拂一覽表ヲ調製スヘシ但シ獨逸國カ右期間内ニ其ノ債務ヲ辨濟セサル場合ニ於テハ未拂額ハ委員會ノ裁量ニ依リ其ノ決濟ヲ後年ニ延期シ又ハ同盟及聯合國政府カ

本編所定ノ手續ニ從ヒ決定スヘキ方法ニ依リ之ヲ處理スルコトヲ得

第一附屬書

補償ハ第二百三十二條ニ依リ左記種目ノ全損害ニ付之ヲ獨逸國ニ請求スルコトヲ得

一 戰爭ノ行爲(陸上、海上又ハ空中ノ砲撃其ノ他ノ攻撃、其ノ一切ノ直接ノ結果及場所ノ如何ヲ問ハス交戦國ノ雙方ノ行ヘル軍事行動ノ一切ノ直接ノ結果ヲ含ム)ニ因ル普通人民ノ傷害又ハ死亡ノ爲該負傷者及生存被扶養者ノ受クル損害

二 場所ノ如何ヲ問ハス獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ殘忍、兇暴又ハ虐待行爲(監禁、追放、抑留、退去命令、海上遺棄又ハ強制勞働ノ結果タル生命又ハ健康ノ危害ヲ含ム)ノ犠牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

三 獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ領土、占領地又ハ侵入地ニ於テ該諸國カ行ヒタル健康、活動力又ハ名譽ヲ害スル

一切ノ行爲ノ犠牲ト爲リタル普通人民及其ノ生存被扶養者ノ損害

四 俘虜ニ對スル各種ノ虐待ニ基ク損害

五 同盟及聯合國國民ノ被リタル損害トシテ傷痕ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ不具瘥疾ト爲リテ戰爭ノ犠牲ト爲リタル陸海軍軍人(空軍軍人ヲ含ム)及其ノ被扶養者ニ對スル一切ノ恩給金及恩給金ノ性質ヲ有スル一切ノ補償金但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ右金額ハ本條約實施ノ日ニ於ケル佛蘭西國現行ノ率ヲ基礎トシ同時期ニ於テ恩給金及補償金ヲ一時金ニ換算シタル額ニ依リ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

六 俘虜並其ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ扶助費

七 勳員セラレタル者又ハ軍務ニ服シタル者ノ家族及被扶養者ニ對スル同盟及聯合國政府ノ給與額但シ同盟及聯合國政府ニ支拂フヘキ給與額ハ戰時狀態ニ在リタル各曆年毎ニ當該年ニ於テ佛蘭西國ニ行ハレタル此ノ種

支拂ノ平均率ヲ基礎トシ右各國政府毎ニ之ヲ計算スヘシ

八 獨逸國又ハ其ノ同盟國カ正當ノ報酬ナクシテ勞働ヲ強制シタル爲普通人民ノ受ケタル損害

九 陸海軍ノ工作物又ハ材料ヲ除クノ外同盟國若ハ聯合國又ハ其ノ國民ニ屬スル一切ノ財産ニシテ其ノ所在地ノ如何ヲ問ハス陸上、海上又ハ空中ニ於ケル獨逸國又ハ其ノ同盟國ノ行爲ニ因リ撤去、差押、毀損又ハ破壊セラレタルモノニ關スル損害並敵對行爲又ハ軍事行動ノ直接ノ結果タル損害

十 獨逸國又ハ其ノ同盟國カ普通人民ニ課シタル賦金、罰金其ノ他之ニ類スル強制徵收ノ形式ニ依ル損害

第二附屬書

十七 獨逸國本編(賠償編)規定ノ義務ヲ履行セサル場合ニ於テハ委員會ハ速ニ之ヲ關係各國ニ通知シ且右不履行ノ爲執ルヘキ行動ニ付必要ト認ムル建議ヲ爲スコトヲ得

十八 獨逸國カ故意ニ履行ヲ怠リタル場合ニ同盟及聯合國

カ執ルノ權利ヲ有スル措置ニハ經濟上及金融上ノ禁止及報復其ノ他ノ一般ニ各當該國政府ニ於テ事情ニ應シ必要ト決定シタル措置ヲ包含ス獨逸國ハ右措置ヲ以テ戰爭行爲ト認メサルコトヲ約ス

財政條項

第二百五十四條 獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ第二百五十五條ノ制限ノ下ニ左ノ支拂義務ヲ引受クヘシ

一 千九百十一年、千九百十二年及千九百十三年ノ三會計年度ニ於ケル讓渡地域ノ收入平均額及同年度ニ於ケル獨逸帝國全版圖ノ收入平均額ニシテ賠償委員會ニ於テ此等地域ノ相對的支拂能力ヲ表示スルニ最適當ナリト認メタルモノノ割合ヲ基礎トシテ算出シタル千九百十四年八月一日現在ノ獨逸帝國ノ金錢債務ノ一部分

二 當該讓渡地域ノ屬シタル獨逸各邦ノ千九百十四年八月一日現在ノ金錢債務中前號ノ原則ニ依リ定メラルヘキ部分

前記引受部分ハ賠償委員會之ヲ定ムヘシ

前記引受債務ノ履行方法ハ元金及利息ニ付賠償委員會之ヲ定ムヘシ其ノ一方法トシテ領土讓受國カ獨逸國民ノ有スル獨逸國公債ニ對スル獨逸國ノ義務ヲ引受クルノ形式ヲ採ルコトヲ得獨逸國政府ニ對シ金錢ノ支拂ヲ要スルカ如キ方法ヲ採用シタル場合ニ於テハ獨逸國賠償額未拂部分ノ存スル限り之ニ充當スル爲該支拂金ハ賠償委員會ニ之ヲ交付スヘシ

第二百五十五條

一 右ノ例外トシテ且千八百七十一年獨逸國カ佛蘭西國公債ノ引受ヲ拒絕シタルノ事實ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ付テハ第二百五十四條ニ依ル支拂義務ヲ負フコトナカルヘシ

二 波蘭國ニ付テハ賠償委員會ニ於テ獨逸國及普魯西ノ政府ノ波蘭ニ於ケル獨逸殖民政策ニ基因スルモノト認メタル公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル其ノ割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

三 「アルザス、ロレーヌ」以外ノ一切ノ讓渡地域ニ付

テハ賠償委員會ニ於テ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ政府カ第二百五十六條ノ官有財産ノ爲ニ費シタル支出ニ該當スト認メタル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ニ限リ第二百五十四條ニ依ル割當中ヨリ之ヲ除外スヘシ

第二百五十六條

獨逸國ノ領土ノ讓渡ヲ受クル諸國ハ其ノ讓受地域内ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ニ屬スル一切ノ財産及所有物ヲ取得スヘシ其ノ取得物ノ價額ハ賠償委員會之ヲ定メ且獨逸國政府ノ貸方トシテ其ノ賠償金額ニ計上セシムル爲該讓受國ヨリ賠償委員會ニ之ヲ拂込ムヘシ本條ノ獨逸帝國及其ノ各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ノ全部ヲ包含ス

千八百七十一年「アルザス、ロレーヌ」ヲ獨逸國ニ讓渡シタル條件ニ顧ミ佛蘭西國ハ「アルザス、ロレーヌ」ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財産及所有物ニ對シテ本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ白耳義國ハ本條約ニ依リ同國ニ讓渡セラルル獨逸國ノ領

土内ニ在ル獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ財産及所有物ニ對シ亦本條ニ依リ支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

第二百五十七條 獨逸國ノ舊領土(殖民地、保護領又ハ屬領地ヲ含ム)ニシテ本條約第一編(國際聯盟)第二十二條ニ依リ受任國ニ於テ施政ヲ行フニ付テハ該領土又ハ受任國ハ共ニ獨逸帝國又ハ其ノ各邦ノ公債ノ何レノ部分ヲモ負擔スルコトナカルヘシ

前記領土内ニ在ル獨逸帝國又ハ獨逸各邦ニ屬スル一切ノ財産及所有物ハ受任國之ヲ該領土ト共ニ受任國タル資格ニ於テ讓受クヘク且其ノ對價トシテ獨逸國又ハ獨逸各邦ノ政府ニ對シ何等支拂ヲ爲シ又ハ貸方ニ計上スルコトナカルヘシ

本條ノ獨逸帝國及獨逸各邦ノ財産及所有物ニハ帝室、帝國又ハ各邦ノ一切ノ財産及前獨逸皇帝其ノ他ノ王族ノ私財産ノ全部ヲ包含ス

海 運

第二百七十三條

同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニ付テハ船舶ニ關スル各種ノ證明書及書類ニシテ戰前獨逸國ニ於テ有效ト認メラレ又ハ今後主要海運國ニ於テ有效ト認メラルヘキモノハ獨逸國之ヲ有效ト認メ且獨逸船舶ニ發給シタル同種ノ證明書ト同等ノ效力ヲ有スルモノト認ムヘシ
新國ノ政府力自國ノ船舶ニ發給シタル證明書及書類ニ付テモ其ノ書類カ主要海運國ノ運由スル一般ノ慣行ニ從ヒ發給セラルル限リ其ノ國カ海岸ヲ有スルト否ト問ハス前項ト同様ノ承認ヲ與ヘラルヘシ
締約國ハ海岸ヲ有セサル同盟國又ハ聯合國ノ船舶ニシテ其ノ版圖内ノ或一定ノ地ニ於テ登錄セラレタルモノノ掲揚スル國旗ヲ承認スルコトニ同意ス其ノ他ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス

條 約

第二百八十二條 本條約ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外經濟上又ハ專門事項上ノ性質ヲ有スル數國間ノ條約及取極ハ本條以下數條ニ列記シタルモノニ限リ獨逸國ト同條

約及取極ノ當事國タル同盟及聯合國トノ間ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ適用ス

一 海底電信線保護ニ關スル千八百八十四年三月十四日、千八百八十六年十二月一日及千八百八十七年三月二十三日ノ條約並千八百八十七年七月七日ノ最終議定書

二 自動車ノ國際通行ニ關スル千九百九年十月十一日ノ條約

三 千八百八十六年五月十五日ノ稅關検査ヲ受クヘキ鐵道貨車ノ封印ニ關スル取極及千九百七年五月十八日ノ議定書

四 鐵道ノ技術上ノ規格一定ニ關スル千八百八十六年五月十五日ノ取極

五 萬國關稅誌刊行及萬國關稅誌刊行ノ爲ノ萬國協會ノ組織ニ關スル千八百九十年七月五日ノ條約

六 國際貿易統計作成ニ關スル千九百十三年十二月三十一日ノ條約

七 土耳其國關稅率引上ニ關スル千九百七年四月二十五日ノ條約

八 「ズンド」海峽及「ベルト」海峽ノ通航稅ノ免除ニ關スル千八百五十七年三月十四日ノ條約

九 「エルベ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十一年六月二十二日ノ條約

十 「エスコ」河通航稅ノ免除ニ關スル千八百六十三年七月十六日ノ條約

十一 蘇士運河ノ自由使用ヲ保障スル確定制度ノ設定ニ關スル千八百八十八年十月二十九日ノ條約

十二 海上ニ於ケル船舶ノ衝突及海難ニ於ケル救援救助ニ付テノ規定ノ統一ニ關スル千九百十年九月二十三日ノ條約

十三 病院船ノ港内ニ於ケル租稅及課金免除ニ關スル千九百四年十二月二十一日ノ條約

十四 内地航行船舶ノ積量測度ニ關スル千八百九十八年二月四日ノ條約

- 十五 婦人ノ夜業禁止ニ關スル千九百零六年九月二十六日ノ條約
- 十六 燐寸製造ニ於ケル黃燐使用ノ禁止ニ關スル千九百零六年九月二十六日ノ條約
- 十七 醜業ヲ行ハシムル爲ノ婦女賣買禁止ニ關スル千九百零四年五月十八日及千九百零十年五月四日ノ條約
- 十八 猥褻出版物禁止ニ關スル千九百零十年五月四日ノ條約
- 十九 千八百九十二年一月三十日、千八百九十三年四月十五日、千八百九十四年四月三日、千八百九十七年三月十九日及千九百零三年十二月三日ノ衛生條約
- 二十 「メートル」法ノ統一及改良ニ關スル千八百七十五年五月二十日ノ條約
- 二十一 有效藥ノ藥局方統一ニ關スル千九百零六年十一月二十九日ノ條約
- 二十二 模範音ノ制定ニ關スル千八百八十五年十一月十六日及十九日ノ條約

- 二十三 羅馬ニ於ケル萬國農事協會ノ設立ニ關スル千九百零五年六月七日ノ條約
- 二十四 「フィロクセラ」驅除豫防ニ關スル千八百八十九年十一月三日及千八百八十九年四月十五日ノ條約
- 二十五 農業ニ有益ナル鳥類保護ニ關スル千九百零二年三月十九日ノ條約
- 二十六 未成年者保護ニ關スル千九百零二年六月十二日ノ條約

條約

第二百八十三條 締約國ハ獨逸國カ本條中ノ特別規定ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ左記ノ條約及取極ヲ關係締約國ニ限り更ニ適用スヘシ

- 郵便條約
- 千八百九十一年七月四日維納ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千八百九十七年六月十五日華盛頓ニ於テ署名セラレタル萬國郵便聯合ノ條約及取極
- 千九百零六年五月二十六日羅馬ニ於テ署名セラレタル萬

國郵便聯合ノ條約及取極

電信條約

千八百七十五年七月二十二日（露曆十日）聖彼得堡ニ於テ署名セラレタル萬國電信條約

千九百零八年六月十一日里斯本ノ萬國電信會議ニ於テ改正セラレタル萬國電信條約附屬書國際業務規則及國際料金表

獨逸國ハ新國カ加盟シ又ハ加盟スルコトアルヘキ萬國郵便聯合及萬國電信聯合ニ關スル條約及取極中ニ規定シタル特別協定ヲ新國ト締結スルコトヲ拒マサルヘキコトヲ約ス

第二百八十四條

締約國ハ獨逸國カ同盟及聯合國ノ指示スヘキ暫定規則ヲ履行スルコトヲ條件トシテ本條約實施ノ時ヨリ千九百零十二年七月五日ノ國際無線電信條約ヲ關係締約國ニ限り更ニ適用スヘシ

本條約實施後五年以内ニ千九百零二年七月五日ノ條約ニ代ルヘキ國際無線電信ニ關スル新條約ノ締結アリタルト

キハ其ノ新條約ハ獨逸國カ其ノ新條約制定ニ參加スルコト又ハ其ノ新條約ニ同意スルコトヲ拒ミタル場合ニ於テモ尙獨逸國ヲ拘束ス

前項ノ新條約ハ又第一項ノ暫定規則ニ代ハルヘキモノトス

第二百八十五條

本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ第二百七十七條ニ規定シタル條件ニ從ヒ左記ノ條約ヲ關係締約國ニ限り適用スヘシ

- 一 北海ニ於ケル領海外ノ漁業ニ關スル千八百八十二年五月六日及千八百八十九年二月一日ノ條約
- 二 北海ニ於ケル火酒類販賣ニ關スル千八百八十七年十一月十六日、千八百九十三年二月十四日及千九百零四年四月十一日ノ條約及議定書

第二百八十六條

千九百零一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及千九百零八年十一月十三日柏林ニ於テ改正シ千九百零四年三月二十日「ベルヌ」ニ於テ署名

名ノ追加議定書ニ依リ補足セラレタル文學的及美術的著作物保護ニ關スル千八百八十六年九月九日ノ「ベルヌ」條約ハ本條約ニ基ク例外及制限ニ依リ之ヲ妨ケラレ又ハ變更セラレサル範圍ニ於テ本條約實施ノ時ヨリ效力ヲ回復スヘシ

第二百八十七條 本條約實施ノ時ヨリ締約國ハ民事訴訟ニ關スル千九百零五年七月十七日ノ海牙條約ヲ關係締約國ニ限リ適用スヘシ但シ佛蘭西國、葡萄牙國及羅馬尼亞國ニハ之ヲ適用セス

第二百八十八條 「サモア」ニ關スル千八百九十九年十二月二日ノ條約第三條ニ依リ獨逸國ニ付與セラレタル特殊ノ權利及特權ハ千九百十四年八月四日ヲ以テ消滅シタルモノト看做ス

第二百八十九條 各同盟國又ハ聯合國ハ本條約ノ一般原則又ハ特別規定ノ趣旨ニ從ヒ當該同盟及聯合國カ獨逸國トノ間ニ復活セシメムコトヲ欲スルニ獨逸國ヲ獨逸國ニ通告スヘシ

本條ニ定ムル通告ハ直接ニ又ハ他國ノ仲介ニ由リ之ヲ行フヘク獨逸國ハ文書ニテ其ノ通告ノ接受ヲ認ムヘシ前項ノ條約ハ通告ノ日ヨリ其ノ效力ヲ復活スヘシ

同盟及聯合國ハ本條約ノ條項ト合致セサル條約ヲ獨逸國トノ間ニ復活セシメサルヘキコトヲ相互ニ約ス
前記ノ通告ニハ前記條約中ノ規定ニシテ本條約ノ條項ト合致セサル爲效力ヲ復活セスト看做サルモノヲ記載スヘシ

意見ノ相違アル場合ニ於テハ國際聯盟ノ決定ヲ求ムヘシ
同盟及聯合國ハ本條約實施後六月ノ期間内ニ前記ノ通告ヲ爲スヘシ

二國條約ハ前記ノ通告アリタルモノニ限リ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ其ノ效力ヲ復活スヘク其ノ他ノ一切ノ條約ハ消滅ス

前各項ノ規定ハ本條約ノ署名國タル一切ノ同盟及聯合國ト獨逸國トノ間ニ存在スル一切ノ二國條約ニ適用セララルモノトス獨逸國ト交戰状態ニ在リタルコトナキ同盟及

聯合國ノ場合ト雖異ルコトナシ

第二百九十五條 締約國ニシテ千九百十二年一月二十三日海牙ニ於テ署名セラレタル阿片條約ニ未タ署名セサルモノ又ハ署名シタルモ未タ之ヲ批准セサルモノハ該條約ヲ實施スヘキコト及此ノ目的ノ爲遲延ナク且如何ナル場合ニ於テモ本條約實施後十二月ノ期間内ニ必要ナル法令ヲ制定スヘキコトニ同意ス

又締約國ハ本條約ノ批准ハ阿片條約ヲ批准セサル國ニ付テハ該條約ノ批准ニ及千九百十四年第三回阿片會議ノ決議ニ從ヒ該條約實施ノ爲海牙ニテ設ケラレタル特別議定書ノ署名ニ一切ノ點ニ於テ均シキモノト看做スコトニ同意ス

此ノ目的ノ爲佛蘭西共和國政府ハ本條約ノ批准書寄託ニ關スル調書ノ認證原本ヲ和蘭國政府ニ送致シ且和蘭國政府ニ對シ該認證原本ヲ阿片條約ノ批准書寄託及千九百十四年ノ追加議定書ノ署名トシテ承認シ且寄託スルコトヲ依頼スヘシ

金錢債務

第二百九十六條 左ノ種類ノ金錢上ノ債務ハ本條第三項(ホ)號ニ規定スル通告後三月以内ニ各締約國ノ設置スヘキ清算所ノ仲介ニ由リ之ヲ決済ス
一 締約國ノ一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ締約國ノ國民カ其ノ國ニ敵對スル一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民ニ對シテ負擔スル金錢債務ニシテ戰前辨濟期限到來シタルモノ

二 締約國ノ一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ締約國ノ國民ニ對スル辨濟ノ期限戰時中到來シタル金錢債務ニシテ其ノ締約國ニ敵對スル一國ノ版圖内ニ居住スル其ノ敵對國ノ國民トノ取引又ハ契約ヨリ生シ其ノ全部又ハ一部ノ履行カ宣戰ノ爲停止セラレタルモノ

三 締約國ノ一國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ利息ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對シテ戰前又ハ戰時中支拂期限到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ證券ノ利息ノ支拂力停止セ

ラレサリシモノニ限ル

四 締約國ニ敵對スル一國ノ發行シタル有價證券ノ元本ニシテ其ノ締約國ノ國民ニ對スル償還ノ期限戰前又ハ戰時中ニ到來シタルモノ尤モ戰時中其ノ敵對國ノ國民又ハ中立國ノ國民ニ其ノ元本ノ償還カ停止セラレサリシモノニ限ル

第四款及其ノ附屬書ニ掲クル敵人ノ財産、權利及利益ノ清算殘高ハ本條第三項(ニ)號ニ規定スル通貨及爲替相場ヲ以テ清算所ヲ經由シテ之ヲ清算シ且同款及同附屬書ノ規定スル條件ニ從ヒ清算所之ヲ處分ス

本條ニ定ムル決濟ハ左ノ原則ニ準據シ且本款附屬書ニ從ヒテ之ヲ行フヘシ

(イ) 各締約國ハ本條約實施ノ時ヨリ前記金錢債務ノ辨濟及辨濟ノ受領ヲ並前記金錢債務ノ決濟ニ關スル利害關係人間ニ於ケル一切ノ通信ヲ清算所ヲ經由スルモノヲ除クノ外禁止スヘシ

(ロ) 各締約國ハ債務者カ戰前破産若ハ身代限ノ狀態ニ

本號ニ規定スル戰前ノ爲替相場トハ戰爭開始ノ直前ノ月内ニ當該同盟國內ニ行ハレタル其ノ國ト獨逸國トノ間ノ平均電信爲替相場ヲ謂フ

金錢債務ヲ指定スル通貨ヲ當該同盟國又ハ聯合國ノ通貨ニ換算スルニ付一定ノ爲替相場ヲ契約中ニ規定シタル場合ニ於テハ爲替相場ニ關スル前記ノ規定ハ之ヲ適用セズ

新國ニ關シテハ金錢債務ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スル爲用フヘキ通貨及爲替相場ハ第八編(賠償)ニ規定シタル賠償委員會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(ホ) 本條及本條附屬書ノ規定ハ獨逸國ト同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ一トノ間ニ在リテハ當該國ニ於テ自己ノ爲又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ爲ニ本條約ノ批准書ヲ寄託シタル後一月以内ニ各場合ニ應シ當該同盟國若ハ聯合國又ハ當該英國自治領若ハ印度ノ政府ヨリ獨逸國政府ニ其ノ適用ノ通告ヲ爲スニ非サレハ適用ナキモノトス

在リ又ハ支拂不能ノ正式ノ表示ヲ爲シタル場合又ハ金錢債務カ戰時中非常法令ニ依リテ事業ノ清算ヲ受ケタル會社ニ依リ負擔セラルル場合ヲ除クノ外自國民ノ負擔スル金錢債務ノ辨濟ニ對シ各自其ノ責ニ任スヘシ尤モ休戰前ニ敵ノ侵入又ハ占領シタル地域ノ住民ノ負擔シタル金錢債務ニ關シテハ該地域所屬國ニ於テ保證ノ責ニ任セサルモノトス

(ハ) 締約國ノ一國ノ國民ニ對シ其ノ國ニ敵對スル國ノ國民カ負擔シタル金額ハ債務者所屬國清算所ノ借方ニ計上シ債權者所屬國清算所ニ於テ債權者ニ之ヲ辨濟ス

(ニ) 金錢債務ハ當該同盟國若ハ聯合國其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ金錢債務カ右以外ノ通貨ヲ以テ辨濟セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ金錢債務ハ戰前ノ爲替相場ニ依リ當該同盟國若ハ聯合國、其ノ殖民地若ハ保護國又ハ英國自治領若ハ印度ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟シ又ハ貸方ニ之ヲ計上スヘシ

(ヘ) 本條及本條附屬書ヲ採用スル同盟及聯合國ハ其ノ國民ト獨逸國民トノ間ノ事項ニ關スル限リ其ノ版圖内ニ居住スル各自ノ國民ニ本條及本條附屬書ヲ適用スル爲其ノ間ニ約定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本號ノ規定ノ適用ニ依リ行ハルヘキ辨濟ハ當該同盟及聯合國清算所間ノ協定ニ從フヘシ

財産、權利及利益

第二百九十七條 敵國內ニ在ル私人ノ財産、權利及利益ニ關シテハ本款ニ定ムル原則及本款附屬書ノ規定ニ準據シテ處理スヘシ

(イ) 獨逸國カ同盟國又ハ聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財産、權利及利益ニ關シ本款附屬書三ニ定ムル戰時非常措置及移轉措置ヲ爲シ其ノ清算ノ未タ完了セサル場合ニ於テハ直ニ其ノ措置ヲ中止シ又ハ停止シ前記ノ財産、權利及利益ヲ其ノ所有者ニ返還スヘク所有者ハ第二百九十八條ノ規定ニ從ヒ之ニ對スル完全ナル權利ヲ享有スヘシ

(ロ) 本條約中反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外同盟及聯合國ハ其ノ版圖、殖民地、屬地及保護國並本條約ニ依リ讓受ケタル地域内ニ在ル獨逸國民又ハ其ノ管理スル會社ニ本條約實施ノ日ニ於テ屬スル一切ノ財産、權利及利益ヲ留置シ及清算スルノ權利ヲ留保ス

右清算ハ當該同盟國又ハ聯合國ノ法令ニ從ヒ之ヲ執行スヘク且右獨逸ノ所有者ハ其ノ國ノ同意ナクシテ此等ノ財産權利及利益ヲ處分シ又ハ其ノ上ニ何等ノ負擔ヲ設定スルコトヲ得ス

本條約ノ規定ニ依リ當然同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スル獨逸國民ハ之ヲ本號ノ獨逸國民ト看做ササルヘシ

(ハ) 前號ニ規定シタル權利ノ行使ニ關シ生スル代金又ハ賠償額ハ該財産ノ留置又ハ清算カ行ハレタル國ノ法令ノ定ムル賣却及評價ノ方法ニ依リ決定セラルヘシ

(ニ) 同盟及聯合國又ハ其ノ國民ト獨逸國又ハ其ノ國民トノ間ノ關係ニ於テハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル一

(ヘ) 獨逸國ノ版圖内ニ於テ移轉措置ノ適用ヲ受ケタル財産ノ所有者タル同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ財産ノ回收ノ希望ヲ表示スル場合ニ於テハ財産カ現物ノ儘存在スルトキハ其ノ財産ノ回收ニ依リ前號ニ依ル賠償ノ請求ノ目的ヲ達セシムヘシ

前記ノ場合ニ獨逸國ハ其ノ財産ノ原所有者ヲシテ其ノ財産上ニ清算後設定セラレタルコトアルヘキ一切ノ役權又ハ負擔ヲ負ハシメシテ其ノ財産ノ占有ヲ回復セシムル爲且其ノ現物回收ニ依リ損害ヲ受ケタル一切ノ第三者ニ對シ賠償スル爲必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘシ

本號ニ規定スル現物回收ノ實行不能ナル場合ニ於テハ同盟國又ハ聯合國ノ國民カ其ノ喪失シタル財産、權利又ハ利益ニ代ヘテ受クルコトヲ同意スル便益又ハ之ニ相當スルモノヲ其ノ國民ニ許與シ以テ其ノ國民カ前號ニ定ムル損害賠償ヲ確保スルコトヲ得ル爲關係諸國又ハ第三款附屬書ニ定ムル清算所ノ仲介ニ依リ私ノ取極

切ノ戰時非常措置又ハ移轉措置又ハ此ノ措置ノ實行ノ爲執リ又ハ執ルヘキ行爲ハ本條約ニ規定スル留保ノ場合ヲ除クノ外最終ニシテ且何人ヲモ拘束ス

(ホ) 同盟及聯合國ノ國民(其ノ國民ノ利害關係ヲ有スル會社又ハ組合ヲ含ム)ハ本款附屬書ノ一及三ニ定ムル戰時非常措置又ハ移轉措置ノ適用ニ因リ千九百十四年八月一日現在ノ獨逸國版圖内ニ在ル各自ノ財産、權利又ハ利益ニ付受ケタル損害ニ關シ賠償請求ノ權利ヲ有ス此等ノ國民ノ之カ爲ニ行フ請求ハ第六款ニ定ムル混合仲裁裁判所又ハ該裁判所ノ任命スル仲裁人之ヲ審査シ且其ノ賠償額ヲ決定ス此ノ賠償額ハ獨逸國之ヲ負擔スヘク且之ヲ賠償請求者所屬國ノ版圖内ニ存シ又ハ其ノ國ノ管理ノ下ニ在ル獨逸國民ノ財産上ノ負擔ニ歸セシムルコトヲ得此ノ財産ハ本款附屬書四ニ定ムル條件ニ從ヒ敵ノ債務ノ擔保ト爲スコトヲ得前記賠償額ハ同盟國又ハ聯合國ニ於テ之ヲ支拂フコトヲ得ヘク其ノ金額ハ獨逸國ノ借方ニ之ヲ計上ス

ヲ爲スコトヲ得

本條ニ依リ現物回收ノ行ハレタルトキハ前號ノ適用ニ依リ定メラレタル代金又ハ賠償額中ヨリ其ノ回收財産ノ實價額ヲ控除スヘシ尤モ其ノ財産ノ使用ヲ妨ケラレタルニ因ル損害又ハ減損ノ賠償ヲ斟酌スヘシ

(ト) 前號ニ規定シタル權利ハ休戰條約署名前ニ敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ一般的清算ヲ規定スル立法的手段ヲ版圖内ニ採用スルニ至ラザリシ同盟國又ハ聯合國ノ國民タル所有者ニ限り之ヲ有ス

(チ) (ヘ) 號ノ適用ニ依リ現物回收行ハレタル場合ヲ除クノ外戰時法令ニ依リ又ハ本條ノ適用ニ依リ行ハレタル敵人ノ財産、權利又ハ利益ノ清算純殘高及敵人ニ屬スル一切ノ現金資産ハ一般ニ左ノ方法ニ依リ之ヲ處理ス

(一) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用スル諸國ニ付テハ前記ノ清算純殘高及現金資産ハ同款及附屬書ニ依リ設置セラレル清算所ヲ通シ其ノ所有者ノ屬スル國ノ貸

方ニ之ヲ計上ス但シ之カ爲生スル獨逸國ニ有利ナル
貸方勘定ハ第二百四十三條ニ從ヒ之ヲ處理ス

(二) 第三款及其ノ附屬書ヲ採用セサル諸國ニ付テハ
獨逸國ニ依リ留置セラレタル同盟國又ハ聯合國ノ國
民ノ財產權利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ直ニ其
ノ權利者又ハ其ノ權利者ノ屬スル政府ニ支拂フヘク
同盟國又ハ聯合國ノ差押ヘタル獨逸國民ノ財產、權
利及利益ノ清算殘高及現金資産ハ當該國其ノ法令ニ
依リ之ヲ處分シ且本條又ハ本款附屬書四ニ定ムル請
求及金錢債務ノ辨濟ニ之ヲ充當スルコトヲ得上記ノ
方法ニ依リ處分セラレサリシ財產、權利及利益又ハ
其ノ清算殘高若ハ現金資産ハ該同盟國又ハ聯合國ニ
於テ留置スルコトヲ得ヘク之ヲ留置シタル場合ニ於
テハ其ノ現金價額ハ第二百四十三號ノ規定ニ從ヒ之
ヲ處理ス

同盟及聯合國トシテ本條約ニ署名スル諸新國ニ於テ
又ハ獨逸國ノ行フヘキ賠償金ノ支拂ノ分配ニ與ル權

利ヲ有セサル諸國ニ於テ清算ヲ行ヒタル場合ニ於テ
ハ此等ノ諸國ハ本條約特ニ第二百三十五條及第二百
六十條ニ依リ賠償委員會カ權利ヲ有スル場合ヲ除ク
ノ外其ノ清算ノ殘高ヲ直接所有者ニ支拂フヘシ前記
所有者カ本編第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所又ハ
同裁判所ノ任命スル仲裁人ニ對シ當該國政府ノ一般
法令ノ規定外ニ互リテ執リタル措置又ハ賣却條件カ
清算代金ニ付所有者ニ不當ニ損害ヲ與ヘタルモノナ
ルコトヲ證明スルトキハ同裁判所又ハ仲裁人ハ當該
國ヲシテ所有者ニ公平ナル賠償ヲ爲サシムルノ判斷
ヲ與フルノ裁量ヲ有ス

(リ) 獨逸國ハ同盟國又ハ聯合國内ニ在ル獨逸國民ノ財
產、權利又ハ利益ノ清算又ハ留置ニ對シ其ノ國民ニ賠
償ヲ爲スコトヲ約ス

(ヌ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財產、權利及利益ニ對
シ千九百十八年十一月十一日以後本條約實施後三月ヲ
經ルニ至ル迄ノ間ニ又ハ戰時非常措置ノ適用ヲ受ケク

附屬書

一

第二百九十八條 獨逸國ハ同盟及聯合國ノ國民(其ノ國民
ノ利害關係ヲ有スル會社及組合ヲ含ム)ノ財產、權利及
利益ニシテ前條ノ(イ)號又ハ(ヘ)號ニ依リ回收セラ
レタルモノニ關シ左ノ措置ヲ爲スコトヲ約ス

(イ) 本條約ニ明文アル場合ヲ除クノ外同盟國又ハ聯合
國ノ國民ニ屬スル財產、權利及利益ハ戰前施行ノ法令
ノ下ニ獨逸國民カ其ノ財產權利及利益ニ關シ有スル其
ノ法律上ノ地位ニ於テ之ヲ回復維持スヘキコト

(ロ) 同盟國又ハ聯合國ノ國民ノ財產、權利又ハ利益ニ
對シテハ獨逸國民ノ財產、權利又ハ利益ニ對シ均シク
適用スルニ非サレハ財產權ヲ侵害スヘキ措置ヲ執ラサ
ルヘキコト及此ノ種ノ措置ヲ執ル場合ニ於テハ適當ノ
賠償ヲ爲スヘキコト

締約國ノ裁判所又ハ行政官廳カ敵人ノ財產、權利及利益ニ
關シ戰時法令ニ基キ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタル
モノトセラルルモノヲ含ム)權利移轉命令、事業若ハ會社

ノ清算ニ關スル命令其ノ他ノ命令、指令、決定又ハ訓令ノ
效力ハ第二百九十七條(ニ)號ノ規定ニ依リ之ヲ確認ス各
人ノ利益ハ其ノ利益カ命令、指令、決定又ハ訓令中ニ特ニ
明記セラルルト否トヲ問ハス各人ノ利害關係ヲ有スル財產
ニ關スル一切ノ命令、指令、決定又ハ訓令ニ依リテ有效ニ
處理セラレタルモノト看做サルヘク其ノ命令、指令、決定
又ハ訓令ニ基キ行ハレタル財產、權利又ハ利益ノ移轉カ適
法ナリヤ否ヤニ關シ爭議ヲ提起スルヲ許サス戰時法令ニ依
リ敵人ノ財產、權利又ハ利益ニ關シ締約國ノ裁判所又ハ行
政官廳ノ發シ又ハ爲シタル(發シ又ハ爲シタルモノトセラ
ルルモノヲ含ム)命令、指令、決定又ハ訓令ニ基キ財產、
事業又ハ會社ニ付行ハレタル一切ノ措置ハ財產、事業又ハ

會社ノ調査、保管、強制管理、利用、徵發、監理又ハ清算ニ關スルト財産、權利又ハ利益ノ清算、賣却又ハ管理、金錢債務ノ取立又ハ辨濟、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂ニ關スルト又其ノ他如何ナルモノニ關スルトヲ問ハス其ノ有效ナルコトヲ確認ス但シ本項ノ規定ハ同盟及聯合國ノ國民カ善意及有償ニテ且財産所在地ノ法令ニ從ヒ既ニ取得シタル財産上ノ權原ニ影響ナキモノトス

獨逸國官憲カ侵入地域内又ハ占領地域内ニ於テ執リタル前記ノ措置及千九百十八年十一月十一日以後獨逸國官憲ノ執リタル前記ノ措置ハ一切之ヲ無効トシ前項ノ規定ヲ適用セ

二

獨逸國民ノ財産、權利又ハ利益ニ關シ戰時中又ハ戰時準備ノ爲行ハレタル一切ノ作爲又ハ不作爲ニ付獨逸國又ハ獨逸國民ハ其ノ何レノ地ニ居住スルヲ問ハス同盟國若ハ聯合國ヲ相手方トシ又ハ其ノ行政官廳若ハ司法官憲ノ爲ニ又ハ其ノ命令ノ下ニ行動シタル者ヲ相手方トシテ請求又ハ訴訟ヲ

提起スルコトヲ得ス又同盟國又ハ聯合國ノ戰時非常措置法令若ハ規則ノ下ニ又ハ之ニ從ヒ爲シタル一切ノ作爲及不作爲ニ付何人ニ對シテモ請求又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

三

第二百九十七條及本附屬書ニ於テ「戰時非常措置」ト稱スルハ敵人ノ財産ニ關シテ執リ又ハ將來執ルコトアルヘキ立法上、行政上、司法上其ノ他ノ一切ノ措置ニシテ所有權ニ變更ヲ加フルコトナキモ其ノ財産ニ關スル所有者ノ處分權ヲ奪フノ結果ヲ生シ又ハ生セシムヘキモノ例ヘハ監理、強制管理及保管ノ如キ措置並動機、形式又ハ場所ノ如何ヲ問ハス敵人ノ財産ノ差押、利用又ハ侵害ヲ目的トシ又ハ目的トスヘキ措置ヲ謂ヒ此等ノ措置ノ實行行爲トハ敵人ノ財産ニ對シ此等ノ措置ヲ適用スル行政官廳又ハ裁判所ノ抑留、訓令又ハ命令及敵人ノ財産ノ管理又ハ監理ニ關シ個人ノ爲シタル行爲例ヘハ金錢債務ノ辨濟、金錢債權ノ取立、訴訟費用、諸掛其ノ他ノ諸費用ノ支拂、手数料ノ取立ノ如キ行爲ヲ謂フ

「移轉措置」トハ敵人ノ財産ノ全部又ハ一部ヲ敵人タル所有者ノ同意ナクシテ敵人タル所有者以外ノ者ニ移轉スルニ因リテ敵人ノ財産ノ所有權ニ影響ヲ及ホシ又ハ及ホスヘキ措置例ヘハ敵ノ財産ノ所有權ノ移轉賣却若ハ清算又ハ權利證書若ハ有價證券ヲ無効ト爲スカキ措置ヲ謂フ

契約、時効、判決

第二百九十九條

(イ) 本條及本款附屬書ニ掲クル特定ノ契約又ハ特定ノ種類ノ契約ニシテ除外例又ハ特別ノ定アルモノヲ除クノ外敵人間ノ契約ハ當事者中ノ何レカノ二人カ敵人ト爲リタル時ヨリ效力ヲ失ヒタルモノト看做ス但シ其ノ契約ニ基キ金錢ノ支拂ヲ爲シ又ハ行爲ヲ爲シタルニ因リ生スル金錢債務其ノ他ノ金錢上ノ債務ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

(ロ) 當事者ノ一方ノ屬スル同盟國又ハ聯合國ノ政府カ公益ノ爲本條約實施後六月以内ニ履行ヲ必要トスル契約ニ依リ效力ヲ失フコトナシ

前記ノ規定ニ依リ效力ヲ保存セラレタル契約ヲ履行スルニ因リ當事者ノ一方カ通商狀態ノ變更ノ結果重大ナル損害ヲ受クル場合ニ於テハ第六款ニ規定スル混合仲裁裁判所ハ被害當事者ニ對シ衡平ナル賠償ヲ與フルノ權限ヲ有ス

(ハ) 亞米利加合衆國、伯刺西爾國及日本國ノ憲法及法律ノ規定ニ顯ミ本條、第三百條及本款附屬書ノ規定ハ此等諸國ノ國民ト獨逸國民トノ間ニ締結セラレタル契約ニハ之ヲ適用セス又第三百五條ハ亞米利加合衆國又ハ其ノ國民ニハ之ヲ適用セス

(ニ) 當事者ノ一方カ一地域ノ住民タル故ヲ以テ當事者カ敵人タリシ契約ニ付テハ其ノ地域ノ主權カ移轉セラレ其ノ當事者ノ一方カ本條約ニ依リ同盟國又ハ聯合國ノ國籍ヲ取得スルトキハ本條及本款附屬書ノ規定ハ之ヲ適用セス當事者ノ一方カ敵ノ占領ニ係ル同盟國又ハ聯合國ノ地域内ニ居住シタル故ヲ以テ相互間ノ取引ヲ禁止セラレタリシ場合ニ於ケル同盟及聯合國ノ國民間

ノ契約ニ付テハ右規定ハ亦之ヲ適用セス
 (ホ) 敵人間ノ契約ニ從ヒ適法ニ行ハレタル取引力交戰國ノ一方ノ認許ノ下ニ行ハレタル場合ニ於テハ其ノ取引ハ本條又ハ本款附屬書ノ規定ニ依リ無効ト爲ルコトナシ

附屬書

一般規定

二

左ニ掲クル契約ハ第二百九十九條ノ規定ニ拘ラス戰時中同盟及聯合國ノ制定シタル國內ノ法律命令又ハ規則及契約ノ條項ニ從ヒテ其ノ效力ヲ存續ス但シ第四款第二百九十七條(ロ)號ニ規定スル權利ニ影響スルコトナシ

(イ) 動産、不動産其ノ他ノ財産權ノ讓渡ヲ目的トスル契約ニシテ當事者力敵人ト爲ルニ先チ權利ノ移轉又ハ目的物ノ引渡ヲ了シタルモノ

(ロ) 土地及家屋ノ賃貸借及賃貸借ヲ目的トスル契約

(ハ) 抵當權、質權其ノ他ノ擔保ノ契約

(ニ) 鑛山、採石場又ハ埋藏鑛物ニ關スル特許契約
 (ホ) 個人又ハ會社ト國、州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノトノ間ノ契約及國州、都市其ノ他之ト類似ノ法人ニシテ行政上ノ職能ヲ有スルモノノ許與シタル特許

工業所有權

第三百六條 第二百八十六條記載ノ巴里同盟條約及「ベルヌ」條約ニ規定シタル工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ハ戰争狀態開始當時ノ受益者又ハ其ノ承繼人ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ各締約國ノ版圖内ニ於テ之ヲ回復ス但シ本條約ニ別段ノ規定アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス戰争ナカリセハ工業所有權保護ノ出願ニ依リ又ハ文學的若ハ美術的著作物出版ノ結果戰時中ニ於テ取得シ得ヘカリシ權利モ亦其ノ權利ヲ有シタルヘキ者ノ爲ニ本條約實施ノ時ヨリ之ヲ承認設定スヘシ

尤モ獨逸國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付戰時中同盟國又ハ聯合國ノ立法

機關又ハ行政官廳ノ執リタル特別ノ措置ニ基ク一切ノ行為ハ依然有效ニシテ且其ノ完全ナル效果ヲ保有スヘシ

獨逸國又ハ獨逸國民ハ戰時中同盟國若ハ聯合國ノ政府ニ於テ行ヒ又ハ該政府以外ノ者カ政府ノ爲ニ若ハ其ノ同意ヲ得テ行ヒタル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ利用ニ付何等ノ請求ヲ爲シ又訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス該權利ノ實施ニ因リ生シタル一切ノ生產品、裝置、物品又ハ作品ノ販賣、販賣ノ提供又ハ使用ニ付亦同シ

同盟國又ハ聯合國ノ一國ニ於テ本條約署名當時ノ法令ニ別段ノ規定ナキトキハ本條第一項ニ定メタル特別ノ措置ノ實行ニ因ル一切ノ行為ニ基キテ支拂ハルヘキ又ハ支拂ハレタル金額ハ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ債權ニ付本條約ノ規定スル所ト同様ニ之ヲ處理スヘク又同盟國若ハ聯合國ノ國民ノ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國政府ノ執リタル特別ノ措置ニ依リ生シタル金額ハ獨逸國民ヨリ支拂ハルヘキ他ノ

一切ノ金錢債務ト同視シ之ト同様ノ取扱ヲ爲スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ國防上若ハ公益上ノ必要ノ爲又ハ同盟國若ハ聯合國ノ國民カ獨逸國ノ版圖内ニ於テ有スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ付獨逸國ノ公正ナル取扱ヲ確保スル爲又ハ本條約ニ依リ獨逸國ノ約定シタル一切ノ義務ノ完全ナル履行ヲ保障スル爲其ノ國ノ法令ニ從ヒ獨逸國民カ戰前若ハ戰時中ニ取得シ又ハ戰後ニ取得スルコトアルヘキ工業所有權(製造權若ハ商標ニ關スルモノヲ除ク)又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ヲ實施シ其ノ實施ヲ免許シ又ハ其ノ實施ニ對シ監督權ヲ行使シ及其ノ他必要ナリト認ムル期限、條件又ハ制限等ヲ附スルノ權利ヲ留保ス本條約實施後取得セラルヘキ工業所有權並文學的及美術的著作物ニ關スル權利ニ付テハ同盟國又ハ聯合國ノ留保シタル上記ノ權利ハ國防上又ハ公益上期限、條件若ハ制限ヲ附スルコトヲ必要ナリト認ムル場合ニ限り之ヲ行使スルコトヲ得

同盟國又ハ聯合國カ前項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ之カ爲相當ノ補償金又ハ使用料ヲ支拂フコトヲ要ス右補償金又ハ使用料ハ本條約ノ規定ニ依リ獨逸國民ニ支拂ハルヘキ他ノ金額ト同様ニ之ヲ處理スヘシ

同盟國又ハ聯合國ハ千九百十四年八月一日以後ニ行ハレ又ハ將來行ハルコトアルヘキ工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ノ全部若ハ一部ノ移轉其ノ他ノ處置ニシテ本條ノ目的ヲ阻礙スヘキモノハ之ヲ無効トスルノ權利ヲ留保ス

本條ノ規定ハ同盟國又ハ聯合國ノ戰時特別法令ニ依リ清算セラレタル又ハ第二百九十七條(ロ)號ニ依リ清算ヲ行フコトアルヘキ會社又ハ企業ニ屬スル工業所有權又ハ文學的若ハ美術的著作物ニ關スル權利ニ之ヲ適用セス

「エルベ」河、「オーデル」河、「ニーメン」河(「ルス」河)、「メーメル」河、「ニーメン」河)及「ダニユーブ」河ニ關スル條項

一般條項

テハ其ノ水路ハ亦國際河川タルヘシ

第三百三十二條 前條ニ依リ國際河川ト聲明セラレタル水路ニ於テハ一切ノ國ノ國民、財産又ハ船舶ハ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク何レノ國ノ國民、財産又ハ船舶ニ對シテモ沿河國自身ノ又ハ最惠國ノ國民、財産又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得ス但シ獨逸船舶ハ同盟國又ハ聯合國ノ一國ノ特許ナキ限り其ノ國ノ數港間ノ定期航海ニ依リ旅客又ハ貨物ノ運送ニ從事スルコトヲ得ス

第三百三十三條 現行條約ニ反對ノ規定アル場合ヲ除クノ外航行可能ナル水道又ハ其ノ入口ヲ使用スル船舶ニ付テハ河川ノ區域ヲ異ニスルニ依リテ其ノ額ヲ異ニスル料金を取立ツルコトヲ得但シ其ノ料金ハ河川及其ノ入口ノ航行可能ナル狀態ヲ維持シ若ハ河川及其ノ入口ヲ改良スル爲ノ費用ヲ衡平ニ支辨スルカ又ハ航行上ノ利益ノ爲ニ要シタル費用ニ充當スルノ外他ニ何等ノ目的ヲ有セサルモノナルコトヲ要ス其ノ料金表ハ右費用ヲ基礎トシテ算出

第三百三十一條 左記ノ河川ハ之ヲ國際河川ト聲明ス

「ウルタヴァ」河(「モルダウ」河)トノ合流點ヨリ下流ノ「エルベ」河(「ラーベ」河)及「ブラーグ」ヨリ下流ノ「ウルタヴァ」河(「モルダウ」河)

「オッパ」河トノ合流點ヨリ下流ノ「オーデル」河(「オールド」河)

「グロドノ」ヨリ下流ノ「ニーメン」河(「ルス」河)、「メーメル」河)、「ニーメン」河)

「ウルム」ヨリ下流ノ「ダニユーブ」河

及前記河系中ノ航行可能ナル部分ニシテ一ノ船舶ヨリ他ノ船舶ヘ積換ヲ行フト否ト問ハス海洋ニ到ル自然の通路ヲ二箇以上ノ國ニ供スルモノ及前記河系ノ自然の航行可能ナル區域ヲ重複ニシ若ハ改良スル爲又ハ同一河川ノ自然の航行可能ナル二區域ヲ連絡スル爲ニ開鑿シタル傍系ノ運河及水道

第三百五十三條ニ規定シタル條件ノ下ニ萊因河「ダニユーブ」河間ニ航行可能ナル水路開鑿セラレタル場合ニ於

シ且之ヲ各港ニ揭示スヘシ此ノ料金ハ詐欺又ハ反則ノ嫌疑アル場合ヲ除クノ外積貨ノ綿密ナル検査ヲ要セサル様之ヲ取立ツヘシ

「ダニユーブ」河ニ關スル特別條項

第三百四十六條 「ダニユーブ」河歐羅巴委員會ハ其ノ戰前ニ有シタル權能ヲ回復ス但シ臨時ノ措置トシテ同委員會ハ大不列顛國、佛蘭西國、伊太利國及羅馬尼亞國ノ代表者ノミヲ以テ之ヲ組織スヘシ

第三百四十七條 歐羅巴委員會ノ權限ノ終止スル地點ヨリ上流ノ第三百三十一條ニ掲クル「ダニユーブ」河系ハ左記各代表者ヨリ成立スル國際委員會ノ管理ニ屬スヘシ
沿河獨逸諸邦代表者二名
其ノ他ノ沿河國代表者各一名
將來「ダニユーブ」河歐羅巴委員會ニ代表セラルヘキ非沿河國代表者各一名
前項ノ代表者中本條約實施ノ時ニ任命スルコトヲ得サル者アル場合ト雖委員會ノ決定ハ尙有效タルヘシ

「キール」運河ニ關スル條項

第三百八十條 「キール」運河及其ノ入口ハ獨逸國ト和親ノ一切ノ國ノ商船及軍艦ノ爲ニ全然均等ノ條件ニテ開放セラレ且常ニ自由タルヘシ

第三百八十一條 一切ノ國ノ國民、財産及船舶ハ運河ノ使用ニ付料金、便益其ノ他一切ノ事項ニ關シ完全ナル均等待遇ヲ受クヘク其ノ國民、財産及船舶ニ對シ獨逸國又ハ最惠國ノ國民、財産又ハ船舶ニ比シ不利益ナル何等ノ差別ヲ設クルコトヲ得サルモノトス

人又ハ船舶ノ移動ニ付テハ警察、關稅、衛生、移出民及移入民諸規則並禁制品ノ輸出入ニ關スル規則ニ基ク場合ヲ除クノ外之ニ何等ノ障礙ヲ加フルコトヲ得ス此等ノ規則ハ相當ニシテ劃一ナルヘク且濫ニ交通ヲ阻礙セサルモノナルコトヲ要ス

保障

西歐羅巴

第四百二十八條 獨逸國ノ本條約履行ニ對スル保障トシテ

同盟及聯合國ノ軍隊ハ本條約實施後十五年間萊因河ノ西方ニ位スル獨逸國領土及萊因河橋頭地域ヲ占領ス

第四百二十九條 獨逸國カ本條約ノ各條項ヲ誠實ニ履行シタル場合ニ於テハ第四百二十八條ニ規定スル占領ハ左ノ如ク順次之ヲ限定スヘシ

- 一 五年後ニ於テ 「コロニー」橋頭地域及「ルール」河ニ從ヒ次テ「ユーリッヒ」「デューレン」「オイスキルヒエン」「ラインバツハ」鐵道ニ依リ更ニ「ラインバツハ」「ジンテッヒ」街道ヲ經テ「アール」河ト萊因河トノ合流點ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵ス但シ前記ノ道路、鐵道及場所ハ撤兵地域外トス
- 二 十年後ニ於テ 「コブレンツ」橋頭地域並白耳義國、獨逸國及和蘭國國境ノ交叉點ヨリ「エトクス、ラ、シヤベル」ノ南方約四吉米ヲ走リ「フォルスト、ゲミューン」山頂ニ至リ峰ヲ傳ヒ次テ「ウルフト」河谷鐵道ノ東方ヲ進ミ「ブランケンハイム」「ワルドルフ」「ドライス」「ウルメン」ヲ經テ「モーゼル」河ニ達シ「ブレンム」ヨリ

「ネーレン」ニ至ル迄ノ間同河ニ從ヒ更ニ「カッベル」及「ジンメルン」ヲ經次テ「ジンメルン」ト萊因河トノ間ノ高地ノ分水線ニ從ヒ「バツハラッハ」ニ於テ萊因河ニ達スル線ノ北方ノ地域ヨリ撤兵ス但シ前記一切ノ場所、河谷、道路及鐵道ハ撤兵地域外トス

三 十五年後ニ於テ 「マインツ」橋頭地域、「ケール」橋頭地域及占領獨逸國地域ノ殘部ヨリ撤兵ス

右十五年後ニ至リ同盟及聯合國政府カ挑發ニ基カサル獨逸國ノ侵略ニ對スル保障ヲ以テ充分ナラスト認ムルトキハ所要ノ保障ヲ得ルカ爲必要ノ期間占領軍隊ノ撤退ヲ延期スルコトヲ得

第四百三十條 賠償委員會ニ於テ獨逸國カ本條約ニ依リ負擔スル賠償上ノ義務ヲ全部又ハ一部履行セスト認ムルトキハ前記占領中タルト十五年ノ期間滿了後タルトヲ問ハス第四百二十九條ニ定ムル地域ノ全部又ハ一部ノ同盟及聯合國ノ兵力ヲ以テ直ニ之ヲ再占領スヘシ

第四百三十一條 十五年ノ期間滿了前ニ於テ獨逸國カ本條

約上ノ一切ノ約定ヲ履行シ終リタルトキハ占領軍ハ直ニ撤退スヘシ

第四百三十二條 占領ニ關スル事項ニシテ本條約ニ規定セサルモノハ總テ後日ノ取極ヲ以テ之ヲ規定スヘク獨逸國ハ該取極ヲ履行スヘキコトヲ約ス